

# コートジボワール共和国 国産米振興プロジェクト 中間レビュー調査報告書

平成 29 年 5 月  
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構  
農村開発部

農村
JR
17-029



コートジボワール共和国  
国産米振興プロジェクト  
中間レビュー調査報告書

平成 29 年 5 月  
(2017 年)

独立行政法人国際協力機構  
農村開発部



## 序 文

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、コートジボワール共和国と締結した討議議事録（R/D）に基づき、2014年より5年間の予定で技術協力「国産米振興プロジェクト」を実施しています。

今般、本プロジェクトの中間地点を迎えたことを受け、協力期間前半における実績の確認、計画に対する達成度の検証、評価5項目の観点からの評価を行うとともに、プロジェクト後半の行動計画について検討することを目的として、2017年2月11日から3月2日にかけて中間レビュー調査団を現地に派遣し、プロジェクト活動の評価を実施しました。

本報告書は、同調査団によるコートジボワール共和国側関係者との協議及びレビュー結果等を取りまとめたものであり、本プロジェクト並びに関連する国際協力の推進に活用されることを願うものです。

最後に、本調査にご協力をいただいた関係者の方々に、改めて深い謝意を表するとともに引き続き一層のご支援をお願いする次第です。

平成 29 年 5 月

独立行政法人 国際協力機構

農村開発部長 三次 啓都



# 目 次

序 文

目 次

地 図

略語表

中間レビュー評価調査結果要約表

第1章 調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 中間レビュー調査団の構成	1
1-3 調査日程	2
1-4 主要面談者	2
1-5 評価の手法	3
1-5-1 評価の視点と手順	3
1-5-2 調査項目	3
1-5-3 データ収集方法	4
1-5-4 調査の制約・限界	5
第2章 プロジェクトの概要	6
2-1 プロジェクトの背景	6
2-2 協力内容	6
第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス	8
3-1 投入実績	8
3-1-1 コートジボワール側からの投入	8
3-1-2 日本側からの投入	8
3-2 活動実績	8
3-3 成果（アウトプット）の達成状況	9
3-3-1 成果1	9
3-3-2 成果2	11
3-3-3 成果3	14
3-3-4 成果4	15
3-4 プロジェクト目標の達成見込み	16
3-5 上位目標のベースラインデータ	20
3-6 実施プロセスの検証	20
3-6-1 プロジェクトの実施体制	20
3-6-2 運営管理にかかわる会議とコミュニケーション	21

第4章 5項目評価の結果 .....	23
4-1 妥当性 .....	23
4-2 有効性 .....	24
4-3 効率性 .....	25
4-4 インパクト .....	26
4-5 持続性 .....	27
第5章 提言と結論 .....	29
5-1 プロジェクト協力期間内にかかわる提言 .....	29
5-2 プロジェクト協力外にかかわる提言 .....	30
5-3 教訓 .....	31
5-4 結論 .....	31
付属資料	
1. 協議議事録・合同評価報告書（仏語版） .....	35
2. 協議議事録・合同評価報告書（英語訳版） .....	89
3. PDM 第3版〔日本語（評価用）〕 .....	142
4. 評価グリッド（日本語） .....	144
5. 提言に基づく PDM 第4版（日本語） .....	147



# 地図



出典：Map No.4312 Rev.3 UNITED NATIONS, December 2001 を基にプロジェクトが作成



## 略 語 表

略 語	正式名称 (英語/仏語)	日本語
ANADER	Agence Nationale d'Appui au Développement Rural	農村開発支援公社
APRAO	Amélioration de la Production du Riz en Afrique de l'Ouest	西アフリカコメコメ生改善プロジェクト
CARD	(Coalition for Africa Rice Development) Coalition Africaine de Développement du Riz	アフリカ稲作振興のための共同体
CFMAG	Centre de Formation à la Mécanisation Agricole de Grand-lahou	農業機械訓練センター
C/P	Counterpart Personnel	カウンターパート
DGPSP	(Director General of Planning, Statistics and Project) Direction General de la Planification, des Statistiques et des Projets	計画・統計・プロジェクト総局
DPPF	(Director of Planning, Programs and Finance) Direction de la Planification, de la Programmation et du Financement	計画・プログラム・財務局
FAO	Food and Agriculture Organization	国連食糧農業機関
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
KR2	Second Kennedy Round	食糧増産援助
MINADER	(Ministry of Agriculture and Rural Development) Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural	農業農村開発省
M/M	Minutes of Meeting	協議議事録
ONDR	(National Rice Development Office) Office National de Développement de la Riziculture	国家イネ開発事務所
PASEA	(Farming Systems Improvement Project for Small Scale Irrigated Rice Cultivation) Projet d'Amélioration des Systemes d'Exploitation Agricole dans la Riziculture Irrigee de Petite Taille	象牙海岸小規模灌漑営農改善プロジェクト
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PF	Platform	プラットフォーム
PO	Plan of Operation	活動計画
PRORIL	(Local Rice Promotion Project in Cote d'Ivoire) Projet de Promotion du Riz Local en République de Côte d'Ivoire	国産米振興プロジェクト
R/D	Record of Discussion	討議議事録
ToT	Training of Trainers	指導者研修
NRDS	National Rice Development Strategy	国家稲作開発戦略
UGP	(Project Team) Unité de Gestion du Projet	プロジェクトチーム



## 中間レビュー調査結果要約表

<b>1 案件概要</b>	
国名：コートジボワール共和国	案件名：国産米振興プロジェクト
分野：農業	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部	協力金額：約5億円
協力期間： 2014年2月～2019年2月	先方関係機関：農業農村開発省（Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural：MINADER）、国家イネ開発事務所（Office National de Développement de la Riziculture：ONDR）、農村開発支援公社（Agence Nationale d'Appui au Développement Rural：ANADER）
	日本側協力機関：無し
	他の関連協力：無し
<b>1-1 協力の背景と概要</b>	
<p>コートジボワール共和国（以下、「コートジボワール」と記す）は、国土の大部分が熱帯モンスーン気候区に属し、恵まれた自然環境により、農業生産のポテンシャルが高く、農業はGDPの27%を占め、労働人口の3分の2が従事している。生産される食用作物はヤムイモ・キャッサバ・コメ・料理用バナナ・トウモロコシと多彩であるが、この中でコメだけが輸入に依存しており、国内需要量197.4万t（2016年）の73%に当たる144万t（2016年）を輸入している。</p> <p>この背景には急速な人口増加及び都市部における消費の著しい増加があるといわれており、コメの需要量は1960年と比較すると10倍に増加している。一方で、2016年の国内生産量は53.4万tにとどまっている。この原因として、政治的な混乱の影響に加えて、①優良種子の供給体制や普及サービスが行き届かず、国産米の生産性が低くとどまっていること、②作付け準備金の不足などから耕地が有効利用されず土地利用率が低いこと、③収穫後処理における脆弱な設備・技術・マネジメント能力が原因となり、十分な品質・量を市場に提供できていない状況にあることなどが挙げられる。こうしたなか、経済首都アビジャンをはじめとした大都市において、コメ市場の大部分は輸入米で占められるようになっており、結果として、国産米の生産地から都市部消費地への流通ネットワークも弱体化し、国産米流通の一層の制約要因となっている。</p> <p>かかる背景のもと、コートジボワール政府は国産米振興支援を要請し、日本政府により採択された。JICAは2013年8月に詳細計画策定調査団を派遣して要請案件の枠組みを決定し、2014年2月に技術協力「国産米振興プロジェクト」(以下、「本プロジェクト」)を開始した。</p>	
<b>1-2 協力の内容</b>	
(1) 上位目標	
対象地域で生産されたコメ販売量が拡大する。	
(2) 協力終了時の達成目標（プロジェクト目標）	
対象農家によるコメ販売量が増加する。	

(3) プロジェクトの成果（アウトプット）

成果 1：ステークホルダーの対話が促進される。

成果 2：対象グループにより、研修を通じて得られた知識・技術が活用される。

成果 3：（対象グループから）選定された生産者・精米業者・流通業者の能力が、「追加支援」によって強化される。

成果 4：ステークホルダーによる国産米振興に関する取り組みが加速される。

(4) 投入（レビュー調査時点）

・日本側

専門家の派遣：日本人専門家 14 分野延べ 16 名派遣

研修実施：本邦にて MINADER と ONDR 職員 5 名の研修を実施済み

機材供与：事務機材、耕うん機 10 台（専門家携行機材として貸与）

現地活動費：総額 5 億 2,020 万 FCFA（約 1 億 297 万円）の現地活動費（在外事業強化費）の支出（2017 年 1 月現在）

・コートジボワール側

カウンターパート（C/P）人員の配置：4 名（プロジェクト専属）

C/P 予算：合計 3 億 FCFA 承認、2.5 億 FCFA 支出済み

施設・機材：専門家・C/P の執務室、車両など

## 2 評価調査団の概要

日本側

担当分野	氏名	所属
団長／総括	丸尾 信	JICA 農村開発部農業・農村開発第二グループ 第五チーム 課長
協力企画	渋谷 明日香	JICA 農村開発部農業・農村開発第二グループ 第五チーム 調査役
評価分析	鈴木 篤志	A&M コンサルタント有限公司 シニアコンサルタント
通訳	大川 京	翻訳センターパイオニア

ナイジェリア側

氏名	所属
Mr. AKPAUD Waba Céserd	MINADER 計画局主任
Mr. BOUA Becoin Lazare	MINADER 評価局調査担当
Mr. BAKAYOKO Moussa	ONDR 開発・機械化支援部主任
Ms. BAMBAMA Epse Coulibaly	ONDR モニタリング・評価部主任

調査期間：2017 年 2 月 13 日～3 月 2 日

評価種類：中間レビュー

## 3 評価結果の概要

### 3-1 実績の確認

(1) 投入の実績（上記 1-2 (4) のとおり）

(2) 成果の達成状況：達成度は、「非常に高い」「高い」「中程度」「やや低い」「低い」の5段階で評価を行った。

成果1：ステークホルダーの対話が促進される。

指標 1-1：対象となる生産者グループ・精米業者・流通業者が明らかになる。

1-2：特定されたグループの75%以上がプラットフォーム（Plat Form：PF）に参加する。

1-3：PF参加者全員が、最低年4回の頻度でミーティングをする。

1-4：コメ生産・販売に関する共通の条件（収穫後の取り扱い方法や、販売時の最低価格の設定など）が共有される。

- ・PDMには、成果1に対する活動として、1) 対象グループとステークホルダーの特定、2) PF形成支援、3) 対話の促進が記述されていた。これまでにコメバリューチェーンにおける重要なアクターは特定されたものの、対象のベケ州、ベリエ州ともPFの活動は始まったばかり、あるいは機能している段階にはなく、設定された指標達成レベルを測定するのは時期尚早か、判断不可能である。
- ・一方、進捗報告書によれば、プロジェクトチームは、生産者グループ向けの投入材クレジットと精米業者向けの籾買い取りクレジットシステム導入・構築にかかわる活動に相当な時間と労力を注いでいる。これらにかかわる活動は、現行PDMには明確に記述されていないものの、プロジェクトとして蓄積している持続的なクレジット運営にかかわる知識・経験が長期的に国産米の生産・販売振興に役立つものと考えられる。この点で、現行PDMに設定されている指標と活動項目は、プロジェクトの成果を測定するうえで不十分と考えられる。したがって、プロジェクトで実際に取り組みされている活動が反映されるよう、PDMを見直す必要がある。
- ・以上の状況から、成果1の全般的な達成状況と見込みは、「中程度」レベルにあると判断された。

成果2：対象グループにより、研修を通じて得られた知識・技術が活用される。

指標 2-1：研修に参加した農家の80%が、75%の基礎技術を活用する。

2-2：研修に参加した精米・流通業者の80%が、75%の基礎技術を活用する。

- ・プロジェクトは、生産者グループ、精米業者、流通業者といったコメバリューチェーンにおける重要なアクターに対する一連の技術研修を実施してきた。PDMで設定された指標で見た場合、その達成レベルは決して高くはないものの、中間レビュー調査団が訪れ、聞き取り調査を行った生産者・業者はいずれも研修の内容を高く評価していることが確認された。
- ・現行PDMで設定されている指標が不必要に複雑なことがそのモニタリングを困難なものとし、達成レベルが低くなる原因となっているとも考えられた。このため、適切に成果がモニタリングされるよう、PDMを見直す必要がある。
- ・以上の分析結果に基づき、現段階では成果2の達成度と見込みは「やや低い」レベルにあると判断された。

成果3：(対象グループから) 選定された生産者・精米業者・流通業者の能力が、「追加支援」によって強化される。

指標 3-1：選定されたグループ（生産者・精米業者・流通業者）の 50%が、「追加支援」の目標を達成する。

- ・プロジェクトチームは、PDM で設定された計画に沿って活動を進め、選定されたグループを対象とした「追加支援」メニューとして、「種子生産」と「投入材クレジットのためのリボルビングファンド」への支援を決定した。種子生産支援にかかわる活動については、これまでにワークショップ、技術研修、種子生産圃場の設置などの活動が実施され、指標にある「目標（level of performance）が設定されているが、リボルビングファンドにかかわる活動は、準備段階である。
- ・また、本成果で対象となることが想定されている精米業者・流通業者への支援計画はまだ明らかになっていない。プロジェクトチームは、2017 年末までに決定することを計画している。
- ・以上の活動進捗から、成果 3 の全般的な達成状況と見込みは、現状では「低い」レベルにあると判断された。

---

成果 4：ステークホルダーによる国産米振興に関する取り組みが加速される。

---

指標 4-1：アプローチに関するガイドラインが作成される。

4-2：消費者による国産米の購買意欲が、30%向上する。

- ・「ガイドライン」は、成果 1～3 の活動から得られる経験、教訓に基づき作成される予定である。また、これまでに、都市住民の国産米・輸入米嗜好調査が、ヤムスクロ、ブアケ、アビジャンを対象に実施され、ベースラインが設定された。
- ・現段階では、ガイドラインは完成されておらず、また消費者の国産米への嗜好性変化を確認する調査はまだ行われていないので、成果 4 の達成レベルを判断することは難しい。プロジェクトが計画どおり活動を進めれば、終了までに本成果はある程度のレベルで達成されることが見込まれる。
- ・現在設定されている指標 4-1 は、活動 4-4 の言い換えになっており、成果の指標としては不適切である。指標としては、「作成されたガイドライン」がプロジェクト終了までに成果の実現に結びつくかどうかを判断する内容である必要がある。よって、本指標の見直しを提言する。

### (3) プロジェクト目標の達成度（見込み）

---

プロジェクト目標：対象農家によるコメ販売量が増加する。

---

指標 1：対象グループ（生産者）によるコメ（粳）生産量が、40%増加する。

指標 2：対象グループ（生産者）によるコメ（粳）販売量が、40%増加する。

指標 3：対象グループ（精米業者）による地元産コメ（精米）販売量が、50%増加する。

指標 4：対象グループ（流通業者）による地元産コメ（精米）販売量が、50%増加する。

- ・プロジェクト活動の結果、対象地域における生産者グループ、精米業者、流通業者などバリューチェーンの重要なアクターやステークホルダーが特定され、PF の形成やクレジットサービス提供への支援が実施されてきた。農村開発支援公社（Agence Nationale d'Appui au Développement Rural：ANADER）普及員や生産者に対して、基礎技術・知識の研修が行われ、国産米生産を長期にわたり増加させる基盤づくりに役立つことが期待できる。精米業



者や流通業者への研修は、これら重要なアクターの能力向上に寄与している。さらに、「追加支援」として品質の高い種子を生産者が容易に入手できる仕組みづくりへの支援も開始された。こうした取り組みにより、プロジェクトはその目標に向かって着実に成果を上げつつあるといえる。

- ・一方、モニタリング調査の結果に示されているとおり、対象地域における国産米の生産・流通量が顕著に増加する兆しはまだみられない。2015年に起きた天候不順（不規則な降雨と干ばつ）により多くの稲作農家が深刻な打撃を受けたことも効果発現の阻害要因となった。中間レビュー調査団は、普及員による研修への一般農家の参加率が全般的に低いことを確認した。農民による参加率が低い原因がどこにあるか明確ではないものの、プロジェクト後半に推奨する技術の普及が加速するよう、実施チームとして何らかの対策を取ることが求められる。この取り組みなしに、プロジェクト目標を満足できるレベルで達成することは難しいことが予想される。
- ・以上、プロジェクト活動の進捗とPDMに設定された指標の達成状況から、プロジェクト目標の達成度、あるいは達成見込みは、現段階では「やや低い」レベルにあると判断された。

### 3-2 5 項目評価の結果

(1) 妥当性：プロジェクトをとりまくコートジボワールの開発政策、日本政府の援助政策などは、2014年の活動開始以降、大きくは変わっておらず、本プロジェクトの妥当性は引き続き「高い」と判断された。

(2) 有効性：下記の分析に基づき、「やや低い」レベルと判断された。

- ・実施チームの協働した努力によって、本プロジェクトはPDMで計画されたすべての活動で確実な進捗が見られる。活動を実施するプロセスで蓄積されたコメセクター支援にかかわる知識と経験は、長期的に国産米振興に寄与するものである。他方、4つの成果の達成レベルは、特にPDM上で設定されている指標からみた場合、全般的に低く、必然的に残りの期間（約2年間）においてプロジェクト目標が完全に達成される見込みは高くない。
- ・このような低い達成レベルの背景として、下記の要因があったことが、中間レビュー調査で確認された。
  - ①計画時に想定されていなかったコメセクターにおける種々の課題の存在
  - ②不安定な気候の悪影響
  - ③成果発現に要する時間
- ・PDMで設定された4つの成果はいずれもプロジェクト目標の実現に必要であり、成果とプロジェクト目標の論理関係に、問題はないと考えられる。一方、上述のとおり、プロジェクト準備段階で考慮されていなかった多くの重要な課題があることが判明し、それがプロジェクト目標の達成に影響する可能性が高い。その意味で、4つの成果は、プロジェクト目標を達成するには必要でありながら十分ではなかったともいえることから、当初計画の検討が必ずしも十分でなかったことが指摘できる。

(3) 効率性：以下の分析により、本プロジェクトの効率性は「やや低い」レベルと判断された。

- ・現状では成果の達成レベルは全般的に低いレベルにある。この意味で、プロジェクトの

効率性は高いとはいえない。

- ・ 4名の専属カウンターパート（Counterpart Personnel：C/P）の配置、ヤムスクロのプロジェクト事務所を含む施設・機材の提供、C/P資金の拠出などが、本プロジェクトに対するコートジボワール政府側からの投入であった。1年目におけるC/P資金の拠出が遅れるなどの問題はあったものの、コートジボワール政府からの投入は、おおむね妥当であったと判断された。
- ・ 本プロジェクトに対する日本側からの投入は、専門家の派遣、4名の職員への本邦研修の実施、ローカルコストの負担などであった。すべての投入は、おおむね計画どおりであったことから、効率性はおおむね妥当であったと判断された。
- ・ 本プロジェクトでは、JICAや国連食糧農業機関（Food and Agriculture Organization：FAO）などによる過去の類似事業での経験や教訓を活用する努力がなされていて、プロジェクトを効率的に実施するうえで役立っている。

(4) インパクト：下記のとおり、「低い」レベルの正のインパクトが予測される。

- ・ プロジェクト目標が終了までに成功裏に達成されれば、プロジェクトは上位目標である「対象地域（ベケ、ベリエ2州）におけるコメの販売量増加」に目に見えるインパクトをもたらす。プロジェクト目標は、「対象グループによるコメ販売量の増加」であり、論理的には間違っていないものの、プロジェクトで実際に対象としているのは、2州のなかでも非常に限られた地域でしかないため、プロジェクト終了後に上位目標が達成されるためには、いくつかの外部条件が満たされる必要がある。
- ・ 現段階で上位目標へのインパクトを推測するのは時期尚早であるものの、いずれにしても、政府及びコメバリューチェーンにおける民間のステークホルダーによる継続的な努力がなければ、上位目標は実現しないといえる。
- ・ コメは対象地域あるいは、コートジボワール全土の農民にとって主食であるとともに、重要な現金収入源である。コメバリューチェーンの重要なアクターを支援する本プロジェクトは、広範囲の農家の生計向上に正のインパクトを及ぼす可能性はあるといえる。

(5) 持続性：以下の観察・分析から、持続性の見通しは「中程度」レベルと判断された。

- ・ 政策・組織・制度面：プロジェクトは、コートジボワール政府の経済、農業政策に沿って実施されているので、現在の政策が維持される限り、政策的な持続性は高いと考えられる。他方で、本プロジェクトに配置されている専属のC/Pは、ONDRとMINADERからプロジェクトのために暫定的に集められたメンバーであり、プロジェクト終了後にはそれぞれの所属機関・部署に戻るため、C/Pへの技術移転の成果が継続されない可能性がある。
- ・ 財政面：本プロジェクトの活動経費の多くが、日本側からの予算で賄われているが、MINADERとしても独自予算で賄う努力がなされてきた。これは偏にコートジボワール政府が国産米振興を重視する姿勢の表れといえる。こうした政府の努力がプロジェクト終了後も継続されれば、財政面の持続性も確保されるものとみられる。他方、受益者グループ（生産者、精米業者、流通業者など）レベルでの経済的な持続性は、コメビジネスがもたらす収益性によるので、その持続性を見通すことは難しい。

- ・技術面：技術面での持続性は、C/P レベルと受益者グループレベルで検証する必要がある。まず、MINADER、ONDR 職員であるメイン C/P がプロジェクト活動を通して得る知識や技術は、彼らがコメセクターにかかわる業務に従事する限り役立つものであり、C/P レベルの技術面における持続性はある程度高いとみられる。また、プロジェクトで普及支援する技術は対象グループにとって適性となる内容が取り込まれているので、当事者が自らの技術・知識を改善しようとする意思を持つ限り、長期にわたり役に立つことが期待できる。

### 3-3 効果発現に貢献した要因／問題点及び問題点を惹起した要因

- ・日本人専門家とコートジボワール側 C/P とのコミュニケーションが十分でない課題も示唆されたものの、全般的にはプロジェクト実施メンバー間には活動を進めるうえで良好な関係が築かれており、効果発現に貢献する要因となっている。
- ・数名の専門家は、コートジボワールの農業開発あるいは稲作振興にかかわる技術協力事業に長く従事した経験を有しており、対象地域における稲作や営農事情にかかわる知識・技術が豊富であることも貢献要因である。
- ・一方、外部要因としても挙げられていたが、2015～2016年の作期に起きた天候不良は、成果発現を阻害する要因として影響した。対象地域には灌漑稲作を行う農家も多いが、この年は灌漑用水さえも枯渇した地域もあったことが報告されていて、プロジェクトとしても短期的な対応は困難であった。

### 3-4 提言

本中間レビュー調査の結果に基づき、下記の提言を行った。

#### A プロジェクト協力期間内にかかわる提言

- ①コミュニケーションの強化・進捗報告書の共有
- ②PF 活動の強化
- ③リーダー農家による普及活動の強化
- ④MINADER の関与の強化
- ⑤PDM の変更

#### B プロジェクト協力外にかかわる提言

- ①優良種子生産体制の強化
- ②国産米振興活動の強化
- ③コメ生産における気候変動対策
- ④コメ生産における農業機械化
- ⑤持続可能なクレジットシステムの構築



# 第1章 調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯と目的

コートジボワール共和国「国産米振興プロジェクト（Projet de Promotion du Riz Local en République de Côte d'Ivoire : PRORIL）」(以下、「本プロジェクト」)は、コートジボワール国（以下、「コートジボワール」と記す）における国産米の生産―販売―流通というバリューチェーン全体の改善に寄与することを目的に技術協力事業として、2014年2月より5年間の予定で実施されている。

本プロジェクトは、実施期間の中盤を経過したことから、2017年2月13日から3月2日までの18日間、コートジボワール評価団員との合同中間レビュー調査が実施された。

本中間レビュー調査の目的は、下記のとおりであった。

- (1) 現行 Project Design Matrix (PDM) に沿って、プロジェクトの投入実績、進捗状況、目標及び成果達成状況を確認する。
- (2) プロジェクト実施プロセスに関して、コートジボワール側実施機関のオーナーシップやコートジボワール・日本国側双方とのコミュニケーション状況、事業の運営・モニタリング体制を確認する。
- (3) 評価5項目（妥当性・有効性・効率性・インパクト・持続性）の観点からプロジェクト中間時点における評価を行い、プロジェクト後半の方向性と提言を取りまとめる。評価結果を基に、必要であればPDMの修正等も検討する。
- (4) 上記(1)～(3)の評価結果について、中間レビュー報告書として取りまとめたうえで、合同調整委員会（Joint Coordination Committee : JCC）において内容を確認・合意する。

## 1-2 レビュー調査団の構成

### (1) コートジボワール側

担当分野	氏名	所属
総括	Mr. AKPAUD Waba Céserd	MINADER 計画局主任
団員1	Mr. BOUA Becoin Lazare	MINADER 評価局調査担当
団員2	Mr. BAKAYOKO Moussa	ONDR 開発・機械化支援部主任
団員3	Ms. BAMBA Mâ Epse COULIBALY	ONDR モニタリング・評価部主任

### (2) 日本側

担当分野	氏名	所属
団長/総括	丸尾 信	JICA 農村開発部農業・農村開発第二グループ第五チーム 課長
協力企画	渋谷 明日香	JICA 農村開発部農業・農村開発第二グループ第五チーム 調査役
評価分析	鈴木 篤志	A&M コンサルタント有限公司 シニアコンサルタント
通訳	大川 京	翻訳センターパイオニア

### 1-3 調査日程

コートジボワールでの現地調査は、2017年2月13日から3月2日までの18日間にわたり実施された。詳細スケジュールは、付属資料1「協議議事録・合同評価報告書」のANNEX Iに示されるとおり。

### 1-4 主要面談者

#### (1) コートジボワール政府

##### 1) 農業農村開発省 (Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural : MINADER)

Nouhoun Coulibaly 計画・プロジェクト管理・統計総局長

Bernard K. Comoe 計画・プログラム・財務局長

Kouadio N'guesson 技術顧問

Apporture Kouamé Kouakou 人事副主任

##### 2) 国家イネ開発事務所 (Office National de Développement de la Riziculture : ONDR)

Christian Kouame Bi 生産支援部長

#### (2) プロジェクト・カウンターパート (Counterpart Personnel : C/P) 職員

Ouattara Zanga Fousséni (ONDR) プロジェクトマネジャー

Kouame Ambroise Koffi (MINADER) 稲作栽培技術/水管理

N'gbra Konan Yves (MINADER) バリューチェーン

Kouakou Kouakou Lancina (MINADER) 農民組織化

#### (3) プロジェクト専門家

國安 法夫 チーフアドバイザー/バリューチェーン

荒井 直人 業務調整/バリューチェーン

小林 裕三 稲栽培技術/組織育成/研修支援/モニタリング

南谷 貴史 稲作機械適正利用・管理/組織育成/研修支援/モニタリング

星 誠 農村金融/組織育成

加藤 晋平 インパクト評価支援

#### (4) FAO コートジボワール事務所

DasyIva Germain 所長

Nugent Chris コンサルタント

Pascal C. Sanginga (Dr) 投資担当

#### (5) JICA コートジボワール事務所

飯村 学 所長

沼澤 まりこ 企画調査員

## 1-5 評価の手法

### 1-5-1 評価の視点と手順

本中間レビュー調査は、「新JICA事業評価ガイドライン第1版」(2010年6月)に沿って、プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) 最新版に基づき、以下の手順で実施した。

#### (1) 本邦での事前調査 (日本側団員)

- 1) プロジェクトチームで作成した事前検討資料やこれまでのプロジェクト報告書等をレビューし、プロジェクトの実績・実施プロセスの状況を整理・分析する。
- 2) 現行PDMに基づき、プロジェクトの実績、実施プロセス及び評価5項目に沿った調査項目とデータ収集方法、調査方法等を検討し、評価グリッドを作成する。
- 3) 上記2)の評価グリッドに基づき、C/P機関を主とする相手国実施機関、専門家、C/P等に対する質問を検討し、質問票を作成・送付する。

#### (2) コートジボワールでの現地調査 (共同作業)

- 1) 今回調査の内容、計画についてコートジボワール側評価委員と協議を行い、合意する。
- 2) 評価グリッドに基づき、プロジェクト関係者に対する聞き取り調査、サイト視察を行い、プロジェクト実績・活動プロセスなどに関する情報・データの収集・整理を行う。
- 3) 上記1)で収集したデータを分析し、プロジェクト実績、実施プロセスの分析と貢献・阻害要因を抽出する。
- 4) 事前調査及び上記1)～3)で得られた結果を総合的に判断し、評価5項目の観点から評価を行い、提言とともに合同評価報告書(英・仏文)に取りまとめる。
- 5) 上記4)の報告書を日本・コートジボワール国側双方の合同評価団で合意したあと、JCCにてコートジボワール・日本国側双方のプロジェクト関係者へ説明とともに協議を行い、その結果を協議議事録(Minute of Meeting: M/M)として合意、署名する。

なお、本プロジェクトのPDMは、討議議事録(Record of Discussion: R/D)署名時(2013年10月)に作成されたオリジナル版(Ver.1)に対して、活動開始後、2014年4月4日に第2版(Ver.2)に、2016年2月に第3版(Ver.3)にプロジェクト関係者らによって改訂され、JCCにて承認された。

本中間レビュー調査は、現行PDMである第3版に基づき実施した。評価に用いたPDM(日本語版)は、付属資料3 PDM第3版〔日本語(評価用)〕として添付した。

### 1-5-2 調査項目

主な評価調査の項目は、以下のとおりであった。

#### (1) プロジェクト実績の確認

プロジェクトの投入実績、活動実績、成果(アウトプット)の現状、プロジェクト目標の達成見込み、上位目標の達成見込みを確認、検証した。

#### (2) プロジェクト実施プロセスの確認・検証

プロジェクト実施プロセスを検証するために、プロジェクト活動を円滑にするために工夫さ

れたこと、モニタリングのための仕組み、プロジェクト関係者（日本人専門家、コートジボワール側 C/P、その他関係者）間の連携状況などを確認した。

### (3) 評価 5 項目の視点からの分析

プロジェクトの実績と実施プロセスの確認・検証を通して収集した情報を基に、評価 5 項目の視点からプロジェクトを評価した。評価 5 項目の視点の概要は、以下に示したとおりである。

項 目	定 義
妥当性	プロジェクトがめざしている効果（プロジェクト目標や上位目標）が、評価を実施する時点において妥当か（受益者のニーズに合致しているか、問題や課題の解決策として適切か、相手国と日本側の政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチは妥当か等）を問う視点。
有効性	プロジェクトの実施により、本当に受益者若しくは社会への便益がもたらされているのか（あるいは、もたらされるのか）を問う視点。
効率性	プロジェクトのコストと効果の関係に着目し、資源が有効に活用されているか（あるいは、されるか）を問う視点。
インパクト	プロジェクト実施によりもたらされる、より長期的・間接的效果や波及効果をみる視点。予期していなかった正・負の効果・影響を含む。
持続性	援助が終了しても、プロジェクトで発現した効果が持続しているか（あるいは、持続の見込みがあるか）を問う視点。

### 1-5-3 データ収集方法

上記の調査を実施するに先立ち、評価項目に沿った評価設問を設定した。それぞれの評価設問に対して、必要な情報・データ、その情報源や収集方法について検討し、この結果を付属資料 1（英語版は付属資料 2 協議議事録・合同評価報告書（英語訳）の ANNEX II）に示した評価グリッドを作成した。本中間レビュー調査のための情報・データの収集は、作成した評価グリッドに沿って実施した。

具体的な情報・データの収集方法は、以下のとおり。

#### (1) 既存資料のレビューと分析

プロジェクトに関する以下の資料をレビューし、分析に活用した。

- ・ 中間レビュー事前資料（日）(2017 年 1 月)
- ・ プロジェクト業務計画書（日）第 3 年次（2016 年 5 月）
- ・ プロジェクト事業進捗報告書（日）第 2 年次 (1) (2015 年 3 月)、同 (2) (2015 年 12 月)、同 (3) (2016 年 3 月)
- ・ コンサルタント業務従事月報（日）(2016 年 5 月分～ 12 月分)
- ・ 「国産米振興プロジェクト詳細計画策定調査報告書」(日) (2014 年 4 月)
- ・ 「対コートジボワール共和国 国別援助方針」(2014 年 4 月)
- ・ 「対コートジボワール共和国 事業展開計画」(2016 年 4 月)
- ・ Revised National Rice Development Strategy (NRDS) (January, 2012)



・その他、コートジボワール国農業政策にかかわる資料

(2) プロジェクト関係者への質問票（アンケート）調査

現地調査に先立ち、評価分析を担当する団員が、プロジェクトの実績、実施プロセス、評価5項目に関する質問票を作成し、プロジェクト関係者（専門家9名、C/P4名）に配布し、回答を得た。回答内容は、現地調査の参考として活用するとともに、可能な限り評価報告書に反映させた。

(3) プロジェクト関係者に対する聞き取り調査の実施

現地調査中は、可能な限り関係者（C/P、日本人専門家）並びに受益者（対象地域の稲作農家、生産組合役員、担当普及員、精米業者、流通業者）に面会し、質問票から得られない情報の補完的な収集に努めた。

(4) プロジェクト合同評価報告書の作成と署名

調査結果に基づき、「付属資料1、2 協議議事録・合同評価報告書」を仏文・英文で作成し、コートジボワール側はMINADER計画・統計・プロジェクト総局長（Direction General de la Planification, des Statistiques et des Projets : DGPSP）、日本側は調査団長により署名が行われた。

1-5-4 調査の制約・限界

本中間レビュー調査では、可能な限り客観的かつ包括的な情報・データの入手に努めたが、限られた時間内での調査と分析のため、以下に示すような制約があった。

(1) 調査期間中に、プロジェクト対象となっているヤムスクロ特別行政区、ベケ州、ベリエ州を訪れ、活動に参加している受益者や関係者からできるだけ多くの情報を得るよう努めたものの、直接聞き取り調査を行うことができた人数には限りがあった。

(2) 投入や活動の適性度といった価値判断については、できる限り定量的、客観的な分析ができるよう努力をしたが、必要なデータが入手できないケースも多々あった。そのような場合には、関連資料やアンケート、面談者の証言を評価団員が可能な限り客観的な視点から検証し、定性的な情報として調査結果に含めた。

## 第2章 プロジェクトの概要

### 2-1 プロジェクトの背景

コートジボワールは、国土の大部分が熱帯モンスーン気候区に属し、恵まれた自然環境により、農業生産のポテンシャルが高く、農業はGDPの27%を占め、労働人口の3分の2が従事している。生産される食用作物はヤムイモ・キャッサバ・コメ・料理用バナナ・トウモロコシと多彩であるが、この中でコメだけが輸入に依存しており、国内需要量197.4万t（2016年）の73%に当たる144万t（2016年）を輸入している。

この背景には急速な人口増加及び都市部における消費の著しい増加があるといわれており、コメの需要量は1960年と比較すると10倍に増加している。一方で、2016年の国内生産量は53.4万tにとどまっている。この原因として、政治的な混乱の影響に加えて、①優良種子の供給体制や普及サービスが行き届かず、国産米の生産性が低くとどまっていること、②作付け準備金の不足などから耕地が有効利用されず土地利用率が低いこと、③収穫後処理における脆弱な設備・技術・マネジメント能力が原因となり、十分な品質・量を市場に提供できていない状況にあることなどが挙げられる。こうしたなか、経済首都アビジャンをはじめとした大都市において、コメ市場の大部分は輸入米で占められるようになっており、結果として、国産米の生産地から都市部消費地への流通ネットワークも弱体化し、国産米流通の一層の制約要因となっている。

かかる背景のもと、コートジボワール政府は国産米振興支援を要請し、日本政府により採択された。JICAは2013年8月に詳細計画策定調査団を派遣して要請案件の枠組みを決定し、2014年2月に本プロジェクトを開始した。

### 2-2 協力内容

#### (1) 協力期間

2014年2月～2019年2月（5年間）

#### (2) 協力相手機関

農業農村開発省（MINADER）、国家イネ開発事務所（ONDR）、農村開発支援公社（ANADER）

#### (3) 対象地域

アビジャン、ヤムスクロ特別行政区、ベケ州、ベリエ州

#### (4) 対象グループ

コメ生産者・生産者組織（25グループ程度、1,500名程度）、精米業者・流通業者・販売業者等（100名程度）、普及員（30名程度）

#### (5) 上位目標

対象地域で生産されたコメ販売量が拡大する。

#### (6) プロジェクト目標

対象農家によるコメ販売量が増加する。

(7) 成果

- 1) ステークホルダー<sup>1</sup>の対話が促進される。
- 2) 対象グループにより、研修を通じて得られた知識・技術が活用される。
- 3) (対象グループから) 選定された生産者・精米業者・流通業者<sup>2</sup>の能力が、「追加支援」<sup>3</sup>によって強化される。
- 4) ステークホルダーによる国産米振興に関する取り組みが加速される。

---

<sup>1</sup> ステークホルダーとは受益者（地元の生産者、精米業者、流通業者）及び、対象地域で活動している海外民間企業（欧米民間企業）、ドナー（FAO、世界銀行）を含めた関係者を意味する。

<sup>2</sup> 成果2のモニタリング結果、優秀な結果を残したグループを指す。

<sup>3</sup> 「追加支援」詳細は、活動のプロセスで特定される予定である。

## 第3章 プロジェクトの実績と実施プロセス

### 3-1 投入実績

#### 3-1-1 コートジボワール側からの投入

下記のとおり、C/P 職員の配置、C/P 予算の拠出、施設・機材の提供が、コートジボワール側からの主な投入であった。詳細は、付属資料 1、2 協議議事録・合同評価報告書の ANNEX IV に示した。

##### (1) カウンタパート (C/P) 職員の配置

MINADER、ONDR から合計 4 名の職員が、2014 年 2 月のプロジェクト開始より専属 C/P として、プロジェクトに配置され、日本人専門家とともに、現場の活動に従事している。

##### (2) C/P 予算の承認と拠出

本プロジェクトに対する C/P 経費として、合計 3 億 FCFA がコートジボワール政府により承認され、これまでに 2.5 億 FCFA がこれまでに拠出、利用された。

##### (3) 施設・光熱費の提供

プロジェクトチーム (専門家・C/P) の執務室が、ヤムスクロ市郊外の PRORIL センター [元「小規模灌漑営農改善プロジェクト (PASEA)」事務所ビル] 内に提供され、水道、電気などがコートジボワール政府経費で提供されている。

#### 3-1-2 日本側からの投入

下記のとおり、専門家の派遣、本邦研修の実施、資・機材の供与、現地活動費の支出が、日本側からの主な投入であった。詳細は、付属資料 1、2 協議議事録・合同評価報告書の ANNEX V に示されているとおり。

##### (1) 専門家の派遣

中間レビュー調査時点で、14 分野で延べ 16 名の日本人専門家が派遣された。

##### (2) 本邦研修の実施

稲作振興政策にかかわる研修が、MINADER と ONDR 職員 5 名に対し実施された。

##### (3) 機材の供与

耕うん機 10 台が、専門家携行機材としてプロジェクト活動のために貸与されている。

##### (4) 現地活動費

2014 年 2 月から 2017 年 1 月末までに、総額 5 億 2,020 万 FCFA (約 1 億 297 万円) の現地活動費 (在外事業強化費) が支出された。

### 3-2 活動実績

コートジボワール側 C/P と日本人専門家からなるプロジェクト実施チームは、2014 年 2 月から PDM 及び PO に沿って活動を進めてきた。本中間レビュー調査時点までに実施された活動の概要

と後半の予定を、PDM に示された活動項目ごとに取りまとめ、結果を付属資料 1、2 協議議事録・合同評価報告書の ANNEX VI に示した。

プロジェクト実施チームの自己評価に基づく各活動項目の進捗状況は、表 3-1 に示すとおりであった。

表 3-1 活動の進捗状況

成果	活動項目	達成レベル* (%)				
		0	25	50	75	100
1	1.1 対象グループの詳細情報を整理する。					
	1.2 対象地域のコメ振興に関するステークホルダー情報を整理する。					
	1.3 ステークホルダー間の対話を促す。					
2	2.1 研修に必要な教材の作成を行う。					
	2.2 普及員に対する技術研修を実施する。					
	2.3 研修に必要なインプット（種、肥料など）を対象グループに供与する。					
	2.4 生産者グループに対する研修を実施する。					
	2.5 研修に参加した生産者グループのモニタリング・評価を実施する。					
	2.6 精米業者／流通業者に対する研修を実施する。					
3	3.1 「追加支援」のメニューを作成する。					
	3.2 政府、他ドナー、民間企業、NGO などと協議のうえ、支援方法を具体化する。					
	3.3 「追加支援」対象受益者を選定する。					
	3.4 「追加支援」を実施する。					
	3.5 「追加支援」の結果をモニタリング・評価する。					
4	4.1 国産米の流通量に関するデータを収集する。					
	4.1 消費者の国産米の嗜好調査を実施する。					
	4.1 都市部の消費者に対する国産米の販売促進活動を実施する。					
	4.1 プロジェクトのアプローチをガイドラインとして取りまとめる。					

\* PDM に示された各活動項目の「達成レベル」は、プロジェクトメンバーの自己評価に基づく。

### 3-3 成果（アウトプット）の達成状況

PDM で計画された 4 つの成果に対し、それぞれ設定されている指標を検証したうえで、全体の達成状況と今後の見通しを以下にまとめた<sup>4</sup>。

#### 3-3-1 成果 1

成果 1：ステークホルダーの対話が促進される。

##### (1) 指標達成状況の検証

指標 1-1：対象となる生産者グループ・精米業者・流通業者が明らかになる。

- 1) 生産者グループ：プロジェクト開始 1 年目に、ベリエ、ベケ両州対象に、インベントリー調査が実施され、表 3-2 のとおり、合計 107 の生産者グループ及び 6,543 ha の稲作適地〔灌漑整備地区（ペリメトリ）・天然低湿地帯（バフォン）〕の存在が確認された。
- 2) この調査結果に基づき、合計 26 サイト（稲作適地面積約 1,500 ha）がプロジェクト活動対象候補サイトとして選定された。これらのサイトは、さらに「1～4 バッチ」の 4 つに

<sup>4</sup> 達成度は、「非常に高い」「高い」「中程度」「やや低い」「低い」の 5 段階で評価を行った。

グループ化され、以降のプロジェクト活動（投入材クレジットや研修など）を実施するうえで基本単位として活用されている。

表 3-2 インベントリー調査の結果：生産者

州	ベリエ	ベケ	合計
生産者グループ	37	70	107
稲作適地面積 (ha)	2,892	3,651	6,543

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

- 3) 一方、精米業者・流通業者についての実態調査によって、表 3-3 のとおり、合計 12 の精米業者と 139 の流通業者が両州に存在することが確認された。

表 3-3 インベントリー調査の結果：精米業者・流通業者

州	ベリエ	ベケ	合計
精米業者	5	7	12
流通業者	22	117	139

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

- 4) これらの結果から、指標 1-1 は達成されたことが確認された。

---

指標 1-2：特定されたグループの 75%以上がプラットフォーム (PF) に参加する。

---

- 1) 「コメセクター・プラットフォーム (PF)」への支援に関する活動は、下記のとおり実施されてきた。
- ・ベリエ州：2014 年 7 月に準備委員会 (Comité ad hoc) 開催、2015 年 2 月より州内 2 県・1 行政区の 19 地区で PF に関する啓発集会、精米業者間の分科会が実施された。2016 年 3 月より「生産者組合ユニオン」設立に向けた活動が開始された。2016 年 8 月にベリエ州にて、ステークホルダーの「お見合いフォーラム」が企画、開催された。
  - ・ベケ州：「ブアケ・ボトロ県コメ PF (PR2B)」のモニタリング、粳買い取りクレジットに対する食糧増産援助 (2KR) 見返り資金の活用が検討された。
- 2) 上記の指標 1-1 で特定されたグループ数をベースに単純計算すると、指標 2-2 で設定されている「75%」は、生産者グループが 80、精米業者が 9、流通業者が 104 ということになる。しかしながら、インベントリー調査で特定された生産者グループや流通業者はインフォーマルな零細グループや業者も対象としたため、PF に参加する単位としてみるのは不適切であったことから、プロジェクトチームは、この指標で指す「特定されたグループ」は登録された生産者組合や一定規模の取り引きを行う精米・流通業者に限定するのが適当と判断した。その数は、ベリエ州で生産者組合 10、精米業者 7、ベケ州で組合 7、業者 4 であったことから、指標 75%は両州合計で 13 組合、8 業者ということになる。
- 3) 今回の現地調査で PF 参加者あるいは参加予定者に対して行った聞き取り調査結果などを通して、両州とも PF が活発に機能している段階には至っていないことが確認された。したがって、「特定されたグループの 75%参加」という目標値は達成されておらず、本指標の達成レベルは現段階では「低い」と判断された。

---

指標 1-3：PF 参加者全員が、最低年 4 回の頻度でミーティングをする。

---

- 1) 上記、指標 1-2 と同様の理由で、本指標も達成されていない。

---

指標 1-4：コメ生産・販売に関する共通の条件（収穫後の取り扱い方法や、販売時の最低価格の設定など）が共有される。

---

- 1) 本指標で言及されている「共通の条件」の定義が曖昧なため、達成レベルを判断するのは難しい。
- 2) 本プロジェクト事業事前評価表（2013 年 8 月）には、共通の条件は「収穫後の取り扱い方法や販売時の最低価格の設定など想定」との記述があったものの、その後の PDM には追記はなく、不明確なままになっていたと考えられる。今回の現地調査期間中に、プロジェクトチームメンバー（専門家と C/P）に確認したものの、明確な共通理解はないことが判明した。したがって、この条件の意味するところについてチーム内で議論し、できるだけ早く定義を明確にすることが重要である。

(2) 全般的な達成状況と見込み

- ・ PDM には、成果 1 に対する活動として、1) 対象グループとステークホルダーの特定、2) PF 形成支援、3) 対話の促進が記述されていた。上述のとおり、コメバリューチェーンにおける重要なアクターは特定されたものの、対象のベケ州、ベリエ州とも PF の活動は始まったばかり、あるいは機能している段階にはなく、設定された指標達成レベルを測定するのは時期尚早か、判断不可能である。
- ・ 一方、進捗報告書によれば、プロジェクトチームは、生産者グループ向けの投入材クレジットと精米業者向けの籾買い取りクレジットシステム導入・構築にかかわる活動に相当な時間と労力を注いでいる（付属資料 1、2 協議議事録・合同評価報告書 ANNEX VI 参照）。これらクレジット活動にかかわる活動は、現行 PDM には明確に記述されていないものの、プロジェクトとして蓄積している持続的なクレジット運営にかかわる知識・経験が長期的に国産米の生産・販売振興に役立つものと考えられる。この点で、現行 PDM に設定されている指標と活動項目は、プロジェクトの成果を測定するうえで不十分と考えられる。したがって、プロジェクトで実際に取り組まれている活動が反映されるよう、PDM を見直す必要がある。
- ・ 以上の状況から、成果 1 の全般的な達成状況と見込みは、「中程度」レベルにあると判断された。

### 3-3-2 成果 2

---

成果 2：対象グループにより、研修を通じて得られた知識・技術が活用される。

---

(1) 指標達成状況の検証

---

指標 2-1：研修に参加した農家の 80%が、75%の基礎技術を活用する。

---

- 1) ANADER 普及員と稲作生産者を対象とした研修で指導する、推奨すべき 10 の基礎栽培技術が下記のとおり選定された。

- |                       |
|-----------------------|
| ①種子の水選                |
| ②基肥（NPK）施用量（200kg/ha） |

- ③ 2 回目の耕起に基肥（NPK）施肥
- ④ 移植の実施
- ⑤ 移植苗齢（14～21日）
- ⑥ 尿素追肥前の除草
- ⑦ 尿素施用量（100 kg/ha）
- ⑧ 1 回目の追肥（50kg/ha）：分けつ開始時（WITA9<sup>5</sup>の場合、移植後2～3週間）
- ⑨ 2 回目の追肥（50kg/ha）：幼穂形成期（WITA9の場合、播種後60～65日）
- ⑩ 収穫：播種後115～125日（WITA9の場合）

2) これらの基礎技術を基に、プロジェクトでは2段階の研修をとおして、適正技術がより多くの生産者に伝達されることをめざした活動が展開されている。まず、第1段階で、収穫・収穫後処理を含む稲栽培技術、農機具の操作・保守管理、農民組織化にかかわる指導者研修（ToT）をPRORILセンターにて普及員と生産者組合リーダーに対し実施する。第2段階で、ToTを受けた普及員とリーダーが、それぞれの担当地域の一般農民に対し、展示圃場を設置することで基礎技術の研修を行う。

表3-4 普及員と生産者組合リーダー向け研修（ToT）の実施状況

実施年	対象グループ (サイト数)	参加者数（実績）		
		稲栽培技術	農機具操作・ 保守管理	農民組織化
2014	第1バッチ（2）	47	47	11
2015	第2バッチ（8）	11	18	20
2016	第3バッチ（11）	36	33	33

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

- 3) プロジェクトは、第2段階の普及員から一般農民への研修をとおして、対象とする基礎技術がどの程度、研修に参加した農家によって活用されているか確認するためのモニタリングを行っている。これまでに、2014年、2015年に実施された第1バッチ、第2バッチ対象グループのモニタリング情報が収集された。この情報に基づく、基礎技術の活用状況は、表3-5のとおり報告されている。
- 4) 表3-5に示されるとおり、第1、第2バッチでは、普及員による研修に参加した農民の数は、全体の17%程度と高くはなかった。指標として設定されている75%以上の基礎技術を活用した研修参加農家が80%を超えたサイトは、10カ所のうち2カ所にとどまったことから、本指標の達成レベルは「低い」とみなされる。しかしながら、75%以上の基礎技術を活用した農家は、10サイト全体で50%を超えていることには留意する必要がある。
- 5) 本指標については、10の基礎技術の活用状況を複数のサイトで確認する必要があるため、モニタリングが複雑で実用的でないことから、プロジェクトチームから見直しが要請され、評価調査団として提言に加えることとした。

<sup>5</sup> コートジボワールで広く栽培されている水稻の品種



表3-5 普及員による研修に参加した農民の数と基礎技術の活用状況

バッチ	サイト名	農家総数	研修参加 農民数	参加率 (%)	基礎技術の75%を 活用した農家の数	活用率 (%)
第1	Zatta	28	8	28.6	7	87.5
	Yabra	77	3	3.9	1	33.3
第2	N'Gangoro-Ahitou	25	8	32.0	2	25.0
	Bounguè	85	26	30.6	12	46.2
	Didiévi	32	11	34.4	8	72.7
	Anongblin	21	8	38.1	6	75.0
	Ahalékpli	39	13	33.3	0	0
	Lokakpli	154	22	14.3	11	50.0
	Attienkro	53	9	17.0	8	88.9
	Bepo	112	0	3.9	0	0
合計		626	108	17.3	55	50.9

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

指標 2-2：研修に参加した精米・流通業者の80%が、75%の基礎技術を活用する。

- 1) 精米業者・流通業者がそれぞれ直面する課題解決に資する基礎技術として、下記の6つが選定された。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>① 粳水分量の決定</li> <li>② 夾雑物量の決定</li> <li>③ 貯蔵（粳・精米室、白米の隔離）</li> <li>④ 粳買い取り量・白米販売量の記録</li> <li>⑤ 白米の包装（新品の包装紙を使用）</li> <li>⑥ 白米の選別（完全米と碎米）</li> </ul> |
|---|

- 2) 精米業者・流通業者向けの研修は、2015年10月、2016年10月に実施され、それぞれ18と15業者が受講した。2015年の研修参加者を対象に、プロジェクトは聞き取り調査を実施し、上記6つの基礎技術の活用状況についてモニタリング情報が収集された。表3-6は、調査結果の要約である。

表3-6 普及員による研修に参加した農民の数と基礎技術の活用状況

活用された基礎技術の数 (6技術に対する%)	6 (100)	5 (83.3)	4 (66.6)	3 (50.0)	2 (33.3)	1 (1.7)	0	Total
No. of Respondents	0	4	2	1	2	0	0	10

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

- 3) 表3-6に示されているとおり、指標にある75%の基礎技術（6技術中5つ）を活用したと回答した業者は4業者で、回答した業者の40%であった。よって、設定された指標である80%には達していない。研修に参加した18業者すべてで調べた場合、別の結果になるかもしれないが、入手可能な情報からは、本指標が達成されているとは判断できない。なお、2016年10月に実施された研修のモニタリング情報はまだ収集されていない。

4) 指標 2-1 同様、指標を簡素化する要請がプロジェクトチームから出された。

(2) 全般的な達成状況と見込み

- ・プロジェクトは、生産者グループ、精米業者、流通業者といったコメバリューチェーンにおける重要なアクターに対する一連の技術研修を実施してきた。上述のとおり、PDM で設定された指標で見た場合、その達成レベルは決して高くはないものの、中間レビュー調査団が訪れ、聞き取り調査を行った生産者・業者はいずれも研修の内容を高く評価していることが確認された。
- ・現行 PDM で設定されている指標が不必要に複雑なことがそのモニタリングを困難なものとし、達成レベルが低くなる原因となっているとも考えられた。
- ・以上の分析結果に基づき、現段階では成果 2 の達成度と見込みは「やや低い」レベルにあると判断された。

### 3-3-3 成果 3

成果 3：(対象グループから) 選定された生産者・精米業者・流通業者の能力が、「追加支援」によって強化される。

(1) 指標達成状況の検証

指標 3-1：選定されたグループ（生産者・精米業者・流通業者）の 50%が、「追加支援」の目標を達成する。

- 1) プロジェクトチームは、PDM と PO で設定された計画に沿って活動を進め、選定されたグループを対象とした「追加支援」メニューとして、「種子生産」と「投入材クレジットのためのリボルビングファンド」への支援を決定した。「追加支援」の対象者候補は、成果 1 と 2 の活動で実施された投入材クレジットと研修参加者から一定の基準でもって選定された。種子生産支援については、第 2 バッチ、第 3 バッチ対象グループから先進農家が候補として選定された。また、リボルビングファンドについては、第 2 バッチ対象地域から、クレジットを完済した農家が候補としてリストアップされた。これら「追加支援」実施にかかわる詳細計画は、種子検査官や金融機関などステークホルダーと検討し、決定された。
- 2) 種子生産支援にかかわる活動については、2015 年 2 月にワークショップの開催、2016 年 1 月に技術研修が実施された。プロジェクトチームは、2016 年 10 月より PRORIL センター敷地内に優良種子生産のためのデモ圃場を設置し、種子生産にかかわる推奨技術の展示と対象農家への研修を実施している。ここで生産される種子は、研修を受けた種子生産農家候補に配布され、対象地域における優良種子の生産・配布システムのモデルとしてゆくことが想定されている。この「追加支援」活動について、チームは「第 2～4 バッチ対象グループから選定された農家が、2017～2018 年の作物シーズンに全体で 15 ha の種子生産圃場を設置し、20 t の保証種子を生産すること」を目標として設定した。
- 3) 一方、リボルビングファンドにかかわる活動は、準備段階である。投入材への追加クレジットが、第 2、第 3 バッチグループから選定された候補に対し、2017 年中に供与される予定である。したがって、この活動についての目標は、まだ設定されていない。できるだけ早急に設定されることが求められている。

(2) 全般的な達成状況と見込み

- ・上述のとおり、生産者グループへの「追加支援」は開始され、指標にある「目標（level of performance）は部分的に設定された。一方、本成果で対象となることが想定されている精米業者・流通業者への支援計画はまだ明らかになっていない。プロジェクトチームは、2017年末までに決定することを計画している。
- ・以上の活動進捗から、成果3の全般的な達成状況と見込みは、現状では「低い」レベルにあると判断された。

3-3-4 成果4

成果4：ステークホルダーによる国産米振興に関する取り組みが加速される。

(1) 指標達成状況の検証

指標4-1：アプローチに関するガイドラインが作成される。

- 1) 「ガイドライン」は、成果1～3の活動から得られる経験、教訓に基づき作成される予定である。プロジェクトチームは、まず「国産米振興計画」を作成し、2017年の第4バッチ対象グループに対する活動を終了したあと、クレジットシステムの導入、持続的な賃耕サービス、種子生産などの活動結果を反映させて「ガイドライン」を取りまとめることを計画している。
- 2) 現段階で、ガイドラインは完成していないことから、本指標の達成度は「低い」と判断された。

指標4-2：消費者による国産米の購買意欲が、30%向上する。

- 1) これまでに、都市住民の国産米・輸入米嗜好調査が、ヤムスクロ（2014年7月）、ブアケ（2014年10月）、アビジャン（2015年12月）を対象に実施された。ヤムスクロ、ブアケにおける調査結果の概要は、表3-7に示したとおり。

表3-7 ヤムスクロ、ブアケ住民の嗜好性調査の結果概要

サイト	回答者数（現在の消費）				回答者数（消費の意向）			
	輸入米	国産米	両方	合計	輸入米	国産米	両方	合計
ヤムスクロ	729 (57%)	253 (20%)	294 (23%)	1,276 (100%)	482 (39%)	763 (61%)	-	1,246 (100%)
ブアケ	351 (23%)	431 (28%)	768 (50%)	1,550 (100%)	437 (28%)	1,103 (71%)	10 (1%)	1,550 (100%)

出典：プロジェクト進捗報告書（1）

- 2) 表3-7に示された数値が、本指標の達成度を確認するためのベースラインデータと位置づけられる。

(2) 全般的な達成状況と見込み

- ・現段階で、ガイドラインは完成されておらず、また消費者の国産米への嗜好性変化を確認する調査はまだ行われていないので、成果4の達成レベルを判断することは難しい。プロジェクトが計画どおり活動を進めれば、終了までに本成果はある程度のレベルで達成され

ることが見込まれる。

- ・現在、設定されている指標 4-1 は、活動 4-4 の言い換えになっており、成果の指標としては不適切である。プロジェクトの活動で「ガイドラインの作成」を行うことから、その結果としてガイドラインが出来上がるのは当然のことである。指標としては、「作成されたガイドライン」がプロジェクト終了までに、この成果の実現に結びつくかどうかを判断する内容である必要がある。よって、本指標の見直しを提言する。

### 3-4 プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標の達成見込みは、以下のとおり。

---

プロジェクト目標：対象農家によるコメ販売量が増加する。

---

#### (1) 指標達成状況の検証

指標 1：対象グループ（生産者）によるコメ（粳）生産量が、40%増加する。

- 1) プロジェクトチームは、指標「コメ生産量の40%増加」を、対象地域における生産性の改善と作付面積の増加に基づき設定した。生産性が、現状の 3.5～5 t/ha に改善され、また作付面積が 50～70%に増加することで指標の達成が可能になるとしている。
- 2) 指標で設定されている「対象グループ（生産者）によるコメ（粳）生産量」についての公式な統計データは得られないが、プロジェクトチームは、第1、第2バッチ対象地域での聞き取り調査によって、コメ生産量の推移についてのデータを収集している。本指標の達成状況は、この聞き取り調査の結果（表 3-8、3-9）により確認した。
- 3) 第1バッチ対象地域の農家への研修は、2014年第2作期に実施されたので、その前年 2013年第2作期の生産データがベースラインとみなされる。表 3-8 に示されるとおり、対象 2 サイトのうち、2014年第2作期に 1 サイトで指標の 40%を超したが、他は指標に達していない。

表 3-8 コメ生産にかかわる聞き取り調査結果（第1バッチ対象地域）

サイト	農家数		作 期							
			2013 年第 2		2014 年第 2			2015 年第 2		
	合計	回答者 *	面積 (ha)	生産量 (Mt)	面積 (ha)	生産量 (Mt)	増減 ** (%)	面積 (ha)	生産量 (Mt)	増減 ** (%)
Zatta	28	16	12.55	64.0	13.00	52.6	17.8	13.00	74.1	15.7
Yabra	77	59	9.65	41.5	9.59	67.2	61.9	9.59	47.0	13.2

\* 回答者は、聞き取り調査で回答した農家の数。

\*\* ベースラインデータ（2013年第2作期の生産量）に対する増減。

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

- 4) 同様に、第2バッチ対象地域の農家への研修は、2015年第2作期に実施されたので、その前年 2014年第2作期の生産データがベースラインとみなされる。表 3-9 に示されるとおり、指標の 40%を達成したのは 2 サイトのみで、他は減少した。この減少は、2015～2016年作期は降雨が不安定で、水不足や不規則な雨でイネの生育が悪影響を受けた結果であると報告されている。Bepo 地区では、すべての農家が稲作を途中で放棄せざるを

得なかった。

一方、そうしたなかでも生産を伸ばしたサイトもあったことは留意する必要がある。

表3-9 コメ生産にかかわる聞き取り調査結果（第2バッチ対象地域）

サイト	農家数		作 期				
			2014年第2		2015年第2		
	合計	回答者*	面積 (ha)	生産量 (Mt)	面積 (ha)	生産量 (Mt)	増減** (%)
Ngangoro-Ahitou	25	22	2.24	10.0	4.53	22.0	113.4
Boungue	85	76	17.21	70.5	10.05	42.9	-43.0
Didievi	32	25	13.19	66.9	17.81	92.3	76.5
Anongblin	21	20	15.75	41.3	12.76	20.5	-50.9
Ahalekli	39	37	18.52	56.5	1.61	5.0	-91.7
Lokakpli	154	142	59.93	221.7	22.62	100.0	-63.5
Attienkro	53	32	7.93	13.2	14.63	23.9	-15.1
Bepo	112	106	11.88	34.4	0	0	-

\* 回答者は、聞き取り調査で回答した農家の数。

\*\* ベースラインデータ（2014年第2作期の生産量）に対する増減。

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

5) 以上の検証から、プロジェクト目標の指標1は達成レベルとしては「低い」と判断された。

指標2：対象グループ（生産者）によるコメ（粳）販売量が、40%増加する。

- 1) 一般的に、稲作農家は生産量の75%を販売に廻し、残りの25%を自家消費するとされる。指標1の目標値の75%が、本指標の目標値となる。
- 2) 指標1同様の聞き取り調査結果から、第1、第2バッチ対象地域における農家による粳の販売量の推移は表3-10と3-11に示されるとおりであった。

表3-10 コメ販売にかかわる生産者への聞き取り調査結果（第1バッチ対象地域）

サイト	農家数		作 期				
			2013年第2		2014年第2		
	合計	回答者*	販売量 (Mt)	販売量 (Mt)	増減** (%)	販売量 (Mt)	増減** (%)
Zatta	28	16	61.3	50.2	-18.2	73.7	20.2
Yabra	77	59	36.8	61.9	67.9	44.9	21.9

\* 回答者は、聞き取り調査で回答した農家の数。

\*\* ベースラインデータ（2013年第2作期の販売量）に対する増減。

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

表 3-11 コメ販売にかかわる生産者への聞き取り調査結果（第 2 バッチ対象地域）

サイト	農家数		作 期		
			2014 年第 2		2015 年第 2
	合計	回答者 *	販売量 (Mt)	販売量 (Mt)	増減 ** (%)
Ngangoro-Ahitou	25	22	8.9	20.1	148.3
Boungue	85	76	47.0	28.1	-45.0
Didievi	32	25	61.6	90.1	88.3
Anongblin	21	20	26.7	11.8	-67.7
Ahalekli	39	37	43.3	3.1	-93.4
Lokakpli	154	142	195.7	90.1	-63.2
Attienkro	53	32	13.2	23.9	-15.1
Bepo	112	106	16.5	0	-

\* 回答者は、聞き取り調査で回答した農家の数。

\*\* ベースラインデータ（2014 年第 2 作期の販売量）に対する増減。

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

- 3) 販売量の傾向は生産量と同じであり、指標の 40% 増加を達成したサイトは数カ所にとどまった。よって、指標 2 の達成度も「低い」レベルにあると判断された。

指標 3：対象グループ（精米業者）による地元産コメ（精米）販売量が、50% 増加する。

- 1) 本指標の 50% の目標値は、年平均増加率 10% に基づき設定された。
- 2) 成果 2 の指標 2-2 で説明したように、プロジェクトチームは、2015 年 10 月に精米業者

表 3-12 白米販売にかかわる精米業者への聞き取り調査結果

地域	精米業者	月平均精米量 (kg)		月平均籾購入量 (kg)		月平均白米販売量 (kg)	
		2013 ~ 2015/10	2015/11 ~ 2016/3	2013 ~ 2015/10	2015/11 ~ 2016/3	2013 ~ 2015/10	2015/11 ~ 2016/3
ブアケ	1	63	44	7	2	4	3
	2	137	216	27	47	79	173
	3	104	124	32	71	20	65
	4	108	128	5	32	8	28
	5	152	153	37	35	50	77
	6	93	108	0	0	0	0
ヤムスクロ	7	23	16	0	0	0	0
	8	7	17	2	3	1	2
	9	1	8	2	0	0	3
	10	5	0	6	0	2	0
合計		69	81	12	19	17	35
増加率 (%)			+17%		+63%		+111%

出典：中間レビュー事前資料を基に調査団作成

に対し研修を行った。2016年3月に、受講した18業者のうち10業者に聞き取り調査を行ったが、その際、本指標にかかわる白米販売量の推移についての情報も収集された。表3-12は、その調査結果を基に作成された。

- 3) 本指標に対するベースラインデータは、表3-12における2013～2015年の白米販売量とみなされる。表に示されるとおり、10業者のうち6業者が研修後に白米販売量を増加させ、結果的に全体で、ベースラインに対して100%以上の増加があったことが示されている。よって、指標で設定されている50%の増加は達成されているといえる。しかしながら、この増加は研修に参加した業者全体というより、1、2の業者による顕著な増加の結果であることから、研修効果との因果関係は明らかではない。
- 4) プロジェクトチームは、2014年8月からヤムスクロ、ブアケにて2種類の国産米流通量調査を継続的に実施している。このデータは、中間レビュー調査時点でまとめられていないが、終了時評価調査では、本指標を確認する情報として活用できるものと推察される。

---

指標4：対象グループ（流通業者）による地元産コメ（精米）販売量が、50%増加する。

---

- 1) 国産米の多くは、インフォーマルな零細業者によって取り引きされているため、流通業者全体の販売量を詳細に把握することは難しい。プロジェクトチームは、本指標のモニタリングのために10業者を対象とすることを想定し、指標3と同様に50%という目標数値を設定した。
- 2) 流通業者を対象とした研修は、2016年10月に実施されたばかりのため、モニタリング調査はまだ行われていない。
- 3) 本指標について、下記の課題がプロジェクトチームより提起された。
  - ・多くの精米業者が、粳を精米後、販売まで行っていることから、精米業者と流通業者を区別することは実体上難しい。
  - ・対象地域内でまとまった量の国産米を扱う流通業者は数が少ないことから、対象グループ（流通業者）として特定することが難しい。
  - ・国産米を扱う業者の大半は、月平均100kg以下の少量の売買を行う零細業者であるため、プロジェクトとして対象とするのには困難が伴う。
- 4) 以上の検証から、指標4は指標3に統合し、その達成度を検証することが現実的と判断され、中間レビュー調査団としてもそのようにPDMを変更することを提言することとした。

(2) 全般的な達成状況と見込み

- ・2014年2月から3年間に、プロジェクトは確実に活動を進めてきた。対象地域における生産者グループ、精米業者、流通業者などバリューチェーンの重要なアクターやステークホルダーが特定され、PFの形成やクレジットサービス提供への支援が実施されてきた。ANADER普及員や生産者に対して、基礎技術・知識の研修が行われ、国産米生産を長期にわたり増加させる基盤づくりに役立つことが期待できる。精米業者や流通業者への研修はまた、これら重要なアクターの能力向上に寄与している。さらに、「追加支援」として品質の高い種子を生産者が容易に入手できる仕組みづくりへの支援も開始された。こうした取り組みにより、プロジェクトはその目標に向かって着実に成果を上げつつあるといえる。

- ・一方、モニタリング調査の結果に示されているとおり、対象地域における国産米の生産・流通量が顕著に増加する兆しはまだ見られない。2015年に起きた天候不順（不規則な降雨と干ばつ）が多く、稲作農家に深刻な打撃を与えた。中間レビュー調査団は、普及員による研修への一般農家の参加率が全般的に低いことを確認した。農民による参加率が低い原因がどこにあるか明確ではないものの、プロジェクト後半に推奨する技術の普及が加速するよう、実施チームとして何らかの対策を取ることが求められる。この取り組みなしに、プロジェクト目標を満足行くレベルで達成することは難しいことが予想される。
- ・以上、プロジェクト活動の進捗と PDM に設定された指標の達成状況から、プロジェクト目標の達成度、あるいは達成見込みは、現段階では「やや低い」レベルにあると判断された。プロジェクトチームはこれまでの活動を通し、国産米振興にかかわる経験や知識を相当蓄積しており、また対象地域コメセクターのステークホルダーとの良好な関係を築いてきていることから、後半において活動の実施スピードを速め、2019年2月の終了までにプロジェクト目標はある程度満足のいくレベルで達成できるものと推察される。

### 3-5 上位目標のベースラインデータ

上位目標は、プロジェクト終了後数年内に実現することが期待される。中間レビュー調査時点で上位目標の達成レベルを検証することはできないものの、ベースラインデータを設定しておくことが大切である。指標 1、2 に関連し、下記情報がプロジェクトチームより提起されている。

---

指標 1：対象地域農家によるコメ生産量及び販売量が、30%増加する。

---

理由：対象地域におけるコメ生産量 30%増加は、国家稲作開発戦略（NRDS）に設定されている 2014～2018年の目標に基づいている。

ベースラインデータ：ONDR の統計によれば、2014年のベリエ州、ベケ州の生産量は、それぞれ 12,745 t と 152,653 t であったので、合計値 165,398 t をベースラインデータとみなす。

---

指標 2：対象地域から都市部へのコメ販売量が、30%増加する。

---

理由：コメ販売量 30%の増加は、成果 1 と同じ。

ベースラインデータ：通常、農家は生産の 75%を販売用に出荷することから、123,299 t をベースラインデータとみなす。

---

### 3-6 実施プロセスの検証

#### 3-6-1 プロジェクトの実施体制

本プロジェクトは、図 3-1 で示した体制で実施されている。農業農村開発省（MINADER）と国家イネ開発事務所（ONDR）がメインの実施機関となり、プロジェクト活動の実施全般に責任を持っているほか、半官半民の農村開発支援公社（ANADER）が協力機関として普及活動を行っている。運営管理のために、MINADER 計画・統計・プロジェクト総局長（DGSPSP）がプロジェクトダイレクターとしての役割を果たし、プロジェクトマネジャーとして ONDR の職員が専任で配置されている。プロジェクトマネジャーは、主にアビジャンの MINADER 本省に常駐し、プロジェクト関連業務に従事している。一方、ヤムスクロのプロジェクト事務所（PRORIL センター）には 3名の MINADER 職員が専属 C/P として配置され、チーフアドバイザーをはじめとする日本人専



専門家とともに現場でのプロジェクト活動を進める体制となっている。

プロジェクトにかかわる普及活動は、MINADER 本省が ANADER 本部及びブアケ地域事務所に業務委託する形で実施されている。プロジェクトチームが中心となり ANADER 普及員と生産者グループのリーダーに稲作技術の指導者研修 (ToT) を行い、研修を受けた普及員がそれぞれの担当サイトで一般農民への研修を行うことで、稲作基礎技術の普及が進められている。同時に、ブアケ、ヤムスクロで操業する主要な精米業者・流通業者が、バリューチェーンにおける重要なステークホルダーとして特定され、プロジェクトチームにより研修が実施されてきた。これらの民間業者は、PF のアクターとして、積極的な役割を果たすことが期待されている。

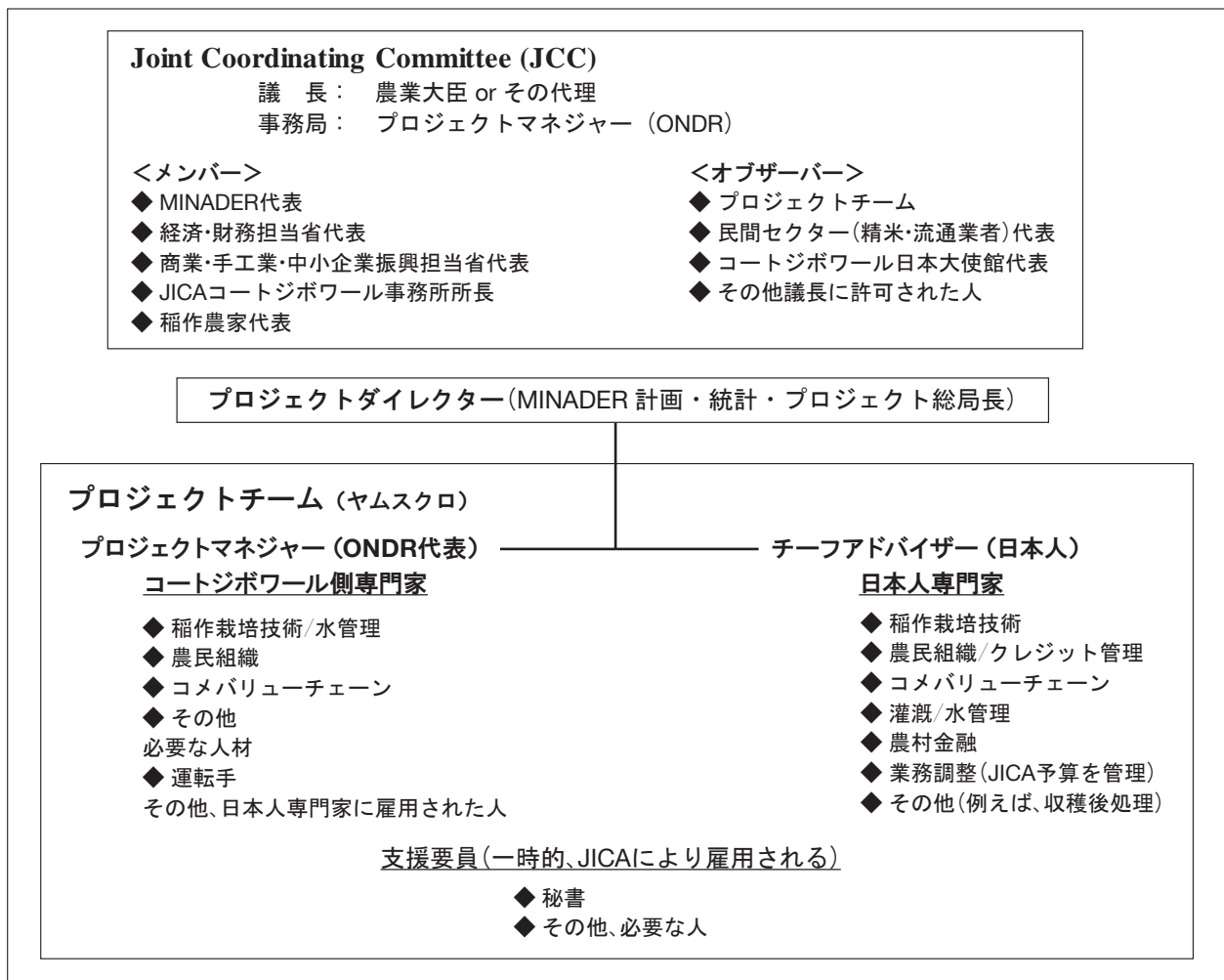


図 3-1 プロジェクト運営管理体制

### 3-6-2 運営管理にかかわる会議とコミュニケーション

プロジェクト運営にかかわる意思決定を行う上部組織として、図 3-1 に示されるとおり、合同調整委員会 (JCC) が組織され、年間 2 回の頻度で会議が開催されてきた。JCC は、これまでに 5 回開催され、年度ごとの PO や実施チームによる活動進捗、また活動中に発生した懸案事項などについて話し合われた。また、JCC とは別に、プロジェクトチーム (専門家と C/P 職員) はプロジェクト事務所で日常的に会合、打合せを行い、進捗情報の共有や当面の課題などが話し合われている。

コートジボワール C/P と日本人専門家は、全般的には活動を進めるために良好な関係を築いていることが観察されたが、同時に今回の調査で行った質問票と聞き取り調査において、何名かのメンバーが幾つかの重要な活動が十分な話し合いや相談なく決められてきたことを問題点として指摘しており、日本人専門家とコートジボワール C/P の間に少なからずコミュニケーションギャップも存在することが明らかになった。この原因の 1 つに、プロジェクトの進捗報告書の作成方法に課題があることが示唆されている。プロジェクトチームは、定期的に活動進捗や成果をレビューするための報告書を作成しているが、チーム内で必ずしも共有されていない複数の報告書が存在することが今回の調査中に確認されたので、今後、進捗報告書の作成と共有方法の改善を進める必要がある。

## 第4章 5項目評価の結果

### 4-1 妥当性

以下の分析から、本プロジェクトの妥当性は引き続き「高い」と判断された。

#### (1) コートジボワール政府の政策との整合性

本プロジェクトをとりまく政策的な環境は、2014年の活動開始以降、大きくは変わっておらず、コートジボワール政府は社会・経済開発政策、農業政策において、農業ひいてはコメセクターの開発に重点を置いている。農業セクターに対しては、「国家農業投資計画 (NPIA) 1992～2015」が中心政策であり、現在、フェーズ2が策定中である。この政策に沿って、2008年に「稲作復興戦略」が策定され、ここで国産米振興に焦点があてられた。この政策書は、2012年に改訂され「国家稲作開発戦略 (NRDS) 2012～2020」とし再策定された。NRDSには、コメバリューチェーン全体の開発を進め、2016年に国産米による自給をめざすことが目標として設定されている。本プロジェクトは、コメバリューチェーンの開発を支援することを目的としていることから、コートジボワール政府の開発政策との整合性は高いといえる。

#### (2) ローカルニーズとの整合性

コートジボワールにおけるコメの消費量は、国民1人当たり年間平均70kg程度と報告されており、コメは重要な主食の1つとなっている。国内では、現在、300万t以上のコメが消費されているが、7割以上が輸入によって賄われており、そのために5億ドル以上の外貨を失っていると報告されている。こうした状況を改善するためには、生産から消費に至るバリューチェーンのあらゆるレベルを改善して行く必要がある。本プロジェクトは、生産者、精米業者、流通業者と主要なアクターを総合的に支援する活動を展開しており、この意味でローカルニーズとの整合性は高いといえる。調査期間中に聞き取り調査を行った研修参加者は、研修の内容を高く評価していたことは、それを裏付けるものであった。

#### (3) わが国の援助政策との整合性

日本政府のコートジボワールに対する援助政策は、プロジェクトが形成された当時から大きくは変更されていない。国別援助方針 (2014年4月) では、開発ポテンシャルのある産業分野に焦点をあて、経済成長を加速させることが述べられ、なかでも農業セクターへの支援は優先開発課題と位置づけられている。コメセクターについては特に、コートジボワールは日本政府が支援するアフリカ稲作振興のための共同体 (Coalition for Africa Rice Development : CARD) イニシアティブ第2グループに選ばれていて、本プロジェクトはCARD支援の一環として実施されている。このような流れのなかで、事業展開計画 (2016年) では、本プロジェクトは「1次産業振興プログラム」における投入と位置づけられ、実施されている。したがって、本プロジェクトは、わが国の援助政策に沿って実施されている。

#### (4) わが国による技術協力の優位性

コメはいうまでもなく日本人にとって第一の主食で最も重要な作物であることから、日本は先進的な稲作関連技術を開発し、バリューチェーンを長年にわたり発展させてきた。一方、

コートジボワール人にとってコメは 1960 年代の独立後に本格的に栽培が始まった比較的新しい作物であり、コメセクターはいまだ発展途上にあることから、日本がコートジボワールのコメセクターへの技術協力を行う優位性は高いといえる。また、JICA はアフリカの複数国で稲作分野への技術協力事業を実施してきた経験を有していることも、優位性を高める要因となっているといえる。

#### 4-2 有効性

以下の分析から、本プロジェクトの有効性は、「やや低い」レベルと判断された。

##### (1) 成果とプロジェクト目標の達成度

表 4-2 は、前章で述べた成果とプロジェクト目標達成度の評価結果を要約したものである。

表 4-2 成果とプロジェクト目標達成度の評価結果

項目	達成度・達成見込み
成果 1	中程度
成果 2	やや低い
成果 3	低い
成果 4	評価困難
プロジェクト目標	やや低い

これまでに議論してきたとおり、実施チームの協働した努力によって、本プロジェクトは PDM で計画されたすべての活動で確実な進捗が見られる。活動を実施するプロセスで蓄積されたコメセクター支援にかかわる知識と経験は、長期的に国産米振興に寄与するものである。他方、4 つの成果の達成レベルは、特に PDM 上で設定されている指標から見た場合、全般的に低く、必然的に残りの期間（約 2 年間）においてプロジェクト目標が完全に達成される見込みは高くない。このような低い達成レベルの背景として下記の要因があったことが、中間レビュー調査で確認された。

##### 1) 計画時に想定されていなかったコメセクターにおける種々の課題

プロジェクト開始後、実施チームは対象地域あるいは全国レベルでコメセクターに存在する多くの課題に直面した。典型的な課題は、以下のとおりである。

- ①品質の良い種子（発芽率、品種の純度）が稲作農家に行き届く体制が整っていない。
- ②生産者がコメの栽培を始めるための投入材クレジットシステムが機能していない。
- ③生産者が圃場耕起を適期に行うための農業機械が十分行き届いていない、あるいは賃耕サービスが提供されていない。
- ④大多数の農家に到達する普及サービスを行う体制が整っていない。
- ⑤多くの精米業者が零細で、十分な粳を確保するための資金を持っていない、またそれを補完する金融サービス（クレジット）がない。

これらの課題は、プロジェクトの準備段階で必ずしも十分考慮されてはいなかった。プロジェクトチームは、事業開始後、幾つかの課題に対しプロジェクトの枠組みの中で対応すべく追加の活動を展開してきた。しかしながら、根本的な課題解決には政府レベルの関与が不可欠である。

## 2) 不安定な気候の悪影響

「3-3 成果（アウトプット）の達成状況」で報告したとおり、2015～2016年の作期には特に降雨が不規則で、プロジェクト対象地域の稲作農家は深刻な打撃を受けた。多くの農家が収穫前に栽培中のイネを放棄せざるを得ず、これがプロジェクト活動にも影響を及ぼした。

## 3) 成果発現に要する時間

プロジェクトの取り組み（推奨する技術の農家への普及、精米業者による販売されるコメの品質向上、都市部住民の国産米への嗜好向上）はいずれも、国産米振興のうえでは重要であるものの、目に見える成果につながるためには、長期にわたる取り組みが必要である。プロジェクトのこれまでの取り組みにもかかわらず、今のところ直接支援された農家の数は限定的であり、プロジェクト実施期間内で広範囲に及ぶ成果を実現することは、難しいと予測される。

## (2) 成果とプロジェクト目標の因果関係

PDMで設定された4つの成果はいずれもプロジェクト目標の実現に必要であり、成果とプロジェクト目標の論理関係に、問題はないと考えられる。一方、上述のとおり、プロジェクト準備段階で考慮されていなかった多くの重要な課題があることが判明し、その課題がプロジェクト目標の達成に影響する可能性が高い。その意味で、4つの成果はプロジェクト目標を達成するには必要でありながら十分ではなかったことから、当初の検討が必ずしも十分でなかったことが指摘できる。

## (3) 外部条件の影響と予測されなかった促進要因・阻害要因

成果からプロジェクト目標に至る外部条件として、「コメの国内価格が大きく変動しない」ことがあげられていた。国内価格の推移を表すデータは入手されていないが、プロジェクト開始以降、極端な価格変動は報告されていないことから、この外部条件は影響していないと考えられる。

## 4-3 効率性

以下の分析により、本プロジェクトの効率性は、「やや低い」レベルと判断された。

### (1) 成果の達成レベル

「3-3 成果（アウトプット）の達成状況」にて議論したとおり、投入材クレジットシステムへの支援、持続的な賃耕サービスの導入、優良種子生産への支援など幾つかの活動が、現行PDMには含まれていなかったが、これらの活動は、設定された4つの成果を達成するうえでいずれも重要である。したがって、プロジェクトチームがこれらの活動を含めることにした決定は適切であったといえる。しかしながら、現状では成果の達成レベルは全般的に低

いレベルにある。この意味で、プロジェクトの効率性は高いとはいえない。

#### (2) コートジボワール側からの投入

4名の専属C/Pの配置、ヤムスクロのプロジェクト事務所を含む施設・機材の提供、C/P資金の拠出（ANADERとの契約資金を含む）などが、本プロジェクトに対するコートジボワール政府側からの投入であった。1年目におけるC/P資金の拠出は、十分ではなく、また遅れがちであったが、2年目以降は改善されたと報告されている。拠出額は、年々増加され、これまでに合計で2億5,000万FCFAがプロジェクト活動のために提供されたことは評価されるべきである。MINADERとヤムスクロのプロジェクト事務所をつなぐうえで、プロジェクトマネージャーが果たした役割が大きいことが中間レビュー調査にて確認された。これらの分析から、コートジボワール政府からの投入は、おおむね妥当であったと判断された。

#### (3) 日本側からの投入

本プロジェクトに対する日本側からの投入は、専門家の派遣、4名の職員への本邦研修の実施、ローカルコストの負担などであった。すべての投入は、おおむね計画どおりであったことから、効率性はおおむね妥当であったと判断された。

#### (4) 過去の経験、他事業との連携

本プロジェクトでは、過去の類似事業での経験や教訓を活用する努力がなされている。生産者への研修で指導されている栽培技術の特定には、JICAが1990年代に実施した「農業機械訓練計画(CFMAG Project)」で開発された技術が土台となっている。投入材クレジット供与には、FAOが支援した「西アフリカコメ生産改善プロジェクト(APRAO)」での経験が生かされている。また、プロジェクトは精米業者が安定的に粳を確保するためのクレジットシステムへの支援として、食糧増産援助(KR2)見返り資金の活用するための準備が進められている。こうした取り組みは、プロジェクトを効率的に実施するうえで重要な要因とみられる。

#### (5) 外部条件の影響

PDMでは、活動が成果に結びつくための外部条件として、「①干ばつ・洪水といった自然災害が起きない、②肥料や農薬など投入材の価格が大きく変動しない」という2点が挙げられていた。2点目の投入材価格の影響は確認されていないが、既述のとおり、2015～2016年の作期に起きた不安定な天候（雨不足と不規則な降雨）がコメの栽培に深刻な打撃を与えたことから、この外部条件は成果の達成に相当影響しているといえる。

### 4-4 インパクト

下記のとおり、インパクトは「低い」レベルと予測される。

#### (1) 上位目標実現の見込み

プロジェクト目標が終了までに成功裏に達成されれば、プロジェクトは上位目標である「対象地域におけるコメの販売量増加」に目に見えるインパクトをもたらす。プロジェクト目標は、「対象グループによるコメ販売量の増加」であり、論理的には間違っていないものの、間

題はプロジェクト目標の達成から上位目標の達成までに要する時間である。通常、上位目標はプロジェクト終了後2～3年程度で達成されることが想定されているが、もし上位目標でいうところの「対象地域」がPDMで規定されているベリエ、ベケ州全域を指しているとする、この上位目標はプロジェクト目標のレベルからあまりにもかけ離れていることになる。何故なら、プロジェクトで実際に対象としているのは、2州のなかでも非常に限られた地域でしかないからである（2州全体稲作可能面積6,500haのうち1,500ha）。仮にプロジェクト目標が達成されたとしても、プロジェクト終了後に上位目標が達成されるためには、次に挙げるようないくつかの外部条件が満たされる必要がある。

- ①プロジェクトで推奨する技術が、ベリエ、ベケ州全域に継続的に普及される。
- ②技術が普及されたあと、大多数の稲作農家によってその技術が受け入れられ、実際に圃場で適用され、これがベリエ、ベケ州におけるコメの増産に結びつく。
- ③2015～2016年の作期に経験されたような、深刻な気候変動による打撃を稲作農家が受けない。
- ④農家がコメを増産したあと、地元の精米業者・流通業者が増産したコメを販売することができる十分なマーケットを開拓することができる。

こうした外部条件を考慮すれば、現行PDMで想定されている外部条件「コメの国際価格が大きく変動しない」は十分とはいえない。現段階で上位目標へのインパクトを推測するのは時期尚早であるものの、いずれにしても、政府及びコメバリューチェーンにおける民間のステークホルダーによる継続的な努力がなければ、上位目標は実現しないといえる。上位目標の実現には、本プロジェクトの取り組みだけでなく、コメセクターにかかわるあらゆるアクターによる取り組みが必要となることが推察される。このような見通しから、上位目標とその指標については、プロジェクト終了前に、再検討される必要がある。

## (2) 受益者の生計へのインパクト

「4-1 妥当性」のところで議論したとおり、コメは対象地域あるいはコートジボワール全土の農民にとって主食であるとともに、重要な現金収入源である。コメバリューチェーンの重要なアクターを支援する本プロジェクトは、広範囲の農家の生計向上に正のインパクトを及ぼす可能性はあるといえる。

## (3) 負のインパクト

これまでのところ、負のインパクトは特に報告されていない。また、このあとも発生する可能性は認められない。

## 4-5 持続性

以下の観察・分析から、持続性の見通しは「中程度」レベルと判断された。

### (1) 政策・制度・組織面

上記、「4-1 妥当性」で述べたとおり、プロジェクトはコートジボワール政府の経済、農業政策に沿って実施されているので、現在の政策が維持される限り、政策的な持続性は高

いと考えられる。組織面についても同様、コメセクターの開発を担当する専門組織である ONDR が政府によって維持、強化される限り、持続性は担保される。他方で、本プロジェクトに配置されている専属の C/P は、ONDR と MINADER からプロジェクトのために暫定的に集められたメンバーであり、プロジェクト終了後にはそれぞれの所属機関・部署に戻るため、C/P への技術移転の成果が継続されない可能性がある。

## (2) 財政面

本プロジェクトの活動経費の多くが、日本側からの予算で賄われているが、MINADER としても独自予算で賄う努力がなされてきた。政府の厳しい財政事情を考慮すれば、これまでに 2 億 5,000 万 FCFA が本プロジェクト運営のために実際に国庫から拠出されてきたことは評価される。これは偏にコートジボワール政府が国産米振興を重視する姿勢の表れといえる。こうした政府の努力がプロジェクト終了後も継続されれば、財政面の持続性も確保されるものとみられる。

他方、受益者グループ（生産者、精米業者、流通業者など）レベルでの経済的な持続性は、コメビジネスがもたらす収益性による。プロジェクトが普及している技術が、対象グループの収入増につながるということが証明されれば、農家や民間業者はプロジェクトや政府の関与がなくともその技術を継続することは容易に想像される。本プロジェクトにおける技術の普及は未だ初期段階にあり、対象グループレベルでの財政的な持続性を見通すことは難しい。成果 1 で取り組まれているクレジットシステムの導入が成功すれば、財政面での持続性は格段に高まることが期待される。

## (3) 技術面

技術面での持続性は、C/P レベルと受益者グループレベルで検証する必要がある。まず、MINADER、ONDR 職員であるメイン C/P がプロジェクト活動を通して得る知識や技術は、彼らがコメセクターにかかわる業務に従事する限り役立つものであり、C/P レベルの技術面における持続性はある程度高いとみられる。一方、プロジェクトで普及支援する技術は対象グループにとって適性となる内容が取り組まれているので、当事者が自らの技術・知識を改善しようとする意思を持つ限り、長期にわたり役に立つことが期待できる。したがって、技術面での持続性はある程度高いことが期待できるものの、通常、特に農家レベルで新たな技術の定着には長い時間が必要であり、残された 2 年半という限られた期間で、新しい技術がどの程度定着するかは、現段階では予見することが難しい。今回の調査期間中にも、生産者グループへの技術研修はサイトごとに 1 作期のみしか行われていないので、技術が実際に定着するか懸念する声も聞かれた。



## 第5章 提言と結論

### 5-1 プロジェクト協力期間内にかかわる提言

#### (1) コミュニケーションの強化・進捗報告書の共有

コートジボワール側 C/P から、十分な議論が行われないうまま決められる活動も多く、必ずしもいつも意思決定プロセスが共有されているわけではないとの指摘があり、プロジェクトチーム内での情報共有に課題があることが確認された。メンバーが活動についての共通理解を得るため、チーム内におけるコミュニケーションのあり方を改善する必要がある。また、プロジェクトの進捗報告書について、専門家が作成するものと C/P が作成するものが同一ではない現状を改善し、報告書作成プロセスにおける協働体制の強化を図る必要もある。

#### (2) プラットフォーム (PF) 活動の強化

PF 支援について、ベケ州 (ブアケ) では PF は設立されているものの十分に機能しておらず、ペリエ州 (ヤムスクロ) ではまだ設立準備中の状況である。PF は設立自体が目的ではなく、PF を通じてコメバリューチェーンにかかわる関係者が結びつくことが重要であり、参加者がその意義を理解し、活動の強化・持続性の確保がなされるようになることが望まれる。

#### (3) リーダー農家による普及活動の強化

農家への普及活動に関して、本プロジェクトでは2段階アプローチがとられている。つまり、第1段階でプロジェクトチームが ANADER 普及員と生産者組合リーダーに対し指導者研修 (ToT) を実施し、第2段階で ToT を受けた普及員とリーダーが、それぞれの担当地域の一般農民に対し研修を行うという方法である。ANADER は半官半民の組織であり、本プロジェクトにおいても MINADER と業務契約を結び、ANADER に対し一定の契約金を C/P 資金の中から支払ったうえで普及活動が行われている。このような MINADER の努力は評価されるものの、一方で ANADER の普及体制や普及員の能力、現場活動への予算手当ては十分ではなく、第2段階の普及員から一般農家への技術の普及は十分に機能しているとはいえない。このため、プロジェクトでは、ANADER 普及員による活動を補完するために、優良農家を選定し、彼らに技術研修を行ったうえで一般農家への普及活動を行う取り組みも開始している。ANADER が普及事業で中心的な役割を果たすことに変わりはないが、コートジボワール政府としても、今後、ANADER の普及事業に加え、中核農家等を活用した農民間普及を取り入れるなど、効率的・効果的な普及事業の実施を検討することも重要である。

#### (4) MINADER の関与の強化

プロジェクト活動の持続性を担保するために、MINADER のプロジェクトに対するオーナーシップが非常に重要である。クレジットシステムや機械化活動は、プロジェクトの開始時には具体的な PO が無かったため、これらの分野を担当する C/P 職員が配置されていないが、今後、プロジェクト成果の持続性を高めるためには、政府の関与が不可欠であり、これらの分野への C/P の配置が求められる。

## (5) PDM の変更

プロジェクト関係者間で明確な理解を共有するために、PDM で設定されている活動や指標について、付属資料 2 の ANNEX XII のとおり変更を提案する。この変更に基づく、PDM Ver. 4 (日本語版) は付属資料 5 提言に基づく PDM 第 4 版 (日本語) のとおり (英語版は付属資料 2 の ANNEX VII として添付)。今後、プロジェクトチーム内、さらに JCC による議論を経て、できるだけ早期に変更内容が確定されることが望まれる。

## 5-2 プロジェクト協力外にかかわる提言

### (1) 優良種子生産体制の強化

本プロジェクトの活動を行うプロセスで、国内で流通しているコメ種子は発芽率や品種純度が低く、品質に問題があることが判明したことから、種子生産農家となり得る優良農家を対象に、種子生産技術の研修を実施し、入手できる種子の品質改善を図るべく活動が行われている。今後、国産米振興を進めるうえで、稲作農家が優良種子を容易に入手できる体制を整えることは不可欠であるため、本プロジェクトにおける種子生産にかかわる経験に基づき、政府として優良種子生産・普及体制を確立するための取り組みを強化する必要がある。

### (2) 国産米振興活動の強化

消費者の消費行動に変革をもたらすには長い時間を要することから、国産米振興にかかる活動は、継続的な取り組みが必要になる。このため、政府 (MINADER) として消費者に対する働きかけを継続的に行っていく体制を整える必要がある。また、消費者の嗜好に合わせたコメを市場に供給するため、コメバリューチェーン全体を強化する必要がある。

### (3) コメ生産における気候変動対策

対象地域のベリエ州、ベケ州では、2015～2016年の作期に降雨量が非常に少ないうえ、不規則であったため、稲作農家が甚大な被害を受け、プロジェクトの活動の進捗、成果発現に影響が出た。このような、気候変動による負のインパクトを緩和するためには、灌漑設備の開発と適切な維持管理を進めることが重要である。また、干ばつに対する対策として、「アフリカ稲センター」の協力も得つつ、耐乾性の品種を導入することを検討する必要がある。

### (4) コメ生産における農業機械化

コメの生産量増加のためには機械化が欠かせないが、現状では小規模農家が利用できる賃耕サービスが限られている。本プロジェクトでも、民間の賃耕サービスを提供する取り組みが試行されているが、持続的なサービスが普及して行くためには、機材輸入促進や機材調達のためのクレジットシステム等も含め優遇措置を政府として検討する必要がある。一方、無償で農機を配布することは民間セクターの成長の妨げになるため、慎重に対応する必要がある。

### (5) 持続可能なクレジットシステムの構築

稲作農家による投入材などのクレジットシステムへのアクセス機会が限られていることは、国産米生産のボトルネックの 1 つである。本プロジェクトの活動のなかでも、民間金融機関と提携し、持続的なクレジットシステムの構築が試行されている。持続性の観点から、財政

的支援も含めた政策支援を通し、生産者、精米業者、流通業者、農業インプット供給業者に対するクレジットシステムの提供を政府とし支援して行くことも求められる。

### 5-3 教訓

コートジボワール政府関係者の一部より、プロジェクト形成段階において十分にかかわることができなかったとの指摘があった。プロジェクトの形成段階では、プロジェクトに対する先方政府のオーナーシップと持続可能性を確保するためにも先方政府関係者の巻き込みを十分に行うことが重要である。また、プロジェクトの枠組みについて、外部環境の変化に応じ、柔軟に見直しができるような処置も重要である。

### 5-4 結論

コートジボワール・日本国側双方による合同中間レビュー調査団は、プロジェクト対象地域を訪問し、プロジェクトチームメンバー、政府職員、稲作農家や他の関係者に一連の聞き取り調査を通して必要な情報の収集を行った。その結果、本プロジェクトは、コートジボワール C/P と日本人専門家の協力により当初計画に沿って活動が進められていることが確認された。これらの活動は、コートジボワールの稲作開発計画である国家稲作開発戦略（NRDS）に貢献する内容となっている。プロジェクトの残り期間も、このまま活動が継続されれば、一定の成果をもたらすことが期待される。一方、プロジェクトは今後対応すべき幾つかの課題に直面しており、プロジェクトチームは設定された目標の実現に向け、より協力して活動を進めて行く必要がある。中間レビュー調査団は、今回の調査結果と提言が、プロジェクト活動の改善に役立つことを期待する。



## 付 属 資 料

1. 協議議事録・合同評価報告書（仏語版）
2. 協議議事録・合同評価報告書（英語訳版）
3. PDM 第3版〔日本語（評価用）〕
4. 評価グリッド（日本語）
5. 提言に基づく PDM 第4版（日本語）

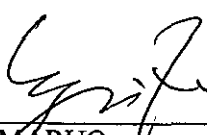



**COMPTE RENDU DE LA REUNION  
ENTRE  
LA REPUBLIQUE DE LA CÔTE D'IVOIRE  
ET  
L'AGENCE JAPONAISE DE COOPERATION INTERNATIONALE  
SUR  
LA COOPERATION TECHNIQUE JAPONAISE  
DU  
PROJET DE PROMOTION DU RIZ LOCAL  
EN REPUBLIQUE DE COTE D'IVOIRE**

L'Agence Japonaise de Coopération Internationale, ci-après dénommée « JICA », a envoyé une équipe d'évaluation à mi-parcours, dirigée par M. Shin MARUO, du 13 février au 2 mars 2017, dans le but d'évaluer l'état d'avancement du Projet de Promotion du Riz Local, ci-après dénommée « le Projet ». L'équipe d'évaluation conjointe, ci-après dénommée « l'Equipe », était composée de quatre représentants de la JICA et de quatre représentants du Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural issus de la Direction Générale de la Planification, des Statistiques et des Projets et de l'Office National de Développement de la Riziculture et dirigé par M. AKPAUD Waba Aimé Céserd, mandaté par M. Nouhoun COULIBALY. Après une étude intensive et l'analyse des activités de réalisation du projet, l'équipe a préparé un Rapport Conjoint d'Evaluation à mi-parcours du Projet, ci-après dénommé « le Rapport ».

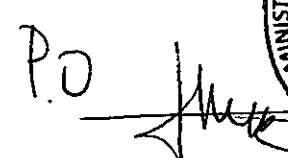
L'équipe a présenté le Rapport au Comité Conjoint de Coordination, ci-après dénommé « CCC », qui s'est réuni le 1 mars 2017. Le CCC a pris note des recommandations qui y sont formulées.


Abidjan, 2 mars 2017





M. Shin MARUO  
Directeur  
Equipe 5  
Groupe 2 Agriculture et Développement Rural  
Département du Développement Rural  
Agence Japonaise de Coopération  
Internationale





M. Nouhoun COULIBALY  
Directeur Général de la Planification, des  
Statistiques et des Projets  
Ministère de l'Agriculture et du  
Développement Rural  
République de Côte d'Ivoire

**RAPPORT DE L'EVALUATION A MI-PARCOURS CONJOINTE  
POUR LE PROJET DE PROMOTION DU RIZ LOCAL  
EN REPUBLIQUE DE COTE D'IVOIRE  
(PRORIL)**

1<sup>er</sup> Mars 2017





## TABLE DES MATIERES

### ABREVIATIONS ET ACRONYMES

1.	Introduction .....	1
1.1	Objectifs de l'évaluation à mi-parcours.....	1
1.2	Membres de l'équipe d'évaluation à mi-parcours conjointe .....	1
(1)	Membres du Gouvernement de la Côte d'Ivoire .....	1
1.3	Procédures et programme de l'évaluation .....	2
1.4	Méthodologie de l'évaluation .....	2
1.4.1	Cadre logique du projet utilisé pour l'évaluation.....	2
1.4.2	Points à noter pour l'évaluation .....	2
2.	Aperçu du Projet.....	3
2.1	Contexte du Projet .....	3
2.2	Aperçu du Projet (Résumé du Projet dans le Cadre logique du projet).....	4
3.	Réalisation du Projet .....	4
3.1	Résumé des apports .....	5
3.2	Réalisation des activités.....	5
3.3	Réalisation des résultats du Projet.....	6
3.3.1	Résultat 1.....	6
3.3.2	Résultat 2.....	8
3.3.3	Résultat 3.....	11
3.3.4	Résultat 4.....	12
3.4	Réalisation de l'objectif du projet (perspective) .....	13
3.5	Référence pour l'objectif supérieur .....	17
3.6	Examen du processus d'exécution du Projet.....	18
4.	Résultats de l'évaluation par cinq critères .....	19
4.1	Pertinence .....	19
4.2	Efficacité.....	21
4.3	Effiience.....	23
4.4	Impact .....	24
4-5	Viabilité .....	25
5.	Recommandations et leçons apprises .....	26
5.1	Recommandations pour la période restante du Projet .....	26
5.2	Recommandations au-delà du Projet .....	27



5.3 Leçons apprises.....	28
6. Conclusion.....	29

- ANNEXE I: Programme de l'étude d'évaluation à mi-parcours conjointe
- ANNEXE II: Grille d'évaluation pour l'évaluation à mi-parcours
- ANNEXE III: Cadre logique du projet, ver. 3 (utilisé pour l'évaluation)
- ANNEXE IV: Apports de la part du Gouvernement de la Côte d'Ivoire
- ANNEXE V: Apports de la part de la JICA
- ANNEXE VI: Résumé des activités réalisées de février 2014 à décembre 2016
- ANNEXE VII: Proposition de la révision du Cadre logique du projet
- ANNEXE VIII: Cadre logique du Projet Ver.4 (proposé)



## ABREVIATIONS ET ACRONYMES

ANADER	Agence Nationale d'Appui au Développement Rural
APD	Aide Publique au Développement
APRAO	Amélioration de la Production du Riz en Afrique de l'Ouest
CARD	Coalition Africaine de Développement du Riz
CCC (JCC)	Comité Conjoint de Coordination/Joint Coordination Committee
DPPF	Direction de la Planification, de la Programmation et du Financement
DGPSP	Direction Générale de la Planification, des Statistiques et des Projets
IOM	Indicateur Objectivement Mesurable
JICA	Agence Japonaise de Coopération Internationale/Japan International Cooperation Agency
MINADER	Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural / Ministry of Agriculture and Rural Development
ONDR	Office National de Développement de la Riziculture
PDDA	Plan Directeur de Développement Agricole
PDM	Project Design Matrix/Cadre logique du projet
PF	Plateforme
PNIA	Programme National d'Investissement Agricole
PO	Plan of Operation/Plan de mise en œuvre
PRORIL	Projet de Promotion du Riz Local en République de Côte d'Ivoire/Local Rice Promotion Project
R/D	Procès-Verbal des Discussions / Record of Discussion
SNDR/NRDS	Stratégie Nationale de Développement de la filière Riz/National Rice Development Strategy
UGP	Unité de Gestion du Projet / Project Team



## 1. Introduction

Le « Projet de Promotion du Riz Local en République de Côte d'Ivoire (PRORIL) (ci-après dénommé le "Projet" ) » est mis en œuvre depuis février 2014 pour une durée de 5 ans par le Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural (MINADER) et l'ONDR (Office National de Développement de la Riziculture) du Gouvernement de la République de Côte d'Ivoire avec l'appui de l'Agence Japonaise de Coopération Internationale (JICA). Etant donné que le Projet vient de marquer son point intermédiaire, l'étude d'évaluation à mi-parcours a été conjointement menée par le Gouvernement de la Côte d'Ivoire et la JICA en adéquation avec le Procès-Verbal des Discussions (R/D) signé le 14 octobre 2013 en vue d'évaluer l'état d'avancement du Projet et de discuter des mesures nécessaires à prendre pendant la période restante de mise en œuvre.

### 1.1 Objectifs de l'évaluation à mi-parcours

Les objectifs de l'évaluation à mi-parcours consistent à :

- 1) Evaluer les réalisations et le processus de mise en œuvre du Projet sur la base du Cadre logique du projet (PDM) et du Plan de mise en œuvre (PO),
- 2) Evaluer le Projet conformément à cinq critères d'évaluation, à savoir pertinence, efficacité, efficience, impact et viabilité,
- 3) Identifier les problèmes et préoccupations pour la période restante du Projet et discuter des mesures à prendre,
- 4) Faire des suggestions et recommandations pour la période restante du Projet et
- 5) Rédiger un rapport de l'étude d'évaluation à mi-parcours.

### 1.2 Membres de l'équipe d'évaluation à mi-parcours conjointe

L'équipe d'évaluation à mi-parcours conjointe est composée de :

#### (1) Membres du Gouvernement de la Côte d'Ivoire

Nom	Fonction	Rôle dans l'équipe
M. AKPAUD Waba Aimé Céserd	Chef de Service Programmation à la DPPF, MINADER	Chef de l'équipe (pour la Côte d'Ivoire)
M. BOUA Becoin Lazare	Chargé d'étude à la DEP, MINADER	Membre
M. BAKAYOKO Moussa	Chef de Service Appui aux exploitations et à la mécanisation, ONDR/DAP	Membre
Mme. BAMBA Mâ Epse COULIBALY	Chef de Service Suivi-Evaluation, ONDR/DPSE	Membre

#### (2) Membres de la mission de la JICA

Nom	Fonction	Rôle dans l'équipe
M. Shin MARUO	Directeur, Equipe 5, Groupe 2 du Développement Agricole et Rural, Département du Développement Rural, JICA	Chef de l'équipe (Pour l'équipe JICA)

Mme. Asuka SHIBUYA	Agent en charge, Equipe 5, Groupe 2 du Développement Agricole et Rural, Département du Développement Rural, JICA	Planification de la coopération
M. Atsushi SUZUKI	Consultant senior, A&M Consultant S.A.R.L.	Evaluation et analyse
Mme. Kyo OKAWA	Interprète traductrice, Translation Centre PIONEER S.A.	Interprète

### 1.3 Procédures et programme de l'évaluation

Les procédures utilisées pour l'évaluation sont basées sur les *Lignes directives de la JICA pour l'évaluation des projets* (révisées en 2010), se servant de la dernière version du Cadre logique du projet, joint à l'ANNEXE III qui est un tableau du résumé décrivant l'aperçu du Projet. L'étude sur le terrain a été menée du 13 février au 2 mars 2017 et le détail figure dans l'ANNEXE I. Les activités suivantes ont été réalisées lors de l'évaluation :

#### (1) Travail préliminaire et préparation d'une grille d'évaluation

Avant de démarrer l'étude sur le terrain, une grille d'évaluation a été préparée sur la base des documents existants relatifs au Projet, qui résume les questions d'évaluation et points à examiner pour l'étude. La grille figure dans l'ANNEXE II.

#### (2) Etude sur le terrain

L'équipe d'évaluation à mi-parcours a visité des sites du Projet et a eu une série d'interviews et de discussions avec des membres de l'Unité de Gestion du Projet (UGP) (experts japonais et homologues ivoiriens), vulgarisateurs, producteurs du riz dans les zones cibles respectives, et d'autres parties prenantes de sorte à collecter des données et informations nécessaires. Le Cadre logique du projet (PDM) et le Plan de mise en œuvre (PO) ont été revus et il a été demandé que des propositions à leur modification sur la base de découvertes et discussions soient faites.

### 1.4 Méthodologie de l'évaluation

#### 1.4.1 Cadre logique du projet utilisé pour l'évaluation

L'équipe d'évaluation à mi-parcours a conduit les travaux de révision se référant à la dernière version du Cadre logique du projet (ver. 3) qui avait été approuvée à la réunion du CCC tenue en février 2016. Le Cadre logique du projet utilisé pour l'évaluation figure dans l'ANNEXE III.

#### 1.4.2 Points à noter pour l'évaluation

Les résultats ont été examinés avec attention particulière en fonction des points suivants:

#### (1) Réalisations et processus de mise en œuvre du Project

Le niveau de réalisations du Projet incluant les apports (aussi bien de la partie ivoirienne que de la partie

japonaise), les activités, les résultats du Projet et l'objectif du projet a été évalué en référence aux Indicateurs Objectivement Mesurables (IOM) mentionnés dans le Cadre logique du projet. Le processus de mise en œuvre du projet a été évalué du point de vue de la gestion du Projet.

## (2) Evaluation avec cinq critères d'évaluation

En plus de l'évaluation des réalisations et du processus de mise en œuvre du Projet, l'équipe d'évaluation à mi-parcours a évalué la performance du Projet au point de vue de cinq critères d'évaluation décrits dans le tableau 1-1.

Tableau 1-1: Cinq critères d'évaluation d'évaluation à mi-parcours

Critère	Description
Pertinence	Critère permettant de vérifier la validité et la nécessité du Projet, c'est-à-dire si les effets escomptés du Projet répondent aux besoins des bénéficiaires cibles, si le contenu du Projet est cohérent avec les politiques du Gouvernement de la Côte d'Ivoire, si les stratégies et les approches du Projet sont pertinentes, etc.
Efficacité	Critère permettant de vérifier si la mise en œuvre du Projet a profité (ou profitera) aux bénéficiaires prévus ou à la population cible et d'examiner si la bénéfice a été apportée comme résultat du Projet, et non pas du facteur externe.
Efficiences	Critère permettant d'examiner comment les ressources (ou intrants) économiques sont converties en résultats. L'accent est mis sur la relation entre coût et effets du Projet.
Impact	Critère permettant d'examiner les effets du Projet, en particulier à long terme, qu'ils soient directs ou indirects, positifs ou négatifs, intentionnels ou non.
Viabilité	Critère permettant de vérifier si les effets produits perdurent après la fin du Projet.

Référence: *Lignes directrices de la JICA pour l'évaluation des projets (2010)*

## 2. Aperçu du Projet

### 2.1 Contexte du Projet

La plus grande partie de la Côte d'Ivoire appartient à la zone climatique de la mousson tropicale recèle un potentiel élevé pour la production de cultures en général. Sous ces conditions climatiques favorables, le secteur agricole joue un rôle important dans l'économie nationale, contribuant à plus de 25% du PIB et absorbant près des deux tiers de la population active. Alors que la plupart des cultures vivrières telles que l'igname, le manioc, le maïs, la banane plantain sont produites dans le pays de manière suffisante par rapport aux exigences nationales, seul le riz a une pénurie critique de production et une énorme quantité de riz doit être importée pour répondre aux demandes locales chaque année. Il est rapporté que les Ivoiriens ont consommé 1,98 million de tonnes de riz en 2016, dont 1,44 million de tonnes, soit 73% de la consommation totale, ont été importés d'autres pays. La croissance rapide de la population a contribué à l'augmentation de la demande de riz, en particulier dans les zones urbaines, tandis que la production locale a stagné pendant une longue période. Outre les troubles politiques qui ont touché tous les secteurs du pays depuis le début des années 2000, la faible production de riz local a été attribuée à plusieurs facteurs, dont: 1) la productivité extrêmement faible causée par l'insuffisance de la prestation de services de vulgarisation aussi bien que des intrants agricoles tels que semences et engrais de bonne qualité, 2) la faible utilisation de terres adaptées à la

production de riz en raison de la pénurie constante de fonds pour la majorité des producteurs de sorte à préparer la terre à temps et 3) la faible offre de riz local aux marchés en raison de la faible capacité des transformateurs et des distributeurs qui se sont appuyés sur des technologies après-récolte obsolètes, y compris les anciennes installations et équipements. Par conséquent, la chaîne de valeur du riz local des sites de production aux zones de consommation urbaines a été entravée et sa compétitivité s'est encore affaiblie, ce qui a entraîné une augmentation de la quantité de riz importé sur les marchés.

Dans ce contexte, un projet de coopération technique pour la promotion du riz local a été sollicité par le Gouvernement de la Côte d'Ivoire au Gouvernement du Japon et le PRORIL a démarré en février 2014 pendant une durée de 5 ans.

## **2.2 Aperçu du Projet (Résumé du Projet dans le Cadre logique du projet)**

### **(1) Objectif supérieur**

Le volume de riz local vendu dans la zone ciblée augmente.

### **(2) Objectif du projet**

Le volume de riz vendu par les groupes ciblés augmente.

### **(3) Résultats du projet**

- 1) Le dialogue entre les parties prenantes est effectif.
- 2) Les techniques et connaissances acquises à travers la formation sont appliquées par les groupes ciblés.
- 3) La capacité de production, transformation et de vente de riz de groupes sélectionnés est renforcée d'un appui supplémentaire.
- 4) Les efforts des parties prenantes\* pour la promotion du riz local sont accélérés.

(\*Les parties prenantes sont toutes les institutions impliquées de la filière riz de la zone ciblée, les institutions étatiques, les coopératives, les Partenaires Techniques et Financiers (PTF) et le secteur privé.)

### **(4) Zones ciblées**

Abidjan, Yamoussoukro, Région du Bélier, Région du Gbêkê

## **3. Réalisation du Projet**

La réalisation du Projet a été examinée en termes d'apports, activités, résultats et objectif du projet, tels qu'indiqués dans le Cadre logique du projet (PDM) et le Plan de mise en œuvre (P/O). Les résultats sont résumés dans cette section.

### 3.1 Résumé des apports

#### (1) Au niveau du Gouvernement de la Côte d'Ivoire

Les apports réels du Gouvernement de la Côte d'Ivoire sont les suivants. Les détails sont présentés à l'ANNEXE IV.

##### 1) Affectation des homologues de la Côte d'Ivoire

Au total 4 homologues du MINADER et de l'ONDR ont été affectés au Projet depuis son démarrage en février 2014, et travaillent étroitement et à plein temps avec des experts japonais.

##### 2) Allocation et décaissement du fonds de contrepartie

Un montant total de 300 millions de FCFA a été alloué par le gouvernement de la Côte d'Ivoire, dont 250 millions décaissés pour la mise en œuvre du Projet de février 2014 au 31 décembre 2016.

##### 3) Installations et équipements mis à disposition

Des locaux ont été mis à la disposition de l'UGP et du personnel local d'appui au Centre PRORIL à Yamoussoukro. Les commodités telles que l'eau et l'électricité ont été mises à disposition par le Gouvernement ivoirien.

#### (2) Au niveau de la JICA

Les apports réels de la JICA pour appuyer la mise en œuvre du Projet sont :

##### 1) Affectation d'experts

Au total 11 experts spécialisés dans 14 domaines techniques ont été affectés au Projet jusqu'à la date de l'évaluation à mi-parcours.

##### 2) Formation d'homologues (au Japon)

5 agents ont été envoyés au Japon pour une formation sur la politique de développement du riz.

##### 3) Coûts des activités locales (y compris les infrastructures)

Un montant total d'environ 102,97 millions de yens (équivalent à 520,2 millions de FCFA) a été dépensé durant la période allant de février 2014 à janvier 2017.

Les détails des apports et le taux moyen de conversion utilisé figurent à l'Annexe V.

### 3.2 Réalisation des activités

L'UGP a exécuté les activités conformément au Cadre logique du projet et au Plan de mise en œuvre. Les activités entreprises au cours de la période faisant l'objet de l'évaluation et celles envisagées pour la période restante sont résumées à l'ANNEXE VI. Le niveau de réalisation des différentes activités respectives décrites dans le Cadre logique du projet est présenté dans le Tableau 3-1. Comme indiqué dans ce tableau, la plupart des activités ont été exécutées comme prévu.



Tableau 3-1 : Aperçu de l'état de réalisation des activités

Résultat	Activités	Etat de réalisation (%)				
		0	25	50	75	100
1	1-1. Identifier le profil des groupes ciblés					
	1-2. Identifier d'autres parties prenantes impliquées dans la promotion du riz dans la zone cible					
	1-3. Faciliter le dialogue entre les parties prenantes					
2	2-1. Concevoir les supports de formations					
	2-2. Organiser les formations techniques pour les vulgarisateurs.					
	2-3. Fournir les intrants aux producteurs ciblés (semences, engrais, etc.)					
	2-4. Organiser les formations techniques pour les groupes de producteurs ciblés					
	2-5. Organiser des formations techniques pour les usiniers et les distributeurs					
	2-6. Suivre et évaluer les réalisations des groupes ciblés					
3	3-1. Elaborer le menu « d'appui supplémentaire »					
	3-2. Sélectionner les bénéficiaires pour « l'appui supplémentaire »					
	3-3. Elaborer un plan détaillé « d'appui supplémentaire » avec le gouvernement, les institutions privées et les PTF					
	3-4. Mettre « l'appui supplémentaire » en œuvre					
	3-5. Suivre et évaluer les résultats de « l'appui supplémentaire »					
4	4-1. Collecter les données sur le volume de distribution du riz local					
	4-2. Faire une étude sur la préférence du riz local par les consommateurs					
	4-3. Promouvoir le riz local auprès de consommateurs urbains					
	4-4. Développer l'approche du projet					

"L'Etat de réalisation" de chaque activité décrite dans le Cadre logique du projet, basé sur l'auto-évaluation par l'UGP.

### 3.3 Réalisation des résultats du Projet

Cette section résume l'atteinte des résultats respectifs du Projet sur la base des Indicateurs Objectivement Mesurables (IOM) indiqués dans la version actuelle du Cadre logique du projet.

#### 3.3.1 Résultat 1

<b>Résultat 1 :</b>	Le dialogue entre les parties prenantes est effectif.
---------------------	---

(1) Examen de la réalisation par indicateurs (IOM)

<p><b>IOM 1-1 :</b> Les groupes de producteurs/usiniers/distributeurs sont identifiés</p> <p>1) Groupements de producteurs : Des études de terrain ont été menées pour établir l'inventaire des groupements de producteurs et les zones potentielles pour la production de riz (<i>Périmètre et Bas-fond</i>) dans les régions du Bélier et du Gbêkê, sur lequel un total de 107 groupes et 6 543 ha ont été identifiés, comme indiqué ci-dessous.</p> <p style="text-align: center;">Tableau 3-2 : Résumé de l'enquête d'inventaire : producteurs de riz :</p>
---

A

ref

Région	Bélier	Gbêké	Total
Nombre de groupements identifiés	37	70	107
Zones propices à la production du riz (ha)	2 892	3 651	6 543

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais.)

- 2) Sur la base de l'inventaire réalisé, au total 26 sites candidats ont été choisis comme zones cibles des activités du Projet couvrant 1 500 ha de rizières, et ont été encore regroupés en 4 phases comme suit : 1<sup>ère</sup> phase (2 sites), 2<sup>ème</sup> phase (8 sites), 3<sup>ème</sup> phase (8 sites) et 4<sup>ème</sup> phase (8 sites).
- 3) A travers des études de terrain dans les zones cibles, un total de 12 transformateurs et 139 distributeurs ont été identifiés, comme indiqué ci-dessous.

Tableau 3-3 : Résumé de l'enquête d'inventaire : transformateurs et distributeurs

Région	Bélier	Gbêké	Total
Nombre de transformateurs de riz	5	7	12
Nombre de distributeurs	22	117	139

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais t)

- 4) Avec ces résultats, l'IOM 1-1 a été réalisé à la date de l'évaluation à mi-parcours.

**IOM 1-2 : Au moins 75 % des groupes identifiés participent à la plateforme multi-acteurs du riz**

- 1) **Région du Bélier :** Le 1<sup>er</sup> comité ad hoc de la plateforme (PF) a eu lieu en juillet 2014, une série de réunions de sensibilisation des parties prenantes ont été organisées à partir de février 2015 dans 19 sites à Yamoussoukro et dans 2 départements. Les préparatifs de la création d'une union coopérative de producteurs ont débuté en mars 2016. Le premier « forum de rencontre » des parties prenantes du secteur du riz a été organisé en août 2016.
- 2) **Région du Gbêké :** Il existait déjà dans la région une plateforme dénommée « *Plateforme multi-acteurs du riz de Bouaké-Botro (PR2B)* », dont les activités ont été suivies. L'utilisation d'un fonds de contrepartie 2KR a été examinée et préparée en vue de soutenir une association de transformateurs avec un système de crédit pour promouvoir l'achat du riz paddy.
- 3) Sur la base des informations concernant les groupes cibles identifiés ci-dessus (IOM 1-1), « 75 % des groupes identifiés » ont pu être calculés comme étant approximativement 80 groupements de producteurs, 9 transformateurs et 104 distributeurs. Cependant, étant donné que la plupart des groupements de producteurs et des distributeurs listés dans l'inventaire étaient de petite taille et qu'il n'était pas convenable ni faisable de s'attendre à ce que ces petits groupements et distributeurs (dont la plupart sont informels) participent aux réunions de la PF, les groupes cibles devaient se limiter aux sociétés coopératives enregistrées et aux transformateurs et distributeurs d'une certaine échelle dont le nombre était de 10 coopératives et 4 transformateurs à Bélier, et 8 coopératives et 7 transformateurs à Gbêké.
- 4) Cependant, l'équipe d'évaluation à mi-parcours a observé que les activités de la PF n'avaient pas été pleinement réalisées dans les deux régions. Le niveau de réalisation de l'IOM 1-2 demeure faible.

**IOM 1-3 : L'ensemble des participants à la plateforme se réunit au moins 4 fois par an**

- 1) Tout comme pour l'IOM1-2, le niveau de réalisation de cet indicateur est faible.

**IOM 1-4 : Une condition commune de production et de distribution est partagée entre les parties prenantes**

- 1) Vu que le terme « condition commune » mentionné dans cet indicateur est vague, il est difficile d'évaluer son niveau de réalisation sans une définition claire.
- 2) Dans le rapport de l'étude détaillée sur la planification du Projet (réalisée en août 2013), il a été expliqué qu'il pourrait y avoir certaines conditions telles que la méthode de traitement du riz paddy et le prix minimum fixé pour la vente du riz, mais ceci n'a pas été clairement définis dans le Cadre logique du projet. Bien que l'équipe d'évaluation à mi-parcours ait essayé de clarifier la signification de ce terme au cours des interviews avec les membres du Projet, il ne semblait pas y avoir de consensus clair entre eux. Il est recommandé d'en discuter afin de parvenir à une compréhension commune de ce terme dès que possible.

## (2) Réalisation globale et perspective du Résultat 1

- Selon le Cadre logique du projet, les activités du Résultat 1 comprennent i) l'identification des groupes cibles et des parties prenantes, et ii) la formation de la plateforme du secteur du riz (faciliter le dialogue entre les parties prenantes). Comme expliqué ci-dessus, bien que les acteurs importants de la chaîne de valeur du riz aient été identifiés, la formation de la plateforme est encore au stade initial dans les deux régions ; par conséquent, il est trop tôt ou impossible d'évaluer le niveau de réalisation de la plupart des indicateurs contenus dans l'actuel Cadre logique du projet.

Toutefois, l'équipe d'évaluation à mi-parcours a observé que l'UGP a fait des efforts considérables pour mettre en place un système de crédit intrants destiné aux groupements de producteurs. Un autre système non encore opérationnel est cours de mise en place pour les transformateurs afin de leur permettre d'accroître leurs capacités d'achat de paddy (voir ANNEXE VI). Ces aspects n'avaient pas été clairement exprimés dans l'actuel Cadre logique du projet. Le Projet a capitalisé un bon niveau d'expérience et de connaissance dans la gestion de système de crédit grâce à ces activités, ce qui contribuera certainement à la promotion de la production et la commercialisation de riz local à long terme. À cet égard, les indicateurs définis dans l'actuel Cadre logique du projet semblent insuffisants ou inappropriés pour mesurer la réalisation effective du Projet. Par conséquent, il est recommandé que le Cadre logique du projet soit révisé de façon à ce que les activités effectivement entreprises y soient reflétées et que le niveau de réalisation du Résultat 1 puisse être correctement évalué pendant l'évaluation en fin de parcours qui sera effectuée vers la fin du projet.

- Sur la base de ces observations, l'équipe d'évaluation à mi-parcours conclut que la réalisation globale et les perspectives du Résultat 1 sont à un niveau « modéré »<sup>1</sup>.

### 3.3.2 Résultat 2

<b>Résultat 2 :</b>	Les techniques et connaissances acquises à travers la formation sont appliquées par les groupes ciblés
---------------------	--

#### (1) Examen de la réalisation par indicateurs (IOM)

<sup>1</sup>Le niveau de réalisation des résultats et de l'objectif du projet a été évalué sur une échelle de 5 échelles ; à savoir, 1) très élevé, 2) élevé, 3) modéré, 4) modérément faible, 5) faible.




**IOM 2-1 : 80 % de producteurs ayant participé aux formations appliquent 75 % des techniques de base**

1) Les 10 techniques de base de la riziculture ont été identifiées comme pratiques recommandées à inclure dans les formations pour les agents de vulgarisation de l'ANADER et des producteurs de riz.

- i) Sélection des semences de riz par flottaison
- ii) Détermination de la quantité d'engrais de fond à appliquer (NPK 200 kg/ha)
- iii) Meilleur moment pour l'application de l'engrais de fond au moment du 2<sup>ème</sup> labour
- iv) Pratique du repiquage
- v) Age des plants pour le repiquage (14-21 jours)
- vi) Désherbage avant l'application de l'urée d'entretien
- vii) Quantité de l'application
- viii) Meilleur moment de la 1<sup>ère</sup> application à la phase de tallage
- ix) Meilleur moment de la 2<sup>ème</sup> application à la phase de l'initiation paniculaire
- x) Meilleur moment de récolte (115 à 125 jours après l'ensemencement)

2) Se concentrant sur ces pratiques recommandées, le Projet a fait des efforts pour le transfert des connaissances et des techniques appropriées aux producteurs de riz à travers des formations techniques organisées en deux étapes. Premièrement, le Projet a procédé à la formation des formateurs de manière intensive sur les techniques de culture dont la récolte et la post-récolte, l'opération et l'entretien de machines agricoles et le renforcement organisationnel, à l'intention du personnel vulgarisateur de l'ANADER et des dirigeants de groupements de producteurs (coopératives), au Centre PRORIL, comme résumé dans le tableau 3-4.

Tableau 3-4 : Résumé des formations des vulgarisateurs et des dirigeants de groupements de producteurs

Année de formation	Groupe cible (zone)	Nombre de participants (effectifs)		
		Techniques culturales	Machines agricoles	Renforcement organisationnel
2014	1 <sup>ère</sup> phase (2 sites)	47	47	11
2015	2 <sup>ème</sup> phase (8 sites)	11	18	20
2016	3 <sup>ème</sup> phase (11 sites)	36	33	33

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais.)

Dans la deuxième étape, les formations *in situ* ont été organisées par les agents de vulgarisation de l'ANADER à l'endroit des riziculteurs au cours des campagnes suivantes en collaboration avec les responsables de producteurs.

3) Le Projet a recueilli des informations de suivi afin de déterminer le niveau d'utilisation des techniques recommandées par les producteurs ayant participé aux formations sur les sites respectifs. Les résultats du suivi des groupes de la 1<sup>ère</sup> phase (2014) et de la 2<sup>ème</sup> phase (2015) sont résumés dans le tableau 3-5 (la 3<sup>ème</sup> phase est toujours en cours de suivi).

Tableau 3-5 : Nombre de producteurs formés et adoption des techniques de base sélectionnées

Phase	Site	Nbre total de producteurs	Producteurs formés	Taux (%)	Producteurs appliquant 75 % de techniques de base.	Taux (%)
1 <sup>ère</sup>	Zatta	28	8	28,6	7	87,5

	Yabra	77	3	3,9	1	33,3
2 <sup>ème</sup>	N° Gangoro-Ahitou	25	8	32,0	2	25,0
	Boungué	85	26	30,6	12	46,2
	Didiévi	32	11	34,4	8	72,7
	Anongblin	21	8	38,1	6	75,0
	Ahalékpli	39	13	33,3	0	0
	Lokakpli	154	22	14,3	11	50,0
	Attienkro	53	9	17,0	8	88,9
	Bepo	112	0	3,9	0	0
	Total	626	108	17,3	55	50,9

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais)

- 4) Comme indiqué dans le tableau, les producteurs formés par les agents de vulgarisation étaient en petit nombre dans les groupes des 1<sup>ère</sup> et 2<sup>ème</sup> phases. Le nombre de sites où plus de 80 % des producteurs formés ont appliqué plus de 75 % des techniques de base était de 2 sur 10, d'où un niveau de réalisation de l'IOM 2-1 est considéré comme « faible ». D'autre part, il est à noter que 50,9 % des agriculteurs formés avaient appliqué plus de 75 % des techniques de base à travers les sites.
- 5) L'UGP a proposé de revoir cet indicateur car il est très compliqué à suivre. L'équipe d'évaluation à mi-parcours s'est mise d'accord sur cette proposition.

**IOM 2-2 : 80 % des transformateurs/distributeurs ayant participé aux formations appliquent 75 % de techniques de base**

- 1) Les 6 techniques de base suivantes ont été identifiées à être dispensées dans la formation des transformateurs et des distributeurs :

- |       |   |
|-------|---|
| T-1 : | Mesure du taux d'humidité des grains de riz                             |
| T-2 : | Mesure de la quantité de substances étrangères (contamination) dans les |
| T-3 : | grains de riz   |
| T-4 : | Stockage approprié du riz paddy et du riz blanchi, et séparation        |
| T-5 : | Enregistrement du riz paddy acheté et du riz blanchi vendu              |
| T-6 : | Emballage du riz blanchi (utilisation de nouveaux papiers d'emballage)  |
|       | Séparation du riz blanchi (grains entiers et brisures)                  |

- 2) Les formations de transformateurs et de distributeurs de riz ont été organisées deux fois en octobre 2015 et en octobre 2016, avec un total de 18 et 15 transformateurs/distributeurs qui y ont participé respectivement. Après la formation, en vue de suivre l'adoption des techniques recommandées, une étude par interview a été réalisée en mars 2016. 10 des 18 transformateurs/distributeurs qui avaient participé à la formation en 2015 ont répondu aux interviews, dont les résultats sont résumés ci-dessous.

Tableau 3-6 : Nombre de transformateurs/distributeurs formés et adoption des techniques de base sélectionnées

Nbre de techniques de base appliquées (% de 6)	6 (100)	5 (83,3)	4 (66,6)	3 (50,0)	2 (33,3)	1 (1,7)	0	Total
Nbre d'interrogés	0	4	2	1	2	0	0	10

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais.)

- 3) Comme indiqué dans le tableau, le nombre de transformateurs/distributeurs ayant répondu avoir appliqué plus de 75 % des techniques de base (5 sur 6 techniques) était de 4 sur 10, ce qui signifie que 40 % des transformateurs/distributeurs ont atteint le but. Bien que les résultats puissent être différents si

l'ensemble des 18 participants avaient répondu aux questions, on peut dire que le 2<sup>ème</sup> indicateur du Résultat 2 n'a pas été atteint pour la 1<sup>ère</sup> formation tenue en 2015. Les résultats ne sont pas encore disponibles concernant la 2<sup>ème</sup> formation, étant donné qu'elle vient d'être dispensée en octobre 2016.

- 4) Comme c'est le cas pour l'IOM 2-1, il est recommandé de réviser cet indicateur afin de faciliter le suivi.

## (2) Réalisation globale et perspective du Résultat 2

- Le Projet a organisé une série de formations ciblant des acteurs importants de la chaîne de valeur, notamment les producteurs, les transformateurs et les distributeurs de riz. Bien que le niveau de réalisation n'étant pas très élevé en ce qui concerne les indicateurs définis dans le Cadre logique du projet, tous les producteurs et les transformateurs rencontrés par l'équipe d'évaluation à mi-parcours pendant la visite de terrain ont beaucoup apprécié la formation qui leur a été dispensée.
- L'équipe d'évaluation à mi-parcours a reconnu que les 2 indicateurs fixés dans l'actuel Cadre logique du projet étaient compliqués à suivre, ce qui pourraient avoir contribué au faible niveau de réalisation dans une certaine mesure.
- À partir de ces observations, l'équipe d'évaluation à mi-parcours conclut que la réalisation globale et les perspectives du Résultat 2 sont à un niveau « modérément faible ».

### 3.3.3 Résultat 3

<b>Résultat 3 :</b>	La capacité de production, transformation et vente de riz de groupes sélectionnés est renforcée d'un « appui supplémentaire »
---------------------	---

#### (1) Examen de la réalisation par indicateurs (IOM)

**IOM 3-1 :** 50% des bénéficiaires des appuis supplémentaire atteignent le niveau de performance requis

- 1) L'UGP a mené ses activités conformément au plan initial décrit dans le Cadre logique du projet et le Plan de mise en œuvre. Deux activités ont été choisies au titre des « appuis supplémentaires » indiqués dans le Cadre logique du projet, à savoir i) la production de semences, et ii) le fonds renouvelable (Revolving) pour les intrants. Pour ces activités d'appui, des groupes cibles ont été choisis d'entre les participants comme potentiels bénéficiaires du système de crédit intrants et des formations entrepris dans les activités des Résultats 1 et 2. Des agriculteurs de niveau avancé ont été sélectionnés comme producteurs potentiels de semences parmi les groupes cibles des 2<sup>ème</sup> et 3<sup>ème</sup> phases. Les agriculteurs qui avaient remboursé l'intégralité de leurs prêts d'intrants ont été répertoriés comme candidats pour l'utilisation des fonds renouvelables dans la zone cible de la 2<sup>ème</sup> phase. Les plans détaillés des deux appuis ont été faits en concertation avec les parties prenantes concernées.
- 2) Les activités visant à appuyer la production de semences avaient commencé en février 2015 où un atelier a été organisé, suivi d'une formation qui a eu lieu en janvier 2016. L'UGP a décidé de créer un champ de production de semences au sein du Centre PRORIL en octobre 2016, où les pratiques recommandées en matière de production de semences ont été démontrées et où les formations ont eu lieu. Les semences produites à partir du champ de démonstration seront mises à la disposition des producteurs dans les zones cibles au cours des campagnes à venir. Il est prévu que cette démonstration pourrait devenir un modèle pour le système de production et de distribution de semences de haute qualité dans les zones cibles. L'UGP a défini le but (niveau de performance) de l'appui à la production de semences comme suit : « *les agriculteurs sélectionnés parmi les groupes cibles des phases 2, 3 et 4 produiraient un total*

de 30t de semences de haute qualité en plantant plus de 15 ha de champs de production de semences pendant les campagnes de 2017 et 2018 ».

- 3) Le deuxième appui concernant le fonds renouvelable était encore au stade de préparation au moment de l'évaluation à mi-parcours. Un fonds pour l'acquisition d'intrants seront remis aux producteurs sélectionnés des groupes des 2<sup>ème</sup> et 3<sup>ème</sup> phases pendant les prochaines campagnes de 2017. Par conséquent, la cible de cet appui n'a pas encore été décidée. Elle sera examinée et déterminée dès que possible.

## (2) Réalisation globale et perspective du Résultat 3

- Comme expliqué ci-dessus, les activités d'appui aux groupements de producteurs ont été entreprises et certains indicateurs ont été définis pour voir le niveau de performance. Par contre, l'appui à d'autres acteurs (transformateurs et distributeurs) n'a pas encore été décidé et mis en place. Selon l'UGP, cela se fera d'ici fin 2017 à la lumière des résultats des activités en cours.
- Sur la base de l'évolution des activités et de la réalisation des indicateurs, l'équipe d'évaluation à mi-parcours conclut que la réalisation globale et les perspectives du Résultat 3 est à un niveau « faible ».

### 3.3.4 Résultat 4

**Résultat 4 :** Les efforts des parties prenantes pour la promotion du riz local sont accélérés

#### (1) Examen de la réalisation par indicateurs (IOM)

**IOM 4-1 :** Des lignes directrices (Document) de l'approche du projet sont élaborées.

- 1) Des lignes directrices sur la promotion du riz local sera élaborée à partir des expériences et des enseignements tirés des activités entreprises pour la réalisation des Résultats 1 à 3 expliqués ci-dessus. L'UGP prévoit d'ébaucher un plan global pour la promotion du riz local, comme première étape, puis les résultats des activités concernant l'introduction d'un système de crédit, les services viables de labour et de production de semences, etc. seront reflétés dans les lignes directrices après la fin des activités relatives au groupe cible de la 4<sup>ème</sup> phase en 2017.
- 2) Étant donné que les lignes directrices n'ont pas encore été élaborées, le niveau de réalisation de l'indicateur 4-1 ne peut pas être évalué pendant cette évaluation.

**IOM 4-2 :** La préférence pour l'achat du riz local par les consommateurs s'améliore de 30 %

- 1) Des enquêtes sur la préférence pour le riz local et le riz importé chez les consommateurs urbains ont été menées à Yamoussoukro (juillet 2014), à Bouaké (octobre 2014) et à Abidjan (décembre 2015). Les résultats des enquêtes de Yamoussoukro et de Bouaké sont résumés dans le tableau 3-8.

Tableau 3-8 : Résultats des enquêtes sur la préférence des consommateurs en matière de riz à Yamoussoukro et à Bouaké (2014)

Sites	Nombre des répondants (préférence)				Nombre de répondants (intention d'achat)			
	Riz importé	Riz local	Les deux	Total	Riz importé	Riz local		Total
Yakro	729 (57 %)	253 (20%)	294 (23%)	1 276 (100%)	482 (39%)	763 (61%)	-	1 246 (100%)
Bouaké	351 (23%)	431 (28%)	768 (50%)	1 550 (100%)	437 (28%)	1 103 (71%)	10 (1%)	1 550 (100%)

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais.)

- 2) Les chiffres indiqués dans les tableaux peuvent être considérés comme les données de référence de l'IOM 4-2.
- 3) Ne disposant pas d'une seconde enquête, les évaluateurs n'ont pas les moyens d'évaluer cet indicateur.

## (2) Réalisation globale et perspective du Résultat 4

• Étant donné que les lignes directrices n'ont pas été élaborées et qu'il n'y a aucune preuve d'amélioration de la préférence des consommateurs pour le riz local à ce stade, le résultat 4 ne peut être évalué pendant cette évaluation. Si l'UGP exécute les activités comme prévu, le Résultat peut être réalisé à un certain niveau d'ici la fin du Projet.

• En ce qui concerne l'indicateur du Résultat 4, l'équipe d'évaluation à mi-parcours recommande la modification de l'IOM 4.1. Vu que l'indicateur actuel n'est qu'une reformulation de l'activité (4-4), il n'est pas approprié d'évaluer le niveau de réalisation du Résultat 4. L'indicateur doit être défini de manière à ce que les évaluateurs puissent évaluer la mesure dans laquelle les lignes directrices élaborées peuvent contribuer à la réalisation du Résultat 4 d'ici la fin du Projet

### 3.4 Réalisation de l'objectif du projet (perspective)

**Objectif du projet :** Le volume de riz vendu par les groupes ciblés augmente

#### (1) Examen de la réalisation par indicateurs (IOM)

**IOM 1 :** Le volume de riz paddy produit par les groupes ciblés (Producteurs) augmente de 40 %

- Selon l'UGP, l'objectif de 40 % d'augmentation de la production de riz correspond à l'évolution de la production due à l'augmentation de la productivité par hectare et à l'augmentation des superficies développées. L'objectif est de passer d'un rendement moyen de 3,5 t/ha (données de l'enquête de référence) à au moins 5 t/ha de terre et un taux de développement de 50 % à 70 %.
- En ce qui concerne les données de production du riz paddy par les groupes cibles choisis, malgré l'absence de statistiques officielles, le Projet a procédé à une étude par interview avec les groupements de producteurs des zones cibles des phases 1 et 2. Les résultats sont résumés dans les tableaux 3-9 et 3-10.

Tableau 3-9 : Résultats de l'étude par interview sur la production de riz (groupe de la 1<sup>ère</sup> phase)

Site	Nombre d'agriculteurs		Campagne							
			2013/2 <sup>ème</sup>		2014/2 <sup>ème</sup>			2015/2 <sup>ème</sup>		
	Total	Resp.*	Superficie (ha)	Prod. (tonnes)	Superficie (ha)	Prod. (tonnes)	Diff.* (%)	Superficie (ha)	Prod. (tonnes)	Diff.* (%)
Zatta	28	16	12,55	64,0	13,00	52,6	17,8	13,00	74,1	15,7
Yabra	77	59	9,65	41,5	9,59	67,2	61,9	9,59	47,0	13,2

\* Nombre d'agriculteurs ayant répondu aux interviews.

\*\* Différence dans la production de riz paddy par rapport à la saison de référence (2<sup>ème</sup> campagne 2013).

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*,



rédigé par des experts japonais.)

Tableau 3-10 : Résultat de l'étude par interview sur la production de riz (groupe de la 2<sup>ème</sup> phase)

Site	Nombre d'agriculteurs		Campagne				
			2014/2 <sup>ème</sup>		2015/2 <sup>ème</sup>		
	Total	Resp.*	Superficie (ha)	Prod. (tonnes)	Superficie (ha)	Prod. (tonnes)	Diff.** (%)
Ngangoro-Ahitou	25	22	2,24	10,0	4,53	22,0	113,4
Boungue	85	76	17,21	70,5	10,05	42,9	-43,0
Didievi	32	25	13,19	66,9	17,81	92,3	76,5
Anongblin	21	20	15,75	41,3	12,76	20,5	-50,9
Ahalekli	39	37	18,52	56,5	1,61	5,0	-91,7
Lokakpli	154	142	59,93	221,7	22,62	100,0	-63,5
Attienkro	53	32	7,93	13,2	14,63	23,9	-15,1
Bepo	112	106	11,88	34,4	0	0	-

\* Nombre d'agriculteurs ayant répondu aux questions.

\*\* Différence dans la production de riz paddy par rapport à la saison de référence (2<sup>ème</sup> saison 2014).

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais.)

- Pour le groupe de la 1<sup>ème</sup> phase, les formations ont été organisées pendant la 2<sup>ème</sup> campagne de 2014; par conséquent, la production de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2013 a été considérée comme référence. Comme indiqué dans le tableau, la production de riz paddy a augmenté sur 1 site en 2014 de plus de 40%, mais ceci reste largement en-dessous du but.
- Pour le groupe de la 2<sup>ème</sup> phase, la deuxième campagne de 2014 a servi de référence par rapport à laquelle la production de riz paddy a augmenté de plus de 40 % sur 2 sites, mais a diminué dans d'autres sites. La baisse de la production de riz paddy dans la campagne 2015 était, selon ce qui a été rapporté, principalement due à l'insuffisance et à l'irrégularité des pluies pendant cette saison, ce qui a sensiblement perturbé les périodes de semis et de récolte. De nombreux agriculteurs ayant abandonné la culture du riz, la superficie cultivée a diminué de façon remarquable en 2015 par rapport à 2014. A Bépo, aucun agriculteur n'a pu récolter du riz.
- Vu qu'il n'y avait que peu de sites où le premier indicateur a été satisfait, le niveau de réalisation actuel de l'IOM 1 est considéré comme « faible ».

**IOM 2 :** Le volume de riz paddy vendu par les groupes ciblés (Producteurs) augmente de 40%

- Il est rapporté qu'en moyenne 75% de la production est vendue par les producteurs et 25% est consommée. L'objectif d'augmenter de 40% le volume de riz vendu par les groupes cibles provient de l'objectif de l'IOM 1.
- Le point de référence a été défini à partir des résultats de l'étude, tout comme pour le 1<sup>er</sup> indicateur.

Tableau 3-11 : Résultats de l'étude sur la vente de riz (groupe de la 1<sup>ère</sup> phase)

Site	Nombre d'agriculteurs		Campagne				
			2013/2 <sup>ème</sup>		2014/2 <sup>ème</sup>		
	Total	Resp.*	Vente (tonnes)	Vente (tonnes)	Diff.* (%)	Vente (tonnes)	Diff.* (%)
Zatta	28	16	61,3	50,2	-18,2	73,7	20,2
Yabra	77	59	36,8	61,9	67,9	44,9	21,9

\* Nombre d'agriculteurs ayant répondu aux questions.

\*\* Différence dans la vente de riz paddy par rapport à la saison de référence (2ème saison 2013).

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais.)

Tableau 3-12 : Résultats de l'enquête sur la vente de riz (groupe de la 2<sup>ème</sup> phase)

Site	Nombre d'agriculteurs		Campagne		
			2014/2 <sup>ème</sup>		2015/2 <sup>ème</sup>
	Total	Resp.*	Vente (tonnes)	Vente (tonnes)	Diff.** (%)
Ngangoro-Ahitou	25	22	8,9	20,1	148,3
Boungue	85	76	47,0	28,1	-45,0
Didievi	32	25	61,6	90,1	88,3
Anongblin	21	20	26,7	11,8	-67,7
Ahalepkli	39	37	43,3	3,1	-93,4
Lokakpli	154	142	195,7	90,1	-63,2
Attienkro	53	32	13,2	23,9	-15,1
Bepo	112	106	16,5	0	-

\* Nombre d'agriculteurs ayant répondu aux questions.

\*\* Différence dans la vente de riz paddy par rapport à la saison de référence (2<sup>ème</sup> campagne 2014).

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais.)

- La tendance était pratiquement la même que pour la production et le 2<sup>ème</sup> indicateur n'a été satisfait que sur quelques sites ; le niveau de réalisation actuel de l'IOM 2 est également considéré comme « faible ».

**IOM 3 :** Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes ciblés (Usiniers) augmente de 50 %

- L'objectif d'augmenter de 50% le volume de riz local blanchi vendu par les groupes cibles correspond à l'augmentation moyenne du volume de 10% par an.
- Le Projet a procédé à une étude par interview en mars 2016 au niveau des transformateurs qui ont participé à la formation organisée en octobre 2015, afin de suivre leurs activités. 10 transformateurs ont répondu aux interviews et les résultats sont résumés dans le Tableau 3-13.

Tableau 3-13 : Résultats de l'étude par interview avec les transformateurs

Zone	Nom du transformateur	Quantité mensuelle moyenne de riz blanchi (kg)		Quantité mensuelle moyenne de riz paddy achetée (kg)		Quantité mensuelle moyenne de riz blanchi vendue (kg)	
		2013	11/2015-3/2	2013	11/2015-3/2	2013	11/2015-3/2
		-10/2015	016	-10/2015	016	-10/2015	016
Bouaké	ITC	63	44	7	2	4	3
	Geco-Bouake	137	216	27	47	79	173
	ETS Touré	104	124	32	71	20	65
	Maze RIZ	108	128	5	32	8	28
	ETS Sanogo	152	153	37	35	50	77
	ETS Favognon	93	108	0	0	0	0
Yakro	Unité de décorticage de Kpoussoussou	23	16	0	0	0	0
	LGCI	7	17	2	3	1	2
	COOPRI Doubehi	1	8	2	0	0	3
	Unité de	5	0	6	0	2	0

transformation Ngangoro						
Total	69	81	12	19	17	35
Taux d'augmentation		+17%		+63%		+111%

(Source : Les données traitées sur la base des informations provenant du *Rapport préparatoire de l'évaluation à mi-parcours*, rédigé par des experts japonais.)

- Le point de référence de cet indicateur est la quantité mensuelle moyenne de riz blanchi vendue par les 10 transformateurs durant la période de janvier 2013 à octobre 2015. Comme indiqué dans le tableau 3-13, 6 sur 10 transformateurs avaient augmenté le volume de riz blanchi à l'issue de la formation, contrairement à 4 transformateurs. Dans l'ensemble, la quantité de riz blanchi vendue a augmenté de plus de 100 % par rapport aux données de référence. Cette augmentation est attribuable à l'augmentation du volume vendu par quelques transformateurs, ce qui signifie que le but de l'IOM 3 a été atteint après la formation. Mais rien n'indique dans quelle mesure cette augmentation a été provoquée la formation.
- En vue de collecter des données sur le volume de distribution de riz local, 2 types de prospections ont été réalisés à Yamoussoukro et à Bouaké, dont les données peuvent être utilisées dans l'évaluation en fin de parcours.

**IOM 4 :** Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes ciblés (Commerçants) augmente de 50 %

- Étant donné le caractère fortement informel du réseau de distribution de riz local et donc les difficultés de collecte d'informations, un noyau de 10 distributeurs de riz local fréquemment en contact avec les transformateurs de la zone a été ciblé. L'objectif d'augmenter de 50% le volume de riz vendu par les groupes cibles (les distributeurs) est tiré de l'IOM 3.
- Étant donné que le projet a dispensé une formation sur la commercialisation à 21 distributeurs (transformateurs) en octobre 2016, le suivi n'a pas encore été effectué.
- En ce qui concerne cet indicateur, les problèmes suivants ont été rencontrés durant le processus de mise en œuvre :
  - 1) Vu que de nombreux transformateurs mènent des activités de commercialisation/distribution de riz local après transformation, il est difficile de faire la distinction entre les transformateurs et les distributeurs ;
  - 2) Vu qu'il y a très peu de distributeurs qui ont un certain niveau d'activité commerciale dans les zones cibles, il est difficile d'identifier clairement les groupes cibles (distributeurs) ; et
  - 3) Vu que la majorité des distributeurs ont de très petites activités informelles traitant moins de 100 kg de riz par mois, il est difficile pour le Projet de les cibler.
- L'équipe d'évaluation à mi-parcours recommande de modifier le Cadre logique du projet en fusionnant l'IOM 4 avec l'IOM 3.

(2) Réalisation globale et perspectives de l'objectif du projet

- Le Projet a fait un certain progrès dans les activités au cours des 3 dernières années depuis son démarrage en février 2014. D'importants parties prenantes de la chaîne de valeur du riz dans les zones cibles, notamment les groupements de producteurs de riz, ainsi que les zones potentielles de production de riz paddy, les transformateurs et les distributeurs ont été identifiés avec succès et le Projet a commencé à appuyer les parties prenantes dans la création de plateformes du secteur du riz dans 2 régions cibles et la mise en place de systèmes de crédits intrants. Un bon nombre d'agents de vulgarisation de l'ANADER et de dirigeants de groupements de producteurs ont été formés et ont acquis

d'importantes connaissances et techniques de base de la culture du riz, ce qui contribuera à l'augmentation de la production de riz à long terme. D'autres parties prenantes importantes telles que les transformateurs et les distributeurs de la chaîne de valeur du riz dans les 2 régions ont également été formés sur les techniques de base pour améliorer leurs capacités. L'appui à la production de semences de haute qualité a commencé à cibler les agriculteurs de niveau avancé. Avec ces réalisations, il est certain que le Projet a fait des progrès vers l'atteinte de l'objectif du projet.

- D'autre part, il est vrai que l'on n'a pas observé une tendance claire d'augmentation du volume de riz produit et vendu dans les zones ciblées, comme indiqué dans les résultats de suivi. Les mauvaises conditions météorologiques et en particulier l'insuffisance et l'irrégularité des pluies, qui ont prévalu au cours de la campagne 2015 a affecté négativement la performance d'un grand nombre d'agriculteurs dans la région. L'équipe d'évaluation à mi-parcours a observé une faible participation des agriculteurs aux formations organisées par les agents de vulgarisation sur les différents sites cibles (champs écoles). La raison de cette faiblesse n'est pas claire, mais il est fortement recommandé à l'UGP de prendre des mesures pour améliorer la participation des agriculteurs, de sorte à ce que la transmission des connaissances et des techniques promues par le Projet puisse être accélérée vers la fin du Projet. Sans cela, il pourrait être difficile que l'objectif du projet soit réalisé.
- A la lumière du niveau de réalisation des différents indicateurs mentionnés dans le Cadre logique du projet, l'équipe d'évaluation à mi-parcours conclut que la réalisation globale de l'objectif du projet est « modérément faible ». Vu que l'UGP a acquis un bon niveau d'expérience et de connaissances concernant le secteur du riz et créé de bonnes relations avec des parties prenantes importantes de la chaîne de valeur de riz dans les zones cibles, il sera possible d'accélérer le processus de mise en œuvre dans le reste de la période et de réaliser l'objectif du projet jusqu'à un certain niveau d'ici la fin de la période d'exécution en février 2019.

### 3.5 Référence pour l'objectif supérieur

L'objectif supérieur est attendu à être réalisé après la fin du Projet. Alors qu'il est encore trop tôt d'évaluer le niveau de réalisation de l'objectif supérieur, les données de base (référence) devraient être définies à cette étape. Les explications suivantes ont été avancées par l'UGP en vue de définir les indicateurs et référence pour l'objectif supérieur.

Indicateur 1: Le volume de riz produit/vendu dans la zone ciblée augmente de 30%	
Raison:	L'objectif d'augmenter la production de riz de 30% dans les zones cibles est un objectif de performance de la production de riz selon le SNDR entre 2014 et 2018.
Données de base	Référence 2014 : Selon le système d'information et de statistique ONDR, la production de la zone du Projet était de 164.398 tonnes, dont 12.745 tonnes dans la région de Bélier et 152.653 tonnes dans la région de Gbéké.
Indicateur 2: Le volume de riz vendu de la zone ciblée vers les villes augmente de 30%.	
Raison:	Le but d'augmenter la production du riz vendu de 30% dans la zone est une déduction de l'objectif de l'indicateur 1.
Données de base:	Référence 2014: Selon l'étude de base du Projet, la production de paddy dans les sites est répartie entre la consommation (25%) et la vente (75%). Ces données de référence (123.299

tonnes) correspond à 75% de la production de cette zone.

### 3.6 Examen du processus d'exécution du Projet

#### (1) Structure d'exécution et de gestion

La structure d'exécution et de gestion du projet est présentée dans la Figure 3-1. Le Projet est mis en œuvre par l'ONDR en tant que principal organisme d'exécution, sous la supervision de la Direction de la Planification, de la Programmation et du Financement (DPPF) du MINADER. Pour les activités de vulgarisation, l'ANADER a été impliquée en tant qu'organisme de collaboration. Le Directeur Général de la Planification, des Statistiques et des Projets (DGSPS) a joué le rôle de Directeur du Projet et un agent de l'ONDR a été nommé Gestionnaire du Projet à plein temps, ayant travaillé principalement au siège du MINADER à Abidjan. Trois responsables ont été désignés par le MINADER comme agents à plein temps, et travaillent en collaboration avec des experts japonais au Bureau du Projet à Yamoussoukro.

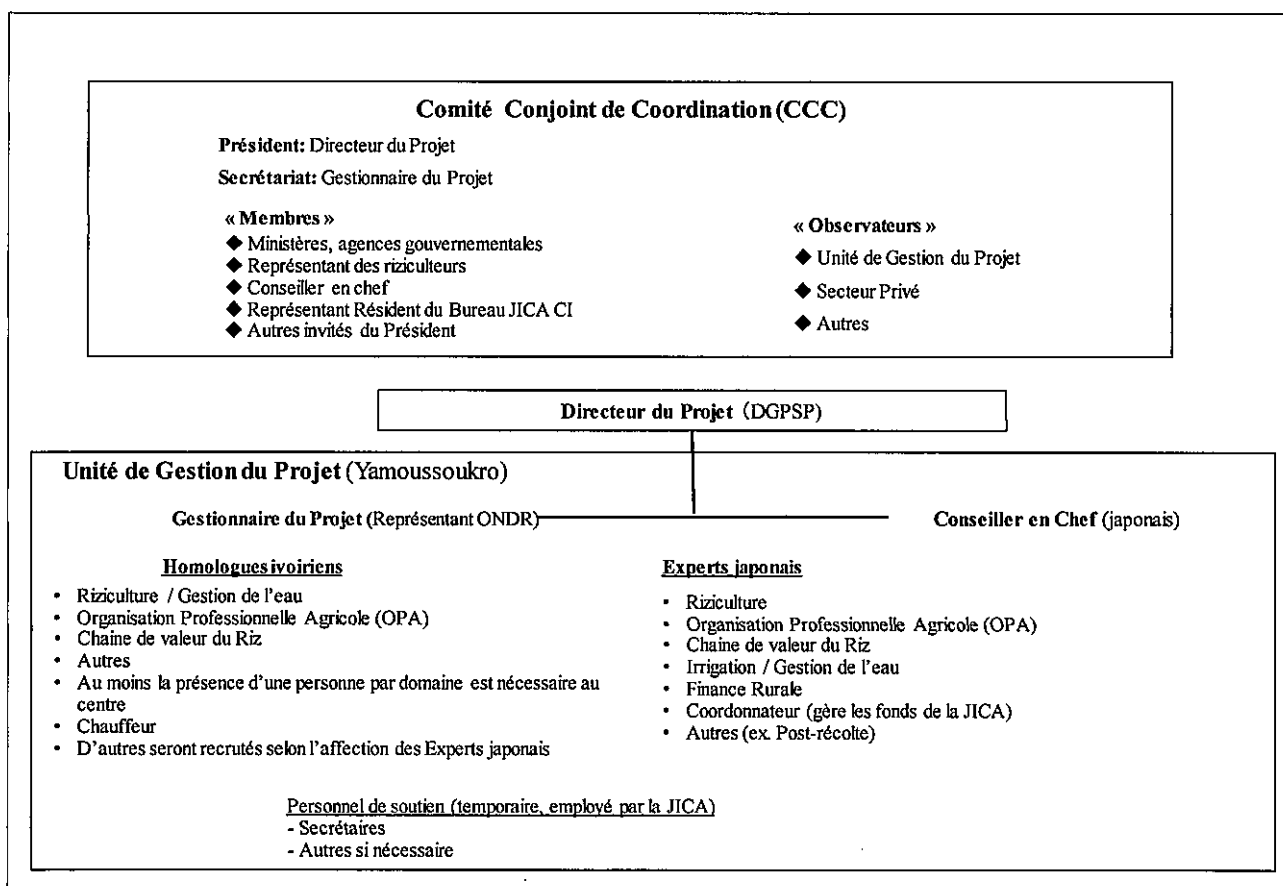


Figure 3-1 : Structure d'exécution et de gestion du Projet

Pour les activités d'encadrement dans les zones cibles, le projet a signé un contrat avec le siège de l'ANADER (1<sup>ère</sup> année) et son Bureau régional de Bouaké (à partir de la 2<sup>ème</sup> année). Des agents de vulgarisation ont été mis à disposition par les zones ANADER concernées et ont été formés aux techniques

de base par l'UGP, puis ont procédé à la formation des agriculteurs sur les sites respectifs. Un certain nombre de transformateurs et de distributeurs ont été identifiés et formés par l'UGP en tant que parties prenantes importantes de la chaîne de valeur du riz. Ils sont appelés à jouer un rôle important en tant que membres de la plateforme du secteur du riz.

## (2) Réunions pour la gestion du Projet

Des réunions du Comité Conjoint de Coordination (CCC) ont été organisées en vue d'assurer la supervision et de prendre des décisions au plus haut niveau concernant les activités du Projet et les problèmes rencontrés. Il y a eu 5 réunions du CCC depuis le début du Projet. En dehors des réunions du CCC, l'UGP a eu des rencontres régulières internes où elle a abordé diverses questions en rapport avec l'exécution des activités.

## (3) Communication au sein de l'UGP

L'équipe d'évaluation à mi-parcours a observé, qu'en matière de mise en œuvre des activités, de bonnes relations de collaboration ont été établies au sein de l'UGP. Des réunions internes sont organisées chaque fois que cela s'est avéré nécessaire. Lorsque l'un des membres de l'UGP est en déplacement, la communication est assurée par e-mail ou par téléphone avec les autres membres. Par ailleurs, à travers le questionnaire et les interviews avec les membres du Projet, l'équipe d'évaluation à mi-parcours a observé quelques lacunes en matière de communication entre les experts japonais et les homologues ivoiriens. En effet, certaines des personnes interrogées ont rapporté que des décisions concernant certaines activités avaient été prises sans suffisamment de discussions et de concertation de part et d'autre.

## (4) Système de rapport des activités du Projet

L'UGP a régulièrement compilé les rapports d'activité afin de partager les réalisations et les problèmes rencontrés pendant le processus de mise en œuvre. L'équipe d'évaluation à mi-parcours pense que la façon dont les rapports d'activité sont élaborés doit être améliorée car plusieurs rapports sont rédigés, mais certains d'entre eux n'ont pas été partagés au sein de l'UGP, ce qui semble être à la base des malentendus sur certaines questions.

## 4. Résultats de l'évaluation par cinq critères

### 4.1 Pertinence

La pertinence demeure un élément capital pour les raisons suivantes:

#### (1) Pertinence par rapport aux politiques de développement du Gouvernement de la Côte d'Ivoire

L'environnement politique du Projet n'a pas radicalement évolué depuis le lancement du Projet en 2014. Le Gouvernement de la Côte d'Ivoire a effectivement mis l'accent sur le développement du sous-secteur du riz dans le cadre des politiques de développement socioéconomique et agricole. En ce qui concerne le secteur

agricole, le Gouvernement dispose du Programme National d'Investissement Agricole (PNIA) (2012-2015), dont la seconde phase pour la période 2016-2025 est en cours d'élaboration. Conformément aux politiques sectorielles, le Gouvernement a adopté la stratégie de Relance de la Riziculture en 2008 par laquelle l'accent a été mis sur la promotion de la production du riz local. Cette stratégie a été revue en 2012 et la Stratégie Nationale révisée de Développement de la filière Riz en Côte d'Ivoire (SNDR) 2012-2020 a été élaborée, laquelle vise à satisfaire les besoins en consommation nationale du riz à partir de 2016 par la production locale. Elle mise sur toute la chaîne de valeur depuis la graine jusqu'à la production, la transformation et la commercialisation. Le Projet dont le but consiste en la promotion du riz local à travers l'amélioration de la chaîne de valeur a été, par conséquent, mis en œuvre conformément à ces politiques nationales.

#### (2) Pertinence par rapport aux besoins locaux

Les besoins locaux pour le Projet demeurent importants. Le riz est l'un des aliments de base dans l'alimentation de la plupart des Ivoiriens, avec une consommation annuelle moyenne de 70 kg par personne. Alors que la consommation annuelle actuelle de riz est estimée à environ 3 millions de tonnes, plus de 70 % de riz nécessaire pour satisfaire la demande locale est importée, soit une dépense d'environ 500 millions USD par an. Pour renverser la tendance, il est essentiel d'améliorer tous les niveaux de la chaîne de valeur de riz. Le Projet a entrepris des activités pour accompagner les acteurs importants de la chaîne de valeur, notamment les producteurs, les transformateurs et les distributeurs de riz local. Les participants à la formation que l'équipe d'évaluation à mi-parcours a rencontré au cours de visites sur le terrain ont apprécié les techniques dispensées par le Projet, qui pourrait être une preuve de la forte pertinence à leurs besoins.

#### (3) Pertinence par rapport à la politique d'aide du Gouvernement japonais

La politique d'aide du Gouvernement japonais en faveur de la Côte d'Ivoire n'a pas été changée depuis l'époque de la formulation du Projet. Le document de politique confirme l'accélération de la croissance économique en mettant l'accent sur les industries potentielles dont le soutien au secteur agricole constitue l'un des domaines prioritaires au programme d'Aide publique au développement (APD) du Japon. Concernant le sous-secteur du riz, la Côte d'Ivoire a été choisie comme le 2<sup>ème</sup> groupe de la Coalition Africaine de Développement du Riz (CARD). En conséquence, le Projet a été placé dans le programme de développement du secteur primaire dans le plan annuel de la JICA, dont le but est d'améliorer la production vivrière et le revenu des agriculteurs. Par conséquent, le Projet est bien aligné avec la politique d'aide étrangère du Gouvernement japonais.

#### (4) Avantage comparatif de la coopération technique par le Japon

Le riz est l'aliment de base le plus important pour les japonais et le Japon a mis au point les technologies les plus avancées en matière de riz, y compris la production, la transformation et la distribution. Cependant, le sous-secteur du riz en Côte d'Ivoire est encore en évolution. Par conséquent, il ne fait aucun doute que le Japon dispose d'un avantage comparatif pour réaliser le Projet et contribuer au développement du secteur du riz en Côte d'Ivoire. En outre, la JICA a mis en place des projets similaires dans plusieurs pays, notamment



en Afrique, ce qui constitue également un avantage pour le Japon.

#### 4.2 Efficacité

L'efficacité du Projet est considéré comme « modérément faible » au regard des observations suivantes :

(1) Perspective d'atteinte de l'objectif du projet

Le Tableau 4-2 résume les résultats de l'évaluation sur le niveau de réalisation de 4 résultats et de l'objectif de projet dont les détails ont été discutés en 3.3.

Tableau 4-2 : Résultats de l'évaluation sur le niveau de réalisation des résultats et objectif du projet

Rubrique	Niveau de réalisation
Résultat 1	Modéré
Résultat 2	Modérément faible
Résultat 3	Faible
Résultat 4	Non évalué
Objectif du projet	Modérément faible

Comme indiqué précédemment, avec les efforts déployés par l'UGP, le Projet a fait un bon progrès dans toutes les activités prévues dans le Cadre logique du projet. Les connaissances et l'expérience accumulées dans le processus de mise en œuvre contribueront certainement à la réalisation de l'objectif du projet à long terme. En revanche, le niveau de réalisation des 4 résultats est actuellement faible dans l'ensemble, et par conséquent, la perspective de réalisation de l'objectif du projet sur le reste de la période des 2 ans restants pourrait ne pas être très élevé. L'équipe d'évaluation à mi-parcours considère que les raisons suivantes ont contribué au faible niveau de réalisation.

1) Non considération des questions critiques dans le secteur du riz

Après le lancement du Projet, l'UGP a fini par identifier un certain nombre de questions critiques existant dans le secteur du riz dans les zones cibles ou au niveau national, qui n'avaient pas nécessairement été prises en compte au moment de la formulation du Projet. Ce sont :

- Le manque de semences de bonne qualité accessibles aux producteurs
- Le manque de service de crédit viable pour les intrants destinés aux agriculteurs leur permettant de commencer la culture à temps
- Le manque de machines agricoles, en particulier pour le labour (motoculteurs)
- Le service de vulgarisation insuffisant pour atteindre la majorité des agriculteurs
- Le manque de moyens financiers (service de crédit) pour les transformateurs pour leur permettre d'acheter une bonne quantité de paddy pour la transformation et d'améliorer les équipements et installations.





Alors que l'UGP a entrepris des actions pour résoudre ces questions dans le cadre du Projet, il se pourrait que la résolution des problèmes à grande échelle soit impossible sans réalisation de la SNDR.

## 2) Effets des conditions climatiques

Comme évoqué au point 3.3, les précipitations erratiques et irrégulières qu'a connu la campagne agricole de 2015/16 ont négativement affecté la production de riz dans la zone du Projet en général. Beaucoup d'agriculteurs ont été contraints d'abandonner leurs rizières avant la récolte, ce qui a considérablement affecté plusieurs activités du Projet.

## 3) Délai limité

Malgré les efforts déployés par l'UGP, les agriculteurs ou parties prenantes qui ont directement été soutenus par le Projet constitue une proportion encore limitée en termes de chiffre réel. Il faudra beaucoup de temps pour que les techniques recommandées soient adoptées par la majorité des producteurs, pour que les transformateurs améliorent la qualité du riz blanchi, pour que les consommateurs urbains préfèrent désormais le riz local. Puisque tout ceci exige des actions à long terme, il n'est pas réalisable sur la période du Projet.

Se fondant sur ces observations, l'équipe d'évaluation à mi-parcours considère que bien que le niveau de réalisation de l'objectif du projet ne soit pas très élevé en termes d'indicateurs fixés dans le Cadre logique du projet, le Projet sera en mesure de contribuer grandement à la réalisation de l'objectif du projet avant la fin de la durée du Projet.

## (2) Logique entre les résultats et l'objectif du projet dans le Cadre logique du projet

Puisque tous les 4 résultats étaient importants et nécessaires pour atteindre l'objectif du projet, la logique entre les résultats et l'objectif du projet dans le Cadre logique du projet semblait positif. Toutefois, selon l'explication ci-dessus, en raison d'un certain nombre de questions qui n'étaient pas initialement inscrites dans le cadre du Projet mais qui ont considérablement affecté la mise en œuvre du Projet, le niveau de réalisation de l'objectif du projet devrait être faible. Par conséquent, l'équipe d'évaluation à mi-parcours estime que les 4 résultats dans le cadre logique du projet n'étaient pas suffisants pour atteindre l'objectif du projet. Dans cette optique, la conception du projet présentait un problème dans une certaine mesure.

## (3) Effet des hypothèses importantes

Il y avait une hypothèse au niveau du résultat à l'objectif du projet, identifiée au début du Projet : « le prix du riz sur le marché international ne fluctue pas significativement ». Lorsque le prix des denrées alimentaires a considérablement augmenté en 2008, le prix du riz a également augmenté. Toutefois, étant donné que de telles fluctuations des prix exacerbées ne sont pas survenues dans les 3 dernières années après le début du Projet, il n'y avait aucun effet de cette hypothèse.

### 4.3 Efficience

L'efficience du Projet est considérée comme « modérée » à « modérément faible » sur la base de l'analyse et des observations suivantes :

#### (1) Niveau de réalisation des résultats

Tel qu'abordé au point 3.3, alors que certaines activités, comme le soutien en faveur du système de crédit intrants, l'introduction des services viables de labour et le soutien à la production des semences, n'avaient pas été clairement articulées dans l'actuel Cadre logique du projet, ces activités ont été jugées nécessaires pour atteindre les 4 résultats. Par conséquent, l'UGP a décidé d'inscrire ces activités, cette décision peut être considérée comme appropriée. D'autre part, comme déjà discuté dans le détail, selon l'évaluation, le niveau de réalisation est généralement faible à l'heure actuelle. À cet égard, le niveau d'efficience du Projet pourrait ne pas être très élevée.

#### (2) Convenance des apports du Gouvernement de la Côte d'Ivoire

L'affectation de 4 homologues ivoiriens à temps plein, la mise à disposition de matériels (deux véhicules) et des installations, y compris les locaux de l'UGP ainsi que le décaissement du fonds de contrepartie pour couvrir les dépenses locales (y compris frais liés au contrat avec l'ANADER) constituent les principaux apports du Gouvernement de la Côte d'Ivoire. Il a été signalé que le décaissement du fonds de contrepartie n'était pas suffisant et a accusé un retard sur la première année, depuis la deuxième année des améliorations ont été apportées. Le montant du fonds de contrepartie a augmenté d'année en année et un total de 300 millions FCFA a été alloué pour les activités associées au Projet. L'équipe d'évaluation à mi-parcours a appris que le Gestionnaire du Projet a joué un rôle dans la sécurisation du budget en assurant la liaison entre le MINADER à Abidjan et le Projet à Yamoussoukro. Par conséquent, la convenance des apports du Gouvernement de la Côte d'Ivoire est jugée modérément élevée.

#### (3) Convenance des apports de la JICA

Les apports de la JICA en faveur de la mise en œuvre du Projet comprennent l'envoi d'experts japonais, la formation technique de 4 responsables au Japon pour apprendre la politique de développement de riz et l'approvisionnement des dépenses locales. Tous les apports ont été quasiment fournis comme prévu, ce qui a contribué à la mise en œuvre efficiente du Projet. La convenance des apports de la JICA, par conséquent, a été perçue comme modérément élevée.

#### (4) Utilisation de l'expérience du passé et collaboration avec les différents projets

Le Projet s'est efforcé d'utiliser l'expérience et les enseignements des projets similaires précédents. Les techniques de base enseignées aux producteurs ont été choisies en se référant à des technologies développées dans le projet de formation sur les machines agricoles pour la culture du riz irriguée soutenu par la JICA (projet-CFMAG) (1992-1997). Le système de crédits a été introduit en se basant sur l'expérience du Projet d'Amélioration de la Production du Riz en Afrique de l'Ouest (APRAO) soutenu par la FAO. Le Projet est

actuellement en train d'utiliser le fonds de contrepartie 2KR en faveur du système de crédit pour l'achat du paddy. Grâce à ces efforts, l'efficacité de la mise en œuvre du Projet a connu une amélioration.

#### (5) Examen des hypothèses importantes

Deux hypothèses importantes au niveau des activités aux résultats ont été identifiées au début du Projet : 1) Les catastrophes naturelles telles que la sécheresse, les inondations, etc, ne surviennent pas, et 2) Les prix des intrants agricoles tels que les engrais, les produits agrochimiques ne fluctueront pas significativement. Alors que l'effet de la 2<sup>ème</sup> hypothèse n'est pas confirmé, celle de la 1<sup>ère</sup> a considérablement affecté les activités du Projet, à l'instar de l'imprévisibilité et l'irrégularité des pluies qu'a connu la campagne agricole de 2015/16 qui ont négativement affecté la production de riz. Cela constitue l'une des raisons qui justifient la faible réalisation des résultats.

### 4-4 Impact

#### (1) Perspective d'impact sur l'objectif supérieur

Lorsque l'objectif du projet aura été atteint d'ici la fin du Projet, cela aura un impact sur l'objectif supérieur, à savoir que " le volume de riz local vendu dans la zone ciblée augmente." Bien que ceci semble correct de façon théorique, le délai pose problème car cela doit se faire dans 2 à 3 ans après l'achèvement du Projet. Si la zone cible de l'objectif supérieur couvre l'ensemble des 2 régions du Béliér et du Gbêkê, le niveau de l'objectif supérieur semble trop élevé pour être atteint, étant donné que les groupes et les zones actuellement ciblés par le Projet représentent une petite partie de ces 2 régions. Même si l'objectif du projet est réalisé avant la fin du Projet, un certain nombre d'hypothèses doivent être satisfaites pour que l'objectif supérieur puisse être atteint en quelques années. Il s'agit notamment des hypothèses suivantes :

- Les techniques encouragées par le Projet continuent à être diffusées auprès des producteurs dans les 2 régions.
- Après leur diffusion, ces techniques sont acceptées par la majorité des producteurs et adoptées par eux. En conséquence, le volume de la production de riz paddy augmentera.
- Le climat défavorable n'affecte pas la production de riz.
- Les transformateurs et les distributeurs sont en mesure de trouver des marchés suffisants pour écouler le riz produit par les agriculteurs.

Il y a une hypothèse ("le prix du riz sur le marché international ne fluctue pas de manière significative") dans l'actuel Cadre logique du projet, mais elle peut ne pas être suffisante. Dans tous les cas, bien qu'il soit trop tôt pour que l'équipe d'évaluation à mi-parcours évalue dans quelle mesure le Projet aura un impact sur l'objectif supérieur à ce stade, des efforts continus seront nécessaires de la part du Gouvernement et des acteurs de la chaîne de valeur du riz pour y arriver. Outre les activités du Projet, cet objectif dépend également de l'action combinée de tous les parties prenantes du secteur du riz (ONDR et divers projets).

L'équipe d'évaluation à mi-parcours recommande que le niveau de l'objectif supérieur et de ses indicateurs soit revus à un niveau réalisable à la fin du Projet.

#### (2) Impact sur les moyens de subsistance des bénéficiaires

Comme expliqué à la section 4.1, le riz est un aliment de base et une source de revenus pour la plupart des agriculteurs dans les zones cibles, ainsi que dans le pays. L'objectif du projet étant de soutenir les agriculteurs et les autres parties prenantes de la chaîne de valeur du riz à améliorer leurs pratiques, il est prévu que le Projet aura des effets positifs sur leur vie à une grande échelle.

#### (3) Impact négatif

Aucun impact négatif n'a été causé par le Projet jusqu'à présent et n'est prévu à l'avenir.

### 4-5 Viabilité

La viabilité générale est considérée comme « modérée » sur la base des observations et des analyses

#### (1) Aspect politique et institutionnel

Comme expliqué au point 4.1, le Projet a été mis en œuvre conformément aux politiques de développement globales du Gouvernement de façon significative. A moins d'un changement radical des politiques actuelles par le Gouvernement, la viabilité des résultats du Projet sera maintenue. Il en est de même pour l'aspect institutionnel. L'ONDR est un organisme spécialisé chargé de la mise de programmes en rapport avec le développement du secteur du riz. Si le Gouvernement maintient ou renforce l'ONDR, la viabilité institutionnelle sera assurée.

#### (2) Aspect financier

Bien que plusieurs activités aient été menées avec le soutien financier de la JICA, le MINADER a fait des efforts pour assurer son budget. Un montant total de 250 millions de FCFA a été décaissé depuis le début du Projet en 2014. Ceci est à encourager pour la viabilité du Projet.

Par ailleurs, la viabilité financière au niveau des groupes cibles (producteurs, transformateurs et distributeurs) dépendra largement de la rentabilité de la production du riz en tant qu'activité commerciale. Si les groupes cibles peuvent générer des bénéfices suffisants en appliquant les connaissances et techniques encouragées par le Projet, ils continueront à les utiliser même s'ils ne reçoivent pas beaucoup d'appui du Projet ou du Gouvernement. Vu que le Projet est encore au stade initial en termes de vulgarisation, il est difficile d'obtenir une image claire de la viabilité financière des groupes cibles. Lorsque les systèmes de crédit sont introduits dans le secteur de riz, la viabilité financière serait davantage boostés.

#### (3) Aspect technique

La viabilité technique peut être examinée à deux niveaux : au niveau du personnel homologue et au niveau des groupes cibles.

Premièrement, les connaissances et les compétences acquises par le personnel homologue lui seront toujours utiles dans l'exécution de son travail, tant qu'il sera engagé dans des activités associées au secteur du riz. Deuxièmement, les connaissances et les techniques transférées aux groupes cibles leurs permettront d'améliorer leurs compétences en matière de production et de gestion pendant une plus longue période, aussi longtemps qu'ils seront disposés à le faire. Par conséquent, l'on peut espérer un bon niveau de viabilité en ce qui concerne l'aspect technique. Au regard de la nature des techniques, les deux années restantes pour la mise en œuvre du Projet peuvent ne pas suffire pour les consolider, car il faut généralement beaucoup de temps pour que de nouvelles techniques et compétences soient adoptées. Certains membres de l'UGP se sont inquiétés de ce que les producteurs ont été soutenus par le Projet seulement durant une campagne, ce qui peut ne pas être suffisant pour leur permettre d'adopter les techniques recommandées.

## **5. Recommandations et leçons apprises**

### **5.1 Recommandations pour la période restante du Projet**

#### **(1) Amélioration de la communication mutuelle et préparation conjointe des rapports**

L'équipe d'évaluation à mi-parcours a réalisé qu'il y avait une divergence entre les membres de l'UGP en termes de partage d'informations portant sur le Projet. Quelques homologues ivoiriens ont relevé qu'ils n'ont pas toujours été associés au processus de prise de décision. Il est fortement recommandé d'améliorer consciemment la communication mutuelle dans les étapes importantes des activités du Projet en sorte que les membres de l'UGP partagent la même compréhension.

Par rapport à cela, l'équipe d'évaluation à mi-parcours reconnaît qu'il y a lieu d'améliorer les consultations entre les membres de l'UGP dans le processus de la préparation des rapports du Projet.

#### **(2) Renforcement des activités des plateformes**

Il semble que les activités de la plateforme du riz de Bouaké-Botoro (PR2B) ne sont pas très animées et la plateforme de Bélier est encore en cours de préparation, parce que les membres eux-mêmes ne connaissent pas l'intérêt significatif à participer aux plateformes respectives. Vu que le fait d'organiser une plateforme en soi n'est pas l'objectif mais le moyen d'améliorer le partage d'informations entre les parties prenantes intervenant dans la chaîne de valeur de riz, la révision et le renforcement des activités des plateformes à travers l'approche participative des parties prenantes leur permettent de comprendre clairement les profits tangibles liés à la plateforme. Plus particulièrement, la matérialisation de la plateforme du Bélier et la redynamisation des activités de la PR2B sont attendues.

#### **(3) Prestation effective et efficace de services de vulgarisation**

Concernant les services de vulgarisation, le Projet a entrepris une approche à deux étapes : premièrement, le Projet dispense une formation intensive aux agents de vulgarisation de l'ANADER et ensuite chaque agent de vulgarisation formé visite les sites du Projet en vue de dispenser une formation rizicole aux agriculteurs

en vertu du contrat avec l'ANADER. L'équipe d'évaluation à mi-parcours a félicité l'effort fourni par le Gouvernement de la Côte d'Ivoire de façon à mettre à disposition le budget nécessaire aux services de vulgarisation offerts par l'ANADER. Cependant il est nécessaire que la capacité de prestation de services de vulgarisation soit encore améliorée afin de couvrir le nombre requis des agents de vulgarisation, et de prendre en compte des agriculteurs principaux (paysans leaders) et des agriculteurs ordinaires dans le processus. Dans ce contexte, le Projet a commencé à adopter une autre approche depuis 2016, dans laquelle le Projet donne des opportunités de formation à des agriculteurs principaux sélectionnés en complément aux services de vulgarisation de l'ANADER, bien que l'on s'attende à ce que l'ANADER joue les rôles majeurs dans la prestation de services de vulgarisation. L'équipe d'évaluation à mi-parcours encourage le Projet à faire des efforts afin d'explorer davantage une telle voie de prestation de services de vulgarisation.

#### (4) Implication du MINADER

Dans le but d'assurer la durabilité des activités du Projet, l'appropriation du Projet par le MINADER est indispensable. L'équipe d'évaluation à mi-parcours s'est félicitée de ce que 4 agents à plein temps avaient été affectés au Projet et qu'ils travaillent avec les experts Japonais. Pour plus d'assurance dans la durabilité du Projet, il est attendu beaucoup plus d'implication de la part du MINADER.

En outre, l'affectation du personnel homologue aux activités relatives au système de crédit et à la mécanisation est nécessaire pour la durabilité de ces activités, bien qu'elle n'ait pas été prévue dans le Cadre logique du projet initial.

#### (5) Modification du Cadre logique du projet

L'équipe d'évaluation du rapport à mi-parcours recommande aux membres du CCC d'examiner une proposition de modification du Cadre logique du projet telle que jointe à l'ANNEXE-VII dans le but d'avoir une plus claire compréhension du Projet entre les parties concernées. Une réelle révision du Cadre logique du projet est attendue pour être approuvée après des discussions intenses au CCC. La version proposée du Cadre logique du projet. La version 4 proposée du Cadre logique du Projet est jointe à l'ANNEXE-VIII.

### **5.2 Recommandations au-delà du Projet**

#### (1) Renforcement du système de production de semences de riz de qualité

Le Projet a commencé à dispenser une formation dans la production de semences de riz aux agriculteurs sélectionnés dans le but d'assurer l'approvisionnement en semences de riz de qualité pour les activités du Projet parce que les semences de riz sur le marché national rencontrent des problèmes tels que le faible taux de germination, la contamination, et la faible pureté. Il est recommandé au Gouvernement de la Côte d'Ivoire d'améliorer le système de production et distribution des semences certifiées en tirant profit de l'expérience des activités pilotes du Projet, d'autant plus que la fourniture de semences certifiées aux agriculteurs est essentiellement importante pour la promotion de la production et la distribution du riz local.

#### (2) Renforcement des activités de la promotion du riz local

Il semble que des efforts constants et soutenus sont requis pour changer les habitudes des consommateurs qui devront passer de la consommation du riz importé vers la consommation du riz localement produit. A cet effet, il est recommandé au MINADER de renforcer les activités soutenues de la promotion du riz local dans le but d'augmenter la consommation du riz local. En plus de cela, il est recommandé d'améliorer toute la chaîne de valeurs de riz en adéquation avec attentes des consommateurs ordinaires au riz.

### (3) Mesures contre le changement climatique

- 1) La pénurie de pluies de 2015 à 2016 a causé une production très limitée de riz dans les régions du Bélier et du Gbêkê et cela a profondément influencé l'avancement des activités du Projet. Dans le but de minimiser l'impact négatif du changement climatique dans la production du riz, la fourniture d'installations adéquates pour l'irrigation devrait être développée et maintenue.
- 2) Comme autre mesure contre le changement climatique, que l'introduction de nouvelles variétés de riz résistantes à la sécheresse soit aussi recommandée en collaboration avec Africa Rice Center.

### (4) Mécanisation de la production de riz

La mécanisation est importante pour la promotion de la production du riz. Néanmoins, les services de machines agricoles disponibles pour les agriculteurs à petite échelle sont très limités. Pour cela, le Projet facilite l'introduction de la prestation de services des machines. Dans la prestation de services de machines aux agriculteurs ordinaires, il est recommandé au Gouvernement de la Côte d'Ivoire d'appuyer une politique nécessaire, telle que la facilitation de l'importation des machines agricoles, le système de crédit pour l'acquisition des machines et autres. Par ailleurs, l'équipe d'évaluation à mi-parcours a relevé que la distribution gratuite de machines aux agriculteurs soit attentivement étudiée puisqu'elle pourrait retarder la mécanisation agricole durable en décourageant le secteur privé d'investir dans les activités de location des machines.

### (5) Mise en place des systèmes de crédit

L'accès au crédit pour les parties prenantes intervenant dans la chaîne de valeur de riz constitue l'un des goulots d'étranglement qui mine la promotion de la production de riz local. A cet égard, le Projet a essayé, en collaboration avec des institutions financières privées, de mettre en place des systèmes de crédit durables. De la perspective de la durabilité des systèmes de crédit en faveur des acteurs la chaîne de valeur de riz, il est recommandé au Gouvernement de la Côte d'Ivoire d'appuyer les politiques telles que des appuis en termes de subvention aux institutions financières. Il est en l'occurrence recommandé de matérialiser le système de crédit mis à la disposition des producteurs, transformateurs, distributeurs et des fournisseurs d'intrants agricoles, y compris les machines.

## 5.3 Leçons apprises

Lors des interviews pendant la mission d'évaluation, quelques agents ivoiriens ont souligné qu'ils n'ont pas été pleinement impliqués dans la phase de conception du Projet. L'implication des membres du pays



bénéficiaire dans la conception des projets s'avère indispensable pour garantir l'appropriation et la durabilité des projets. En outre, un examen et une révision flexibles du Cadre logique du projet s'avère également importants afin de refléter les informations et circonstances actualisées dans le Projet.

## 6. Conclusion

L'équipe d'évaluation à mi-parcours a effectué une série de visites de terrain et des interviews avec les membres de l'UGP, les responsables gouvernementaux, les producteurs, ainsi que d'autres parties prenantes concernées par le Projet et a recueilli des informations nécessaires pour le travail d'étude et évalué l'état d'avancement du Projet. En conséquence, il a été confirmé que le Projet a été mis en œuvre tel que conçu en s'appuyant sur une bonne collaboration entre les agents ivoiriens concernés et les experts japonais et, le Projet contribue à l'atteinte des objectifs du SNDR. Si l'UGP continue d'entreprendre les activités de la même manière, l'on peut s'attendre à ce que le Projet produise de bons résultats. Toutefois, le Projet est confronté à un certain nombre de problèmes et de défis qui doivent être résolus. Par conséquent, l'UGP devrait continuer à œuvrer de concert afin de matérialiser le but visé. Dans ce cadre, l'équipe d'évaluation à mi-parcours s'attend à ce que l'UGP prenne en compte les recommandations formulées ci-dessus afin d'améliorer la performance du Projet.

(Fin du rapport)



## Liste des ANNEXES

- ANNEXE I: Programme de l'étude d'évaluation à mi-parcours conjointe
- ANNEXE II: Grille d'évaluation pour l'évaluation à mi-parcours
- ANNEXE III: Cadre logique du projet, ver. 3 (utilisé pour l'évaluation)
- ANNEXE IV: Apports de la part du Gouvernement de la Côte d'Ivoire
- ANNEXE V: Apports de la part de la JICA
- ANNEXE VI: Résumé des activités réalisées de février 2014 à décembre 2016
- ANNEXE VII: Proposition de la révision du Cadre logique du projet
- ANNEXE VIII: Cadre logique du projet, ver.4 (proposé)

## Programme de la Mission d'Evaluation à Mi-Parcours du 13 Février au 02 Mars 2017

Jour			Programme	Ville		
Février	11	Sam	AM PM			
	12	Dim	AM PM			
	13	Lun	AM PM	9h30 Réunion avec la JICA au bureau de la JICA CI 10h30 Réunion de lancement avec tous les évaluateurs au bureau de la JICA CI 14h00 Réunion avec M. Kuniyasu et les évaluateurs japonais au bureau JICA CI	Abidjan	
	14	Mar	AM PM	9h Interview au MINADER 11h Interview à l'ONDR 14h Interview à l'ANADER	Abidjan	
	15	Mer	AM PM	Rédaction du rapport	Abidjan	
	16	Jeu	AM PM	8h Départ pour Yamoussoukro Interview auprès d'homologues ivoiriens au Bureau du Projet	Yamoussoukro	
	17	Ven	AM PM	Interview auprès de membres de la Plateforme (association de producteurs) à Yamoussoukro Interview auprès d'agents de vulgarisation (ANADER : CZ, ADR et TSOPA) Interview auprès d'agriculteurs (participants à la formation) pendant les visites dans le Bélier	Yamoussoukro	
	18	Sam	AM PM	Rédaction du rapport	Yamoussoukro	
	19	Dim	AM PM	Rédaction du rapport	Yamoussoukro	
	20	Lun	AM PM	8h Départ pour Bouaké Déjeuner de travail à Bouake Interview auprès de membres de la Plateforme à Bouake Interview auprès de l'URIB (transformateurs du riz)	Bouaké	
	21	Mar	AM PM	Visite de courtoisie à l'ANADER BOUAKE Interview auprès d'agents de vulgarisation Interview auprès d'agriculteurs (participants à la formation) pendant la visite de sites à Bouaké Départ pour Yamoussoukro	Bouake/Yamoussoukro	
	22	Mer	AM PM	Interview auprès d'homologues ivoiriens au Bureau du Projet Interview auprès de membres de la Plateforme(transformateurs) à Yamoussoukro Interview auprès de collaborateurs	Yamoussoukro	
	23	Jeu	AM PM	Interview auprès d'agriculteurs (participants à la formation) pendant la visite dans le Bélier Départ pour Abidjan	Yamoussoukro/Abidjan	
	24	Ven	AM PM	11h Réunion à la FAO Rédaction du rapport	Abidjan	
	25	Sam	AM PM	Rédaction du rapport	Abidjan	
	26	Dim	AM PM	Rédaction du rapport	Abidjan	
	27	Lun	AM PM	9h Réunion interne à la JICA 10h30-15h30 Discussions avec les évaluateurs Discussion et préparation du rapport	Abidjan	
	28	Mar	AM PM	11h30-18h Révision du rapport avec les évaluateurs	Abidjan	
	Mars	1	Mer	AM PM	9h45 Visite de courtoisie au MINADER 10h Comité Conjoint de Coordination (CCC) Rédaction du rapport	Abidjan
		2	Jeu	AM PM	9h Rapport à la JICA CI 10h Rapport à l'Ambassade du Japon Signature du rapport conjoint	Abidjan

## GRILLE D'EVALUATION POUR L'ETUDE D' EVALUATION A MI-PARCOURS AU « PROJET DE PROMOTION DU RIZ LOCAL EN REPUBLIQUE DE COTE D'IVOIRE (PRORIL) »

## (1) Niveau de réalisation

Rubriques à examiner		Questions d'évaluation	Données nécessaires / Informations	Sources d'informations/ Méthodes de Collecte de donné
Apports	Apports de la partie de la JICA	Les experts japonais ont-ils été envoyés de façon appropriée en vue de soutenir le Projet?	Documents sur l'affectation des experts japonais	Reports annuels / d'avancement
		Les formations des homologues ont-elles été mises en œuvre de façon appropriée en vue de soutenir le Projet?	Documents sur les formations dispensées	Reports annuels / d'avancement, rapports sur les formations
		Les équipements ont-ils été fournis de façon appropriée en vue de soutenir le Projet?	Liste et documents sur les équipements fournis	Liste des équipements fournis, rapports annuels / d'avancement
		L'assistance financière (coût local) a-t-elle été fournie suffisamment en vue de soutenir le Projet?	Documents financiers sur le coût local	Rapports financiers, rapports annuels, rapport d'avancement
	Apports de la partie de la Côte d'Ivoire	Les homologues ivoiriens ont-ils été affectés de façon appropriée en vue de soutenir le Projet?	Documents sur l'affectation des homologues	Rapports annuels / d'avancement
		Le Gouvernement de la Côte d'Ivoire a-t-il alloué le budget suffisant en vue de soutenir le Projet?	Documents financiers sur le budget et le déboursement du Gouvernement de la Côte d'Ivoire	Rapports financiers du Gouvernement de la Côte d'Ivoire, rapports annuels / d'avancement
Résultats	Le niveau de réalisation du résultat 1: "Le dialogue entre les parties prenantes est effectif."	Dans quelle mesure l'indicateur objectif de mesure (IOM) 1-1 "Les groupes de producteurs / usiniers / distributeurs sont identifiés" serait-il réalisé?	Liste des groupes de producteurs / usiniers / distributeurs identifiés	Rapports d'avancement, rapports du suivi préparés par le Projet, Interviews et questionnaires auprès d'experts, homologues et agriculteurs pilotes
		Dans quelle mesure l'IOM 1-2 "Au moins 75 % des groupes identifiés participent à la plate forme" serait-il réalisé?	Liste des groupes ayant participé à la plateforme, P.V. des réunions	
		Dans quelle mesure l'IOM 1-3 "L'ensemble des participants à la plateforme se réunit au moins 4 fois / An" serait-il réalisé?	Liste des groupes ayant participé à la plateforme, P.V. des réunions	
		Dans quelle mesure l'IOM 1-4 "Une condition commune de production et de distribution est partagée entre les parties prenantes" serait-il réalisé?	Pourcentage des parties prenantes ayant compris et mis en pratique "Une condition commune de production et de distribution"	
	Le niveau de réalisation du résultat 2: "Les techniques et connaissances acquises à travers la formation sont appliquées par les groupes ciblés."	Dans quelle mesure l'IOM 2-1 "2-1 80 % de producteurs ayant participé aux formations appliquent 75 % techniques de base. 80% of the producers trained utilize 75% of basic technologies." serait-il réalisé?	Nombre de producteurs formés, technologies de base, changement dans la pratique agricole après la formation	Rapports d'avancement, rapports du suivi préparés par le Projet, Interviews et questionnaires auprès d'experts, homologues et agriculteurs
		Dans quelle mesure l'IOM 2-2 "80 % des transformateurs / distributeurs ayant participé aux formations appliquent 75 % techniques de base" serait-il réalisé?	Nombre d'usiniers / distributeurs, technologies de base, changement dans la pratique rizicole après la formation	
	Le niveau de réalisation du résultat 3: "La capacité de production, transformation et de vente de riz de groupes sélectionnés est renforcée d'un appui supplémentaire."	Dans quelle mesure l'IOM 3-1 "50% des bénéficiaires des appuis supplémentaires atteignent le niveau de performance requis" serait-il réalisé?	Nombre de tous les groupes sélectionnés, nombre de groupes ayant atteint les buts fixés pour l'"appui supplémentaire", changement dans la pratique	Rapports d'avancement, rapports du suivi préparés par le Projet, Interviews et questionnaires auprès d'experts et homologues
	Le niveau de réalisation du résultat 4: "Les efforts des parties prenantes pour la promotion du riz local sont accélérés."	Dans quelle mesure l'IOM 4-1 "Une ligne directrice (Document) d'approche du projet est conçue" serait-il réalisé?	Ligne directrice préparée en matière d'approches du Projet	Contenu de la ligne directrice préparée
		Dans quelle mesure l'IOM 4-2 "La préférence pour l'achat du riz local par les consommateurs s'améliore de 30 %" serait-il réalisé?	Changement dans la quantité de riz local distribué, préférence des consommateurs pour l'achat du riz local (données de base et données finales)	Suivi / évaluation de la quantité de riz local distribué, étude sur la préférence des consommateurs pour le riz local
	Objectif du Projet	Niveau de réalisation de l'Objectif du Projet: "Le volume de riz vendu par les groupes ciblés augmente."	Dans quelle mesure l'IOM 1 "Le volume de riz paddy produit par les groupes ciblés (Producteurs) augmente de 40 %" serait-il réalisé avant la fin du Projet?	Changement dans le volume de paddy produit par les groupes ciblés (producteurs) (données de base et données finales)
Dans quelle mesure l'IOM 2 "Le volume de riz paddy vendu par les groupes ciblés (Producteurs) augmente de 40%" serait-il réalisé avant la fin du Projet?			Changement dans le volume de paddy vendu par les groupes ciblés (producteurs) (données de base et données finales)	Suivi / évaluation de la quantité de paddy vendu par les groupes ciblés (producteurs), interview
Dans quelle mesure l'IOM 3 "Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes ciblés (Usiniers) augmente de 50 %" serait-il réalisé avant la fin du Projet?			Changement dans le volume de riz blanchi local vendu par les groupes ciblés (usiniers) (données de base et données finales)	Suivi / évaluation de la quantité de riz blanchi local vendu par les groupes ciblés (usiniers), interview
Dans quelle mesure l'IOM 4 "Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes ciblés (les commerçants) augmente de 50 %" serait-il réalisé avant la fin du Projet?			Changement dans le volume de riz blanchi local vendu par les groupes ciblés (distributeurs)	Suivi / évaluation de la quantité de riz blanchi local vendu par les groupes ciblés (distributeurs), interview
Objectif Supérieur	Niveau de réalisation de l'objectif supérieur: "Le volume de riz local vendu dans la zone ciblée augmente."	Dans quelle mesure l'IOM 1 "Le volume de riz produit dans la zone ciblée augmente de 30 %" serait-il réalisé?	Changement dans le volume de riz produit / vendu dans la zone ciblée (données de base et données finales)	Suivi / évaluation de la quantité de riz produit / vendu dans la zone ciblée
		Dans quelle mesure l'IOM 2 "Le volume de riz vendu dans la zone ciblée augmente de 30 %" serait-il réalisé?	Changement dans le volume de riz vendu de la zone ciblée à la zone urbaine (données de base et données finales)	Suivi / évaluation de la quantité de riz vendu de la zone ciblée à la zone urbaine

A

uf

(2) Processus de la mise en œuvre

Rubriques à examiner	Questions d'évaluation	Données nécessaires / Informations	Sources d'Informations/ Méthodes de Collecte de donnés
Processus de la mise en œuvre du Projet	Les activités du Projet ont-elles été suivies de façon appropriée par le Gouvernement de la Côte d'Ivoire et la JICA?	Document sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Compte-rendus des réunions, rapports annuels / d'avancement, interviews et questionnaires auprès d'experts, homologues et personnel de la JICA
	Le cadre logique du Projet (PDM) et le plan d'opération (PO) ont-ils été révisés de façon appropriée?		
	Les experts japonais et les homologues ivoiriens ont-ils communiqué de façon appropriée mutuellement en vue de partager des informations en matière de gestion du Projet et de ses activités?		
	Les réunions régulières entre les experts japonais et homologues ivoiriens ont-elles suffisamment contribué à la résolution des problèmes survenus dans le processus de la mise en œuvre?		
	L'Unité de Gestion du Projet et le siège / le bureau local de la JICA ont-ils communiqué de façon appropriée mutuellement en vue de partager des informations en matière de gestion du Projet et de ses activités?	Rapports financiers sur le budget du Gouvernement de la Côte d'Ivoire, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Rapports financiers du Gouvernement de la Côte d'Ivoire, Interviews et questionnaires auprès d'experts et homologues
	Les homologues ivoiriens ont-ils participé de façon appropriée à la gestion du Projet et à ses activités?		
	Le gouvernement de la Côte d'Ivoire a-t-il alloué suffisamment de budget au Projet?	Documents sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Comptes-rendus des réunions, rapports annuels / d'avancement, interviews et questionnaires auprès d'experts et homologues
	Le Projet a-t-il collaboré de façon appropriée avec d'autres projets mis en œuvre, soit par la JICA ou par d'autres bailleurs de fonds dans le pays?		
Facteurs entravant le processus de la mise en œuvre	La restructuration d'organisations de mise en œuvre ou l'affectation de superviseurs ou homologues sont-ils affecté la mise en œuvre du Projet?	Documents sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Comptes-rendus des réunions, rapports annuels / d'avancement, interviews et questionnaires auprès d'experts et homologues
	Y a-t-il des facteurs imprévus affectant le bon processus de la mise en œuvre ?		

(3) Evaluation basée sur cinq critères

Rubriques à examiner	Questions d'évaluation	Données nécessaires / Informations	Sources d'Informations/ Méthodes de Collecte de donnés	
Pertinence	La coopération / les conseils techniques fournis dans la cadre du Projet ont-ils été conformes aux besoins du Gouvernement de la Côte d'Ivoire?	Politiques du développement de la Côte d'Ivoire, Opinions des cadres en charge du développement national, des experts japonais et des homologues ivoiriens	Révision de documents de politiques, interviews et questionnaires auprès de cadres compétents	
	La coopération / les conseils techniques fournis dans la cadre du Projet ont-ils été conformes aux besoins des groupes ciblés?	Opinions des bénéficiaires (producteurs du riz, usiniers, distributeurs) dans les zones ciblées	Interviews et questionnaires auprès de bénéficiaires	
	L'objectif du Projet a-t-il été conforme et bénéficié de la priorité é levée dans le plan national de développement du Gouvernement de la Côte d'Ivoire?	Politiques du développement de la Côte d'Ivoire, Opinions des cadres en charge du développement national, des experts japonais et des homologues ivoiriens	Révision de documents de politiques, interviews et questionnaires auprès de cadres compétents, experts et homologues	
	Le Projet a-t-il été conforme à la politique d'assistance du Gouvernement du Japon envers la Côte d'Ivoire?	Stratégie d'assistance du pays et politique du Gouvernement du Japon et de la JICA en Côte d'Ivoire	Révision de documents de politiques du Gouvernement du Japon, interviews et questionnaires auprès du personnel de la JICA	
	Convenance des approches du Projet	Les approches engagées par le Projet ont-elles été appropriées en termes de développement de la Côte d'Ivoire?	Politiques du développement de la Côte d'Ivoire, Opinions des cadres en charge du développement national, des experts japonais et des homologues ivoiriens engagés dans le Projet	Révision de documents de politiques, interviews et questionnaires auprès des cadres compétents, experts et homologues
		Les zones ciblées ont-elles été sélectionnées conformément à la stratégie du Gouvernement de la Côte d'Ivoire?		
		Les groupes ciblés ont-ils été sélectionnés de façon appropriée conformément à la stratégie du Gouvernement de la Côte d'Ivoire?	Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Interviews et questionnaires auprès d'experts et homologues
		Le Japon a-t-il eu l'avantage comparatif dans la technologie (savoir-faire) et expérience pour soutenir le Projet?		
Efficacité	L'objectif du Projet serait-il atteint avant la fin du Projet?	Documents sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Comptes-rendus des réunions, rapports annuels / d'avancement, interviews et questionnaires auprès d'experts et homologues	
	Les résultats ont-ils contribué à la réalisation de l'objectif du Projet?			
	Y a-t-il d'autres facteurs à part le Projet contribuant à la réalisation de l'objectif du Projet?			
	Les hypothèses ont-elles affecté la réalisation de l'objectif du Projet?			
Effets des facteurs externes (Hypothèses importantes)	Y a-t-il d'autres facteurs externes ayant affecté négativement la réalisation de l'objectif du Projet?			

AK

uf

Rubriques à examiner		Questions d'évaluation	Données nécessaires / Informations	Sources d'informations / Méthodes de Collecte de donné
Efficience	Contribution des activités	Les activités adéquates ont-elles été menées à temps en vue de réaliser les résultats conformément au plan original?	Documents sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Comptes-rendus des réunions, rapports annuels / d'avancement, Interviews et questionnaires auprès d'experts et homologues
	Convenance des apports de la partie de la JICA	L'envoi des experts japonais a-t-il été approprié en termes de nombre, expertise, longueur et timing de leur affectation?		
		La fourniture des équipements par la partie japonaise a-t-elle été appropriée en termes de types, quantité et timing d'approvisionnement?		
		La formation des homologues au Japon ou dans les pays tiers a-t-elle été mise en œuvre de façon appropriée en termes de nombre de stagiaires, contenu (relation avec les activités du Projet), longueur et timing?		
	Le coût local soutenu par la partie japonaise a-t-il été approprié en termes de montant, utilisation et timing du déboursement?			
Efficience	Convenances des apports de la partie de la Côte d'Ivoire	L'affectation du personnel homologue a-t-elle été appropriée en termes de nombre, position et compétence?	Documents sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Comptes-rendus des réunions, rapports annuels / d'avancement, Interviews et questionnaires auprès d'experts et d'homologues
		Les facilités et équipements fournis par le Gouvernement de la Côte d'Ivoire ont-ils été appropriés en termes de taille, qualité et commodité pour l'utilisation?		
		Le montant du budget pour le Projet déboursé par le Gouvernement de la Côte d'Ivoire a-t-il été approprié pour la mise en œuvre des activités du Projet?		
	Effets des facteurs externes	Y a-t-il d'autres facteurs externes ayant affecté positivement l'efficience du Projet?		
Y a-t-il d'autres facteurs externes ayant affecté négativement l'efficience du Projet?				
Impact (prévision)	Probabilité de la réalisation de l'objectif supérieur	L'objectif supérieur serait-il atteint dans quelques années en qualité d'effet du Projet?	Documents sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Comptes-rendus des réunions, rapports annuels / d'avancement, Interviews et questionnaires auprès d'experts et d'homologues
	Effets des facteurs externes	L'objectif supérieur et l'objectif du Projet ont-ils été compatibles et fixés à des niveaux appropriés? (Y avait-il un grand écart entre les deux niveaux?)		
		Les hypothèses du niveau de l'objectif du Projet au niveau de l'objectif supérieur seraient-elles satisfaites?		
	Impact imprévu	Y a-t-il des impacts positifs ou négatifs imprévus que le Projet a entraînés sur la politique, le système, les conditions socio-économiques et le développement technologique du Gouvernement?		
Viabilité (prévision)	Aspect institutionnel	Le Gouvernement de la Côte d'Ivoire aurait-il un arrangement institutionnel adéquat (politique et système) avec lequel les résultats achevés à travers le Projet puissent être viables après la fin de la coopération techniques en 2019?	Documents sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Compte-rendu des réunions, rapports annuels / d'avancement, Interviews et questionnaires auprès d'experts et d'homologues
	Aspect financier	Le Gouvernement de la Côte d'Ivoire assurerait-il un budget adéquat avec lequel les résultats achevés à travers le Projet puissent être viables après la fin de la coopération?		
	Aspect organisationnel	Le Gouvernement de la Côte d'Ivoire maintiendrait-il et développerait-il la structure organisationnelle incluant l'affectation appropriée du personnel avec laquelle les résultats achevés à travers le Projet puissent être viables après la fin de la coopération?		
	Aspect technique	Les homologues ivoiriens et les groupes ciblés ont-ils accepté les connaissances et techniques renforcées à travers le Projet et complèteraient-ils continuer à les utiliser?		
		Les organisations compétentes maintiendraient-elles et développeraient-elles davantage la capacité de mise en œuvre après que le Projet termine en 2019?		
	Viabilité globale	La réalisation du Projet aurait-elle un niveau élevé de viabilité globale?		

#### (4) Révision du plan du Projet

Rubrique à examiner		Questions d'évaluation	Données nécessaires / Informations	Sources d'informations / Méthodes de Collecte de donné
Révision du plan du Projet	Examen de la possibilité	La nécessité de modification existe-elle en termes d'activités et apports du Projet?	Documents sur les activités, Opinions des experts japonais et des homologues ivoiriens	Comptes-rendus des réunions, rapports annuels / d'avancement, Interviews et questionnaires auprès d'experts et d'homologues
		La nécessité de modification existe-elle en termes de résultats, objectif du Projet et leurs indicateurs ciblés?		
		Quelles sont des autres mesures possibles en vue de faciliter le bon déroulement du Projet?		
		La nécessité de modification existe-elle en termes de mécanisme de la mise en œuvre du Projet?		

**ANNEXE III**

**Cadre Logique du Projet**

Titre: Projet de Promotion du Riz Local en République de Côte d'Ivoire

Durée du projet: Jan 2014 - Jan 2019 (5 ans)

Zone ciblée: Abidjan, Yamoussoukro, Région du Béliér, Région du Gbêké

Bénéficiaires: Groupes de Producteurs, Transformateurs et Distributeurs de la zone ciblée

Version: No. 3 (février 2016)

Résumé du Projet	Indicateurs Objectifs de Mesure	Moyens de Vérification	Hypothèses Importantes
<b>Objectif Supérieur</b> Le volume de riz <sup>1</sup> local vendu dans la zone ciblée augmente.	1. Le volume de riz produit/vendu dans la zone ciblée augmente de 30%. 2. Le volume de riz vendu de la zone ciblée vers les villes augmente de 30%.	1. Système statistique et informatique du secteur riz piloté par FONDRA 2. Système statistique et informatique du secteur riz piloté par FONDRA	
<b>Objectif du Projet</b> Le volume de riz vendu par les groupes ciblés augmente.	1. Le volume de riz paddy produit par les groupes ciblés (Producteurs) augmente de 40 % 2. Le volume de riz paddy vendu par les groupes ciblés (Producteurs) augmente de 40% 3. Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes ciblés (Usiniers) augmente de 50 % 4. Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes ciblés (les commerçants) augmente de 50 %	1. Documents du suivi des groupes ciblés. 2. Documents du suivi des parties prenantes.	1. Le prix du riz sur le marché international ne fluctue pas significativement.
<b>Résultats</b> 1. Le dialogue entre les parties prenantes <sup>2</sup> est effectif.  2. Les techniques et connaissances acquises à travers la formation sont appliquées par les groupes ciblés.  3. La capacité de production, transformation et de vente de riz de groupes sélectionnés <sup>3</sup> est renforcée d'un appui supplémentaire.  4. Les efforts des parties prenantes pour la promotion du riz local sont accélérés.	1-1 Les groupes de producteurs / usiniers / distributeurs sont identifiés 1-2 Au moins 75 % des groupes identifiés participent à la plate forme 1-3 L'ensemble des participants à la plateforme se réunit au moins 4 fois / 1-4 Une condition commune de production et de distribution est partagée entre les parties prenantes.  2-1 80 % de producteurs ayant participé aux formations appliquent 75 % techniques de base. 2-2 80 % des transformateurs/distributeurs ayant participé aux formations appliquent 75 % techniques de base.  3-1 50% des bénéficiaires des appuis supplémentaire atteignent le niveau de performance requis.  4-1 Une ligne directrice (Document) d'approche du projet est conçue. 4-2 La préférence pour l'achat du riz local par les consommateurs s'améliore de 30 %	1-1 Documents du projet 1-2 Documents du projet  2-1 Données du projet 2-2 Données du projet  3-1 Données du projet  4-1 Données du projet 4-2 Données du projet	1. Le prix du riz sur le marché international ne fluctue pas significativement.
<b>Activités</b>	<b>Apports du Japon</b>	<b>Apports de Côte d'Ivoire</b>	
1-1 Identifier le profil des groupes ciblés. 1-2 Identifier d'autres parties prenantes impliquées dans la promotion du riz dans la zone cible. 1-3 Faciliter le dialogue entre les parties prenantes.  2-1 Concevoir les supports de formations. 2-2 Organiser les formations techniques pour les vulgarisateurs. 2-3 Fournir les intrants aux producteurs ciblés (semences, engrais, etc.). 2-4 Organiser les formations techniques pour les groupes de producteurs ciblés. 2-5 Organiser des formations techniques pour les usiniers et les distributeurs. 2-6 Suivre et évaluer les réalisations des groupes ciblés.  3-1 Elaborer le menu «d'appui supplémentaire». 3-2 Sélectionner les bénéficiaires pour «l'appui supplémentaire». 3-3 Elaborer un plan détaillé «d'appui supplémentaire» avec le gouvernement, les institutions privées et les PITF. 3-4 Mettre «l'appui supplémentaire» en œuvre. 3-5 Suivre et évaluer les résultats de «l'appui supplémentaire».  4-1 Collecter les données sur le volume de distribution du riz local. 4-2 Faire une étude sur la préférence du riz local par les consommateurs. 4-3 Promouvoir le riz local auprès de consommateurs urbains. 4-4 Développer l'approche du projet.	(1) Experts -Conseiller en chef -Riziculture -Organisation des exploitants / Gestion du crédit -Chaîne de valeur du riz -Irrigation / Gestion de l'eau -Finance Rurale -Coordonnateur (Gère les fonds de la JICA) autres (Ex Post récolte)  (2) Formation d'homologues au Japon et/ou en Pays Tiers  (3) Fourniture en machines et en équipements  (4) Dépenses locales relatives aux activités du projet -Dépenses relatives à la formation, atelier, séminaires, etc. -Supports de formation -Autres si nécessaire	(1) Homologues -Directeur du Projet -Gestionnaire du Projet -Riziculture / Gestion de l'eau -Organisation des exploitants -Chaîne de valeur du riz autres  (2) Fourniture d'installations et d'équipements -Bureau convenable et équipé (Electricité, eau, climatisation, etc.)  (3) Dispositions -Accès aux informations nécessaires, autorisation à entreprendre les activités du projet, avec garantie de sécurité -Information et accès aux services médicaux -Laisser passer ou carte d'identification  (4) Allocation Budgétaire -Budget des homologues -Coûts de fonctionnement et maintenance des équipements mis à disposition, ainsi que des installations du Projet -Financement du personnel assigné au projet  (5) Autres si nécessaire	1. Les catastrophes naturelles telles que la sécheresse, les inondations, etc, ne surviennent pas  2. Les prix des intrants agricoles tels que les engrais, les produits agrochimiques ne fluctueront pas
			<b>Préalables</b>  Garantir les conditions de sécurité dans les zones ciblées

1. "Riz" dans le Cadre Logique du Projet CLP correspond au riz localement produit (Variété Indica).

2. Les parties prenantes sont toutes les institutions impliquées de la filière riz de la zone ciblée, les institutions étatiques, les coopératives, les Partenaires Techniques et Financiers (PTF) et le secteur privé.

3. Les groupes de producteurs, usiniers et distributeurs sélectionnés sont ceux qui auront été excellents sur la base du suivi des résultats 2.

4. Un soutien accru sera élaboré au cours des activités.

*fn*

**ANNEXE IV** Apport de l'État de Côte d'Ivoire

## (1) Liste des Homologues Ivoiriens

No	Noms des Homologues	Fonction / Structure	Domaine Technique à Charge	Période Affectée
1	Ouattara Zanga Fousséni	Chef des Services de Planification, ONDR	Chef de Projet	Du 14 Fév. 2014 à maintenant
2	Kouame Ambroise Koffi	Chargé d'étude des Installations d'Irrigation, MINADER	Riziculture/ Gestion de l'Eau	-ditto-
3	N'Gbra Konan Yves	Chargé d'étude de Planification de Projet	Chaine de Valeur du Riz	-ditto-
4	Kouakou Kouakou Lancina	Chargé d'étude à la Sous- Directeur des Organisations Professionnelles	l'Organisation des Producteurs	-ditto-

## (2) Liste des Equipements et des Installations

Locaux à Yamoussoukro

## (3) Budget Alloué et Décaissé

(Unité: en Million de FCFA)

Année	2014	2015	2016	Total
Montant Alloué	50	50	200	300
Montant Décaissé	50	50	150	250

## Liste des dépenses effectuées par MINADER

- 1) Dépenses relatives à l'électricité et l'eau des locaux du Projet
- 2) Frais de maintenance des locaux
- 3) Équipements et matériels des locaux (certaines parties)
- 4) Office équipements et fournitures de bureau
- 5) Salaire et indemnités des homologues
- 6) Salaire des employés (Comptable, chauffeurs et agents de maintenance)
- 7) Achat de véhicules, carburant et frais d'entretien de véhicules
- 8) Indemnités de CCC
- 9) Une partie des frais de ré-commission locale (ANADER).




## ANNEXE V Apports de JICA

### (1) Nomination des Experts Japonais

No	Noms	Domaine d'Expertise	Durée d'Affectation (Année /Mois/Jour)
2	Norio KUNIYASU	Conseiller en Chef/Réseau de la Chaîne de Valeur du Riz (1)	2015/7/18/—8/1/(15), 2015/11/9/—12/1/(23) 2016/1/24/—3/5/(42), 2016/7/18/—8/14/(28)
3	Jun CHUJO	Conseiller en Chef Adjoint/ Gestion de Crédit/ Organisations des producteurs	2014/2/20/—4/11/(51), 2014/6/2/—10/14/(135) 2015/1/10/—3/10/(60), 2015/4/13/—7/29/(108) 2016/1/13/—3/4/(52)
4	Jun CHUJO	Gestion de Crédit/ Organisations des producteurs	2016/5/10/—8/3/(86), 2016/10/18/—12/25/(59)
5	Yuzo KOBAYASHI	Riziculture	2014/2/20/—4/11/(51), 2014/6/2/—7/31/(60) 2014/12/1/—2015/2/8/(60), 2015/4/30/—6/28/(60), 2015/8/29/—10/15/(48)
6	Yuzo KOBAYASHI	Culture du Riz/ Développement des organisations (1)/ Aide à la Formation(1)/Suivi(1)	2016/5/28/—6/14/(18), 2016/10/15/—12/13/(60)
7	Ryoichi IKEDA	Production de Semence de Riz	2015/1/10/—2/8/(30), 2016/1/13/—2/6/(25) 2016/9/20/—10/4/(15),
8	Takashi NANYA	Gestion des équipements de Riziculture	2015/5/31/—7/14/(45), 2015/10/18/—12/16/(60)
9	Takashi NANYA	Gestion des équipements de Riziculture/ Développement des organisations (2)/ Aide à la Formation (2)/Suivi(2)	2016/5/10/—7/17/(69), 2016/9/20/—11/18/(60)
10	Eiichi TAKIGAWA	Irrigation/Gestion de l'Eau	2014/2/20/—4/11/(51), 2014/6/29/—8/27/(60) 2015/1/13/—3/10/(57), 2015/5/31/—8/1/(63)
11	Eiichi TAKIGAWA	Plateforme/ Irrigation/ Gestion de l'Eau	2016/1/13/—3/3/(51)
12	Eiichi TAKIGAWA	Conseiller en Chef Adjoint/ Plateforme/ Irrigation/ Gestion de l'Eau	2016/7/3/—8/14/(43), 2016/11/28/—12/25/(28)
13	Makoto HOSHI	Finances Rurales	2014/6/29/—8/12/(45), 2014/11/23/—12/22/(30) 2015/5/7/—7/5/(60), 2015/11/14/—12/13/(30)
14	Makoto HOSHI	Finances Rurales/ Développement des organisations (3)	2016/5/18/—7/19/(63), 2016/11/7/—12/25/(49)
15	Hiroyuki KURONUMA	Coordinateur/Réseau de la Chaîne de Valeur du Riz (2)	2014/2/20/—4/11/(51), 2014/6/2/—7/31/(60) 2014/10/6/—12/4/(60), 2015/4/13/—6/11/(60) 2015/9/17/—11/24/(69)
16	Naoto ARAI	Coordinateur/Réseau de la Chaîne de Valeur du Riz (2)	2016/1/13/—3/3/(51), 2016/4/30/—7/29/(91) 2016/10/19/—12/25/(68)
17	Naoto ARAI	Aide à l'Evaluation de l'Impact(1)	2015/5/31/—7/14/(45), 2015/11/2/—12/22/(51)
18	Mariko SHIBASASKI	Aide à l'Evaluation de l'Impact (2)	2015/5/31/—7/14/(45), 2015/11/14/—12/1/(30) 2016/1/13/—2/26/(45)
19	Shimpei KATO	Aide à l'Evaluation de l'Impact	2016/5/28/—7/29/(63), 2016/10/19/—12/17/(60)



## (2) Dépenses Locales

Unité Yen

Description	Année 1	Année 2	Année 3	Total
	fev 2014-mai 2014	mai 2014- avril 2016	mai 2016- jan 2019	
1. Coût de l'emploi ordinaire	0	1 606 868	2 972 857	4 579 725
2. Coût de l'emploi spécial	3 025 065	10 936 003	5 522 186	19 483 254
3. Coût de véhicule	2 949 018	18 958 134	15 847 128	37 754 280
4. Coût de location	64 393	63 810	3 652	131 855
5. Coût d'entretien des installations et des équipements	472 150	7 502 570	712 099	8 686 819
6. Coût de consommables	413 941	16 822 278	714 679	17 950 898
7. Frais de déplacement et de transport	0	4 475 281	4 947 742	9 423 023
8. Frais de communication et de transport	417 303	1 535 783	537 713	2 490 799
9. Coût d'impression et de documentation	0	86 331	0	86 331
10. divers	0	1 129 168	1 260 010	2 389 178
Total	7 341 870	63 116 226	32 518 066	102 976 162

Unité CFA

Description	Année 1	Année 2	Année 3	Total
	fev 2014-mai 2014	mai 2014- avril 2016	mai 2016- jan 2019	
1. Coût de l'emploi ordinaire	0	7 799 737	16 401 252	24 200 989
2. Coût de l'emploi spécial	14 202 680	53 083 359	30 465 900	97 751 939
3. Coût de véhicule	13 845 640	92 022 782	87 428 605	193 297 027
4. Coût de location	302 325	309 734	20 148	632 207
5. Coût d'entretien des installations et des équipements	2 216 744	36 417 475	3 928 650	42 562 869
6. Coût de consommables	1 943 453	81 655 337	3 942 884	87 541 674
7. Frais de déplacement et de transport	0	21 723 014	27 296 693	49 019 707
8. Frais de communication et de transport	1 959 238	7 454 691	2 966 563	12 380 492
9. Coût d'impression et de documentation	0	419 051	0	419 051
10. divers	0	5 480 981	6 951 475	12 432 456
Total	34 470 080	306 366 161	179 402 170	520 238 411

(Sur la base du taux de change annuel moyen : Année 1 4695 CFA/Yen. Année 2 4854 CFA/Yen. Année 3 5517 CFA/Yen)

**ANNEXE VI** Résumé des activités réalisées par le Projet de janvier 2014 à décembre 2016

« L'état de réalisation » de chaque activité décrite dans le Cadre logique du projet a été évalué à l'aide de scores allant de 1 à 6, sur la base de l'auto-évaluation faite par l'équipe du Projet comme suit : 1. 0%; 2. 25%; 3. 50%; 4. 75%; 5. Presque achevé ; 6. Achevé.

Activités du Résultat 1 >

Résultat 1	Le dialogue entre les parties prenantes est effectif.																	
<b>Indicateurs</b>	1-1	Les groupes de producteurs / usiniers / distributeurs sont identifiés																
	1-2	Au moins 75 % des groupes identifiés participent à la plateforme.																
	1-3	L'ensemble des participants à la plateforme se réunit au moins 4 fois / An.																
	1-4	Une condition commune de production et de distribution est partagée entre les parties prenantes.																
<b>Activités dans le Cadre logique du projet</b>	<b>Résumé des activités à ce jour</b>		<b>Activités à entreprendre</b>															
1-1 Identifier le profil des groupes ciblés.	<p>État de réalisation : 6</p> <p>1-1-1 Collecte et analyse d'informations de base sur le sous-secteur du riz dans la zone cible</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Des informations sur les pratiques rizicoles, les variétés de riz cultivées dans les champs irrigués, les organisations actives de producteurs de riz, les distributeurs et les transformateurs ont été collectées dans les secteurs public et privé, notamment auprès du MINADER, de l'ONDR, de l'OCPV, de l'ANARIZ-CI, de la FENARIZ-CI, de la CODERIZ, etc.</li> <li>Le degré de contamination des grains de riz livrés par les producteurs aux meuniers a été étudié et les besoins en riz commercialisé ont été analysés.</li> <li>Des informations supplémentaires concernant le transformateur Riz-National (RINA) ont été recueillies.</li> </ul> <p>1-1-2 Préparation de l'inventaire des périmètres (zones irriguées) et bas-fonds et identification des zones cibles (sites) sur la base de l'inventaire réalisé, au total 33 sites candidats ont été identifiés comme des zones cibles des activités du Projet couvrant environ 1 500 ha de rizières, et ont été encore regroupés en 4 phases comme suit : 1<sup>ère</sup> phase (2 sites), 2<sup>ème</sup> phase (8 sites), 3<sup>ème</sup> phase (11 sites) et 4<sup>ème</sup> phase (12 sites).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Groupe</th> <th>Région du Bélier</th> <th>Région du Gbêké</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1<sup>ère</sup> phase</td> <td>2 sites : Zatta, Yabra (Yamoussoukro)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2<sup>ème</sup> phase</td> <td>4 sites : Boungué, Didiévi, N'Gangoro-Ahitou, Anongblin</td> <td>4 sites : Lokakpli, Attienkro, Bepo, Ahalékpli</td> </tr> <tr> <td>3<sup>ème</sup> phase</td> <td>6 sites : Nanan, Djamaalabo, Koriakro, Duibo-Kpato, Takissalekro, N'Gattadolikro</td> <td>5 sites : Konamoukro, N'Drebo, Béoumi, Kaabo, Djigbê</td> </tr> <tr> <td>4<sup>ème</sup> phase</td> <td>5 sites : N'vankro, Kpoussoussou, Petit Bouaké 1, Subiakro, Yaoura</td> <td>7 sites : N'goran N'goranou, Nanangan, Bogli-Agbéan, Kpogbossou, Kpandônou, Djebonoua, Akabo-Loka</td> </tr> </tbody> </table>		Groupe	Région du Bélier	Région du Gbêké	1 <sup>ère</sup> phase	2 sites : Zatta, Yabra (Yamoussoukro)		2 <sup>ème</sup> phase	4 sites : Boungué, Didiévi, N'Gangoro-Ahitou, Anongblin	4 sites : Lokakpli, Attienkro, Bepo, Ahalékpli	3 <sup>ème</sup> phase	6 sites : Nanan, Djamaalabo, Koriakro, Duibo-Kpato, Takissalekro, N'Gattadolikro	5 sites : Konamoukro, N'Drebo, Béoumi, Kaabo, Djigbê	4 <sup>ème</sup> phase	5 sites : N'vankro, Kpoussoussou, Petit Bouaké 1, Subiakro, Yaoura	7 sites : N'goran N'goranou, Nanangan, Bogli-Agbéan, Kpogbossou, Kpandônou, Djebonoua, Akabo-Loka	• Achevé
Groupe	Région du Bélier	Région du Gbêké																
1 <sup>ère</sup> phase	2 sites : Zatta, Yabra (Yamoussoukro)																	
2 <sup>ème</sup> phase	4 sites : Boungué, Didiévi, N'Gangoro-Ahitou, Anongblin	4 sites : Lokakpli, Attienkro, Bepo, Ahalékpli																
3 <sup>ème</sup> phase	6 sites : Nanan, Djamaalabo, Koriakro, Duibo-Kpato, Takissalekro, N'Gattadolikro	5 sites : Konamoukro, N'Drebo, Béoumi, Kaabo, Djigbê																
4 <sup>ème</sup> phase	5 sites : N'vankro, Kpoussoussou, Petit Bouaké 1, Subiakro, Yaoura	7 sites : N'goran N'goranou, Nanangan, Bogli-Agbéan, Kpogbossou, Kpandônou, Djebonoua, Akabo-Loka																
1-2 Identifier d'autres parties prenantes impliquées dans la promotion du riz dans la zone cible	<p>État de réalisation : 6</p> <p>1-2-1 Analyses des problèmes de la chaîne de valeur de la filière riz et définition de la stratégie du Projet</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Les plans de création de la plateforme (PF) du secteur du riz ont été discutés et préparés.</li> <li>Les plans de mise en place d'un système de crédit intrants pour les producteurs de riz ont été discutés et préparés.</li> </ul> <p>1-2-2 Identification des acteurs (parties prenantes) de la PF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Des informations sur les transformateurs de riz, YAANOVEL, les concessionnaires de machines agricoles, les prestataires de service de labour, ont été recueillies et analysées.</li> </ul>		• Achevé															
1-3 Faciliter le dialogue entre les parties prenantes	<p>État de réalisation : 3</p> <p>1-3-1 Appui à la mise en place de la PF du secteur du riz</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Région du Bélier</b> : La 1<sup>ère</sup> réunion du comité ad hoc de la PF s'est tenue en juillet 2014 et une série de réunions de sensibilisation des parties prenantes ont été organisées à partir de février 2015 sur 19 sites dans Yamoussoukro et 2 districts. Les préparatifs pour la création d'une union coopérative de producteurs ont débuté en mars 2016.</li> <li>Le 1<sup>er</sup> « Forum de rencontre » des parties prenantes du riz de la région de Bélier a été organisé en août 2016. (Le même événement dans la région de Gbêké a été reporté en raison de la situation sécuritaire à Bouaké.). Parmi les participants figuraient: groupe de producteurs de la Société Coopérative de la région de Bélier, transformateurs de riz, société privée Riz National (RINA), fournisseurs des intrants et machines agricoles, NORA (distributeur de riz à Abidjan), etc.</li> <li><b>Région du Gbêké</b> : Il avait déjà existé dans la région une plateforme dénommée "Plateforme du riz de Bouaké-Botoro (PR2B)", dont le Projet a suivi les activités. L'utilisation de fonds de contrepartie 2KR pour le système de crédit en vue de promouvoir la commercialisation du riz paddy a été étudiée et préparée.</li> <li>Des informations sur "l'Organisation interprofessionnelle Agricole de la filière riz (OIA-Riz)", une initiative du MINADER, ont été recueillies.</li> </ul> <p>1-3-2 Appui au renforcement du réseau de la plateforme du secteur du riz</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Dans le but de renforcer le réseau des parties prenantes du secteur du riz, les services suivants (systèmes de crédit) ont été introduits à titre d'essai.</li> </ul> <p>(1) Système de crédit intrants pour les producteurs de riz</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Phase</th> <th>Évolution et aperçu des activités par phase</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1<sup>ère</sup></td> <td> <p>A partir de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2014, 2 sites ciblés :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4 types de livres ont été élaborés pour la gestion du crédit par les coopératives de producteurs (groupements).</li> <li>Site de Zatta : Contrats signés avec 19 producteurs, discussion sur les impayés et les intrants non utilisés.</li> <li>Site de Yabra : Contrats signés avec 25 producteurs, certains intrants ont été fournis aux producteurs, non conformément au contrat avec le Projet. Par la suite, un contrat signé avec RINA pour la distribution des intrants, la gestion de produits et le remboursement des prêts.</li> <li>En ce qui concerne les impayés d'un montant de 1,97 millions de FCFA (distribué au cours de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2014), la coopérative de producteurs Terre Blanche a été chargée de la gestion des prêts à rembourser par les producteurs. D'autre part, RINA a été chargée de la gestion des intrants non utilisés.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2<sup>ème</sup></td> <td> <p>A partir de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2015, 8 sites ciblés (dont 4 sites où le riz est planté) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>En vue de l'élaboration d'un système de crédit intrants viable (produit) en collaboration avec le secteur privé d'ici la fin du Projet, les possibilités de confier une partie de la gestion de crédit à des institutions ou entreprises financières privées ont été examinées.</li> <li>5 institutions financières et banques de Yamoussoukro ont été contactées pour savoir si elles sont intéressées par la création d'un nouveau système de crédit en collaboration avec le Projet. Parmi elles, un organisme de microfinance dénommé COOPEC a répondu positivement et les modalités d'un système de crédit ont été discutées et convenues à titre provisoire. Cependant, le MINAGRI a exprimé de fortes réserves sur plusieurs questions, en particulier l'implication d'un organisme privé dans le système de crédit intrants et la collecte d'intérêts sur les producteurs ou les coopératives de producteurs, et n'a donc</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		Phase	Évolution et aperçu des activités par phase	1 <sup>ère</sup>	<p>A partir de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2014, 2 sites ciblés :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4 types de livres ont été élaborés pour la gestion du crédit par les coopératives de producteurs (groupements).</li> <li>Site de Zatta : Contrats signés avec 19 producteurs, discussion sur les impayés et les intrants non utilisés.</li> <li>Site de Yabra : Contrats signés avec 25 producteurs, certains intrants ont été fournis aux producteurs, non conformément au contrat avec le Projet. Par la suite, un contrat signé avec RINA pour la distribution des intrants, la gestion de produits et le remboursement des prêts.</li> <li>En ce qui concerne les impayés d'un montant de 1,97 millions de FCFA (distribué au cours de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2014), la coopérative de producteurs Terre Blanche a été chargée de la gestion des prêts à rembourser par les producteurs. D'autre part, RINA a été chargée de la gestion des intrants non utilisés.</li> </ul>	2 <sup>ème</sup>	<p>A partir de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2015, 8 sites ciblés (dont 4 sites où le riz est planté) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>En vue de l'élaboration d'un système de crédit intrants viable (produit) en collaboration avec le secteur privé d'ici la fin du Projet, les possibilités de confier une partie de la gestion de crédit à des institutions ou entreprises financières privées ont été examinées.</li> <li>5 institutions financières et banques de Yamoussoukro ont été contactées pour savoir si elles sont intéressées par la création d'un nouveau système de crédit en collaboration avec le Projet. Parmi elles, un organisme de microfinance dénommé COOPEC a répondu positivement et les modalités d'un système de crédit ont été discutées et convenues à titre provisoire. Cependant, le MINAGRI a exprimé de fortes réserves sur plusieurs questions, en particulier l'implication d'un organisme privé dans le système de crédit intrants et la collecte d'intérêts sur les producteurs ou les coopératives de producteurs, et n'a donc</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Afin de renforcer la PF, l'union des groupements de producteurs de la Région du Bélier et celle des transformateurs de la Région du Gbêké sont considérées comme les principales parties prenantes. Le Projet les aidera à se mettre au niveau des autres acteurs.</li> <li>Concernant le système de crédit, le Projet continuera à aider l'institution financière à disposer de produits de crédit afin de garantir la viabilité après l'intervention du Projet.</li> </ul>									
Phase	Évolution et aperçu des activités par phase																	
1 <sup>ère</sup>	<p>A partir de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2014, 2 sites ciblés :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4 types de livres ont été élaborés pour la gestion du crédit par les coopératives de producteurs (groupements).</li> <li>Site de Zatta : Contrats signés avec 19 producteurs, discussion sur les impayés et les intrants non utilisés.</li> <li>Site de Yabra : Contrats signés avec 25 producteurs, certains intrants ont été fournis aux producteurs, non conformément au contrat avec le Projet. Par la suite, un contrat signé avec RINA pour la distribution des intrants, la gestion de produits et le remboursement des prêts.</li> <li>En ce qui concerne les impayés d'un montant de 1,97 millions de FCFA (distribué au cours de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2014), la coopérative de producteurs Terre Blanche a été chargée de la gestion des prêts à rembourser par les producteurs. D'autre part, RINA a été chargée de la gestion des intrants non utilisés.</li> </ul>																	
2 <sup>ème</sup>	<p>A partir de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2015, 8 sites ciblés (dont 4 sites où le riz est planté) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>En vue de l'élaboration d'un système de crédit intrants viable (produit) en collaboration avec le secteur privé d'ici la fin du Projet, les possibilités de confier une partie de la gestion de crédit à des institutions ou entreprises financières privées ont été examinées.</li> <li>5 institutions financières et banques de Yamoussoukro ont été contactées pour savoir si elles sont intéressées par la création d'un nouveau système de crédit en collaboration avec le Projet. Parmi elles, un organisme de microfinance dénommé COOPEC a répondu positivement et les modalités d'un système de crédit ont été discutées et convenues à titre provisoire. Cependant, le MINAGRI a exprimé de fortes réserves sur plusieurs questions, en particulier l'implication d'un organisme privé dans le système de crédit intrants et la collecte d'intérêts sur les producteurs ou les coopératives de producteurs, et n'a donc</li> </ul>																	

*AK*

*JP*

	<p>pas adhéré au plan proposé. Par conséquent, le plan a été modifié et il a été finalement convenu que le crédit serait géré par Unité de Gestion du Projet (UGP) en utilisant les comptes de la COOPEC, qui participera au Projet en tant qu'observateur.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Après cela, la sensibilisation sur le nouveau système de crédit a été entreprise auprès de producteurs de riz et dirigeants de coopératives de producteurs sur 8 sites cibles. De même, un sujet portant sur le système de crédit a été inclus dans la formation organisée en mai 2015 à l'intention des spécialistes de l'ANADER chargés du renforcement organisationnel (TSOPA), où les rôles des coopératives dans le système de crédit, notamment la réception des intrants à titre de crédit, leur distribution et la gestion des stocks, la gestion de la récolte du riz et de sa collecte, et le remboursement des prêts, ont été expliqués.</li> <li>En plus de la discussion sur les questions du système de crédit avec le MINAGRI, les labours des champs de riz ont été retardés en raison de l'arrivée tardive des pluies dans la 2<sup>ème</sup> campagne de 2015, ce qui a affecté la mise en œuvre du système de crédit. D'autre part, la distribution des intrants aux sites cibles s'est faite dans les délais prévus à partir de la première semaine de juin.</li> <li>Afin de permettre l'achat effectif d'intrants à l'aide du système de crédit, un programme de labour a été conçu et mis à la disposition des producteurs. En outre, pour permettre aux producteurs de tenir eux-mêmes des registres de leurs pratiques agricoles et de l'état de la culture, un carnet du producteur a été conçu et mis à leur disposition.</li> <li>Après le début du système de crédit pour les producteurs de la 2<sup>ème</sup> phase, les TSOPA de l'ANADER ont procédé au suivi de l'évolution. (L'évolution au 26 mai 2016 a été résumée dans le tableau VI-1)</li> </ul>
3 <sup>ème</sup>	<p>A partir de la 2<sup>ème</sup> campagne de 2016, 11 sites ciblés :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A la lumière de l'expérience tirée de la 2<sup>ème</sup> phase du système de crédit, le mécanisme a été modifié de telle sorte que le contrat de crédit a été signé directement entre la COOPEC et les producteurs. Les contractants désignés étaient : 1) les coopératives de producteurs enregistrés telles que les SCOOP et 2) les représentants de sous-groupes de petits producteurs (équipes). Les producteurs ont été instruits sur la gestion de crédit depuis la préparation des contrats jusqu'au remboursement des prêts, de façon collaborative entre la COOPEC et l'UGP.</li> <li>Les modalités de préparation des intrants ont également été modifiées de telle sorte que la quantité d'intrants requise était déterminée en fonction de l'avancement du premier labour par les producteurs, et les commandes devaient être passées en conséquence.</li> <li>L'évolution des décaissements de crédit (utilisation) au 15 novembre 2016 a été résumée dans le tableau VI-2. Le nombre de groupements de producteurs et de producteurs ayant utilisé le système de crédit était respectivement de 7 (6 sites sur 11) et 58 (sur 787 producteurs cibles). La principale raison de cette faible utilisation du crédit était la pénurie d'eau due à des pluies irrégulières pendant la campagne agricole 2016. Même dans les zones irriguées, le niveau d'eau dans les barrages était très faible. En outre, le nombre insuffisant de motoculteurs et d'ouvriers dans les zones cibles a aggravé la situation.</li> </ul>
4 <sup>ème</sup>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sur la base des enseignements tirés des 3 campagnes précédentes, il a été convenu que le plan annuel de formation soit optimisé en tenant compte de l'évolution des pratiques agricoles réelles des producteurs et des autres activités du Projet. En particulier, il a été demandé d'organiser plus tôt la formation sur le renforcement organisationnel afin de sensibiliser sur la disponibilité du crédit intrants à l'avance (passer de mai à février). 12 sites de producteurs ciblés par la 4<sup>ème</sup> phase du système de crédit devaient être sélectionnés avant fin décembre 2016.</li> <li>Suite à cet accord, des réunions de sensibilisation des groupements de producteurs ont eu lieu dans la Région du Bélier le 29 novembre et dans la Région du Gbéké le 1<sup>er</sup> décembre 2016. Au total 10 représentants (sites) ont été invités à ces réunions et 8 y ont effectivement assisté.</li> </ul>

- Tableau VI-1 : Résultats du suivi de la 2<sup>ème</sup> phase du système de crédit (à mai 2016).

Région	Site	Superficie cultivée (ha)		Montant du prêt (FCFA)			
		Programmé	Réel	Total	Remboursé	Solde	Taux (%)
Bélier	Boungué	27	2,73	311.930	0	311.930	0
	Didiévi	48	30	3.185.400	3.239.100	-53.700	101,7
	N'Gangoro-Ahitou	32	5,33	953.475	832.500	120.975	87,3
	Anongblin	21	8,86	964.650	378.500	586.150	39,2
Gbéké	Lokakpli	90	0	0	0	0	-
	Attienkro	50	13,5	1.598.025	1.175.000	423.025	73,5
	Bepo	24	0	0	0	0	-
	Ahalékpli	27	0	0	0	0	-

- Table VI-2 : Résultats du suivi de la 3<sup>ème</sup> phase du système de crédit (à novembre 2016).

Région	Site	Superficie cultivée (ha)		Montant du prêt (FCFA)			
		Programmé	Réel	Total	Remboursé	Balance	Taux (%)
Bélier	Nnan		12,77	1.650.800			
	Djamalabo		13,62	1.696.650			
	Koriakro		0	0			
	Duibo-Kpato		5,0	486.500			
	Takissalekro		4,17	345.650			
	N'Gattadolikro		3,5	421.780			
Gbéké	Konamoukro		8	932.000			
	N'Drebo		0	0			
	Béoumi		0	0			
	Kaabo		0	0			
	Djigbe		0	0			

- (2) Appui à l'introduction de services de labour viables

- Sur la base des enseignements tirés des 1<sup>ère</sup> et 2<sup>ème</sup> phase du système de crédit intrants, des formations et des séminaires visant à appuyer les services de labour viable ont été organisés en invitant les prestataires de service de labour et les nouveaux arrivants.
- Les participants au séminaire tenu le 12 juillet 2016 étaient :

Organismes publics / semi-public	1 MINADER (Directeur de la région du Bélier), 2 ONDR (responsables en charge des machines), 4 ANADER (Directeur de la région du Centre et autres)
Secteur privé	1 distributeur de machines, 4 réparateurs, 1 représentant de l'association des transformateurs de riz, 5 transformateurs, 1 prestataire de service de labour, 5 coopératives de producteurs, 1 distributeur de riz, 2 investisseurs individuels

- Des travaux de préparation ont été effectués pour l'introduction des motoculteurs fabriqués par l'entreprise Agri-Tech, qui devaient être utilisés par les prestataires de service de labour modèles.

	<p>(3) Appui aux transformateurs par l'introduction du système de crédit afin de promouvoir l'achat du riz paddy</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>En vue de promouvoir la commercialisation du riz paddy local et le renforcement de la chaîne de valeur de riz dans les zones cibles, des activités tests d'introduction d'un système de crédit pour les distributeurs ont été préparées.</li> <li>Une institution financière privée dénommée ADVANS, qui avait expérimenté des services similaires pour les transformateurs dans le passé, a manifesté son intérêt pour l'élaboration d'un nouveau système de crédit en collaboration avec le Projet.</li> <li>En guise de fonds de lancement du système de crédit, une demande d'utilisation des fonds de contrepartie 2KR a été soumise au bureau de la JICA en Côte d'Ivoire et à l'Ambassade du Japon à Abidjan.</li> <li>Le flux de financement du système de crédit est présenté dans la Figure VI-1</li> </ul>	
--	---	--

<Activités du Résultat 2>

Résultat 2	Les techniques et connaissances acquises à travers la formation sont appliquées par les groupes ciblés.						
Indicateurs	2-1	80 % de producteurs ayant participé aux formations appliquent 75 % des techniques de base.					
	2-2	80 % des transformateurs/distributeurs ayant participé aux formations appliquent 75 % techniques de base.					
Activités dans le Cadre logique du projet	Résumé des activités à ce jour	Activités à entreprendre					
2-1 Concevoir les supports de formations	<p>État de réalisation : 4</p> <p>2-1-1 Préparation des formations</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Les supports de formation déjà disponibles ont été recueillis et leurs contenus ont été analysés.</li> <li>Les besoins en formations ont été évalués sur la base des informations collectées à travers les visites de terrain et les interviews auprès de producteurs, vulgarisateurs, transformateurs et distributeurs de riz, etc. (voir Activité 1-1-1).</li> <li>Les domaines cibles de la formation des producteurs ont été identifiés sur la base des informations collectées (voir Activité 1-1-2).</li> <li>Le Projet a prévu de dispenser les formations suivantes :               <ol style="list-style-type: none"> <li>Itinéraire technique du riz pour les vulgarisateurs et les producteurs</li> <li>Utilisation et entretien des machines agricoles</li> <li>Renforcement organisationnel</li> <li>Formation destinée aux transformateurs et des distributeurs</li> </ol> </li> </ul> <p>2-2-2 Identification des techniques de base à dispenser</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>En référence aux techniques élaborées dans le cadre du projet de formation sur les machines agricoles pour la culture du riz irrigué (Projet-CFMAG) (1992-1997), les 10 techniques culturales de bases ci-dessous ont été identifiées comme des pratiques recommandées à être dispensées dans les formations à l'intention des vulgarisateurs (ANADER) et des producteurs de riz :               <ol style="list-style-type: none"> <li>Sélection de semences de riz avec de l'eau</li> <li>Quantité d'engrais de fond à appliquer (NPK)</li> <li>Meilleur moment pour l'application de l'engrais de fond</li> <li>Pratique du repiquage</li> <li>Age des plants pour le repiquage</li> <li>Désherbage avant l'application de l'urée d'entretien</li> <li>Quantité de l'application de l'urée (100 kg/ha)</li> <li>Meilleur moment de la 1<sup>ère</sup> application à la phase de tallage</li> <li>Meilleur moment de la 2<sup>ème</sup> application à la phase de l'initiation paniculaire</li> <li>Meilleur moment de récolte (115 à 125 jours après l'ensemencement)</li> </ol> </li> <li>Les 6 techniques de base (pratiques) suivantes ont été identifiées être dispensées dans la formation des transformateurs et des distributeurs :               <ol style="list-style-type: none"> <li>Mesure du taux d'humidité des grains de riz</li> <li>Mesure de la quantité de substances étrangères (contamination) dans les grains de riz</li> <li>Stockage approprié du riz paddy et du riz blanchi et séparation</li> <li>Enregistrement du riz paddy acheté et du riz blanchi vendu</li> <li>Emballage du riz blanchi (utilisation de nouveaux papiers d'emballage)</li> <li>Séparation du riz blanchi (grains entiers et brisures)</li> </ol> </li> </ul> <p>2-2-3 Élaboration des supports de formation</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Une série de supports de formation (manuels) sur les techniques de base sélectionnées ont été élaborés en 2015 et révisés en 2016 comme suit :</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">1<sup>ère</sup> édition (2015)</td> <td>Fiche Technique Plastifié Ver. 2015               <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 Comment effectuer un test de germination</li> <li>Volume séparé_2 Labour du champ</li> <li>Volume séparé_3 Repiquage soigneusement fait!</li> <li>Volume séparé_4 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_5 Sécurité dans l'application des produits phytosanitaires</li> <li>Volume séparé_6 Poser les carrés de rendement</li> </ol> </td> </tr> <tr> <td>2<sup>ème</sup> édition (2016)</td> <td>Fiche Technique Plastifiée Ver. 2016               <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 TEST DE GERMINATION</li> <li>Volume séparé_2 PREGERMINATION</li> <li>Volume séparé_3 PEPINIERE</li> <li>Volume séparé_4 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 1er étape</li> <li>Volume séparé_5 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 2ème étape</li> <li>Volume séparé_6 REPIQUAGE</li> <li>Volume séparé_7 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_8 APPLICATION DE PRODUITS PHYTOSANITAIRES</li> <li>Volume séparé_9 Poser les carrés de rendement</li> </ol> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>En outre, une série de manuels sur la multiplication des semences ont été compilés comme suit :</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>Ligne directrice de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>Aperçu du champ de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>La multiplication de semence de riz, 26 Jan. 2016</li> <li>La morphologie du riz, 26 Jan. 2016</li> <li>Planification pour la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Les points clés de la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Quelques problèmes liés à la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> </ol> </td> </tr> </table>	1 <sup>ère</sup> édition (2015)	Fiche Technique Plastifié Ver. 2015 <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 Comment effectuer un test de germination</li> <li>Volume séparé_2 Labour du champ</li> <li>Volume séparé_3 Repiquage soigneusement fait!</li> <li>Volume séparé_4 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_5 Sécurité dans l'application des produits phytosanitaires</li> <li>Volume séparé_6 Poser les carrés de rendement</li> </ol>	2 <sup>ème</sup> édition (2016)	Fiche Technique Plastifiée Ver. 2016 <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 TEST DE GERMINATION</li> <li>Volume séparé_2 PREGERMINATION</li> <li>Volume séparé_3 PEPINIERE</li> <li>Volume séparé_4 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 1er étape</li> <li>Volume séparé_5 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 2ème étape</li> <li>Volume séparé_6 REPIQUAGE</li> <li>Volume séparé_7 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_8 APPLICATION DE PRODUITS PHYTOSANITAIRES</li> <li>Volume séparé_9 Poser les carrés de rendement</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Ligne directrice de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>Aperçu du champ de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>La multiplication de semence de riz, 26 Jan. 2016</li> <li>La morphologie du riz, 26 Jan. 2016</li> <li>Planification pour la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Les points clés de la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Quelques problèmes liés à la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A la lumière des réalisations des formations organisées en 2016, les supports de vulgarisations doivent être révisés.</li> </ul>
1 <sup>ère</sup> édition (2015)	Fiche Technique Plastifié Ver. 2015 <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 Comment effectuer un test de germination</li> <li>Volume séparé_2 Labour du champ</li> <li>Volume séparé_3 Repiquage soigneusement fait!</li> <li>Volume séparé_4 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_5 Sécurité dans l'application des produits phytosanitaires</li> <li>Volume séparé_6 Poser les carrés de rendement</li> </ol>						
2 <sup>ème</sup> édition (2016)	Fiche Technique Plastifiée Ver. 2016 <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 TEST DE GERMINATION</li> <li>Volume séparé_2 PREGERMINATION</li> <li>Volume séparé_3 PEPINIERE</li> <li>Volume séparé_4 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 1er étape</li> <li>Volume séparé_5 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 2ème étape</li> <li>Volume séparé_6 REPIQUAGE</li> <li>Volume séparé_7 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_8 APPLICATION DE PRODUITS PHYTOSANITAIRES</li> <li>Volume séparé_9 Poser les carrés de rendement</li> </ol>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>Ligne directrice de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>Aperçu du champ de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>La multiplication de semence de riz, 26 Jan. 2016</li> <li>La morphologie du riz, 26 Jan. 2016</li> <li>Planification pour la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Les points clés de la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Quelques problèmes liés à la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> </ol>							

<p>2-2 Organiser les formations techniques pour les vulgarisateurs.</p>	<p>Etat de réalisation : 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Une série de formations techniques (techniques de culture, machines agricoles, renforcement organisationnel) ont été organisées à l'intention des vulgarisateurs de l'ANADER et des dirigeants de coopératives et groupements de producteurs dans les zones cibles de la 1<sup>ère</sup> à la 3<sup>ème</sup> phases à partir de juillet 2014, comme résumé ci-dessous.</li> </ul> <p>(1) Résumé des formations organisées pour le groupe cible de la 1<sup>ère</sup> phase (2014)</p> <table border="1" data-bbox="367 280 1212 459"> <tr> <td>Zones cibles</td> <td>2 sites</td> </tr> <tr> <td>Période</td> <td>Juillet à décembre 2014</td> </tr> <tr> <td>Participants</td> <td>Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupement producteurs</td> </tr> <tr> <td>Aperçu</td> <td>1) Itinéraire technique du riz : Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués (Ndakonankro) : 13 jours, 47 participants 2) Utilisation et entretien des machines agricoles : 5 jours, 47 participants 3) Renforcement organisationnel : 3 jours, 11 participants</td> </tr> </table> <p>(2) Résumé des formations organisées pour le groupe cible de la 2<sup>ème</sup> phase (2015)</p> <table border="1" data-bbox="367 515 1212 996"> <tr> <td>Zones cibles</td> <td>8 sites</td> </tr> <tr> <td>Période</td> <td>De mai à septembre 2015</td> </tr> <tr> <td>Participants</td> <td>Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupements de producteurs</td> </tr> <tr> <td>Aperçu</td> <td> <table border="1" data-bbox="486 604 1204 985"> <thead> <tr> <th>Session</th> <th>Période</th> <th>Participants</th> <th>Contenu</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">Machines agricoles</td> <td>G-1 : 5/12~15</td> <td>17</td> <td rowspan="2">Utilisation et entretien des machines agricoles</td> </tr> <tr> <td>G-2 : 5/18~21</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>La culture du riz</td> <td>5/26~29</td> <td>11</td> <td>Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués</td> </tr> <tr> <td>Récolte et post-récolte</td> <td>9/15~18</td> <td>18</td> <td>Estimation de la récolte, exploitation et l'entretien de la batteuse (cours et pratiques), plans d'action</td> </tr> <tr> <td>Renforcement organisationnel</td> <td>5/19~21</td> <td>20</td> <td>Création de coopératives selon la nouvelle législation, gestion des organisations, explication du système de crédit intrants par le PRORIL et conditions, préparation des plans d'action, introduction du coaching comme approche de vulgarisation (pour TSOPA)</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </table> <p>(3) Résumé des formations organisées pour le groupe cible de la 3<sup>ème</sup> phase (2016)</p> <table border="1" data-bbox="367 1052 1212 1254"> <tr> <td>Zones cibles</td> <td>11 sites</td> </tr> <tr> <td>Période</td> <td>De mai à septembre 2016</td> </tr> <tr> <td>Participants</td> <td>Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupements de producteurs</td> </tr> <tr> <td>Aperçu</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués Machines agricoles (10 jours, 33 participants), Culture du riz (8 jours, 36 participants), Récolte et post-récolte (4 jours, 16 participants, Renforcement organisationnel (8 jours 33 participants)</li> <li>Élaboration de plans d'action</li> </ul> </td> </tr> </table>	Zones cibles	2 sites	Période	Juillet à décembre 2014	Participants	Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupement producteurs	Aperçu	1) Itinéraire technique du riz : Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués (Ndakonankro) : 13 jours, 47 participants 2) Utilisation et entretien des machines agricoles : 5 jours, 47 participants 3) Renforcement organisationnel : 3 jours, 11 participants	Zones cibles	8 sites	Période	De mai à septembre 2015	Participants	Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupements de producteurs	Aperçu	<table border="1" data-bbox="486 604 1204 985"> <thead> <tr> <th>Session</th> <th>Période</th> <th>Participants</th> <th>Contenu</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">Machines agricoles</td> <td>G-1 : 5/12~15</td> <td>17</td> <td rowspan="2">Utilisation et entretien des machines agricoles</td> </tr> <tr> <td>G-2 : 5/18~21</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>La culture du riz</td> <td>5/26~29</td> <td>11</td> <td>Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués</td> </tr> <tr> <td>Récolte et post-récolte</td> <td>9/15~18</td> <td>18</td> <td>Estimation de la récolte, exploitation et l'entretien de la batteuse (cours et pratiques), plans d'action</td> </tr> <tr> <td>Renforcement organisationnel</td> <td>5/19~21</td> <td>20</td> <td>Création de coopératives selon la nouvelle législation, gestion des organisations, explication du système de crédit intrants par le PRORIL et conditions, préparation des plans d'action, introduction du coaching comme approche de vulgarisation (pour TSOPA)</td> </tr> </tbody> </table>	Session	Période	Participants	Contenu	Machines agricoles	G-1 : 5/12~15	17	Utilisation et entretien des machines agricoles	G-2 : 5/18~21	16	La culture du riz	5/26~29	11	Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués	Récolte et post-récolte	9/15~18	18	Estimation de la récolte, exploitation et l'entretien de la batteuse (cours et pratiques), plans d'action	Renforcement organisationnel	5/19~21	20	Création de coopératives selon la nouvelle législation, gestion des organisations, explication du système de crédit intrants par le PRORIL et conditions, préparation des plans d'action, introduction du coaching comme approche de vulgarisation (pour TSOPA)	Zones cibles	11 sites	Période	De mai à septembre 2016	Participants	Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupements de producteurs	Aperçu	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués Machines agricoles (10 jours, 33 participants), Culture du riz (8 jours, 36 participants), Récolte et post-récolte (4 jours, 16 participants, Renforcement organisationnel (8 jours 33 participants)</li> <li>Élaboration de plans d'action</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Etant donné que tous les vulgarisateurs de l'ANADER des régions du Béliet et du Gbèkè ont été formés, la formation ciblera d'autres vulgarisateurs (paysans leaders) et les dirigeants des groupements d'agriculteurs dans la zone cible de la 4<sup>ème</sup> phase en 2017.</li> </ul>
Zones cibles	2 sites																																															
Période	Juillet à décembre 2014																																															
Participants	Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupement producteurs																																															
Aperçu	1) Itinéraire technique du riz : Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués (Ndakonankro) : 13 jours, 47 participants 2) Utilisation et entretien des machines agricoles : 5 jours, 47 participants 3) Renforcement organisationnel : 3 jours, 11 participants																																															
Zones cibles	8 sites																																															
Période	De mai à septembre 2015																																															
Participants	Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupements de producteurs																																															
Aperçu	<table border="1" data-bbox="486 604 1204 985"> <thead> <tr> <th>Session</th> <th>Période</th> <th>Participants</th> <th>Contenu</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">Machines agricoles</td> <td>G-1 : 5/12~15</td> <td>17</td> <td rowspan="2">Utilisation et entretien des machines agricoles</td> </tr> <tr> <td>G-2 : 5/18~21</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>La culture du riz</td> <td>5/26~29</td> <td>11</td> <td>Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués</td> </tr> <tr> <td>Récolte et post-récolte</td> <td>9/15~18</td> <td>18</td> <td>Estimation de la récolte, exploitation et l'entretien de la batteuse (cours et pratiques), plans d'action</td> </tr> <tr> <td>Renforcement organisationnel</td> <td>5/19~21</td> <td>20</td> <td>Création de coopératives selon la nouvelle législation, gestion des organisations, explication du système de crédit intrants par le PRORIL et conditions, préparation des plans d'action, introduction du coaching comme approche de vulgarisation (pour TSOPA)</td> </tr> </tbody> </table>	Session	Période	Participants	Contenu	Machines agricoles	G-1 : 5/12~15	17	Utilisation et entretien des machines agricoles	G-2 : 5/18~21	16	La culture du riz	5/26~29	11	Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués	Récolte et post-récolte	9/15~18	18	Estimation de la récolte, exploitation et l'entretien de la batteuse (cours et pratiques), plans d'action	Renforcement organisationnel	5/19~21	20	Création de coopératives selon la nouvelle législation, gestion des organisations, explication du système de crédit intrants par le PRORIL et conditions, préparation des plans d'action, introduction du coaching comme approche de vulgarisation (pour TSOPA)																									
Session	Période	Participants	Contenu																																													
Machines agricoles	G-1 : 5/12~15	17	Utilisation et entretien des machines agricoles																																													
	G-2 : 5/18~21	16																																														
La culture du riz	5/26~29	11	Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués																																													
Récolte et post-récolte	9/15~18	18	Estimation de la récolte, exploitation et l'entretien de la batteuse (cours et pratiques), plans d'action																																													
Renforcement organisationnel	5/19~21	20	Création de coopératives selon la nouvelle législation, gestion des organisations, explication du système de crédit intrants par le PRORIL et conditions, préparation des plans d'action, introduction du coaching comme approche de vulgarisation (pour TSOPA)																																													
Zones cibles	11 sites																																															
Période	De mai à septembre 2016																																															
Participants	Vulgarisateurs et techniciens spécialisés de l'ANADER, dirigeants de coopératives et groupements de producteurs																																															
Aperçu	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cours théoriques au Centre PRORIL et activités pratiques dans les champs de riz loués Machines agricoles (10 jours, 33 participants), Culture du riz (8 jours, 36 participants), Récolte et post-récolte (4 jours, 16 participants, Renforcement organisationnel (8 jours 33 participants)</li> <li>Élaboration de plans d'action</li> </ul>																																															
<p>2-3 Fournir les intrants aux producteurs ciblés (semences, engrais, etc.)</p>	<p>Etat de réalisation : 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Des intrants composés de semences, d'engrais et d'herbicides ont été fournis aux groupements de producteurs à travers le système de crédit intrants mis en œuvre dans les zones cibles de la 1<sup>ère</sup> à la 3<sup>ème</sup> phases. (Voir Activité 1-3 en détail.)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Dans le cadre de la 3<sup>ème</sup> phase du système de crédit, l'estimation des intrants nécessaires pour la culture du riz a été faite par les producteurs eux-mêmes et non par le Projet. Il en sera fait de même dans le 4<sup>ème</sup> phase.</li> </ul>																																														
<p>2-4 Organiser les formations techniques pour les groupes de producteurs ciblés</p>	<p>Etat de réalisation : 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Sur la base des formations réalisées dans l'activité 2-1, il était prévu que les agents d'encadrement de l'ANADER allaient organiser des formations pour les producteurs et les groupements de producteurs des zones cibles respectives. Voici les progrès rapportés :</li> </ul> <p>(1) Zone cible de la 1<sup>ère</sup> phase</p> <table border="1" data-bbox="367 1601 1212 1780"> <tr> <td>Zones cibles</td> <td>2 sites</td> </tr> <tr> <td>Période</td> <td>Août à décembre 2014</td> </tr> <tr> <td>Aperçu</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>L'ANADER avait été chargée d'organiser des formations sur la culture à l'intention des producteurs, mais seules des réunions d'explication ont eu lieu et aucune formation n'a été effectuée.</li> <li>Le CFMAG avait été chargé d'organiser des formations sur les machines agricoles et une formation a été organisée pour 2 opérateurs de motoculteurs sur 4 jours en septembre.</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>(2) Zone cible de la 2<sup>ème</sup> phase</p> <table border="1" data-bbox="367 1814 1212 1971"> <tr> <td>Zones cibles</td> <td>8 sites</td> </tr> <tr> <td>Période</td> <td>Juin 2015 à janvier 2016</td> </tr> <tr> <td>Aperçu</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>Les vulgarisateurs de l'ANADER ont été engagés dans l'organisation de formations sur la culture du riz à l'intention des producteurs, par l'utilisation partielle du budget du Gouvernement de la Côte d'Ivoire pour la formation de la 3<sup>ème</sup> phase.</li> <li>Les producteurs ont été répartis en 2 groupes (participants et non-participants) pour voir l'impact des formations dans l'étude d'évaluation d'impact.</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>(3) Zone cible de la 3<sup>ème</sup> phase</p> <table border="1" data-bbox="367 2004 1212 2027"> <tr> <td>Zones cibles</td> <td>11 sites</td> </tr> </table>	Zones cibles	2 sites	Période	Août à décembre 2014	Aperçu	<ul style="list-style-type: none"> <li>L'ANADER avait été chargée d'organiser des formations sur la culture à l'intention des producteurs, mais seules des réunions d'explication ont eu lieu et aucune formation n'a été effectuée.</li> <li>Le CFMAG avait été chargé d'organiser des formations sur les machines agricoles et une formation a été organisée pour 2 opérateurs de motoculteurs sur 4 jours en septembre.</li> </ul>	Zones cibles	8 sites	Période	Juin 2015 à janvier 2016	Aperçu	<ul style="list-style-type: none"> <li>Les vulgarisateurs de l'ANADER ont été engagés dans l'organisation de formations sur la culture du riz à l'intention des producteurs, par l'utilisation partielle du budget du Gouvernement de la Côte d'Ivoire pour la formation de la 3<sup>ème</sup> phase.</li> <li>Les producteurs ont été répartis en 2 groupes (participants et non-participants) pour voir l'impact des formations dans l'étude d'évaluation d'impact.</li> </ul>	Zones cibles	11 sites	<ul style="list-style-type: none"> <li>Le même contenu de formation sera dispensé au groupe cible de la 4<sup>ème</sup> phase.</li> </ul>																																
Zones cibles	2 sites																																															
Période	Août à décembre 2014																																															
Aperçu	<ul style="list-style-type: none"> <li>L'ANADER avait été chargée d'organiser des formations sur la culture à l'intention des producteurs, mais seules des réunions d'explication ont eu lieu et aucune formation n'a été effectuée.</li> <li>Le CFMAG avait été chargé d'organiser des formations sur les machines agricoles et une formation a été organisée pour 2 opérateurs de motoculteurs sur 4 jours en septembre.</li> </ul>																																															
Zones cibles	8 sites																																															
Période	Juin 2015 à janvier 2016																																															
Aperçu	<ul style="list-style-type: none"> <li>Les vulgarisateurs de l'ANADER ont été engagés dans l'organisation de formations sur la culture du riz à l'intention des producteurs, par l'utilisation partielle du budget du Gouvernement de la Côte d'Ivoire pour la formation de la 3<sup>ème</sup> phase.</li> <li>Les producteurs ont été répartis en 2 groupes (participants et non-participants) pour voir l'impact des formations dans l'étude d'évaluation d'impact.</li> </ul>																																															
Zones cibles	11 sites																																															

	<table border="1"> <tr> <td>Période</td> <td>Juin 2016 à ce jour</td> </tr> <tr> <td>Aperçu</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>Tout comme dans les 2 années précédentes, des vulgarisateurs de l'ANADER effectuent des formations de producteurs, par l'utilisation complète du budget du Gouvernement de la Côte d'Ivoire pour la formation de la 3<sup>ème</sup> phase.</li> </ul> </td> </tr> </table>	Période	Juin 2016 à ce jour	Aperçu	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tout comme dans les 2 années précédentes, des vulgarisateurs de l'ANADER effectuent des formations de producteurs, par l'utilisation complète du budget du Gouvernement de la Côte d'Ivoire pour la formation de la 3<sup>ème</sup> phase.</li> </ul>									
Période	Juin 2016 à ce jour													
Aperçu	<ul style="list-style-type: none"> <li>Tout comme dans les 2 années précédentes, des vulgarisateurs de l'ANADER effectuent des formations de producteurs, par l'utilisation complète du budget du Gouvernement de la Côte d'Ivoire pour la formation de la 3<sup>ème</sup> phase.</li> </ul>													
2-5 Organiser des formations techniques pour les usiniers et les distributeurs	<p>Etat de réalisation : 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Une formation des transformateurs a été organisée du 13 au 16 octobre 2015, à laquelle au total 18 transformateurs du Bélier et du Gbêkê, de Yamoussoukro et de Daloa ont participé.</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>Jour 1</td> <td>Ouverture, séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (théorie)</td> </tr> <tr> <td>Jour 2</td> <td>Gestion de la rizerie (théorie), séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (pratique)</td> </tr> <tr> <td>Jour 3</td> <td>Gestion de la rizerie, séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (pratique)</td> </tr> <tr> <td>Jour 4</td> <td>Amélioration de la qualité du riz (théorie), analyse de problèmes et objectifs (pratique)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>Une formation de commerçants de riz a été organisée du 25 au 28 octobre 2015, à laquelle au total 15 représentants de transformateurs, de distributeurs, de détaillants et de dirigeants de la coopérative de distributeurs ont participé.</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>Module 1</td> <td>Méthode d'évaluation du riz paddy et du riz blanchi, identification du riz paddy de haute qualité, stockage du riz paddy et du riz blanchi</td> </tr> <tr> <td>Module 2</td> <td>Commercialisation du riz local, gestion de petites et moyennes entreprises (PME), théorie de la gestion, fonctions des PME, avantages de la gestion comptable, pratique de la comptabilité, amélioration de la rentabilité des PME, commercialisation du riz</td> </tr> </table>	Jour 1	Ouverture, séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (théorie)	Jour 2	Gestion de la rizerie (théorie), séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (pratique)	Jour 3	Gestion de la rizerie, séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (pratique)	Jour 4	Amélioration de la qualité du riz (théorie), analyse de problèmes et objectifs (pratique)	Module 1	Méthode d'évaluation du riz paddy et du riz blanchi, identification du riz paddy de haute qualité, stockage du riz paddy et du riz blanchi	Module 2	Commercialisation du riz local, gestion de petites et moyennes entreprises (PME), théorie de la gestion, fonctions des PME, avantages de la gestion comptable, pratique de la comptabilité, amélioration de la rentabilité des PME, commercialisation du riz	<ul style="list-style-type: none"> <li>Le suivi des participants à la formation doit être effectué.</li> </ul>
Jour 1	Ouverture, séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (théorie)													
Jour 2	Gestion de la rizerie (théorie), séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (pratique)													
Jour 3	Gestion de la rizerie, séchage et stockage du riz paddy, exploitation et entretien des machines (pratique)													
Jour 4	Amélioration de la qualité du riz (théorie), analyse de problèmes et objectifs (pratique)													
Module 1	Méthode d'évaluation du riz paddy et du riz blanchi, identification du riz paddy de haute qualité, stockage du riz paddy et du riz blanchi													
Module 2	Commercialisation du riz local, gestion de petites et moyennes entreprises (PME), théorie de la gestion, fonctions des PME, avantages de la gestion comptable, pratique de la comptabilité, amélioration de la rentabilité des PME, commercialisation du riz													
2-6 Suivre et évaluer les réalisations des groupes ciblés	<p>Etat de réalisation : 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Suite aux discussions entre l'UGP et les différents responsables, il a été convenu que le suivi et l'évaluation (S&amp;E) des résultats des formations seraient effectués selon les considérations suivantes : <ol style="list-style-type: none"> <li>Inclure les points de vue du gestionnaire du Projet et des participants aux formations ;</li> <li>A travers la collaboration entre l'ANADER et l'UGP ; et</li> <li>En plus de l'évaluation en fin de formation, les changements après la formation doivent être suivis.</li> </ol> </li> <li>Les résultats du suivi sont résumés comme suit : <table border="1"> <tr> <td>1<sup>ère</sup></td> <td>           Ciblage de 2 sites d'août à décembre 2014           <ul style="list-style-type: none"> <li>Les vulgarisateurs de l'ANADER ont été chargés de conduire les formations des producteurs, mais peu d'agriculteurs y ont participé. En outre, les agriculteurs ciblés n'étaient pas constitués en coopérative et n'avaient pas encore d'activités de groupe.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2<sup>ème</sup></td> <td>           Ciblage de 8 sites de juin 2015 à janvier 2016           <ul style="list-style-type: none"> <li>Le suivi a été effectué dans le cadre de l'étude d'impact menée par la JICA.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3<sup>ème</sup></td> <td>           Ciblage de 11 sites de juin 2016 à ce jour           <ul style="list-style-type: none"> <li>Le suivi a été effectué par une équipe conjointe de personnel recruté localement et d'experts japonais.</li> </ul> </td> </tr> </table> </li> <li>Une étude d'impact est effectuée en collaboration avec l'équipe d'étude de la JICA.</li> </ul>	1 <sup>ère</sup>	Ciblage de 2 sites d'août à décembre 2014 <ul style="list-style-type: none"> <li>Les vulgarisateurs de l'ANADER ont été chargés de conduire les formations des producteurs, mais peu d'agriculteurs y ont participé. En outre, les agriculteurs ciblés n'étaient pas constitués en coopérative et n'avaient pas encore d'activités de groupe.</li> </ul>	2 <sup>ème</sup>	Ciblage de 8 sites de juin 2015 à janvier 2016 <ul style="list-style-type: none"> <li>Le suivi a été effectué dans le cadre de l'étude d'impact menée par la JICA.</li> </ul>	3 <sup>ème</sup>	Ciblage de 11 sites de juin 2016 à ce jour <ul style="list-style-type: none"> <li>Le suivi a été effectué par une équipe conjointe de personnel recruté localement et d'experts japonais.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Le suivi des groupes ciblés de la 3<sup>ème</sup> phase est en cours, et celui de la 4<sup>ème</sup> phase est en cours de préparation.</li> </ul>						
1 <sup>ère</sup>	Ciblage de 2 sites d'août à décembre 2014 <ul style="list-style-type: none"> <li>Les vulgarisateurs de l'ANADER ont été chargés de conduire les formations des producteurs, mais peu d'agriculteurs y ont participé. En outre, les agriculteurs ciblés n'étaient pas constitués en coopérative et n'avaient pas encore d'activités de groupe.</li> </ul>													
2 <sup>ème</sup>	Ciblage de 8 sites de juin 2015 à janvier 2016 <ul style="list-style-type: none"> <li>Le suivi a été effectué dans le cadre de l'étude d'impact menée par la JICA.</li> </ul>													
3 <sup>ème</sup>	Ciblage de 11 sites de juin 2016 à ce jour <ul style="list-style-type: none"> <li>Le suivi a été effectué par une équipe conjointe de personnel recruté localement et d'experts japonais.</li> </ul>													

<Activités du Résultat 3>

<b>Résultat 3</b>	La capacité de production, transformation et de vente de riz de groupes sélectionnés est renforcée d'un appui supplémentaire.	
<b>Indicateur</b>	3-1 50% des bénéficiaires des appuis supplémentaire atteignent le niveau de performance requis.	
<b>Activités dans le Cadre logique du projet</b>	<b>Résumé des activités à ce jour</b>	<b>Activités à entreprendre</b>
3-1 Elaborer le menu «d'appui supplémentaire»	<p>Etat de réalisation : 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Sur la base des discussions sur les mesures d'appui supplémentaires, 2 activités d'appui à la production de semences et au fonds renouvelable (Revolving) ont été sélectionnées et planifiées, comme résumé ci-dessous.</li> </ul> <p>(1) Production de semences de riz de haute qualité L'approvisionnement et l'utilisation de semences de haute qualité est une condition préalable à la promotion du riz local ; toutefois, la qualité des semences disponibles localement auprès de YAANOVEL, et de l'ONDR était généralement faible, ce qui a affecté négativement les activités du Projet. Afin d'améliorer la situation, l'UGP a décidé d'entreprendre les activités suivantes :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>Formation technique sur la production de semences :</b> Cibler des agriculteurs de niveau avancé, assurer une formation intensive sur la technique de production de semences au Centre PRORIL, et effectuer des visites de suivi dans leurs champs.</li> <li><b>Production de semences :</b> Entreprendre la production de semences dans les champs de riz paddy du Centre PROFIL, qui pourraient être utilisées dans les formations techniques expliquées ci-dessus. Les semences de haute qualité produites au Centre seraient mises à la disposition des agriculteurs producteurs potentiels de semences qui seraient choisis parmi les participants à la formation.</li> </ol> <p>(2) Fonds renouvelable pour les crédits intrants Il a été prévu de fournir aux producteurs de la 2<sup>ème</sup> phase ayant remboursé l'intégralité des prêts d'intrants, des fonds renouvelables pour des crédits intrants, en guise d'appui supplémentaire. Pour permettre la mise en place d'un crédit sans une importante intervention du Projet, les fonds seraient fournis aux producteurs à travers une organisation financière, comme un service de crédit ordinaire.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Des mesures d'appui supplémentaires doivent être apportées aux transformateurs et aux distributeurs.</li> </ul>
3-2 Sélectionner les bénéficiaires pour «d'appui supplémentaire»	<p>Etat de réalisation : 4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Des agriculteurs de niveau avancé ont été sélectionnés comme producteurs potentiels de semences parmi les groupes ciblés des 2<sup>ème</sup> et 3<sup>ème</sup> phases.</li> <li>Les agriculteurs qui avaient remboursé l'intégralité de leurs prêts d'intrants ont été répertoriés comme candidats pour l'utilisation des fonds renouvelables à travers les coopératives de producteurs de la zone cible de la 2<sup>ème</sup> phase.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Idem</li> </ul>
3-3 Elaborer un plan détaillé «d'appui supplémentaire» avec le gouvernement, les institutions privées et les PTF	<p>Etat de réalisation : 4</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Plans de production de semences de riz de haute qualité <ul style="list-style-type: none"> <li>Sur la base des discussions avec les homologues et les inspecteurs de semences de la Direction de l'Agriculture de la Région du Bélier, la formation sur la production de semences a été planifiée comme suit : <ol style="list-style-type: none"> <li>Assurer la formation des agriculteurs de niveau avancé sélectionnés sur les sites ciblés.</li> </ol> </li> </ul> </li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Idem</li> </ul>

	<p>2) Fournir des semences de haute qualité fiable qui seraient multipliées par l'UGP dans les champs de formation.)</p> <p>3) A l'issue de la formation, des semences de haute qualité seraient remises aux agriculteurs ayant un potentiel en tant que producteurs de semences.</p> <p>4) Produire des semences de qualité avec une gestion appropriée (faire une démonstration des technologies de production de semences)</p> <p>5) Garantir les pratiques de production de semences de qualité (effectuer des visites de suivi dans les champs après la formation)</p> <p>6) Instruire les agriculteurs de sorte à vendre le riz sous forme de semences et non comme riz paddy destiné à la consommation.</p> <p>(2) Plans de mise en place de fonds renouvelables pour crédit intrants</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Suite aux discussions avec les homologues, l'organisation financière et la JICA, la mise en place de fonds renouvelables a été planifiée comme suit :</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>Résumé</td> <td>L'institution financière, la COOPEC, signerait des contrats de crédit d'intrants (semences certifiées, engrais, herbicides) avec les producteurs cibles à l'aide du prêt remboursé de la 2<sup>ème</sup> phase de crédit. Le taux d'intérêt est fixé à 10,8 %. Si le prêt n'est pas remboursé, le fonds de garantie serait utilisé comme compensation.</td> </tr> <tr> <td>Bénéficiaires</td> <td>Les producteurs de la 2<sup>ème</sup> phase ayant remboursé l'intégralité de leurs prêts d'intrants avant novembre 2016 et qui ont l'intention de réutiliser le prêt dans la 1<sup>ère</sup> campagne de 2017 (de janvier à août) ou la 2<sup>ème</sup> campagne (de juin à décembre) (particuliers).</td> </tr> </table>	Résumé	L'institution financière, la COOPEC, signerait des contrats de crédit d'intrants (semences certifiées, engrais, herbicides) avec les producteurs cibles à l'aide du prêt remboursé de la 2 <sup>ème</sup> phase de crédit. Le taux d'intérêt est fixé à 10,8 %. Si le prêt n'est pas remboursé, le fonds de garantie serait utilisé comme compensation.	Bénéficiaires	Les producteurs de la 2 <sup>ème</sup> phase ayant remboursé l'intégralité de leurs prêts d'intrants avant novembre 2016 et qui ont l'intention de réutiliser le prêt dans la 1 <sup>ère</sup> campagne de 2017 (de janvier à août) ou la 2 <sup>ème</sup> campagne (de juin à décembre) (particuliers).															
Résumé	L'institution financière, la COOPEC, signerait des contrats de crédit d'intrants (semences certifiées, engrais, herbicides) avec les producteurs cibles à l'aide du prêt remboursé de la 2 <sup>ème</sup> phase de crédit. Le taux d'intérêt est fixé à 10,8 %. Si le prêt n'est pas remboursé, le fonds de garantie serait utilisé comme compensation.																			
Bénéficiaires	Les producteurs de la 2 <sup>ème</sup> phase ayant remboursé l'intégralité de leurs prêts d'intrants avant novembre 2016 et qui ont l'intention de réutiliser le prêt dans la 1 <sup>ère</sup> campagne de 2017 (de janvier à août) ou la 2 <sup>ème</sup> campagne (de juin à décembre) (particuliers).																			
3-4 Mettre «l'appui supplémentaire» en œuvre	<p>Etat de réalisation : 3</p> <p>(1) Mise en œuvre de la production de semences de riz de haute qualité</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Atelier sur la production de semences</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>Participants</td> <td>18 participants composés de représentants de la Direction de l'Agriculture de la Région du Bélié, de l'ONDR, de l'ANADER, de producteurs de semences (2 agriculteurs x 7 groupes)</td> </tr> <tr> <td>Période</td> <td>5 février 2015</td> </tr> <tr> <td>Contenu</td> <td>Production de riz en Afrique, biologie du riz, production de semences, panachure jaune, Striga, etc.</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>Formation sur la production de semences</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>Participants</td> <td>13 participants dont 8 agriculteurs de niveau avancé sélectionnés sur 8 sites des zones cibles de la 2<sup>ème</sup> phase, 1 contrôleur de semences, 1 inspecteur de semences (direction de l'Agriculture).</td> </tr> <tr> <td>Période</td> <td>Du 26 au 28 janvier 2016</td> </tr> <tr> <td>Contenu</td> <td>Cours théoriques et activités pratiques dans les champs de riz et planification de la production de semences, discussions générales</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>Production de semences</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>Lieu</td> <td>Champ de formation du Centre PRORIL</td> </tr> <tr> <td>Période</td> <td>Octobre 2016 - Mai 2017</td> </tr> <tr> <td>Contenu</td> <td>Les activités pratiques de production de semences ont été divisées en 3 étapes dans le champ de formation du centre, qui sont utilisées également pour les besoins de la formation. Les participants peuvent observer 3 différentes étapes de la croissance du riz en assistant à un cours de formation.</td> </tr> </table> <p>(2) Mise en œuvre de fonds renouvelables pour crédit intrants</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Étape de préparation de la prochaine campagne en 2017.</li> <li>Des fonds renouvelables seront fournis aux producteurs des 2<sup>ème</sup> et 3<sup>ème</sup> phases (les producteurs de la 4<sup>ème</sup> phase ne sont pas inclus en raison du fait que la fin du Projet est prévue pour janvier 2019).</li> </ul>	Participants	18 participants composés de représentants de la Direction de l'Agriculture de la Région du Bélié, de l'ONDR, de l'ANADER, de producteurs de semences (2 agriculteurs x 7 groupes)	Période	5 février 2015	Contenu	Production de riz en Afrique, biologie du riz, production de semences, panachure jaune, Striga, etc.	Participants	13 participants dont 8 agriculteurs de niveau avancé sélectionnés sur 8 sites des zones cibles de la 2 <sup>ème</sup> phase, 1 contrôleur de semences, 1 inspecteur de semences (direction de l'Agriculture).	Période	Du 26 au 28 janvier 2016	Contenu	Cours théoriques et activités pratiques dans les champs de riz et planification de la production de semences, discussions générales	Lieu	Champ de formation du Centre PRORIL	Période	Octobre 2016 - Mai 2017	Contenu	Les activités pratiques de production de semences ont été divisées en 3 étapes dans le champ de formation du centre, qui sont utilisées également pour les besoins de la formation. Les participants peuvent observer 3 différentes étapes de la croissance du riz en assistant à un cours de formation.	<p>(1) Production de semences</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>La 2<sup>ème</sup> formation sur la production de semences sera organisée en janvier 2017. Elle ciblera 9 agriculteurs de niveau avancé sélectionnés sur 11 sites de la zone cible de la 4<sup>ème</sup> phase, ainsi qu'un contrôleur de semences.</li> </ul> <p>(2) Fonds renouvelables pour les crédits intrants</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>L'appui du fonds renouvelable sera fourni au groupe cible de la 2<sup>ème</sup> phase durant la 1<sup>ère</sup> campagne (de janvier à août 2017) ou la 2<sup>ème</sup> campagne (de juin à décembre 2017).</li> </ul>
Participants	18 participants composés de représentants de la Direction de l'Agriculture de la Région du Bélié, de l'ONDR, de l'ANADER, de producteurs de semences (2 agriculteurs x 7 groupes)																			
Période	5 février 2015																			
Contenu	Production de riz en Afrique, biologie du riz, production de semences, panachure jaune, Striga, etc.																			
Participants	13 participants dont 8 agriculteurs de niveau avancé sélectionnés sur 8 sites des zones cibles de la 2 <sup>ème</sup> phase, 1 contrôleur de semences, 1 inspecteur de semences (direction de l'Agriculture).																			
Période	Du 26 au 28 janvier 2016																			
Contenu	Cours théoriques et activités pratiques dans les champs de riz et planification de la production de semences, discussions générales																			
Lieu	Champ de formation du Centre PRORIL																			
Période	Octobre 2016 - Mai 2017																			
Contenu	Les activités pratiques de production de semences ont été divisées en 3 étapes dans le champ de formation du centre, qui sont utilisées également pour les besoins de la formation. Les participants peuvent observer 3 différentes étapes de la croissance du riz en assistant à un cours de formation.																			
3-5 Suivre et évaluer les résultats de «l'appui supplémentaire»	<p>Etat de réalisation : 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Étape de préparation.</li> </ul>																			

<Activités du Résultat 4>

<b>Résultat 4</b>	Les efforts des parties prenantes pour la promotion du riz local sont accélérés.																									
<b>Indicateurs</b>	4-1 Une ligne directrice (Document) d'approche du projet est conçue.																									
	4-2 La préférence pour l'achat du riz local par les consommateurs s'améliore de 30 %.																									
<b>Activités dans le Cadre logique du Projet</b>	<b>Résumé des activités à ce jour</b>	<b>Activités à entreprendre</b>																								
4-1 Collecter les données sur le volume de distribution du riz local.	<p>Etat de réalisation : 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Depuis août 2014, les 2 types de prospection ci-dessous ont été réalisés à Yamoussoukro et à Bouaké.</li> </ul> <p>(1) Prospection 1 : Quantités de riz vendues par l'ensemble des distributeurs (enquête exhaustive)</p> <table border="1"> <tr> <td>Objectif</td> <td>Collecter des données sur le riz local vendu par l'ensemble des distributeurs dans la zone cible et sur la provenance du riz</td> </tr> <tr> <td>Méthode</td> <td>Entretiens téléphoniques avec tous les distributeurs de riz (grossistes, détaillants, épiciers) à Yamoussoukro et à Bouaké répertoriés par l'OCPV</td> </tr> <tr> <td>Cibles</td> <td>Les distributeurs de riz, dont 101 boutiques à Yamoussoukro et 294 boutiques à Bouaké</td> </tr> </table> <p>(2) Prospection 2 : Quantités de riz vendues par les distributeurs typiques (enquête par échantillonnage)</p> <table border="1"> <tr> <td>Objectif</td> <td>Collecter des données mensuelles sur les quantités et les prix d'achat du riz local (par variétés) et le riz importé (par marques) commercialisés par les commerçants typiques dans les zones cibles.</td> </tr> <tr> <td>Méthode</td> <td>Enregistrement des quantités et des prix d'achat mensuels du riz local et du riz importé vendus par les différents types de distributeurs sélectionnés sur la liste de l'OCPV.</td> </tr> <tr> <td>Cibles</td> <td>28 boutiques à Yamoussoukro et 23 boutiques à Bouaké</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>Grâce à ces enquêtes, des informations ont été collectées sur le riz local et le riz importé vendus dans les deux villes. Les principales conclusions sont résumées ci-dessous :</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Lieu</th> <th>Yamoussoukro</th> <th>Bouaké</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Distributeurs de riz local</td> <td>57,4 % (58/101 boutiques)</td> <td>70,7 % (208/294) des magasins</td> </tr> <tr> <td>Distributeurs de riz importé</td> <td>89,1 % (90/101 boutiques)</td> <td>97,6 % (287/294 boutiques)</td> </tr> <tr> <td>Principales conclusions sur les canaux de distribution</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>Pas de gros commerçant vendant uniquement du riz</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>Un certain nombre de grands commerçants vendent</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	Objectif	Collecter des données sur le riz local vendu par l'ensemble des distributeurs dans la zone cible et sur la provenance du riz	Méthode	Entretiens téléphoniques avec tous les distributeurs de riz (grossistes, détaillants, épiciers) à Yamoussoukro et à Bouaké répertoriés par l'OCPV	Cibles	Les distributeurs de riz, dont 101 boutiques à Yamoussoukro et 294 boutiques à Bouaké	Objectif	Collecter des données mensuelles sur les quantités et les prix d'achat du riz local (par variétés) et le riz importé (par marques) commercialisés par les commerçants typiques dans les zones cibles.	Méthode	Enregistrement des quantités et des prix d'achat mensuels du riz local et du riz importé vendus par les différents types de distributeurs sélectionnés sur la liste de l'OCPV.	Cibles	28 boutiques à Yamoussoukro et 23 boutiques à Bouaké	Lieu	Yamoussoukro	Bouaké	Distributeurs de riz local	57,4 % (58/101 boutiques)	70,7 % (208/294) des magasins	Distributeurs de riz importé	89,1 % (90/101 boutiques)	97,6 % (287/294 boutiques)	Principales conclusions sur les canaux de distribution	<ul style="list-style-type: none"> <li>Pas de gros commerçant vendant uniquement du riz</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Un certain nombre de grands commerçants vendent</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>L'enquête sur la quantité de riz envoyée dans les zones urbaines sera poursuivie, et une enquête sur le riz vendu en provenance des zones cibles vers les zones urbaines sera réalisée.</li> </ul>
Objectif	Collecter des données sur le riz local vendu par l'ensemble des distributeurs dans la zone cible et sur la provenance du riz																									
Méthode	Entretiens téléphoniques avec tous les distributeurs de riz (grossistes, détaillants, épiciers) à Yamoussoukro et à Bouaké répertoriés par l'OCPV																									
Cibles	Les distributeurs de riz, dont 101 boutiques à Yamoussoukro et 294 boutiques à Bouaké																									
Objectif	Collecter des données mensuelles sur les quantités et les prix d'achat du riz local (par variétés) et le riz importé (par marques) commercialisés par les commerçants typiques dans les zones cibles.																									
Méthode	Enregistrement des quantités et des prix d'achat mensuels du riz local et du riz importé vendus par les différents types de distributeurs sélectionnés sur la liste de l'OCPV.																									
Cibles	28 boutiques à Yamoussoukro et 23 boutiques à Bouaké																									
Lieu	Yamoussoukro	Bouaké																								
Distributeurs de riz local	57,4 % (58/101 boutiques)	70,7 % (208/294) des magasins																								
Distributeurs de riz importé	89,1 % (90/101 boutiques)	97,6 % (287/294 boutiques)																								
Principales conclusions sur les canaux de distribution	<ul style="list-style-type: none"> <li>Pas de gros commerçant vendant uniquement du riz</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Un certain nombre de grands commerçants vendent</li> </ul>																								

	du riz local	<p>local, mais plusieurs boutiques vendant de petites quantités de riz local.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Les détaillants de riz et les épiceries vendant du riz local provenant de producteurs (36) et de grossistes (19) à Yamoussoukro et dans ses environs.</li> <li>La zone de Konéfla est un important fournisseur de riz local.</li> <li>Danané et Wita 9 sont les variétés les plus répandues sur le marché.</li> </ul>	<p>d'énormes quantités de riz local uniquement.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Le riz local provient des producteurs et des coopératives de producteurs d'Oumé (loin de Bouaké).</li> <li>4 variétés dont Danané, Wita 9, Riz violet et Akadi sont couramment commercialisées.</li> </ul>																																																																
	(à novembre 2015)																																																																		
4-2	Faire une étude sur la préférence du riz local par les consommateurs	<p>État de réalisation : 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Des enquêtes sur la préférence pour le riz local et le riz importé chez les consommateurs urbains menées à Yamoussoukro (juillet 2014), à Bouaké (octobre 2014) et à Abidjan (décembre 2015). Les résultats sont résumés ci-dessous.</li> </ul> <p>Résultats des enquêtes sur la préférence des consommateurs en matière de riz à Yamoussoukro</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">Nombre de répondants par Préférence</th> <th colspan="4">Nombre de répondants par Intention d'achat.</th> </tr> <tr> <th>Riz importé</th> <th>Riz local</th> <th>Les deux</th> <th>Total</th> <th>Riz importé</th> <th>Riz local</th> <th></th> <th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>729</td> <td>253</td> <td>294</td> <td>1 276</td> <td>482</td> <td>763</td> <td>-</td> <td>1 246</td> </tr> <tr> <td>(57 %)</td> <td>(20%)</td> <td>(23%)</td> <td>(100%)</td> <td>(39%)</td> <td>(61%)</td> <td>-</td> <td>(100%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>Résultats des enquêtes sur la préférence des consommateurs en matière de riz à Bouaké</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">Nombre de répondants par Préférence</th> <th colspan="4">Nombre de répondants par Intention d'achat.</th> </tr> <tr> <th>Riz importé</th> <th>Riz local</th> <th>Les deux</th> <th>Total</th> <th>Riz importé</th> <th>Riz local</th> <th></th> <th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>351</td> <td>431</td> <td>768</td> <td>1 550</td> <td>437</td> <td>1 103</td> <td>10</td> <td>1 550</td> </tr> <tr> <td>(23%)</td> <td>(28%)</td> <td>(50%)</td> <td>(100%)</td> <td>(28%)</td> <td>(71%)</td> <td>(1%)</td> <td>(100%)</td> </tr> </tbody> </table>	Nombre de répondants par Préférence				Nombre de répondants par Intention d'achat.				Riz importé	Riz local	Les deux	Total	Riz importé	Riz local		Total	729	253	294	1 276	482	763	-	1 246	(57 %)	(20%)	(23%)	(100%)	(39%)	(61%)	-	(100%)	Nombre de répondants par Préférence				Nombre de répondants par Intention d'achat.				Riz importé	Riz local	Les deux	Total	Riz importé	Riz local		Total	351	431	768	1 550	437	1 103	10	1 550	(23%)	(28%)	(50%)	(100%)	(28%)	(71%)	(1%)	(100%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>D'autres enquêtes supplémentaires sont à l'étude.</li> </ul>
Nombre de répondants par Préférence				Nombre de répondants par Intention d'achat.																																																															
Riz importé	Riz local	Les deux	Total	Riz importé	Riz local		Total																																																												
729	253	294	1 276	482	763	-	1 246																																																												
(57 %)	(20%)	(23%)	(100%)	(39%)	(61%)	-	(100%)																																																												
Nombre de répondants par Préférence				Nombre de répondants par Intention d'achat.																																																															
Riz importé	Riz local	Les deux	Total	Riz importé	Riz local		Total																																																												
351	431	768	1 550	437	1 103	10	1 550																																																												
(23%)	(28%)	(50%)	(100%)	(28%)	(71%)	(1%)	(100%)																																																												
4-3	Promouvoir le riz local auprès de consommateurs urbains	<p>État de réalisation : 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>En phase de préparation.</li> <li>Afin de promouvoir la commercialisation efficace du riz local, les procédures suivantes doivent être menées. <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Identification des principaux acteurs de la chaîne de valeur du riz ;</li> <li>2) Compréhension de la situation actuelle de chaque acteur (préférence, quantités de riz commercialisées, traitement du riz paddy, etc.) ;</li> <li>3) Renforcement des capacités des différents acteurs à travers des formations ;</li> <li>4) Renforcement des liens entre les acteurs en amont de la chaîne de valeur à travers des réunions de la plateforme du riz et des ateliers ; et</li> <li>5) Appui aux acteurs en aval de la chaîne de valeur dans l'élaboration des plans de promotion de la commercialisation du riz local.</li> </ol> </li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Bien que les activités de l'amont de la chaîne de valeur du riz seront poursuivies, plusieurs activités dont des séances de dégustation, la cantine scolaire, la sensibilisation par médias, etc. seront menées afin de promouvoir la consommation du riz local.</li> </ul>																																																															
4-4	Développer l'approche du projet	<p>État de réalisation : 1</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Des lignes directrices seront élaborées sur la base des activités actuelles comprenant des systèmes de crédit et la production de semences, etc.</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Les lignes directrices seront élaborées après l'achèvement de l'appui de la 4<sup>ème</sup> phase en 2017.</li> </ul>																																																															

AS

sp  
F



## ANNEXE VII

### Proposition de modification du Cadre logique du projet

#### (1) Indicateurs de l'objectifs du projet

Actuel Cadre logique (Ver. 3)	Proposition de modification	Raison
3. Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes ciblés (Usiniers) augmente de 50 %	➤ Fusionner l'IOM 4 et l'IOM 3.	➤ Difficulté à faire la différence entre la plupart des commerçants et des usiniers.
4. Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes ciblés (les commerçants) augmente de 50 %.	(Nouvel indicateur) 3. Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes cibles (transformateurs /distributeurs) augmente de 50%.	➤ Difficulté à identifier les petits commerçants en tant que groupe cible distinct. (Se référer à la section 3.5)

#### (2) Énoncé du résultat 1

Actuel Cadre logique (Ver. 3)	Proposition de modification	Raison
1. Le dialogue entre les parties prenantes est effectif.	1. Le lien entre les parties prenantes <sup>2)</sup> dans la chaîne de valeur de riz est renforcé	➤ Énoncé plus approprié pour refléter les activités entreprises par le Projet.

#### (3) Indicateurs des résultats

Actuel Cadre logique (Ver. 3)	Proposition de modification	Raison
<b>Résultat 1:</b> ➤ Aucun indicateur de réalisation pour le système de crédit lié aux activités.	➤ Ajouter un autre indicateur pour refléter les activités effectives entreprises par le Projet.  (Nouvel indicateur 1-5) 1-5. Les leçons apprises sur l'introduction du système de crédit durable requis par les producteurs/ les transformateurs sont partagées entre les parties prenantes.	➤ Le Projet a entrepris un bon volume d'activités concernant le système de crédit qui n'ont pas été mentionnées dans le Cadre logique. (Se référer à la section 3.3.1)
<b>Résultat 2:</b> 2-1. 80 % de producteurs ayant participé aux formations appliquent 75 % des techniques de base.  2-2. 80 % des transformateurs/distributeurs ayant participé aux formations appliquent 75 % des techniques de base.	2.1 Plus de deux tiers (2/3) des producteurs ayant participé aux séances de formation appliquent les techniques de base enseignées  2-2. Plus de deux tiers (2/3) des transformateurs/distributeurs de riz ayant participé aux séances de formation appliquent les techniques de base enseignées.	➤ Rendre le suivi facile et faisable (Se référer à la section 3.3.2)  ➤ Uniformiser les termes et énoncés.
<b>Résultat 3:</b>	(Aucune modification)	
<b>Résultat 4:</b> 4-1. Une ligne directrice (Document) d'approche du projet est conçue..	4.1 Les lignes directrices rédigées sur l'approche du Projet sont adoptées par le MINADER/l'ONDR.	➤ Indicateur plus approprié pour évaluer le niveau de réalisation du résultat 4. (Se référer à la section 3.3.4)

#### 5. Moyens de vérification

Actuel Cadre logique (Ver. 3)	Proposition de modification
<b>Objectif du projet:</b> 1. Documents du suivi des groupes	1. Etude-entretien auprès des producteurs sur la production du paddy

Actuel Cadre logique (Ver. 3)	Proposition de modification
ciblés 2. Documents du suivi des parties prenantes	2. Etude-entretien auprès des producteurs sur la vente du paddy 3. Etude-entretien auprès des transformateurs/distributeurs sur la vente du paddy et du riz blanchi 4. Données statistiques sur le riz collecté par ONDR
<b>Résultat 1:</b> 1-1. Documents du projet 1-2. Documents du projet	1-1. Rapports d'avancement du Projet 1-2. Rapports d'avancement du Projet 1-3. Rapports d'avancement du Projet 1-4. Rapports d'avancement du Projet, Etude-entretien auprès des membres de la plateforme 1-5. Rapports d'avancement du Projet, Etude-entretien auprès des institutions financières et et des usagers (producteurs, transformateurs/distributeurs) du système du crédit
<b>Résultat 1:</b> 2-1. Données du projet 2-2. Données du projet	2.1 Rapports d'avancement du Projet, Rapport des formations, Etude-entretien auprès des participants de la formation (producteurs) 2.2 Rapports d'avancement du Projet, Rapport des formations, Etude-entretien auprès des participants de la formation (transformateurs/distributeurs)
<b>Résultat 1:</b> 3-1. Données du projet	3.1 Rapports d'avancement du Projet, Etude-entretien auprès des bénéficiaires de 'l'appui supplémentaire'
<b>Résultat 1:</b> 4-1. Données du projet 4-2. Données du projet	4.1 Lignes directrices rédigées sur l'approche du Projet, Intention des décideurs politiques du MINADER/de l'ONDR à adopter les lignes directrices. 4.2 Etude de la Préférence du riz (local et importé) dans les zones urbaines (Abidjan, Yamoussoukro, Bouaké)

## 6. Activités

Actuel Cadre logique (Ver. 3)	Proposition de modification	Raison
<b>Activités pour le résultat 1:</b> 1-4.	<b>(ajout)</b> 1-4. Mener des essais pour introduire des systèmes de crédit pour promouvoir la production et la distribution du riz local (exemple: intrants agricoles et achat du paddy)	➤ Refléter les activités réelles menées par le Projet. (Se référer à la discussion dans la section 3.3.1)

## 7. Hypothèses Importantes

Actuel Cadre logique (Ver. 3)	Proposition de modification	Raison
<b>Activité au niveau des résultats:</b> 1. Les catastrophes naturelles telles que la sécheresse, les inondations, etc, ne surviennent pas	1. Des conditions climatiques défavorables (par exemple, la pluviométrie) n'affectent pas la production de riz de façon sérieuse.	➤ Refléter les risques réels

<b>Titre du Projet:</b>	Projet de Promotion du Riz Local en République de Côte d'Ivoire (PRORIL)
<b>Période:</b>	Février 2014 – Février 2019 (5 années)
<b>Agence de Mise en Œuvre:</b>	Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural (MINADER), Office National de Développement de la Riziculture (ONDR)
<b>Zones Cibles:</b>	Abidjan, Yamoussoukro, Région du Béliér, Région du Gbéké
<b>Groupe Cible</b>	Groupes de Producteurs, transformateurs et distributeurs de riz
<b>Date de Formulation/Modification:</b>	Version: 1 (14 Octobre 2013), 2 (4 Avril 2014), 3 (Février 2016)

Résumé du Projet	Indicateurs Objectivement Mesurables	Moyens de Vérification	Hypothèses Importantes
<b>Objectif Global:</b> Le volume de riz <sup>1)</sup> vendu dans la zone cible augmente.	1. Le volume de riz produit/vendu dans la zone cible augmente de 30%. 2. Le volume de riz vendu de la zone cible à la zone urbaine augmente de 30%.	Un Système statistique et informatique du secteur riz piloté par l'ONDR	
<b>Objectif du Projet:</b> Le volume de riz vendu par les groupes cibles augmente.	1. Le volume de riz paddy produit par les groupes cibles (producteurs) augmente de 40%. 2. Le volume de riz paddy vendu par les groupes cibles (producteurs) augmente de 40%. 3. Le volume de riz local blanchi vendu par les groupes cibles (transformateurs /distributeurs) augmente de 50%.	1. Etude-entretien auprès des producteurs sur la production du paddy 2. Etude-entretien auprès des producteurs sur la vente du paddy 3. Etude-entretien auprès des transformateurs/distributeurs sur la vente du paddy et du riz blanchi • Données statistiques sur le riz collecté par l'ONDR	• Le prix du riz sur le marché international ne fluctue pas significativement.
<b>Résultat:</b> 1 <u>Le lien entre les parties prenantes<sup>2)</sup> dans la chaîne de valeur de riz est renforcé.</u>	1.1 Les groupes cibles (producteurs /transformateurs /distributeurs) sont identifiés. 1.2 Au moins 75% des groupes identifiés participent à la plateforme <sup>3)</sup> . 1.3 L'ensemble des participants à la plateforme se réunit au moins 4 fois par an. 1.4 Une condition commune de production et de vente de riz est partagée entre les parties prenantes. 1.5 <u>Les leçons apprises sur l'introduction du système de crédit durable requis par les producteurs/les transformateurs sont partagées entre les parties prenantes.</u>	1.1 Rapports d'avancement du Projet 1.2 Rapports d'avancement du Projet 1.3 Rapports d'avancement du Projet 1.4 Rapports d'avancement du Projet, Etude-entretien auprès des membres de la plateforme 1.5 Rapports d'avancement du Projet, Etude-entretien auprès des institutions financières et des usagers (producteurs, transformateurs/distributeurs) du système de crédit	• Le prix du riz sur le marché intérieur ne fluctue pas significativement.
2 Les connaissances et techniques acquises à travers la formation sont appliquées par les groupes cibles.	2.1 <u>Plus de deux tiers (2/3) des producteurs ayant participé aux séances de formation appliquent les techniques de base enseignées.</u> 2.2 <u>Plus de deux tiers (2/3) des transformateurs/distributeurs de riz ayant participé aux séances de formation appliquent les techniques de base enseignées.</u>	2.1 <u>Rapports d'avancement du Projet, Rapport des formations, Etude-entretien auprès des participants de la formation (producteurs)</u> 2.2 <u>Rapports d'avancement du Projet, Rapport des formations, Etude-entretien auprès des participants de la formation (transformateurs/distributeurs)</u>	
3 La capacité des groupes sélectionnés <sup>4)</sup> pour la production /la transformation/la distribution du riz est renforcée par "l'appui supplémentaire".	3.1 50% des groupes sélectionnés atteignent les objectifs établis pour "l'appui supplémentaire" <sup>5)</sup> .	3.1 <u>Rapports d'avancement du Projet, Etude-entretien auprès des bénéficiaires de 'l'appui supplémentaire'</u>	
4 L'Effort des parties prenantes pour la promotion du riz local est accéléré.	4.1 <u>Les lignes directrices rédigées sur l'approche du Projet sont adoptées par le MINADER/l'ONDR.</u> 4.2 La préférence pour l'achat du riz local par les consommateurs s'améliore de 30%.	4.1 Lignes directrices rédigées sur l'approche du Projet, Intention des décideurs politiques du MINADER/de l'ONDR à adopter les lignes directrices. 4.2 Etude de la Préférence du riz (local et importé) dans les zones urbaines (Abidjan, Yamoussoukro, Bouaké)	

Activités:	Apports:	Côte d'Ivoire	Hypothèses Importantes:
1.1 Identifier les détails du profil des groupes cibles 1.2 Identifier d'autres parties prenantes impliquées dans la promotion du riz dans la zone cible 1.3 Faciliter le dialogue entre les parties prenantes 1.4 Mener des essais pour introduire des systèmes de crédit pour promouvoir la production et la distribution du riz local (exemple: intrants agricoles et achat du paddy)	Japon (1) Experts • Conseiller en chef • Riziculture • Chaîne de valeur de riz • Irrigation/Gestion de l'eau • Finance rurale • Coordonnateur • Autres (exemple: installations pour la post-récolte)	Côte d'Ivoire (1) Homologues • Directeur du Projet • Gestionnaire du Projet • Riziculture/ Gestion de l'Eau • Organisation des producteurs • Chaîne de valeur de riz • Autres (2) Fourniture d'installations et d'équipements • Locaux adaptés pour le bureau avec des équipements et des commodités nécessaires (Electricité, eau, climatisation, etc.) (3) Dispositions • Accès aux informations nécessaires, autorisation à entreprendre les activités du Projet, avec garantie de sécurité • Information et accès aux services médicaux • Lettres de créance ou carte d'identification (4) Allocation Budgétaire • Allocation du budget des homologues	• <u>Des conditions climatiques défavorables (par exemple, la pluviométrie) n'affectent pas la production de riz de façon sérieuse.</u> • Les prix locaux des intrants agricoles tels que les engrais, les produits phytosanitaires, ne fluctueront pas de façon significative.
2.1 Concevoir les supports de formations. 2.2 Organiser les formations techniques pour les vulgarisateurs 2.3 Fournir les intrants aux producteurs cibles (semences, engrais, etc.). 2.4 Organiser les formations techniques pour les groupes de producteurs cibles 2.5 Organiser des formations techniques pour les transformateurs et distributeurs cibles 2.6 Suivre et évaluer les réalisations des groupes ciblés	(2) Formation d'homologues au Japon et/ou en Pays Tiers (3) Mise à disposition de machines et d'équipements (4) Dépenses locales relatives aux activités du Projet • Dépenses relatives à la formation, atelier, séminaires, etc. • Supports de formation Autres, si nécessaire		
3.1 Elaborer le menu d'"appui supplémentaire" 3.2 Sélectionner les bénéficiaires pour "l'appui supplémentaire" 3.3 Elaborer un plan détaillé de "l'appui supplémentaire" avec le gouvernement, les institutions privées et les PTF 3.4 Mettre en œuvre "l'appui supplémentaire" 3.5 Suivre et évaluer les résultats de "l'appui supplémentaire"			
4.1 Collecter les données sur le volume de distribution du riz local. 4.2 Conduire une étude sur la préférence du riz local par les			<b>Préalable:</b> La condition sécuritaire dans les zones cibles est maintenue.

A

70

consommateurs. 4.3 Promouvoir le riz local auprès de consommateurs urbains. 4.4 Elaborer les lignes directrices de l'approche du Projet.		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Frais de fonctionnement et de maintenance des équipements mis à disposition, ainsi que des installations du Projet</li> <li>• Appui financier pour le personnel assigné au Projet</li> </ul>	
--	--	---	--

(5) Autres, si nécessaire

- 1) Le "riz" dans le Cadre logique du projet correspond au riz localement produit (Variété Indica).
- 2) Les parties prenantes sont toutes les institutions impliquées dans la filière riz de la zone cible, les institutions étatiques, les coopératives, les Partenaires Techniques et Financiers (PTF) et le secteur privé.
- 3) La plateforme multi-acteurs du riz ;
- 4) Les groupes de producteurs, transformateurs et distributeurs sélectionnés sont ceux qui auront été excellents sur la base du suivi du résultat 2.
- 5) "L'Appui supplémentaire" sera élaboré au cours des activités.




**MINUTES OF MEETING  
BETWEEN  
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY  
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF  
THE GOVERNMENT OF COTE D'IVOIRE  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION  
FOR  
LOCAL RICE PROMOTION PROJECT IN REPUBLIC OF COTE D'IVOIRE**

The Joint Mid-term Review Team (hereinafter referred to as “the Team”), which consists of four members from the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) headed by Mr. Shin Maruo, and four members from the Government of Côte d’Ivoire headed by Mr. AKPAUD Waba Aimé Céserd, was organized and reviewed the progress on the Local Rice Promotion Project in Côte d’Ivoire (hereinafter referred as “the Project”) from 13<sup>th</sup> February to 2<sup>nd</sup> March 2017.

After intensive study and analysis of the activities and achievements of the Project, the Team prepared the Mid-term Review Report (hereinafter referred to as “the Report”) as attached.

The Team presented the Report to the stakeholders concerned at the Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as “JCC”) held in 1<sup>st</sup> March 2017 and JCC members examined the contents of the Report and took note of the recommendations made therein.

Abidjan, 1<sup>st</sup> March 2017

---

Mr. Shin MARUO  
Director  
Team 5  
Agricultural and Rural Development Group 2  
Rural Development Department  
Japan International Cooperation Agency

---

Mr. Nouhoun COULIBALY  
Director General  
Director General of Planning, Project  
Control and Statistics  
Ministry of Agriculture of Rural  
Development  
Republic of Côte d’Ivoire

**JOINT MID-TERM REVIEW REPORT ON  
PROJECT FOR LOCAL RICE PROMOTION  
IN REPUBLIC OF COTE D'IVOIRE  
(PRORIL)**

March 1, 2017

## CONTENTS

### ABBREVIATIONS AND ACRONYMS

1. Introduction.....	1
1.1 Purpose of the Mid-term Review Study.....	1
1.2 Members of the Joint Mid-term Review Team .....	1
1.3 Procedures and Schedule for the Review Study .....	2
1.4 Methodology for the Review Study.....	2
1.4.1 PDM used for the Review .....	2
1.4.2 Points for the Review .....	3
2. Outline of the Project.....	3
2.1 Background of the Project .....	3
2.2 Outline of the Project (Narrative Summary of PDM).....	4
3. Accomplishment of the Project.....	5
3.1 Summary of Inputs.....	5
3.2 Accomplishment of Activities .....	6
3.3 Achievement of Project Outputs.....	7
3.3.1 Output 1 .....	7
3.3.2 Output 2.....	9
3.3.3 Output 3.....	12
3.3.4 Output 4.....	12
3.4 Achievement of Project Purpose (Prospect) .....	14
3.5 Baseline for Overall Goal .....	17
3.6 Examination of Project Implementation Process .....	18
4. Evaluation results by Five Criteria.....	20
4.1 Relevance.....	20
4.2 Effectiveness .....	21
4.3 Efficiency.....	23
4.4 Impact .....	24
4.5 Sustainability .....	25
5. Recommendations and lesson learnt .....	26
5.1 Recommendations for the remained Project period .....	26
5.2 Recommendations beyond the Project .....	27
5.3 Lesson learnt.....	29

6. Conclusion ..... 29

ANNEX I: Schedule of Joint Mid-term Review Study

ANNEX II: Evaluation Grid for Mid-term Review

ANNEX III: Project Design Matrix (PDM) Ver. 3 (used for evaluation)

ANNEX IV: Inputs from Cote d'Ivoire Government

ANNEX V: Inputs from JICA

ANNEX VI: Summary of Activities undertaken from February 2014 to December 2016

ANNEX VII: Proposed Revision of PDM

ANNEX VIII: PDM Ver. 4 (Proposed)



## ABBREVIATIONS AND ACRONYMS

ANADER	Agence Nationale d'Appui au Développement Rural
APD	Aide Publique au Développement
APRAO	Amélioration de la Production du Riz en Afrique de l'Ouest
CARD	Coalition Africaine de Développement du Riz
CCC (JCC)	Comité Conjoint de Coordination/Joint Coordination Committee
DGPPS	Director General of Planning, and Statistics and Project/ Direction General de la Planification, des Statistiques et des Projets
IOM	Indicateur Objectivement Mesurable
JICA	Agence Japonaise de Coopération Internationale/Japan International Cooperation Agency
MINADER	Ministère de l'Agriculture et du Développement Rural / Ministry of Agriculture and Rural Development
ONDR	Office National de Développement de la Riziculture
PDDA	Plan Directeur de Développement Agricole
PDM	Project Design Matrix/Cadre logique du projet
PF	Plateforme
PNIA	Programme National d'Investissement Agricole
PO	Plan of Operation/Plan de mise en œuvre
PRORIL	Projet de Promotion du Riz Local en République de Côte d'Ivoire/Local Rice Promotion Project
R/D	Procès-Verbal des Discussions / Record of Discussion
SNDR/NRDS	Stratégie Nationale de Développement de la filière Riz/National Rice Development Strategy
UGP	Unité de Gestion du Projet / Project Team

## 1. Introduction

Local Rice Promotion Project in Republic of Cote d'Ivoire (PRORIL) (hereinafter referred to as "the Project") has been implemented since February 2014 for the duration of five years by Ministry of Agriculture and Rural Development (MINADER) and National Rice Development Office (ONDR) of Government of Cote d'Ivoire with support of Japan International Cooperation Agency (JICA). Since the Project has passed a halfway point, the Mid-term Review (MTR) study has been conducted jointly between Government of Cote d'Ivoire and JICA in accordance with the Record of Discussions (R/D) signed on October 14, 2013 to review the status of the Project progress and discuss necessary measures to be taken during the remaining implementation period.

### 1.1 Purpose of the Mid-term Review Study

The objectives of the Mid-term Review were to:

- 1) Review the achievement and implementation process of the Project based on the Project Design Matrix (PDM) and the Plan of Operation (P/O);
- 2) Evaluate the Project according to five evaluation criteria, namely, Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact and Sustainability;
- 3) Clarify issues/concerns for the remaining period of the Project and discuss on the measures to be taken;
- 4) Make suggestions and recommendations for the latter period of the Project; and
- 5) Compile a Joint Mid-term Review report.

### 1.2 Members of the Joint Mid-term Review Team

The Joint Mid-term Review team consisted of the following members;

#### (1) Cote d'Ivoire Government members

Name	Title	Role in the Team
Mr. AKPAUD Waba Céserd	Chief, Department of Planning, Programs and Finance, MINADER	Team Leader (for Cote d'Ivoire)
Mr. BOUA Becoin Lazare	Staff in charge of survey, Department of Evaluation, MINADER	Member
Mr. BAKAYOKO Moussa	Chief, Support Service for Development and Mechanization, ONDR	Member
Mme BAMBA Mâ Epse COULIBALY	Chief, Monitoring and Evaluation Service, ONDR	Member

(2) JICA mission members

Name	Title	Role in the Team
Mr. Shin MARUO	Director, Team 5, Group 2, Rural Development Department, JICA	Team Leader (for JICA team)
Ms. Asuka SHIBUYA	Staff, Team 5, Group 2, Rural Development Department, JICA	Cooperation Planning
Mr. Atsushi SUZUKI	Senior Consultant, A&M Consultant Co., Ltd.	Evaluation Analysis
Ms. Kyo OKAWA	Interpreter/Translator, Translation Center Pioneer	Interpreter

### 1.3 Procedures and Schedule for the Review Study

The procedures taken for the review study are based on the *JICA Guidelines for Project Evaluation* (revised in 2010), using the latest version of PDM, attached as ANNEX III, that was a summary table describing the outline of the Project. The field study was conducted from February 13 to March 2, 2017 which detail was shown in ANNEX I. The following activities were carried out during the study period.

(1) Preliminary work and preparation of an Evaluation Grid

Before commencing the field study, an Evaluation Grid was prepared based on the existing documents related to the Project, which summarized evaluation questions and study points for the review. The Grid was shown in ANNEX II.

(2) Field study

While the Evaluation Team conducted the field study, the MTR team visited project sites and carried out a series of interviews and discussions with the Project Team members (Japanese Experts and Cote d'Ivoire counterpart (C/P) personnel), extension officers and rice producers in the respective target areas, and other stakeholders to collect necessary data and information. The PDM and P/O were reviewed and the MTR team made recommendation on modification of them based on findings and discussions during the study.

### 1.4 Methodology for the Review Study

#### 1.4.1 PDM used for the Review

The MTR team conducted the review exercise referring to the latest version of PDM (Ver. 3) that was agreed between Cote d'Ivoire and Japanese project members in JCC held in February, 2016. The PDM used for the review (evaluation) is shown in ANNEX III.

### 1.4.2 Points for the Review

The results were examined with particular attention to the following points:

(1) Achievement and Implementation Process of the Project

Degree of the Project achievement including Inputs (both from Cote d'Ivoire and Japanese sides), Activities, Project Outputs and Project Purpose was assessed with reference to Objectively Verifiable Indicators (OVIs) stated in the PDM. The process of the Project implementation was assessed from the viewpoints of project management.

(2) Evaluation with five evaluation criteria

In addition to assessment of achievement and implementation process of the Project, the MTR team assessed the Project performance from the viewpoints of five evaluation criteria described in Table 1-1.

Table 1-1: Five Evaluation Criteria for the Mid-term Review

Criteria	Description
Relevance	A criterion for considering the validity and necessity of the Project regarding whether the expected effects of the project will meet with the needs of target beneficiaries; whether the contents of the Project is consistent with policies of the Cote d'Ivoire government; whether the Project strategies and approaches are relevant, etc.
Effectiveness	A criterion for considering whether the implementation of the Project has benefited (or will benefit) the intended beneficiaries or the target society, and examining if the benefit has been brought about as a result of the Project, not of external factors.
Efficiency	A criterion for considering how economic resource/inputs are converted to results. The main focus is on the relationship between the project cost and effects.
Impact	A criterion for considering the effects of the Project with an eye on the longer-term effects including direct or indirect, positive or negative, intended or unintended.
Sustainability	A criterion for considering whether produced effects continue after the termination of the Project.

(Reference: *JICA Guidelines for Project Evaluation (2010)*)

## 2. Outline of the Project

### 2.1 Background of the Project

Most part of Cote d'Ivoire belongs to the tropical monsoon climate zone, has high potential for the crop production in general. Under such good climate conditions, the agricultural sector has played an important role in the national economy, contributing more than 25% of GDP and absorbing nearly two thirds of the labor force. While most food crops such as yam, cassava, maize, plantain are being

produced in the country sufficiently against the national requirements, only rice has had a critical shortage in production and a huge amount of rice needs to be imported to meet the local demand every year. It is reported that a total amount of 1.98 million Mt of rice was consumed by Ivoirians in 2016, out of which 1.44 million Mt accounting for 73% of total consumption was imported from other countries. Rapidly expanding population has contributed to the increased demand for rice particularly in urban areas while local production has been stagnated for a long period of time. Besides the political turmoil that had affected every sector of the country since early 2000s, the low production of local rice has been attributed to several factors including: 1) extremely low productivity caused by insufficient provision of effective extension services as well as agro-inputs such as good quality of seed and fertilizers; 2) low utilization of land suited for rice production due to constant shortage of funds for the majority of producers to prepare land on time; 3) low supply of local rice to the markets due to poor capacity of millers and traders who have been relying on obsolete post-harvesting techniques including old facilities and equipment. Consequently, the value chain of local rice from production sites to urban consumption areas has been hampered and its competitiveness has further weakened which brought about the increased amount of imported rice on the markets.

Against such a background, a technical cooperation project for promotion of local rice was requested by the Government of Cote d'Ivoire to the Government of Japan and the PRORIL commenced in February 2014 for 5 years.

## **2.2 Outline of the Project (Narrative Summary of PDM)**

### **(1) Overall Goal**

Volume of rice sold in the target area is increased.

### **(2) Project Purpose**

Volume of rice sold by target groups is increased.

### **(3) Project Outputs**

- 1) Dialogue among stakeholders is promoted.
- 2) Knowledge and techniques provided through training are utilized by target groups.
- 3) Capacity of selected groups for rice producing/milling/trading is strengthened by “additional support”.
- 4) Effort of stakeholders\* to promote local rice is accelerated.

(\* Stakeholders include all the institutions involved in the rice sector in the target area including government, cooperatives, donors and private sector.)

### **(4) Target Areas**

Abidjan, Yamoussoukro, Belier Region, Gbeke Region

### **3. Accomplishment of the Project**

Accomplishment of the Project was examined in terms of Inputs, Activities, Outputs and Project Purpose, as specified in the PDM and P/O. The results are summarized in this section.

#### **3.1 Summary of Inputs**

##### **(1) From Government of Cote d'Ivoire**

Actual inputs from Cote d'Ivoire government were as follows. Details are shown in ANNEX IV.

###### **1) Assignment of Cote d'Ivoire counterpart (C/P) personnel**

A total of 4 officers of (MINADER and ONDR) have been assigned to the Project since the beginning in February 2014, and closely working with Japanese experts as full-time C/Ps.

###### **2) Allocation and disbursement of C/P funds**

A total amount of 300 million FCAF has been allocated by the government of Cote d'Ivoire of which 250 million FCAF has been disbursed to implement the Project from February 2014 to 31st December 2016.

###### **3) Facilities and equipment provided**

Office premises have been provided for the Project team and local staff at PRORIL Center in Yamoussoukro. Utilities for the offices such as water and electricity have been provided by the government of Cote d'Ivoire.

##### **(2) From JICA**

The followings are the actual inputs from JICA to support the Project implementation:

###### **1) Assignment of experts**

A total of 11 experts in 14 technical fields have been assigned to the Project by the time of the MTR study.

###### **2) Counterpart training (in Japan)**

5 officers were sent to Japan for training in rice development policy.

###### **3) Local activity costs (including infrastructure)**

A total amount of around JPY 102.97 million (equivalent to 520.2 million FCFA) was spent during the period from February 2014 to January 2017. The details of input including conversion average rate are provided in ANNEX V.

### **3.2 Accomplishment of Activities**

The Project team has carried out activities according to the PDM and P/O. The activities undertaken during the period under review and plans for the remaining period are summarized in ANNEX VI. The accomplishment status of the respective activities described in the PDM is shown in Table 3-1. As shown in the table, most activities have been undertaken as planned.

Table 3-1: Overview on the accomplishment level of activities

Output	Activities	Accomplishment Status (%)				
		0	25	50	75	100
1	1-1. Identify detail profile of target groups.					
	1-2. Identify other stakeholders involved in rice promotion in the target area.					
	1-3. Facilitate the dialogue among stakeholders.					
2	2-1. Develop the training materials.					
	2-2. Organize the technical training for extension workers.					
	2-3. Provide the input for target producers (seed, fertilizer, etc.).					
	2-4. Organize the technical training to target producers' groups.					
	2-5. Organize the technical training to target rice millers/traders.					
	2-6. Monitor and evaluate the achievement of target groups.					
3	3-1. Develop the menus for "additional support".					
	3-2. Select the beneficiaries for "additional support".					
	3-3. Work out detailed plan of "additional support" with government, private institutes and donors.					
	3-4. Implement the "additional support".					
	3-5. Monitor and evaluate the result of "additional support".					
4	4-1. Collect data on the volume of local rice distribution.					
	4-2. Conduct study on the preference of local rice by consumers.					
	4-3. Promote local rice to urban consumers.					
	4-4. Develop guideline of the project approach.					

"Accomplishment Status" of each activity described in the PDM was based on self-assessment by the Project team.

### 3.3 Achievement of Project Outputs

This section summarizes the achievement of the respective Project Outputs based on Objectively Verifiable Indicators (OVIs) shown in the current version of PDM.

#### 3.3.1 Output 1

<b>Output 1:</b>	Dialogue among stakeholders is promoted.
------------------	--

##### (1) Examination of Achievement by Indicators (OVIs)

<p><b>OVI 1-1:</b> Target producers groups/rice millers/traders are identified.</p> <p>1) Producer groups: Field studies were conducted to prepare an inventory of producer groups and potential areas for rice production (<i>Perimeter</i> (irrigated areas) and <i>Bas-fond</i> (shallow wetlands)) in Belier and Gbeke Region, based on which a total of 107 groups and 6,543 ha were identified as shown below.</p> <p style="text-align: center;">Table 3-2: Summary of inventory survey: rice producers</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Region</th> <th>Belier</th> <th>Gbeke</th> <th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>No. of groups identified</td> <td>37</td> <td>70</td> <td>107</td> </tr> <tr> <td>Areas suited for rice production (ha)</td> <td>2,892</td> <td>3,651</td> <td>6,543</td> </tr> </tbody> </table> <p>(Source: Processed based on information from <i>MTR Preparatory Report</i> compiled by Japanese Experts)</p> <p>2) From the inventory, a total of 26 candidate sites were selected as target areas of the Project activities covering 1,500 ha of paddy fields, which were further grouped into 4 batches as follows:</p>	Region	Belier	Gbeke	Total	No. of groups identified	37	70	107	Areas suited for rice production (ha)	2,892	3,651	6,543
Region	Belier	Gbeke	Total									
No. of groups identified	37	70	107									
Areas suited for rice production (ha)	2,892	3,651	6,543									



1st batch (2 sites), 2nd batch (8 sites), 3rd batch (8 sites) and 4th batch (8 sites).

- 3) Through field studies in the target areas, a total of 12 rice millers and 139 dealers (distributors) have been identified as shown below.

Table 3-3: Summary of inventory survey: rice millers and traders

Region	Belier	Gbeke	Total
No. of rice millers	5	7	12
No. of traders	22	117	139

(Source: Processed based on information from *MTR Preparatory Report* compiled by Japanese Experts)

- 4) With these results, the OVI 1-1 has been achieved by the time of MTR.

**OVI 1-2:** At least 75% of identified groups participate in the Platform.

- 1) Belier Region: 1st preparation committee for the platform (PF) was held in July 2014, a series of sensitization meetings for stakeholders were organized from February 2015 at 19 sites in Yamoussoukro and 2 departments. Preparation for forming a producer cooperative union was initiated in March 2016. The 1st “Match-making Forum” of rice sector stakeholders was organized in August 2016.
- 2) Gbeke Region: A platform named “*Bouaké-Botro Rice Multi-actors Platform (PR2B)*” had already existed in the region, which activities have been monitored. For purpose of supporting a miller association with credit scheme to promote purchase of paddy rice, use of 2KR Counter Value Fund was examined and prepared.
- 3) Based on the information about the target groups identified above (OVI 1-1), “75% of identified producer groups” could be calculated as approximately 80 producer groups, 9 millers and 104 traders. However, since most of producer groups and traders listed on the inventory were small-scale and it is not proper and feasible to expect such small groups and traders (most of them are informal) to participate in the PF meetings; therefore, the target groups should be limited to registered cooperative societies and a certain level of millers and traders which numbers were 10 cooperatives and 4 millers in Belier, and 8 cooperatives and 7 millers in Gbeke respectively.
- 4) However, the MTR team observed that activities by the PF had not taken place in full scale in both regions, the achievement of OVI 1-2 is still at the low level.

**OVI 1-3:** All the participants to the platform meet at least 4 times per year.

- 1) As is the case for OVI 1-2, achievement level of this indicator is low.

**OVI 1-4:** A common condition of production and distribution is shared between stakeholders.

- 1) As the term “a common condition” stated in this indicator is vague, it is difficult to assess its achievement level without clear definition.
- 2) In the detail design study report on the Project (conducted in August 2013), there was explanation that it could include some conditions such as paddy rice handling method and minimum price set for trading rice, but not clearly defined in the PDM since then. While the MTR team tried to clarify the meaning of this term through interviews with the Project members, there seemed no clear consensus among them. It is recommended to discuss and get common understanding for the term as soon as possible.

## (2) Overall Achievement and Prospect for Output 1

- According to the PDM, activities for Output 1 includes i) identification of target groups and stakeholders and ii) formation of rice sector platform (facilitate dialog among stakeholders). As discussed above, while the important actors in the rice value chain have been identified, formation of the platform is still at the initial stage in both regions; therefore, it is too early or not possible to assess the achievement level of most indicators set in the current PDM.
- However, the MTR team observed that the Project team had been making considerable efforts to introduce input credit system for producer groups and one for rice millers to increase the paddy rice purchasing capacity though it is not operational yet. (refer to ANNEX VI). Such aspects had not been clearly articulated in the current PDM. The Project has accumulated a good level of experience and knowledge in the management of credit system through these activities, which shall certainly contribute to the promotion of local rice production and marketing on a long-term basis. In this regard, the indicators set in the current PDM appear to be insufficient or inappropriate to assess the actual achievement of the Project. Therefore, it is recommended that the PDM be reviewed so that actual activities undertaken are reflected and achievement level of Output 1 can be properly assessed in the terminal evaluation study to be conducted toward the end of the Project.
- Based on these observations, the MTR team concludes that the overall achievement of Output 1 and prospect is at moderate level<sup>1</sup>.

### 3.3.2 Output 2

<b>Output 2:</b>	Knowledge and techniques provided through training are utilized by target groups.
------------------	---

#### (1) Examination of Achievement by Indicators (OVIs)

<b>OVI 2-1:</b> 80% of the producers participating in the training courses apply 75% of basic techniques.	
1) The following 10 basic cultivation techniques were identified as recommended practices to be instructed in the trainings for ANADER extension workers and rice producers. <table border="1" data-bbox="245 1603 1251 1910"><tr><td>i) Selection of rice seed by flotation ii) Determination of basal fertilizer application amount (NPK 200 kg/ha) iii) Best timing of basal fertilizer application at the 2nd plowing iv) Practice of transplanting v) Seedling age for transplanting of urea (14-21 days) vi) Weeding before topdressing of urea vii) Amount of topdressing viii) Best timing of 1st topdressing at tillering stage</td></tr></table>	i) Selection of rice seed by flotation ii) Determination of basal fertilizer application amount (NPK 200 kg/ha) iii) Best timing of basal fertilizer application at the 2nd plowing iv) Practice of transplanting v) Seedling age for transplanting of urea (14-21 days) vi) Weeding before topdressing of urea vii) Amount of topdressing viii) Best timing of 1st topdressing at tillering stage
i) Selection of rice seed by flotation ii) Determination of basal fertilizer application amount (NPK 200 kg/ha) iii) Best timing of basal fertilizer application at the 2nd plowing iv) Practice of transplanting v) Seedling age for transplanting of urea (14-21 days) vi) Weeding before topdressing of urea vii) Amount of topdressing viii) Best timing of 1st topdressing at tillering stage	

<sup>1</sup> Achievement level of Outputs and Project Purpose was assessed with 5 scales; namely, 1) very high, 2) high, 3) moderate, 4) moderately low, 5) low.

- ix) Best timing of 2nd topdressing at panicle initiation stage
- x) Best harvesting time (115-125 days after seeding)

- 2) Focusing on these recommended practices, the Project has been making efforts to transfer the appropriate knowledge and techniques to rice producers through technical trainings organized in two stages. Firstly, the Project conducted trainings of trainers (TOTs) intensively on cultivation techniques including harvesting & post-harvesting, handling and maintenance of agricultural machineries and organizational strengthening for ANADER extension staff and leaders of producer groups (cooperatives) at the PRORIL Center as summarized in Table 3-4.

Table 3-4: Summary of extension workers and leaders of producer groups

Year of Training	Target Group (Area)	No. of Participants (actual)		
		Cultivation Techniques	Agricultural Machineries	Organizational Strengthening
2014	1st batch (2 sites)	47	47	11
2015	2nd batch (8 sites)	11	18	20
2016	3rd batch (11 sites)	36	33	33

(Source: Processed based on information from *MTR Preparatory Report* compiled by Japanese Experts)

In the second stage, trainings of trainers took place in the PRORIL center. *In situ* trainings were organized by ANADER extension staff, who were previously trained, for rice producers during the following cultivation seasons in collaboration with leaders of producer groups.

- 3) The Project has collected monitoring information to see the level of utilization of recommended techniques by producers who had participated in the trainings at the respective sites. The results of monitoring on the 1st batch (2014) and 2nd batch (2015) groups were summarized in Table 3-5 (3rd batch is still in the process of monitoring).

Table 3-5: Number of producers trained and adoption of selected basic techniques

Batch	Site	Total No. of Farmers	Farmers Trained	Rate (%)	Farmers Applied 75 % of Basic Techniques.	Rate (%)
1st	Zatta	28	8	28.6	7	87.5
	Yabra	77	3	3.9	1	33.3
2nd	N'Gangoro-Ahitou	25	8	32.0	2	25.0
	Bounguè	85	26	30.6	12	46.2
	Didiévi	32	11	34.4	8	72.7
	Anongblin	21	8	38.1	6	75.0
	Ahalékpli	39	13	33.3	0	0
	Lokakpli	154	22	14.3	11	50.0
	Attienkro	53	9	17.0	8	88.9
	Bepo	112	0	3.9	0	0
Total		626	108	17.3	55	50.9

(Source: Processed based on information from *MTR Preparatory Report* compiled by Japanese Experts)

- 4) As shown in the table, farmers who had been trained by extension staff were low in the number for the 1st and 2nd batch groups. The number of sites where more than 80% of farmers trained had applied more than 75% of basic techniques was 2 out of 10, hence, the achievement level of OVI 2-1 is regarded at low level. On the other hand, it should be noticed that 50.9% of farmers trained had applied more than 75% of basic techniques across the sites.
- 5) The Project team suggested to revise this indicator as it is too complicated to monitor. The MTR team has agreed on the suggestion.

**OVI 2-2:** 80% of processors/distributors training participants apply 75% of basic techniques.

- 1) The following 6 basic techniques were identified to be instructed in the trainings for rice millers and traders:

T-1:	Measuring level of moisture content in rice grains
T-2:	Measuring amount of foreign substances (contamination) in rice grains
T-3:	Proper storage for paddy and polished rice, separation
T-4:	Recording on paddy rice purchased and polished rice sold
T-5:	Packaging of polished rice (use of new lapping papers)
T-6:	Separation of polished rice (perfect and broken rice grains)

- 2) Trainings for rice millers and traders were organized twice in October 2015 and October 2016 in which a total of 18 and 15 millers/traders participated respectively. After the training, for purpose of monitoring the adoption of recommended techniques, an interview survey was conducted in March 2016. 10 out of 18 millers/traders who had participated in the training in 2015 answered the interview which results were summarized below.

Table 3-6: Number of millers/traders trained and adoption of selected basic techniques

No. of Basic Techniques Applied (% against 6)	6 (100)	5 (83.3)	4 (66.6)	3 (50.0)	2 (33.3)	1 (1.7)	0	Total
No. of Respondents	0	4	2	1	2	0	0	10

(Source: Processed based on information from *MTR Preparatory Report* compiled by Japanese Experts)

- 3) As shown in the table, the number of millers/traders who answered having applied more than 75% of basic techniques (5 out of 6 techniques) was 4 out of 10, which means 40% of the millers/traders had achieved the target. While the results might be different if all the 18 participants answered the interview, it could be said that the 2nd indicator for Output 2 had not been achieved for the 1st training held in 2015. The results for the second training are not yet available because the training was just held in October 2016.
- 4) As is the case for OVI 2-1, it is recommended to review this indicator to make the monitoring easier.

(2) Overall Achievement and Prospect for Output 2

- The Project has organized a series of trainings targeting important actors in the rice value chain including rice producers, millers and traders. Although the achievement level was not very high in terms of indicators set in PDM, all the producers and millers whom the MTR team met during the field visits very much appreciated the training provided to them.
- The MTR team has recognized that the 2 indicators set in the current PDM were unnecessarily complicated to monitor, which might have contributed to the low level of achievement to some extent.
- Based on these observations, the MTR team concludes that the overall achievement and prospect for Output 2 is at the moderately low level.

### 3.3.3 Output 3

<b>Output 3:</b>	Capacity of selected groups for rice producing/milling/trading is strengthened by “additional support”.
------------------	---

#### (1) Examination of Achievement by Indicators (OVIs)

<p><b>OVI 3-1:</b> 50% of beneficiaries of additional support reach the required level of performance.</p> <p>1) The Project team has carried out activities according to the original plan described in PDM and P/O. Two activities were selected as “additional supports” indicated in the PDM, which were i) seed production and ii) revolving funds for inputs. For these support activities, target groups were selected as candidate beneficiaries from the participants of the inputs credit scheme and trainings undertaken in the activities for Output 1 and 2. Advanced farmers were selected as potential seed producers from the 2nd and 3rd batch target groups. Farmers who had paid back all the inputs loan were listed up as candidate users of revolving funds in the 2nd batch target area. Detail plans for both supports were made based on consultation with relevant stakeholders.</p> <p>2) The activities to support seed production had started in February 2015 when a workshop was organized, followed by a training held in January 2016. The Project team decided to set up a seed production field at the PRORIL Center in October 2016 where recommended practices of seed production have been demonstrated and trainings took place. Seed produced from the demonstration field are to be provided to the producers in the target areas in the coming seasons. It is expected that this demonstration could become a model for the production and distribution system of high quality seed in the target areas. The Project team has set the target (level of performance) of seed production support as follows: “<i>Farmers selected from the 2nd to 4th batch target groups would produce a total of 30t of high quality seed by planting more than 15ha of seed production field in 2017 and 2018 crop seasons.</i>”</p> <p>3) The second support regarding revolving fund is still at preparation stage at the time of MTR. Funds for inputs are to be provided for the selected producers of the 2nd and 3rd batch groups in the coming crop seasons of 2017. Hence, the target for this support has not been decided yet. It needs to be discussed and determined as soon as possible.</p>
--

#### (2) Overall Achievement and Prospect for Output 3

- As explained above, the activities to support the producer groups have been undertaken and some indicators to see the level of performance have been set. On the other hand, support for other actors (millers and traders) has not yet been decided and initiated. According to the Project team, it will be prepared by the end of 2017 based on results of on-going activities.
- Based on progress of the activities and achievement of the indicators, the MTR team concludes that the overall achievement and prospect for Output 3 is at the low level.

### 3.3.4 Output 4

<b>Output 4:</b>	Effort of stakeholders to promote local rice is accelerated.
------------------	--

#### (1) Examination of Achievement by Indicators (OVIs)

**OVI 4-1:** A guideline (Document) of the project approach is designed.

- 1) The guideline for promotion of local rice shall be developed based on experiences and lessons learnt from the activities undertaken to achieve Output 1 to 3 explained above. The Project team is planning to draft a comprehensive plan for promotion of local rice for the first step, and then results of the activities regarding introduction of credit scheme, sustainable ploughing services and seed production, etc. are to be reflected on the guideline after completion of activities for the 4th batch target group in 2017.
- 2) Since the guideline has not been developed yet, the achievement level of the Indicator 4-1 is still difficult to assess.

**OVI 4-2:** Preference to purchase local rice by consumers is improved by 30 %.

- 1) Preference surveys on local rice and imported rice by urban consumers were conducted in Yamoussoukro (July 2014), Bouaké (October 2014) and Abidjan (December 2015). The results of Yamoussoukro and Bouaké surveys were summarized in Table 3-7.

Table 3-7: Results of consumers' preference surveys on rice in Yamoussoukro and Bouaké (2014)

Sites	No. of Respondents (Preference)				No. of Respondents (Intention to buy)			
	Imported rice	Local rice	Both	Total	Imported rice	Local rice		Total
Yakro	729 (57%)	253 (20%)	294 (23%)	1,276 (100%)	482 (39%)	763 (61%)	- -	1,246 (100%)
Bouaké	351 (23%)	431 (28%)	768 (50%)	1,550 (100%)	437 (28%)	1,103 (71%)	10 (1%)	1,550 (100%)

(Source: *Project Progress Report (1)* compiled by Japanese Experts)

- 2) The figures shown in the tables could be regarded as the baseline data for the OVI 4-2.
- 3) Since the second survey has not yet been conducted, evaluators are not able to evaluate the result of OVI 4-1.

## (2) Overall Achievement and Prospect for Output 4

- Since the guideline has not been completed and there is no evidence of improvement in consumers' preference for local rice, it is difficult to assess the achievement level of Output 4 at this stage. If the Project team undertakes the activities as planned, the Output may be realized at a certain level by the end of the Project.
- Regarding the indicator for Output 4, the MTR team makes on a recommendation for the modification of OVI 4-1. As the current indicator is just a rephrase of the activity (4-4), it is not appropriate to assess the achievement level of Output 4. The indicator should be set so that the evaluators can assess what extent the developed guideline is likely to contribute to realization of Output 4 by the end of the Project.

### 3.4 Achievement of Project Purpose (Prospect)

<b>Project Purpose:</b>	Volume of rice sold by target groups is increased.
-------------------------	--

#### (1) Examination of Achievement by Indicators (OVIs)

**OVI 1:** Volume of paddy rice produced by target groups (producers) is increased by 40%.

- According to the Project team, the goal of 40% increment in rice production corresponds to the evolution of the production as a result of the increase in productivity per hectare and an increase of the developed areas. The objective is to move from an average yield of 3.5 t/ha (baseline survey data) to at least 5 t/ha land of a development rate of 50% to 70%.
- In regard to the production data of the paddy rice by the selected target groups, while official statistics were not available, the Project conducted an interview survey with the producer groups in the 1st and 2nd batch target areas. The results were summarized in Table 3-8 and 3-9.

Table 3-8: Results of interview survey on rice production (1st batch group)

Site	No. of Farmers		Cropping Season							
			2013/2nd		2014/2nd			2015/2nd		
	Total	Resp.*	Area (ha)	Prod. (Mt)	Area (ha)	Prod. (Mt)	Diff.** (%)	Area (ha)	Prod. (Mt)	Diff.** (%)
Zatta	28	16	12.55	64.0	13.00	52.6	17.8	13.00	74.1	15.7
Yabra	77	59	9.65	41.5	9.59	67.2	61.9	9.59	47.0	13.2

\* Number of respondent farmers who answered the interview.

\*\* Difference in paddy production against baseline season (2013 2nd cropping season).

(Source: Processed based on information from *MTR Preparatory Report* compiled by Japanese Experts)

Table 3-9: Results of interview survey on rice production (2nd batch group)

Site	No. of Farmers		Cropping Season					
			2014/2nd			2015/2nd		
	Total	Resp.*	Area (ha)	Prod. (Mt)	Area (ha)	Prod. (Mt)	Diff.** (%)	
Ngangoro-Ahitou	25	22	2.24	10.0	4.53	22.0	113.4	
Boungue	85	76	17.21	70.5	10.05	42.9	-43.0	
Didievi	32	25	13.19	66.9	17.81	92.3	76.5	
Anongblin	21	20	15.75	41.3	12.76	20.5	-50.9	
Ahalekli	39	37	18.52	56.5	1.61	5.0	-91.7	
Lokakpli	154	142	59.93	221.7	22.62	100.0	-63.5	
Attienkro	53	32	7.93	13.2	14.63	23.9	-15.1	
Bepo	112	106	11.88	34.4	0	0	-	

\* Number of respondent farmers who answered the interview.

\*\* Difference in paddy production against baseline season (2014 2nd cropping season).

(Source: Processed based on information from *MTR Preparatory Report* compiled by Japanese Experts)

- For the 1st batch group, the trainings were organized in the 2nd cropping season of 2014; hence, the production in the 2nd cropping season of 2013 was regarded as baseline. As shown in the table, the production amount of paddy rice increased at 1 site in 2014 by more than 40% but the rests were less than the target.
- For the 2nd batch group, the 2nd season of 2014 was the baseline, against which the paddy

production increased by more than 40% at 2 sites, but decreased at other sites. The decline in the paddy production in the 2015 season was reported to be mainly due to shortage and erratic rains in that season which had substantially affected the planting time and harvest. As many farmers abandoned the rice cultivation, cultivation area remarkably decreased in 2015 compared with 2014. In Bepo, no farmers could harvest rice.

- Since there were only few sites where the first indicator was satisfied, the current achievement for OVI 1 is regarded at the low level.

**OVI 2:** Volume of paddy rice sold by target groups (producers) is increased by 40%.

- It is reported that 75% of production is sold by the producers and 25% consumed on the farm on average. The aim to increase by 40% the volume of rice sold by the target groups is a deduction of the OVI 1 objective.
- The baseline is obtained from the results of the same interview survey as used for the 1st indicator.

Table 3-10: Results of interview survey on rice sale (1st batch group)

Site	No. of Farmers		Cropping Season				
			2013/2nd		2014/2nd		2014/2nd
	Total	Resp.*	Sale (Mt)	Sale (Mt)	Diff.** (%)	Sale (Mt)	Diff.** (%)
Zatta	28	16	61.3	50.2	-18.2	73.7	20.2
Yabra	77	59	36.8	61.9	67.9	44.9	21.9

\* Number of respondent farmers who answered the interview.

\*\* Difference in paddy sale against baseline season (2013 2nd cropping season).

(Source: Processed based on information from *MTR Preparatory Report* compiled by Japanese Experts)

Table 3-11: Results of interview survey on rice sale (2nd batch group)

Site	No. of Farmers		Cropping Season		
			2014/2nd	2015/2nd	
	Total	Resp.*	Sale (Mt)	Sale (Mt)	Diff.** (%)
Ngangoro-Ahitou	25	22	8.9	20.1	148.3
Boungue	85	76	47.0	28.1	-45.0
Didievi	32	25	61.6	90.1	88.3
Anongblin	21	20	26.7	11.8	-67.7
Ahalepkli	39	37	43.3	3.1	-93.4
Lokakpli	154	142	195.7	90.1	-63.2
Attienkro	53	32	13.2	23.9	-15.1
Bepo	112	106	16.5	0	-

\* Number of respondent farmers who answered the interview.

\*\* Difference in paddy sale against baseline season (2014 2nd cropping season).

(Source: Processed based on information from *MTR Preparatory Report* compiled by Japanese Experts)

- The trends were just same for the production and there were only few sites where the 2nd indicator was satisfied, the current achievement for OVI 2 is also regarded at the low level.

**OVI 3:** Volume of milled local rice sold by target group (millers) is increased by 50%.

- The objective to increase by 50% the milled local rice volume sold by target groups corresponds to



the average increase by 10% per year in the volume.

- The Project conducted an interview survey in March 2016 with rice millers who participated in the training organized in October 2015 to monitor their milling activities. 10 millers answered the interview and the results were summarized Table 3-12.

Table 3-12: Results of interview survey with millers

Area	Name of Miller	Monthly Average Amount of Paddy Milled (kg)		Monthly Average Amount of Paddy Purchased (kg)		Monthly Average Amount of Milled Rice Sold (kg)	
		2013 -10/2015	11/2015 -3/2016	2013 -10/2015	11/2015 -3/2016	2013 -10/2015	11/2015 -3/2016
Bouaké	ITC	63	44	7	2	4	3
	Geco-Bouake	137	216	27	47	79	173
	ETS Toure	104	124	32	71	20	65
	Maze RIZ	108	128	5	32	8	28
	ETS Sanogo	152	153	37	35	50	77
	ETS Favognon	93	108	0	0	0	0
Yakro	Unité de decorticage de kpoussoussou	23	16	0	0	0	0
	LGCI	7	17	2	3	1	2
	COOPRI Doubehi	1	8	2	0	0	3
	Unité de transformation Ngangoro	5	0	6	0	2	0
Total		69	81	12	19	17	35
Increment Rate			+17%		+63%		+111%

(Source: MTR Preparatory Report compiled by Japanese Experts)

- The baseline for this indicator was set as monthly average amount of milled rice sold by the 10 millers during the period from January 2013 to October 2015. As shown in Table 3-13, 6 millers out of 10 had increased the volume of milled rice after the training while 4 millers did not. As a whole, the amount of milled rice sold had increased by more than 100% against the baseline data. This increase was attributed to the increase in volume sold by a few millers, which means the target of OVI 3 has been achieved after the training but what extent the increase was caused by the training was not clear.
- For purpose of collecting data on the volume of local rice distribution, 2 types of market survey have been conducted in Yamoussoukro and Bouaké, which data can be used in the terminal evaluation.

**OVI 4:** Volume of milled local rice sold by target groups (traders) is increased by 50%.

- Given the highly informal distribution network of local rice and therefore the difficulty of gathering information, a core group of 10 local rice traders in frequent contact with the millers in the area were targeted. The aim to increase by 50% the volume of rice sold by the target groups (dealers) is a deduction of the OVI 3.
- Since the Project conducted a training on marketing for 21 traders (millers) in October 2016, the monitoring has not been undertaken yet.
- In regard to this indicator, the following issues have arisen during the implementation process:
  - 1) As many millers actually carry out marketing/distribution business of local rice after milling, it is difficult to distinguish millers and traders;
  - 2) As there are very few traders who have a certain level of rice trading business in the target areas, it is difficult to identify the target groups (traders) clearly; and

3) As the majority of traders are actually engaged in very small informal business dealing with less than 100 kg of rice monthly, it is difficult for the Project to target them.

- The MTR team recommends to modify the PDM by merging OVI 4 with OVI 3.

## (2) Overall Achievement and Prospect for Project Purpose

- The Project has made a certain progress in activities during the past 3 years since the Project started in February 2014. Important stakeholders of the rice value chain in the target areas including rice producer groups together with potential areas for paddy production, millers and traders have been successfully identified and the Project has started supporting the stakeholders in forming rice sector platforms in 2 target regions and providing inputs credit scheme. A good number of ANADER extension officers and leaders of producer groups have been trained with important basic knowledge and techniques of rice cultivation that shall contribute to the increase in the production of rice on a long-term basis. Other important stakeholders particularly millers and traders of the rice value chain in the 2 regions have also been trained with basic techniques to improve their capacity. Support for high quality seed production has commenced targeting advanced farmers. With these achievements, it is certain that the Project has been making progress towards realization of the Project Purpose.
- On the other hand, it is a fact that there has not been observed a clear trend of increase in the volume of rice produced and sold in the target areas as shown in the monitoring results. Bad weather conditions particularly insufficient and erratic rainfalls experienced in the 2015/16 cropping season had negatively affected the performance of many farmers in the region. The MTR team has observed the low participation of farmers in the trainings organized by extension staff at the various target sites (demonstration fields). The reason for this was not clear, but it is strongly recommended that the Project team take measures to improve the participation of farmers so that extension of the knowledge and techniques promoted by the Project can be accelerated towards the end of the Project. Without this, it may be difficult for the Project Purpose to be realized.
- Based on the achievement level of various indicators set in the PDM, the MTR team concludes that overall achievement of Project Purpose is at the moderately low level. Since the Project team has gained a good level of experiences and knowledge concerning the rice sector and established good relationship with important stakeholders of the rice value chain in the target areas, it will be possible to accelerate the implementation process in the remaining period and the Project Purpose will be achieved at a certain level by the end of the implementation period in February 2019.

### 3.5 Baseline for Overall Goal

Overall Goal is expected to be realized after the end of the Project. While it is still too early to assess the achievement level of the Overall Goal, baseline data needs to be set at this stage. The

following explanation was provided by the Project team for setting the indicators and baseline for the Overall Goal.

Indicator 1: The volume of rice product in the target area increases by 30%	
Reason:	The objective of increasing by 30% the volume of rice produced in the target area is the performance objective of rice production according to the SNDR between 2014 and 2018.
Baseline data:	2014 Reference: According to the statistical and information system of ONDR, the production of the project area was 165,398 tons, which 12,745 tons for the region of Belier and 152,653 tons for the Region of Gveke.
Indicator 2: The volume of rice sold in the target area increases by 30%.	
Reason:	The aim to increase by 30% the volume of rice sold in the area is a deduction of the Indicator 1 objective.
Baseline data:	2014 Reference: According to the project baseline surveys, paddy production in the sites is split between consumption (25%) and sale (75%). This reference data (123,299 tons) corresponds to 75% of the production of the area.

### 3.6 Examination of Project Implementation Process

#### (1) Implementation and management structure

The Project implantation and management structure is shown in Figure 3-1. The Project has been conducted by ONDR as the main implementing organization with supervision of Directorate of Planning, Programming and Finance (DPPF) of MINADER. For extension activities, ANADER has been involved as a collaborating organization. Director General of Planning, Statistics and Programming (DGPSP) has played a role as the Project Director and an ONDR officer has been appointed as the Project Manager on full-time basis who has been working mainly at the MINADER HQ in Abidjan. 3 officers have been posted from MINADER as full-time counterpart (C/P) personnel who are working with Japanese experts as much as possible stationed at the Project office in Yamoussoukro.

For the extension activities in the target areas, the Project has made contract with ANADER HQ (1st year) and Regional Office in Bouake (from 2nd year). Extension staffs have been appointed from concerned ANADER Zone offices who have been trained with basic techniques by the Project team and undertaken training for farmers at the respective sites. A number of millers and traders have been identified and trained by the Project team as important stakeholders of the rice value chain. They are expected to play an important role as members of rice sector platform.

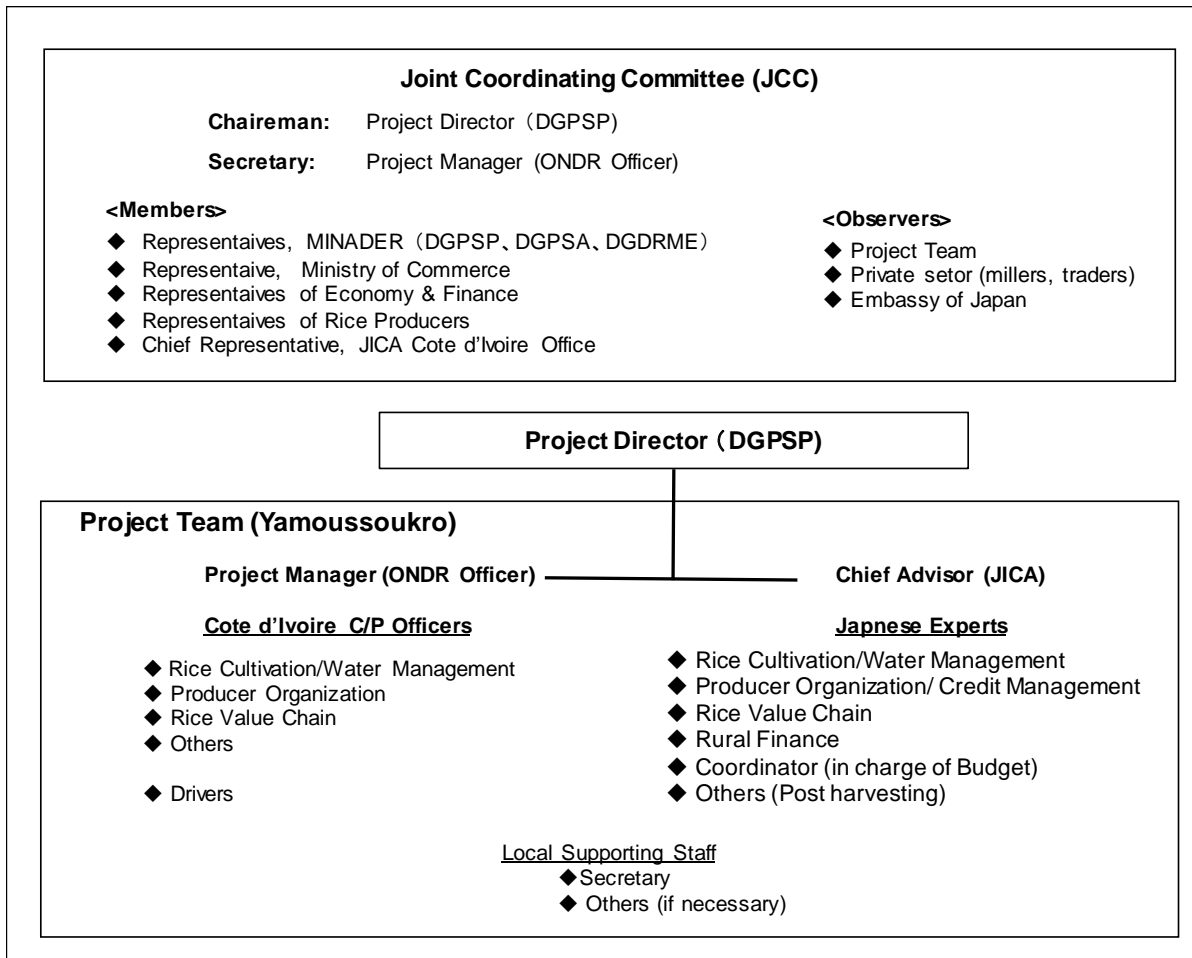


Figure 3-1: Project implementation and management structure

(2) Meetings for the Project management

Joint Coordinating Committee (JCC) has been organized to supervise and make higher-level of decisions concerning the Project activities and issues arisen. The JCC meetings have been held 5 times since the commencement of the Project. Apart from the JCC meetings, the Project team has held internal meetings regularly and discussed various issues required for implementation of activities.

(3) Communication among the Project team

The MTR team has observed that generally good collaborating relationship has been established in terms of executing activities among the Project team. Internal meetings are held whenever required. While one of the UGP members is out of office, communication is made through e-mails or telephone with other members. On the other hand, through the questionnaire and interviews with the Project members, the MTR team has recognized some communication gap existing between Japanese experts and Cote d'Ivoire officials as some interviewees reported that decisions for some activities had been made without sufficient discussion or consultation with each other.

#### (4) Reporting system of the Project activities

The Project team has compiled progress reports regularly to share the achievement and issues arising during the implementation process. The MTR team has felt that the way of sharing the progress reports needs to be improved as several types of progress reports were compiled and not all of them were shared among the team which seems to have caused misunderstanding of some issues.

## **4. Evaluation results by Five Criteria**

### **4.1 Relevance**

Relevance has continued to be high for the following reasons:

#### (1) Relevance to the development policies of Government of Cote d'Ivoire

The policy environment for the Project has not been drastically changed from the time when the Project commenced in 2014. Cote d'Ivoire Government has put a great emphasis on the development of rice sub-sector in the socio-economic and agriculture development policies. For the agricultural sector, Government has National Programme for Investment in Agriculture (NPIA) (2010) of which second phase is in process of formulation to cover 2016-2025. In line with the sector policy, the Government adopted Rice Rehabilitation Strategy in 2008 by which promotion of local rice production was focused on. The Strategy was revised in 2012 and the Revised Strategy for Rice Development (NRDS) 2012-2020 was formulated, which aims to cover national consumption requirements from 2016 onwards through local production. It focuses on the entire value chain from seed to production, processing, and marketing. The Project with an aim of promoting local rice through strengthening rice value chain, therefore, has been implemented in accordance with these national policies.

#### (2) Relevance to local needs

Local needs for the Project have continued to be high. Rice has been one of staple foods in the diet of most Ivoirians, with average annual consumption of 70 kg per person. While the current annual consumption of rice is estimated at around 3 million Mt, more than 70% of rice has been imported to meet the local demand, spending nearly UDS 500 million annually. In order to change the trends, it is essential to improve all the levels of rice value chain. The Project has been carrying out activities to support important actors of the value chain including local rice producers, millers and traders. The training participants whom the MTR team met during the field visits appreciated the techniques instructed by the Project, which could be an evidence for the high relevance to their needs.

#### (3) Relevance to the relating assistance policy of Japanese Government

The assistance policy of Japanese Government for Cote d'Ivoire has not been changed from the

time of the Project formulation. The policy document states that acceleration of economic growth by focusing on potential industries. Support for the agricultural sector is one of the priority areas in the Japan's Official Development Assistant (ODA) programme. Regarding the rice sub-sector, Cote d'Ivoire has been selected as the 2nd group of Coalition for African Rice Development (CARD) initiative. Accordingly, the Project has been placed in the primary industry development programme in the JICA's annual plan which aim is to improve food crop production and income for farmers. Hence, the Project has been well aligned to the foreign assistance policy of Japanese Government.

(4) Comparative advantage of technical cooperation by Japan

Rice is the most important staple food for Japanese people and Japan has developed the most advanced rice-related techniques including production, processing and distribution. On the other hand, rice sub-sector in Cote d'Ivoire has been yet in the process of developing, Hence, there is no doubt Japan has comparative advantage to implement the Project to contribute to development of the rice sector in Cote d'Ivoire. JICA has implemented similar projects in several countries particularly in Africa, which is also an advantage to Japan.

**4.2 Effectiveness**

Effectiveness of the Project is regarded as moderately low based on the following observations:

(1) Prospect for achievement of Project Purpose

Table 4-2 summarizes the results of assessment on achievement level of 4 Outputs and Project Purpose which details were discussed in 3.3.

Table 4-2: Results of assessment on achievement level of Outputs and Project Purpose

<b>Item</b>	<b>Achievement Level</b>
Output 1	Moderate
Output 2	Moderately low
Output 3	Low
Output 4	Difficult to assess
Project Purpose	Moderately low

As already reported, with good efforts made by the implementation team, the Project has been making a good progress in all the activities planned in the PDM. The knowledge and experience accumulated in the process of implementation shall certainly contribute to the realization of Project Purpose on a long-term basis. On the other hand, the achievement level of 4 Outputs is currently low as a whole, and consequently prospect for achievement of Project Purpose within the remaining period of 2 years may not be very high. The MTR team considers the following reasons for the low achievement.

### 1) Unaccounted critical issues in the rice sector

After the Project commenced, the Project team has come to recognize a number of critical issues existing in the rice sector in the target areas or at the national level, which had not necessarily been taken into account at the time of project formulation. They included:

- Shortage of high quality seed available to producers
- Lack of sustainable inputs credit service for farmers to start the cycle of cultivation on time
- Shortage of agricultural machineries particularly for ploughing (power tillers)
- Insufficient extension service to reach the majority farmers
- Lack of funds (credit service) for the millers to purchase a good amount of paddy for milling and improve the equipment and facilities

While the Project team has been undertaking activities to tackle these issues in the project framework, it may not be possible to solve the issues on a large scale without implementation of NRDS.

### 2) Effects of climate conditions

As discussed in 3.3, erratic and irregular rainfalls occurred in the 2015/16 cropping season had badly affected the rice production within the zone of the Project broadly. Many farmers were forced to abandon their rice fields before harvest in the target areas which had substantially affected many Project activities.

### 3) Limited timeframe

Despite efforts made by the Project team, farmers or stakeholders who have directly been supported by the Project is still limited in actual number. It will take a long time for recommended techniques to be adopted by the majority of producers, for millers to improve the quality of milled rice, for urban consumers to change preference to local rice. Since all of these require long-term actions, it is not feasible for the Project to realize them within the limited timeframe of the Project.

Based on these observations, the MTR team considers that although the achievement level of Project Purpose may not be very high in terms of indicators set in the PDM, the Project will be able to contribute greatly towards achievement of the Project Purpose by the end of the Project term.

### (2) Logic between Outputs and Project Purpose in PDM

Since all the 4 Outputs were important and required to achieve the Project Purpose, the logic between Outputs and Project Purpose in the PDM appeared good. As explained above, however, since there were a number of issues that had not been included in the original project framework but critically affected the Project implementation, the achievement of Project Purpose is anticipated to be

low. Therefore, the MTR team considers that 4 Outputs set in the PDM were not sufficient to achieve the Project Purpose. From this viewpoint, designing of the Project had a problem to a certain extent.

(3) Effects of important assumptions

There is 1 assumption from Output to the Project Purpose level identified at the beginning of the Project that was “The price of rice in international market does not fluctuate significantly”. When the food prices increased dramatically in 2008, the price of rice had also increased. However, since such dramatic price fluctuation did not occur in the past 3 years after the Project started, there has been no effect of this assumption.

### **4.3 Efficiency**

Efficiency of the Project was regarded as moderate to moderately low based on the following observations and analysis.

(1) Achievement level of Outputs

As discussed in 3.3, while some activities had not been clearly articulated in the current PDM such as support for input credit scheme, introduction of sustainable ploughing services and support for seed production, these activities were considered necessary to achieve the 4 Outputs. Hence, the Project team decided to include these activities which decision could be regarded appropriate. On the other hand, as already discussed in details, achievement level of Outputs is assessed generally low at the moment. In this regard, efficiency of the Project could be not very high.

(2) Appropriateness of Inputs from Cote d’Ivoire Government

Assignment of 4 full-time C/P officers, provision of equipment (two vehicle) and facilities including office space for the Project team and disbursement of C/P funds for local expense (including contract fee with ANADER) were the major inputs from Cote d’Ivoire Government. It was reported that disbursement of C/P funds was not sufficient and delayed in the first year, it has been improved from the second year. Amount of C/P funds has increased year by year and a total of 250 million FCFA has been provided for the Project related activities. The MTR team has learnt that the Project Manager played a role in securing budget by linking up between the MINADER HQ in Abidjan and Project office in Yamoussoukro. Hence, appropriateness of Inputs from Cote d’Ivoire Government is judged as moderately high.

(3) Appropriateness of Inputs from JICA

Inputs from JICA for the implementation of the Project included dispatch of Japanese experts, technical training in Japan for 4 officers to learn the rice development policy and provision of local expense. All the Inputs have been provided mostly as planned which has contributed to efficient



implementation of the Project. The appropriateness of Inputs from JICA, therefore, has been observed moderately high.

(4) Use of past experience and collaboration with other schemes

The Project has made efforts to utilize the experience and lessons in the past similar projects. The basic techniques instructed to the producers were selected by referring to the techniques developed in the JICA-supported Agricultural Machinery Training Project for Irrigated Rice Cultivation (Project-CFMAG) (1992-1997). Inputs credit scheme has been introduced based on the experience in the FAO-supported Rice Production Improvement Project in West Africa (APRAO). The Project is now in the process of utilizing 2KR Counter Value Fund for the credit scheme to purchase the paddy. With these efforts, efficiency of the Project implementation has been enhanced.

(5) Examination of important assumptions

Two important assumptions from activities to Output level were identified at the beginning of the Project: 1) Natural disaster such as drought and flood will not occur; and 2) Local price of agriculture inputs such as fertilizers, agrochemicals will not fluctuate significantly. While effect of the 2nd assumption is not confirmed, the 1st one has substantially affected the Project activities as erratic and irregular rainfalls occurred in the 2015/16 cropping season had badly affected the rice production. This has been one of the reasons for the low achievement of Outputs.

#### **4.4 Impact**

(1) Prospect of impact on the Overall Goal

When the Project Purpose is successfully achieved by the end of the Project, the Project will have impact on the Overall Goal that is “Volume of rice sold in the target area is increased.” Theoretically, while it appears correct, the timeframe is an issue as it needs to be realized within 2 to 3 years after the end of the Project. If the target area for the Overall Goal covers the entire 2 regions of Belier and Gbeke, the level of Overall Goal appears too high to be realized since the groups and areas currently targeted by the Project are small part of the 2 regions. Even if the Project Purpose is achieved by the end of the Project, a number of assumptions need to be satisfied for the Overall Goal to be realized in a few years. Some assumptions include:

- The techniques promoted by the Project continue to be disseminated to the producers across the 2 regions.
- After dissemination, those techniques are accepted by the majority of the producers and adopted by them. As a result, the volume of paddy production will increase.
- Unfavorable climate does not affect the rice production.
- The millers and traders are able to find sufficient markets for the rice produced by farmers.

In the current PDM, 1 assumption (“The price of rice in international market does not fluctuate significantly.”) is stated, but it may not be sufficient. In any case, while it is too early for the MTR team to assess as to what extent the Project will have impact on the Overall Goal at this stage, continuous efforts by the Government and stakeholders of the rice value chain will be required to make it happen. In addition to the project activities, this goal also depends on the combined action of all the stakeholders in the rice sector (ONDR and various Projects).

The MTR team recommends that the level of Overall Goal and its Indicators be reviewed towards the end of the Project at the feasible level.

#### (2) Impact on livelihood of the beneficiaries

As discussed in 4.1, rice is a staple food and source of income for most farmers in the target areas as well as the country. As the aim of the Project is to support farmers and other stakeholders of the rice value chain in improving their practices, it is anticipated that the Project will bring about positive impact on their livelihood on a large scale.

#### (3) Negative impact

Any negative impact has been caused by the Project so far and is not anticipated in the future.

### **4.5 Sustainability**

Overall sustainability considered to be moderate based on the following observations and analysis

#### (1) Policy and institutional aspect

As discussed in 4.1, the Project has been implemented very much in accordance with the government overall development policies. As far as the current policies are not changed dramatically by the government, the sustainability of the Project outcome will be maintained. It is the same for the institutional aspect. ONDR is a specialized body for implementing the programmes regarding the rice sector development. If the government maintains or strengthen ONDR, institutional sustainability will be enhanced.

#### (2) Financial aspect

While many activities have been carried out with financial support from JICA, the MINADER has been making efforts to secure own budget. A total amount of 350 million FCFA has been disbursed since the beginning of the Project in 2014. If it is continued, the financial sustainability will be secured.

On the other hand, financial sustainability at the level of the target groups (producers, millers and traders) will be very much depending on the profitability of rice as a business. If the target groups can generate adequate profit by applying knowledge and techniques promoted by the Project, they will continue to use them even without much support from the Project or the government. As the Project is

still at initial stage in terms of extension, it is difficult to get a clear picture regarding financial sustainability in the target groups. When the credit systems are successfully introduced to the rice sector, financial sustainability would be further boosted.

### (3) Technical aspect

Technical sustainability can be examined from two levels of viewpoint: level of C/P officers and that of target groups.

Firstly, knowledge and skills gained by the C/P officers will continue to assist them in carrying out their work as far as they are engaged in related work for the rice sector. Secondly, knowledge and techniques transferred to the target groups will help them in improving their production and management skills for a longer period as far as they are willing to do so. Therefore, a good level of sustainability can be expected in regard to the technical aspect. On the other hand, looking at the nature of techniques, 2 years of the remaining project period may not be enough to consolidate them as it usually takes long time new techniques and skills to be adopted. Some members of the Project team expressed concern that the producers have been supported by the Project in only one cropping season which may not be enough for them to adopt the recommended techniques.

## **5. Recommendations and lesson learnt**

### **5.1 Recommendations for the remained Project period**

#### (1) Enhancement of mutual communication and joint report preparation

The MTR team realized that there was a recognition gap among the Project team members (JICA experts and Cote d'Ivoire officials) in terms of information sharing of the matters related to the Project. Some Cote d'Ivoire officials pointed out that they have not always been involved in the decision making process. It is strongly recommended to enhance mutual communication consciously in major step of the Project activities in order to share common understanding among the Project team.

In relation to that, the MTR team recognizes that there were rooms for enhancement of consultation among the Project team in the process of preparation of Project reports.

#### (2) Enhancement of platform activities

It seems that platform activities are not much active in Buake and still under preparation stage in Belier because platform members themselves do not recognize the significant benefit of participating in platform. Since organizing of platform itself is not objective but means for enhancement of information sharing among stakeholders involved in rice value chain, reviewing and strengthen of the platform activities through participatory approach of the stakeholders for them to clearly understand the tangible benefits on the platform. More specifically, materialization of platform in Belier and revitalization of

platform activities in Buake are expected.

(3) Effective and efficient provision of extension services

Regarding the extension services, PRORIL has taken two step approaches which mean that the Project gives intensive training to extension workers of ANADER at first and then each extension worker visits the Project sites to give rice cultivation training to the farmers based on contract with ANADER. The MTR team applauded the effort made by the Government of Cote d'Ivoire to secure necessary budget for extension services conducted by ANADER. However the capacity of provision of extension services is necessary to further be enhanced to cover required numbers of extension workers, core farmers and ordinary farmers in the process. In such circumstances, the Project has started to take another approach from 2016, in which the Project gives training opportunities to selected core farmers to supplement the extension services of ANADER, though ANADER is expected to play major roles in provision of extension services. The MTR team encourages the Project to make efforts to explore such a way of extension service provision much further. .

(4) Involvement of MINADER

In order to ensure sustainability of the Project activities, ownership of MINADER is indispensable. The MTR team was pleased to realized that 4 full-time officials had been assigned to the Project and working with Japanese experts. For further assurance of sustainability of the Project, much more involvement of MINADER is expected.

In addition, assignment of counterpart personnel for activities on credit system and mechanization is required for the sustainability of these activities, though they had not been included in the initial project framework.

(5) Modification of PDM

The MTR team recommends JCC members to consider modification of PDM as shown in ANNEX-XII in order to have clearer understanding of the Project among concerned stakeholders. Actual revision of the PDM is expected to be approved after intensive discussions in JCC. Proposed PDM Ver. 4 is attached as ANNEX XIII.

## **5.2 Recommendations beyond the Project**

(1) Enhancement of system of producing quality rice seed

PRORIL has started to give training of rice seed production to the selected farmers in order to ensure provision of quality rice seed for the Project activities because rice seeds in the domestic market have problems such as low germination rate, contamination, and low purity. It is recommended the Government of Côte d'Ivoire to enhance qualified rice seeds producing and distribution system using

experience of pilot activities under PRORIL, as provision of qualified seeds to farmers is essentially important for promotion of domestic rice production and distribution.

(2) Enhancement of the local rice promotion activities

It seems that steady and continuous efforts are required for changing of consumers' attitude towards rice consumption from imported rice to domestically produced rice. In this regards, it is recommended MINADER to enhance continuous national rice promotion activities in order to increase local rice consumption. In addition to that, whole rice value chain is recommended to be enhanced in accordance with the expectation of ordinary consumers on rice.

(3) Measures against climate change

- 1) The shortage of rain from 2015 to 2016 has caused very limited cropping of rice in Belier and Bouake and it has deeply influenced to the progress of the Project activities. In order to minimize negative impact of climate change to the rice production, provision of proper irrigation facilities should be developed and maintained.
- 2) As another measures against climate change, introduction of new rice varieties with drought tolerance also be recommended in collaboration with Africa Rice Center.

(4) Mechanization for rice production

Mechanization for rice production is important for promotion of rice production. Nevertheless, agricultural machinery services available for small scale farmers are very limited. In this regards, PRORIL has been facilitating the introduction of machinery service provider. For sustainable provision of machinery services to the ordinary farmers, necessary policy support by the Government of Cote d'Ivoire is recommended, such as facilitation of import of agricultural machinery, credit system for machinery procurement and so on. In addition, the MTR team pointed out that free distribution of machinery to farmers should be carefully considered as it might hinder the sustainable agricultural mechanization through discouraging of private sectors to investment for the machinery leasing business.

(5) Establishment of sustainable credit system

Access to credit of stakeholders involved in rice value chain is one of bottlenecks of promotion of local rice production. In this regards, PRORIL has been trying to establish sustainable credit system in collaboration with private financial agency. From the view point of sustainability of credit system for rice value chain actors, policy supports by the Government of Cote d'Ivoire are recommended such as subsidiary support to financial institutions. It is recommended to materialize credit system available for farmers, processors, distributors and agricultural input provider including machinery.

### **5.3 Lesson learnt**

In interview survey during the mission, some Ivorian officials concerned pointed out that they have not been much involved in the designing stage of the Project. Involvement of members from recipient country for designing of projects is indispensable for securing of ownership and sustainability of projects. In addition, flexible review and revision of project framework is also important so as to reflect updated information and circumstances into the project.

## **6. Conclusion**

The MTR team has conducted a series of field visits and interviews with the Project team members, government officers, farmers and other stakeholders concerned with the Project, and collected information necessary for the review work and assessed the progress of the Project. As a result, it is confirmed that the Project has been implemented as designed with a good collaboration between Ivorian officers concerned and Japanese experts, and the Project contributes for the realization of the goals for NRDS. If the Project team continues to undertake the activities in the same manner, it can be expected that the Project will bring about good results. On the other hand, the Project has been facing a number of issues and challenges that need to be attended. Therefore, it is expected that the Project team continue work together in order to materialize the set goal. In this context, the MTR team expects the Project team consider the recommendations made above to improve the performance of the Project.

(End of Report)

## **List of ANNEX**

ANNEX I:	Schedule of Joint Mid-term Review Study
ANNEX II:	Evaluation Grid for Mid-term Review
ANNEX III:	Project Design Matrix (PDM) ver. 3 (used for evaluation)
ANNEX IV:	Inputs from Cote d'Ivoire Government
ANNEX V:	Inputs from JICA
ANNEX VI:	Summary of Activities undertaken from February 2014 to December 2016
ANNEX VII:	Proposed Revision of the PDM
ANNEX VIII:	PDM Ver. 4 (Proposed)

## ANNEX 1

## Schedule of Joint Mid-term Review Study

Day				Programme	Region	
February	13	Mon	AM PM	9h30 Meeting with JICA@JICA CI 10h30 Kick-off meeting with C/P evaluators@JICA CI 14h00 Meeting with Mr Kuniyasu and Japanese evaluators@JICA CI	Abidjan	
	14	Tues	AM PM	9h Interview at MINADER 11h Interview with ONDR 14h Interview with ANADER	Abidjan	
	15	Wed	AM PM	report writing	Abidjan	
	16	Thurs	AM PM	8h Move to Yamoussoukro Interview to C/Ps at project office	Yamoussoukro	
	17	Fri	AM PM	Interview to PF members (producer association) in Yamoussoukro Interview to extension officers (ANADER:CZ, ADR et TSOPA) Interview to farmers (training participants) during site visit in Bélier	Yamoussoukro	
	18	Sat	AM PM	report writing	Yamoussoukro	
	19	Sun	AM PM	report writing	Yamoussoukro	
	20	Mon	AM PM	8h Move to Bouake lunch Meeting at Bouake Interview to PF Interview with URIB(milers)	Bouaké	
	21	Tues	AM PM	Courtesy call to ANADER Bouaké Interview to extension officers Interview to farmers (training participants) during site visit in Bouaké Move to Yamoussoukro	Bouake/ Yamoussoukro	
	22	Wed	AM PM	Interview to C/Ps at project office Visit project field/Seed Production field Interview to PF members (processors) in Yamoussoukro Interview to collaborator	Yamoussoukro	
	23	Thurs	AM PM	Interview to farmers (training participants) during site visit in Bélier Move to Abidjan	Yamoussoukro/ Abidjan	
	24	Fri	AM PM	11hr FAO Report Writing	Abidjan	
	25	Sat	AM PM	Report Writing	Abidjan	
	26	Sun	AM PM	Report Writing	Abidjan	
	27	Mon	AM PM	9h Internal meeting with JICA 10h30-15h30 discussion with CP Evaluators discussion and report preparation	Abidjan	
	28	Tues	AM PM	11h30 Document review with CP Evaluators Signing of Joint Review Report	Abidjan	
	March	1	Wed	AM PM	9h45 Courtesy Call to MINADER 10h JCC Report to EOJ	Abidjan
		2	Thurs	AM PM	9h Report to JICA office	Abidjan



## (1) Achievement Level

Items to Examine		Evaluation Questions	Necessary Data / Information	Information Sources / Data Collection Methods
Inputs	Inputs from JICA side	Have the Japanese Experts been dispatched appropriately to support the Project?	Assignment record of Japanese Experts	Annual/ Progress reports
		Has the counterpart training been undertaken appropriately to support the Project?	Record on trainings conducted	Annual/ Progress reports, Reports on trainings
		Have equipment been provided appropriately to support the Project?	List and record of equipment provided	List of equipment provided, Annual/ Progress reports
		Has the financial assistance (local expense) been provided sufficiently to support the Project?	Financial record on local expense	Financial reports, Annual/ Progress reports
	Inputs from Pakistan/Sindh/Sindh side	Have the Pakistan/Sindh Counterpart (C/P) officers been assigned appropriately to support the Project?	Assignment record of C/Ps	Annual/ Progress reports
		Has the Pakistan/Sindh Government allocated budget sufficiently to support the Project?	Financial records on budget and disbursement of Pakistan/Sindh Government	Financial reports of Pakistan/Sindh Government, Annual/ Progress reports
Has the Pakistan/Sindh Government provided land, office, other necessary equipment required by the Project?		List of important equipment locally available	Reports from Pakistan/Sindh Government, Annual/ Progress reports	
Outputs	Achievement Level of Output 1: "The appropriate technologies and management for livestock development are established through on-farm application at the pilot farms with gender consideration."	To what extent is OVI 1-1 "Seventy (70) % of the responsible counterparts, including master trainers and extension workers, and pilot farms acquire contents of the technology guidelines prepared by the Project." likely to be achieved?	Understanding level of C/Ps and pilot farmers on the contents of the technology guidelines	Progress reports, monitoring reports prepared by the Project, Interviews and questionnaires to Experts, C/Ps and pilot farmers
		To what extent is OVI 1-2 "Appropriate technologies are verified at 25 farms." likely to be achieved?	Verification results of appropriate technologies developed under the Project (no. of technologies and farms)	
	Achievement Level of Output 2: "The methods for utilizing livestock resources are verified."	To what extent is OVI 2-1 "Seventy (70) % of the responsible counterparts and concerned livestock farmers understand the guideline for the utilizing livestock resources." likely to be achieved?	Understanding level of C/Ps and farmers on the guidelines	Progress reports, monitoring reports prepared by the Project, Interviews and questionnaires to Experts, C/Ps and farmers
		To what extent is OVI 2-2 "The rate of survival of the calves salvaged by the Project is 90%." likely to be achieved?	Changes in survival rate of the calves salvaged by the Project	
	Achievement Level of Output 3: "The verified appropriate technologies and the methods for utilizing livestock resources are disseminated in the pilot districts."	To what extent is OVI 3-1 "Seventy (70) % of the responsible counterparts, including master trainers and extension workers, acquire contents of the extension plan and materials prepared by the Project." likely to be achieved?	Acquisition level of responsible C/Ps regarding contents of the extension plan and materials prepared by the Project.	Progress reports, monitoring reports prepared by the Project, Interviews and questionnaires to Experts, C/Ps
		To what extent is OVI 3-2 "Appropriate technologies are disseminated to 7,500 farmers (95% of farmers by extension workers and 5% of farmers by farmer-to-farmer)." likely to be achieved?	Number of farmers who acquired appropriate technologies promoted by the Project	
	Achievement Level of Output 4: "The capacity of the Livestock Department for Project planning, management, and coordination is strengthened."	To what extent is OVI 4-1 "The annual plan report of the Project is prepared by the initiative of the Department." likely to be achieved?	Annual plan reports of the Project prepared by the initiative of the Department	Prepared annual plan reports, Interviews and questionnaires to Experts, C/Ps and relevant officers
		To what extent is OVI 4-2 "The results of monthly monitoring is reported by the responsible district offices." likely to be achieved?	Monthly monitoring reports prepared by the responsible district offices	
		To what extent is OVI 4-3 "The annual evaluation report of the Project is prepared by the initiative of the Department." likely to be achieved?	Annual evaluation reports of the Project prepared by the initiative of the Department	Prepared annual evaluation reports, Interviews and questionnaires to Experts, C/Ps and relevant officers
		To what extent is OVI 4-4 "The Livestock Development Platform is regularly held by the initiative of the Department." likely to be achieved?	Records of the Livestock Development Platform meetings	
		To what extent is OVI 4-5 "The Standard Operation Procedures (SOP) is issued by the Department." likely to be achieved?	Standard Operation Procedures (SOP) issued by the Department regarding the guidelines and manuals produced under the Project	Issued SOP
	Project Purpose (PP)	Achievement Level of PP: "The foundation for increasing incomes and assets of livestock farmers is built up in the pilot districts."	To what extent is OVI 1 "The target group of the Project use the appropriate technologies regularly as indicated in the Appropriate Technology Development Checklist." likely to be achieved by the end of the Project?	Number of farmers practicing appropriate technologies promoted by the Project
To what extent is OVI 2 "Average milk yield of cattle/buffaloes of the pilot farms increases 25 %." likely to be achieved by the end of the Project?			Changes in average milk yield of cattle/buffaloes of the pilot farms	Milk production records at the pilot farms, progress reports, monitoring reports prepared by the Project
To what extent is OVI 3 "Average daily gain of cattle/buffaloes of the pilot farms increases 10 %." likely to be achieved by the end of the Project?			Changes in average daily gain of cattle/buffaloes of the pilot farms	Daily gain records at the pilot farms, progress reports, monitoring reports prepared by the Project
To what extent is OVI 4 "The number of calves salvaged by the Project per year is 50." likely to be achieved by the end of the Project?			Number of calves salvaged by the Project per year	Progress reports, monitoring reports prepared by the Project
To what extent is OVI 5 "The Standard Operation Procedures (SOP) is implemented by the Department to apply the guideline of technology, the extension plan and materials prepared by the Project for the entire Department." likely to be achieved by the end of the Project?			Standard Operation Procedures (SOP) implemented by the Department	Progress reports, monitoring reports prepared by the Project, Interviews and questionnaires to relevant officers
Overall Goal	Achievement Level of Overall Goal: "The appropriate technologies and the methods for utilizing livestock resources are adopted by the farmers in and outside the pilot districts."	To what extent is OVI 1 "Another 20% of the target group in the Project districts (1,500 livestock farmers in 5 districts) and 750 livestock farmers outside of the pilot districts use the appropriate technologies regularly." likely to be achieved?	Number of farmers practicing appropriate technologies promoted by the Project outside of the pilot districts	Monitoring reports on livestock farmers prepared by the Livestock Development
		To what extent is OVI 2 "Twenty (20) % of the target group have increased their incomes and assets." likely to be achieved?	Changes in incomes and assets of the target group	

(2) Implementation Process

Items to Examine		Evaluation Questions	Necessary Data / Information	Information Sources / Data Collection Methods
Project Implementation Process	Project Management System	Have the Project activities been monitored appropriately by Pakistan/Sindh Government and JICA?	Record on activities, Opinion of Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Meeting minutes, Annual/ Progress reports, Interviews and questionnaires to Experts, C/Ps, JICA staff
		Have the Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO) appropriately been reviewed?		
		Have Japanese Experts and Pakistani C/Ps adequately communicated with each other to share information regarding the project management and activities?		
		Have regular meetings between Japanese Experts and Pakistani C/Ps sufficiently contributed to solving problems that occurred in the implementation process?		
		Have the project team and JICA HQ/local office sufficiently communicated with each other to share information regarding project management and activities?		
	Ownership of the Project	Have the Pakistani C/Ps adequately participated in management and activities of the Project?	Financial report on budget of Pakistan/Sindh Government, Opinion of Japanese Experts and Pakistani C/Ps	Financial reports of Pakistan/Sindh/Sindh Government, Interviews and questionnaires to Experts, C/Ps
		Has the Pakistan/Sindh Government allocated sufficient budget for of the Project?		
	Collaboration with Other Projects	Has the Project adequately collaborated with other projects implemented either by JICA or other donors in the country?	Record on activities, Opinion of Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Meeting minutes, Annual/ Progress reports, Interviews and questionnaires to Experts, C/Ps
Factors Affecting the Implementation Process	Have restructuring of implementing organizations or reshuffling of the supervisors and C/Ps affected the implementation of the Project?			
	Are there unpredictable factors which have adversely affected the implementation process?			

(3) Evaluation based on Five Evaluation Criteria

Items to Examine		Evaluation Questions	Necessary Data / Information	Information Sources / Data Collection Methods
Relevance	Relevance to Local Needs, Policies, Priority	Has the technical cooperation/advice provided under the Project been relevant to the needs of Pakistan/Sindh Government?	Development policies of Pakistan/Sindh, Opinion of officers in charge of national development, Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Review of policy documents, Interviews and questionnaires to relevant officers
		Has the technical cooperation/advice provided under the Project been relevant to the needs of the target group?	Opinion of beneficiaries (farmers) in target areas	Interviews and questionnaires to farmers
		Has the purpose of the Project been in line with and had higher priority in the national development plan of the Pakistan/Sindh Government?	Development policies of Pakistan/Sindh, Opinion of officers in charge of national development, Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Review of policy documents, Interviews and questionnaires to relevant officers, Experts, C/Ps
		Has the Project been in accordance with the country assistant policy of Japanese Government and JICA for Pakistan?	Country assistant strategy and policy of Japanese Government and JICA to Pakistan/Sindh	
	Appropriateness of Project Approach	Has the approach taken by the Project been appropriate in terms of the development of Pakistan/Sindh?	Development policies of Pakistan/Sindh, Opinion of officers in charge of national development, Japanese Experts, Pakistani C/Ps engaged in the Project	Review of policy documents, Interviews and questionnaires to relevant officers, Experts, C/Ps
		Were the target areas appropriately selected in accordance with the development strategy of Pakistan/Sindh Government?		
		Was the target group appropriately selected in accordance with the development strategy of Pakistan/Sindh Government?		
		Did Japan have comparative advantage in technology (know-how) and experience for supporting the Project?		
Effectiveness	Achievement level of Project Purpose	Is the Project Purpose likely to be achieved by the end of the Project?	Record on activities, Opinion of Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Meeting minutes, Annual/ Progress reports, Interviews and questionnaires to Experts and C/Ps
		Have the Outputs effectively been contributing to the achievement of the Project Purpose?		
	Effects of External Factors (Important Assumption)	Have any other factors apart from the Project contributed to the achievement of the Project Purpose?		
		Has the assumptions affected the realization of the Project Purpose?		
		Have any other external factors negatively affected the realization of the Project Purpose?		
Efficiency	Contribution of Activities	Have adequate activities been carried out on time to realize the Outputs according to the original plan?	Record on activities, Opinion of Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Meeting minutes, Annual/ Progress reports, Interviews and questionnaires to Experts and C/Ps
	Appropriateness of Inputs by JICA Side	Was the dispatch of Japanese experts appropriate in terms of number, expertise, length and timing of their assignment?		
		Was the provision of equipment by the Japanese side appropriate in terms of types, quantity and timing of procurement?		
		Has the training of C/Ps in Japan or ASEAN countries appropriately undertaken in terms of number of trainees, contents (relevancy to the project activities), length and timing?		
		Has the local cost support by the Japanese side been appropriate in terms of amount, use, and timing of disbursement?		

Items to Examine		Evaluation Questions	Necessary Data / Information	Information Sources / Data Collection Methods
Efficiency	Appropriateness of Inputs by Pakistan/Sindh Side	Has the assignment of C/P staff been appropriate in terms of number, position and competency?	Record on activities, Opinion of Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Meeting minutes, Annual/ Progress reports, Interviews and questionnaires to Experts and C/Ps
		Have the facilities and equipment provided by the Pakistan/Sindh Government been appropriate in terms of size, quality and convenience for use?		
		Has the amount of budget for the project disbursed by the Pakistan/Sindh Government been appropriate for undertaking the project activities?		
	Effects of External Factors	Are there any external factors that have positively affected the efficiency of the Project?		
		Are there any external factors that have negatively affected the efficiency of the Project?		
Impact (prospect)	Probability of Overall Goal to be Achieved	Is the Overall Goal likely to be realized as a result of the Project?	Record on activities, Opinion of Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Meeting minutes, Annual/ Progress reports, Interviews and questionnaires to Experts and C/Ps
	Effects of External Factors	Were the Overall Goal and the Project Purpose compatible and set at appropriate levels? (Was there big gap between two levels?)		
		Are the assumptions from the Project Purpose level to the Overall Goal level likely to be satisfied?		
		Are there any unanticipated factors that may affect the realization of the Overall Goal?		
	Unexpected impact	Were there any unexpected positive or negative impacts that the Project caused on the relevant Government policy, system, socio-economic conditions and technological development?		
Sustainability (prospect)	Institutional Aspect	Is the Pakistan/Sindh Government likely to have adequate institutional arrangement (policy and system) by which the Outputs achieved through the Project can be sustained after the technical cooperation ends in 2019?	Record on activities, Opinion of Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Meeting minutes, Annual/ Progress reports, Interviews and questionnaires to Experts and C/Ps
	Financial Aspect	Is the Pakistan/Sindh Government likely to secure an adequate budget with which the Outputs achieved through the Project can be sustained after the technical cooperation terminates?		
	Organizational Aspect	Is the Pakistan/Sindh Government likely to maintain and develop the organizational structure including appropriate staff assignment with which the Outputs achieved through the Project can be sustained after the technical cooperation terminates?		
	Technical Aspect	Have the Pakistani C/Ps and target groups accepted the knowledge and skills strengthen through the Project and are they likely to continue to use it?		
		Are relevant organizations likely to maintain and further develop the implementation capacity after the Project terminates in 2019?		
		Is the practice in the target areas likely to be disseminated to other areas after the Project terminates?		
	Overall Sustainability	Is the Project achievements likely to have a high level of overall sustainability?		

#### (4) Review of the Project Plan

Items to Examine		Evaluation Questions	Necessary Data / Information	Information Sources / Data Collection Methods
Review of the Project Plan	Possible Measurements	Is there any necessary change in terms of activities and inputs of the Project?	Record on activities, Opinion of Japanese Experts, Pakistani C/Ps	Meeting minutes, Annual/ Progress reports, Interviews and questionnaires to Experts and C/Ps
		Is there any necessary change in terms of outputs/project purpose and their target indicators of the Project?		
		What are the other possible measures to further facilitate the project implementation?		
		Is there any necessary change in terms of the implementation mechanism of the Project?		

## Project Design Matrix (PDM) Ver. 3 (used for evaluation)

<b>Project Title:</b>	Local Rice Promotion Project in Republic of Cote d'Ivoire (PRORIL)
<b>Period:</b>	February 2014 –January 2019 (5 years)
<b>Implementing Agency:</b>	Ministry of Agriculture and Rural Development (MINADER), National Rice Development Office (ONDR)
<b>Target Areas:</b>	Abidjan, Yamoussoukro, Belier Region, Gbeke Region
<b>Target Group</b>	Producers groups, rice millers, traders
<b>Date Formulated/Modified:</b>	Version: 1 (October 14, 2013), 2 (April 4, 2014), 3 (February, 2016)

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<b>Overall Goal:</b> Volume of rice <sup>1)</sup> sold in the target area is increased.	<ol style="list-style-type: none"> <li>Volume of rice produced/sold in the target area is increased by 30%.</li> <li>Volume of rice sold from target area to urban area is increased by 30%.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Statistics and information system of rice sector operated by ONDR</li> </ul>	
<b>Project Purpose:</b> Volume of rice sold by target groups is increased.	<ol style="list-style-type: none"> <li>Volume of paddy rice produced by target groups (producers) is increased by 40%.</li> <li>Volume of paddy rice sold by target groups (producers) is increased by 40%.</li> <li>Volume of milled local rice sold by target group (millers) is increased by 50%.</li> <li>Volume of milled local rice sold by target groups (traders) is increased by 50%.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Target group monitoring document</li> <li>Stakeholder monitoring document</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>The price of rice in international market does not fluctuate significantly.</li> </ul>
<b>Output:</b> 1 Dialogue among stakeholders <sup>2)</sup> is promoted.	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 Target producers groups/rice millers/traders are identified.</li> <li>1.2 At least 75% of identified groups participate in the platform.</li> <li>1.3 All the participants to the platform meet at least 4 times per year.</li> <li>1.4 Common condition of rice production and sales is shared among stakeholders.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Project data</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>The price of rice in the domestic market does not fluctuate significantly</li> </ul>
2 Knowledge and techniques provided through training are utilized by target groups.	<ol style="list-style-type: none"> <li>2.1 80% of the producers participate in the training courses apply 75% of basic technologies.</li> <li>2.2 80% of the producers /distributes training participants apply 75% of basic techniques.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Project data</li> </ul>	
3 Capacity of selected groups <sup>3)</sup> for rice producing/milling/trading is strengthened by “additional support”.	<ol style="list-style-type: none"> <li>3.1 50% of selected groups attain the goals set for “additional support”<sup>4)</sup>.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Project data</li> </ul>	
4 Effort of stakeholders to promote local rice is accelerated.	<ol style="list-style-type: none"> <li>4.1 A guideline of the project approach is developed.</li> <li>4.2 Preference to purchase local rice by consumers is improved by 30%.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Project data</li> </ul>	

Activities:	Inputs:		Important Assumption:
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 Identify detail profile of target groups.</li> <li>1.2 Identify other stakeholders involved in rice promotion in the target area.</li> <li>1.3 Facilitate the dialogue among stakeholders.</li> <li>2.1 Develop the training materials.</li> <li>2.2 Organize the technical training for extension workers.</li> <li>2.3 Provide the input for the training for target producers (seed, fertilizer, etc.).</li> <li>2.4 Organize the technical training to target producers groups.</li> <li>2.5 Organize the technical training to target rice millers/traders.</li> <li>2.6 Monitor and evaluate the achievement of target groups.</li> <li>3.1 Develop the menus for “additional support”.</li> <li>3.2 Select the beneficiaries for “additional support”.</li> <li>3.3 Work out detailed plan of “additional support” with government, private institutes and donors.</li> <li>3.4 Implement the “additional support”.</li> <li>3.5 Monitor and evaluate the results of “additional support”.</li> <li>4.1 Collect data on the volume of local rice distribution.</li> <li>4.2 Conduct study on the preference of local rice by consumers.</li> <li>4.3 Promote local rice to urban consumers.</li> <li>4.4 Develop guideline of the project approach.</li> </ol>	<p>Japan</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Experts <ul style="list-style-type: none"> <li>Chief Advisor</li> <li>Rice Cultivation/ Management</li> <li>Rive Value Chain</li> <li>Irrigation/Water Management</li> <li>Rural Finance</li> <li>Coordinator</li> <li>Others (e.g. Post-harvest Facility)</li> </ul> </li> <li>(2) Training of counterpart personnel in Japan and/or in the Third Countries</li> <li>(3) Provision of machinery and equipment</li> <li>(4) Local expenses for project activities <ul style="list-style-type: none"> <li>Expenses for training, workshops, seminars, etc.</li> <li>Teaching materials for training</li> <li>Others as necessary</li> </ul> </li> </ol>	<p>Cote d'Ivoire</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Counterpart Personnel <ul style="list-style-type: none"> <li>Project Director</li> <li>Project Manager</li> <li>Rice Cultivation/ Water Management</li> <li>Farmer Organization</li> <li>Rive Value Chain</li> <li>Others</li> </ul> </li> <li>(2) Provision of facility and equipment <ul style="list-style-type: none"> <li>Suitable office space with necessary equipment and utilities (Electricity, water, , air conditioners, etc.)</li> </ul> </li> <li>(3) Arrangements <ul style="list-style-type: none"> <li>Access to the necessary information, permission to undertake project activities, and securing safety</li> <li>Information as well as support for obtaining medical services</li> <li>Credentials or identification cards</li> </ul> </li> <li>(4) Budget Allocation <ul style="list-style-type: none"> <li>Allocation of counterpart budget</li> <li>Operation and maintenance cost of provided equipment and developed facilities in the Project</li> <li>Financial support for the project-assigned personnel</li> </ul> </li> <li>(5) Others as necessary</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Natural disaster such as drought and flood will not occur</li> <li>Local price of agriculture inputs such as fertilizers, agrochemicals, will not fluctuate significantly</li> </ul> <p><b>Precondition:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Security condition in target area is maintained</li> </ul>

1) “Rice” in the PDM refers to locally produced rice (Indica varieties).

2) Stakeholders include all the institutions involved in the rice sector in the target area including government, cooperatives donors and private sector.

3) Selected producer groups and rice millers/traders are those who show excellent achievement based on the monitoring of output 2.

4) “Additional support” will be worked out in the course of the activities.

## **ANNEX IV** Inputs from Cote d'Ivoire Government

### (1) List of Counterpart Personnel

<b>No</b>	<b>Name of Counterpart Personnel</b>	<b>Position / Organization</b>	<b>Technical Field in Charge</b>	<b>Period Assigned</b>
1	Ouattara Zanga Fousséni	Head of Planning Services, ONDR	Project Manager	Feb. 14th, 2014 to date
2	Kouame Ambroise Koffi	Head of Irrigation Facilities Service	Rice Cultivation/ Water Management	-ditto-
3	N'gbra Konan Yves	Head of Studies and Project Planning Service	Rice Value Chain	-ditto-
4	Kouakou Kouakou Lancina	Assistant of Sub- director of Farmers Professional Organization	Farmer Organization	-ditto-

### (2) List of Equipment and Facilities

Project office building in Yamoussoukro

### (3) Budget Allocated and Disbursed

(Unit: Million FCFA)

<b>Year</b>	<b>2014</b>	<b>2015</b>	<b>2016</b>	<b>Total</b>
Amount Allocated	50	50	200	300
Amount Disbursed	50	50	150	250

### List if expense provided by MINADER

- 1) Lighting and water expenses of project office
- 2) Office Maintenance fee
- 3) Equipment and materials for office (some part)
- 4) Office equipment and supplies
- 5) Salary and allowance for counter parts
- 6) Salary for employees (Accountant, drivers and maintenance workers)
- 7) Purchase a vehicle, fuel and vehicle maintenance cost
- 8) Allowance for JCC
- 9) A part of local re-commission (ANADER) fee.

## ANNEX V Inputs from JICA

### (1) Assignment of Japanese Experts

No	Names	Field of Expertise	Duration of Assignment
2	Norio KUNIYASU	Chief Advisor/Rice Value Chain Network(1)	2015/7/18/—8/1/(15), 2015/11/9/—12/1/(23) 2016/1/24/—3/5/(42), 2016/7/18/—8/14/(28)
3	Jun CHUJO	Deputy Chief Advisor/Credit management/Farmers Organization	2014/2/20/—4/11/(51), 2014/6/2/—10/14/(135) 2015/1/10/—3/10/(60), 2015/4/13/—7/29/(108) 2016/1/13/—3/4/(52)
4	Jun CHUJO	Credit management/Farmers Organization	2016/5/10/—8/3/(86), 2016/10/18/—12/25/(59)
5	Yuzo KOBAYASHI	Rice Cultivation	2014/2/20/—4/11/(51), 2014/6/2/—7/31/(60) 2014/12/1/—2015/2/8/(60), 2015/4/30/—6/28/(60), 2015/8/29/—10/15/(48)
6	Yuzo KOBAYASHI	Rice Cultivation/Organization Development(1)/Training Support(1)/Monitoring(1)	2016/5/28/—6/14/(18), 2016/10/15/—12/13/(60)
7	Ryoichi IKEDA	Rice Seed Production	2015/1/10/—2/8/(30), 2016/1/13/—2/6/(25) 2016/9/20/—10/4/(15),
8	Takashi NANYA	Rice cultivation machinery management	2015/5/31/—7/14/(45), 2015/10/18/—12/16/(60)
9	Takashi NANYA	Rice cultivation machinery management /Organization Development(2)/Training Support(2)/Monitoring(2)	2016/5/10/—7/17/(69), 2016/9/20/—11/18/(60)
10	Eiichi TAKIGAWA	Irrigation/Water Management	2014/2/20/—4/11/(51), 2014/6/29/—8/27/(60) 2015/1/13/—3/10/(57), 2015/5/31/—8/1/(63)
11	Eiichi TAKIGAWA	Platform/ Irrigation/Water Management	2016/1/13/—3/3/(51)
12	Eiichi TAKIGAWA	Deputy Chief Advisor/Platform/ Irrigation/Water Management	2016/7/3/—8/14/(43), 2016/11/28/—12/25/(28)
13	Makoto HOSHI	Rural Finance	2014/6/29/—8/12/(45), 2014/11/23/—12/22/(30) 2015/5/7/—7/5/(60), 2015/11/14/—12/13/(30)
14	Makoto HOSHI	Rural Finance/Organization Development(3)	2016/5/18/—7/19/(63), 2016/11/7/—12/25/(49)
15	Hiroyuki KURONUMA	Coordinator/Rice Value Chain Network(2)	2014/2/20/—4/11/(51), 2014/6/2/—7/31/(60) 2014/10/6/—12/4/(60), 2015/4/13/—6/11/(60) 2015/9/17/—11/24/(69)
16	Naoto ARAI	Coordinator/Rice Value Chain Network(2)	2016/1/13/—3/3/(51), 2016/4/30/—7/29/(91) 2016/10/19/—12/25/(68)
17	Naoto ARAI	Impact Evaluation Support(1)	2015/5/31/—7/14/(45), 2015/11/2/—12/22/(51)
18	Mariko SHIBASASKI	Impact Evaluation Support(2)	2015/5/31/—7/14/(45), 2015/11/14/—12/1/(30) 2016/1/13/—2/26/(45)
19	Shimpei KATO	Impact Evaluation Support	2016/5/28/—7/29/(63), 2016/10/19/—12/17/(60)

## (2) Local Expenditure

unit:YEN

Description	Year 1	Year 2	Year 3	Total
	Feb.2014-May.2014	May.2014-Apr. 2016	May.2016-Jan. 2019	
1. Ordinary employment cost	0	1,606,868	2,972,857	4,579,725
2. Special employment cost	3,025,065	10,936,003	5,522,186	19,483,254
3. Vehicle cost	2,949,018	18,958,134	15,847,128	37,754,280
4. Rental cost	64,393	63,810	3,652	131,855
5. Maintenance cost for facility and equipment	472,150	7,502,570	712,099	8,686,819
6. Consumable cost	413,941	16,822,278	714,679	17,950,898
7. Traveling expense and Transportation	0	4,475,281	4,947,742	9,423,023
8. Communication and transport fee	417,303	1,535,783	537,713	2,490,799
9. Documentation cost	0	86,331	0	86,331
10. Miscellaneous expenses	0	1,129,168	1,260,010	2,389,178
Total	7,341,870	63,116,226	32,518,066	102,976,162

unit:XOF

Description	Year 1	Year 2	Year 3	Total
	Feb.2014-May.2014	May.2014-Apr. 2016	May.2016-Jan. 2019	
1. Ordinary employment cost	0	7,799,737	16,401,252	24,200,989
2. Special employment cost	14202680.18	53,083,359	30,465,900	97,751,939
3. Vehicle cost	13845639.51	92,022,782	87,428,605	193,297,027
4. Rental cost	302325.135	309,734	20,148	632,207
5. Maintenance cost for facility and equipment	2216744.25	36,417,475	3,928,650	42,562,869
6. Consumable cost	1943452.995	81,655,337	3,942,884	87,541,674
7. Traveling expense and Transportation	0	21,723,014	27,296,693	49,019,707
8. Communication and transport fee	1959237.585	7,454,691	2,966,563	12,380,491
9. Documentation cost	0	419,051	0	419,051
10. Miscellaneous expenses	0	5,480,981	6,951,475	12,432,457
Total	34,470,080	306,366,161	179,402,170	520,238,411

Year 1: 4.695 XOF/YEN

(based on average exchange rate in each yearly)

Year 2: 4.854 XOF/YEN

Year 3: 5.517 XOF/YEN

**ANNEX VI Summary of Activities undertaken by the Project from January 2014 to December 2016**

"Accomplishment Status" of each activity described in the PDM was rated with scores of 1 to 6 based on self-assessment by the Project team as follows:

1. 0%; 2. 25%; 3. 50%; 4. 75%; 5. Almost completed; 6. Completed.

<Activities for Output 1>

Output 1	Dialogue among stakeholders is promoted.																	
<b>Indicators</b>	1-1 Target producers group/rice millers/traders are identified.																	
	1-2 At least 75% of identified groups participate in the platform.																	
	1-3 All the participants to the platform meet at least 4 times per year.																	
	1-4 A common condition of production and distribution is shared between stakeholders.																	
Item of Activity in PDM	Summary of Activities to Date		Activities to be Undertaken															
1-1 Identify detail profile of target groups.	<p>Accomplishment Status: 6</p> <p>1-1-1 Collection and analysis of basic information on rice sub-sector in the target area</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Information on rice cultivation practices, rice varieties grown in the irrigated fields, active organizations of rice producers, rice traders and millers was collected from both public and private sectors including MINADER, ONDR, OCPV, ANARIZ-CI, FENARIZ-CI, CODERIZ, etc.</li> <li>Degree of contamination in rice grains brought by producers to millers was studied and needs for marketed rice was analyzed.</li> <li>Additional information regarding the Riz-National (RINA) rice miller was collected.</li> </ul> <p>1-1-2 Preparation of inventory of <i>Perimeter</i> (irrigated areas) and <i>Bas-fond</i> (low wetland) and identification of target areas (sites)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the inventory prepared, a total of 33 candidate sites were identified as target areas of the Project activities covering about 1,500 ha of paddy fields, which were further grouped into 4 batches as follows: 1st batch (2 sites), 2nd batch (8 sites), 3rd batch (11 sites) and 4th batch (12 sites).</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Group</th> <th>Belier Region</th> <th>Gbeke Region</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1st Batch</td> <td>2 sites: <i>Zatta, Yabra</i> (Yamoussoukro)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2nd Batch</td> <td>4 sites: <i>Bounguè, Didiévi, N'Gangoro-Ahitou, Anongblin</i></td> <td>4 sites: <i>Lokakpli, Attienkro, Bepo, Ahalékpli</i></td> </tr> <tr> <td>3rd Batch</td> <td>6 sites: <i>Nanan, Djamalabo, Koriakro, Duibo-Kpato, Takissalekro, N'gattadolikro</i></td> <td>5 sites: <i>Konamoukro, N'drebo, Beoumi, Kaabo, Djigbe</i></td> </tr> <tr> <td>4th Batch</td> <td>5 sites: <i>N'vlankro, Kpoussoussou, Petit Bouaké 1, Subiakro, Yaoura</i></td> <td>7 sites: <i>N'goran N'goranou, Nanangnan, Bogli-Agbéan, Kpogbossou, Kpandônou, Djebonoua, Akabo-Loka</i></td> </tr> </tbody> </table>		Group	Belier Region	Gbeke Region	1st Batch	2 sites: <i>Zatta, Yabra</i> (Yamoussoukro)		2nd Batch	4 sites: <i>Bounguè, Didiévi, N'Gangoro-Ahitou, Anongblin</i>	4 sites: <i>Lokakpli, Attienkro, Bepo, Ahalékpli</i>	3rd Batch	6 sites: <i>Nanan, Djamalabo, Koriakro, Duibo-Kpato, Takissalekro, N'gattadolikro</i>	5 sites: <i>Konamoukro, N'drebo, Beoumi, Kaabo, Djigbe</i>	4th Batch	5 sites: <i>N'vlankro, Kpoussoussou, Petit Bouaké 1, Subiakro, Yaoura</i>	7 sites: <i>N'goran N'goranou, Nanangnan, Bogli-Agbéan, Kpogbossou, Kpandônou, Djebonoua, Akabo-Loka</i>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Completed</li> </ul>
	Group	Belier Region	Gbeke Region															
1st Batch	2 sites: <i>Zatta, Yabra</i> (Yamoussoukro)																	
2nd Batch	4 sites: <i>Bounguè, Didiévi, N'Gangoro-Ahitou, Anongblin</i>	4 sites: <i>Lokakpli, Attienkro, Bepo, Ahalékpli</i>																
3rd Batch	6 sites: <i>Nanan, Djamalabo, Koriakro, Duibo-Kpato, Takissalekro, N'gattadolikro</i>	5 sites: <i>Konamoukro, N'drebo, Beoumi, Kaabo, Djigbe</i>																
4th Batch	5 sites: <i>N'vlankro, Kpoussoussou, Petit Bouaké 1, Subiakro, Yaoura</i>	7 sites: <i>N'goran N'goranou, Nanangnan, Bogli-Agbéan, Kpogbossou, Kpandônou, Djebonoua, Akabo-Loka</i>																
1-2 Identify other stakeholders involved in rice promotion in the target area.	<p>Accomplishment Status: 6</p> <p>1-2-1 Analysis on issues of Rice Value Chain and setting strategy of the Project</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Plans for forming Rice Sector Platform (PF) were discussed and prepared.</li> <li>Plans for establishing inputs credit scheme for rice producers were discussed and prepared.</li> </ul> <p>1-2-2 Identification of players (stakeholders) of the PF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Information on rice millers, YAANOVEL, agents for agricultural machineries, ploughing agents for hiring was collected and analyzed.</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Completed</li> </ul>															
	1-3 Facilitate the dialogue among stakeholders.	<p>Accomplishment Status: 3</p> <p>1-3-1 Support for establishment of Rice Sector PF</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Belier Region:</b> 1st preparation committee (Comité ad hoc) for PF was held in July 2014, a series of sensitization meetings for stakeholders were organized from February 2015 at 19 sites in Yamoussoukro and 2 districts. Preparation for forming a producer cooperative union was initiated in March 2016.</li> <li>The 1st "Match-making Forum" of rice sector stakeholders in Belier Region was organized in August 2016. (The same event in Gbeke Region has been postponed due to security situation in Bouaké.) Participants included: Producer group of Belier Region Société Cooperative, rice millers, a private company Riz National (RINA), dealers of agro-inputs and agricultural machineries, NORA (rice dealer in Abidjan), etc.</li> <li><b>Gbeke Region:</b> A platform named "<i>Bouaké-Botoro Rice Platform (PR2B)</i>" had already existed in the region, which activities the Project has been monitoring. For purpose of supporting a miller association with credit scheme to promote purchase of paddy rice, use of 2KR Counter Value Fund was examined and prepared.</li> <li>Information on "<i>Rice Sector Inter-Organizations (OIA-Riz)</i>" which was an initiative of MINADER was collected.</li> </ul> <p>1-3-2 Support for strengthening network of Rice Sector Platform</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>For purpose of strengthening the network of stakeholders in the rice sector, the following services (credit schemes) were introduced on trial basis.</li> </ul> <p>(1) Inputs credit scheme for rice producers</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Batch</th> <th>Progress and Overview of Activities by Batch</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1st</td> <td> <p>From 2nd cropping season of 2014, targeting 2 sites:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4 types of ledgers were prepared for credit management by producer cooperatives (groups).</li> <li>Zatta site: Contracted with 19 producers, discussion on outstanding loan and un-used inputs.</li> <li>Yabra site: Contracted with 25 producers, some inputs were provided to the producers not following the contract with the Project. Thereafter, contracted with RINA for distribution of inputs, management of products, and loan repayment.</li> <li>Regarding the outstanding loan amounted 1.97 million FCFA (disbursed in the 2nd cropping season of 2014), Terre Blanche producer cooperative was entrusted with management of the loan to be repaid by the produces. On the other hand, RINA was entrusted with management of unused inputs.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2nd</td> <td> <p>From 2nd cropping season of 2015, targeting 8 sites (of which rice was planted at 4 sites):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>For purpose of developing a sustainable inputs credit scheme (product) in collaboration with private sector by the end of the Project, way to entrust part of credit management to private financial institutes/firms was examined.</li> <li>5 financial institutes/banks in Yamoussoukro were approached to find out their interest in development of new credit scheme in collaboration work with the Project. Among them, a micro-finance organization named COOPEC responded positively and possible modality of the credit scheme was discussed and tentatively agreed. However, MINAGRI expressed</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>		Batch	Progress and Overview of Activities by Batch	1st	<p>From 2nd cropping season of 2014, targeting 2 sites:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4 types of ledgers were prepared for credit management by producer cooperatives (groups).</li> <li>Zatta site: Contracted with 19 producers, discussion on outstanding loan and un-used inputs.</li> <li>Yabra site: Contracted with 25 producers, some inputs were provided to the producers not following the contract with the Project. Thereafter, contracted with RINA for distribution of inputs, management of products, and loan repayment.</li> <li>Regarding the outstanding loan amounted 1.97 million FCFA (disbursed in the 2nd cropping season of 2014), Terre Blanche producer cooperative was entrusted with management of the loan to be repaid by the produces. On the other hand, RINA was entrusted with management of unused inputs.</li> </ul>	2nd	<p>From 2nd cropping season of 2015, targeting 8 sites (of which rice was planted at 4 sites):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>For purpose of developing a sustainable inputs credit scheme (product) in collaboration with private sector by the end of the Project, way to entrust part of credit management to private financial institutes/firms was examined.</li> <li>5 financial institutes/banks in Yamoussoukro were approached to find out their interest in development of new credit scheme in collaboration work with the Project. Among them, a micro-finance organization named COOPEC responded positively and possible modality of the credit scheme was discussed and tentatively agreed. However, MINAGRI expressed</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>In order to strengthen the PF, the union of producer groups in Belier Region and that of millers in Gbeke Region are regarded as main stakeholders and the Project is going to support them in matching with other stakeholders.</li> <li>Concerning the credit system, the Project will continue to support the financial institute to have credit product to ensure the sustainability after the project intervention.</li> </ul>								
Batch		Progress and Overview of Activities by Batch																
1st	<p>From 2nd cropping season of 2014, targeting 2 sites:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4 types of ledgers were prepared for credit management by producer cooperatives (groups).</li> <li>Zatta site: Contracted with 19 producers, discussion on outstanding loan and un-used inputs.</li> <li>Yabra site: Contracted with 25 producers, some inputs were provided to the producers not following the contract with the Project. Thereafter, contracted with RINA for distribution of inputs, management of products, and loan repayment.</li> <li>Regarding the outstanding loan amounted 1.97 million FCFA (disbursed in the 2nd cropping season of 2014), Terre Blanche producer cooperative was entrusted with management of the loan to be repaid by the produces. On the other hand, RINA was entrusted with management of unused inputs.</li> </ul>																	
2nd	<p>From 2nd cropping season of 2015, targeting 8 sites (of which rice was planted at 4 sites):</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>For purpose of developing a sustainable inputs credit scheme (product) in collaboration with private sector by the end of the Project, way to entrust part of credit management to private financial institutes/firms was examined.</li> <li>5 financial institutes/banks in Yamoussoukro were approached to find out their interest in development of new credit scheme in collaboration work with the Project. Among them, a micro-finance organization named COOPEC responded positively and possible modality of the credit scheme was discussed and tentatively agreed. However, MINAGRI expressed</li> </ul>																	



	<p>strong concern over several issues particularly involvement of a private organization in the inputs credit scheme and collecting interest from producers or producer cooperatives, then did not agree on the proposed plan. Therefore, the plan was modified and it was finally agreed that the credit was managed by the Project team using the COOPEC accounts, and COOPEC would participate in the scheme as an observer.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• After that, sensitization on the newly introduced credit scheme was undertaken for rice producers and leaders of producer cooperatives at 8 target sites. An also, topic on the credit scheme was included in the training organized in May 2015 for ANADER subject matter specialists in charge of organizational strengthening (TS-OPA), where roles of cooperatives in the credit scheme including reception of credited inputs, their distribution and inventory management, rice harvest management and collection, and loan repayment were explained.</li> <li>• In addition to the discussion on the issues of the credit scheme with MINAGRI, ploughing of the paddy field by farmers was delayed due to delayed start of rains in the 2nd cropping season of 2015, which affected the implementation of the credit scheme. On the other hand, distribution of inputs to the target sites had been carried out on schedule from the first week of June.</li> <li>• In order to ensure the effective purchase of inputs using credit scheme, schedule table for ploughing was prepared and instructed to the producers. And also, in order for the producers to keep recording of their farming practices and crop conditions by themselves, producer notebook was developed and instructed to use.</li> <li>• After the commencement of credit scheme for the 2nd batch producers, TS-OPAs of ANADER have been carrying out monitoring on the progress and follow-up. The progress as at May 26, 2016 was summarized in Table VI-1.</li> </ul>
3rd	<p>From 2nd cropping season of 2016, targeting 11 sites:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Based on the experience in the 2nd batch of credit scheme, the mechanism was modified in a manner that credit contract was to be made between COOPEC and producers directly. Contractants were designated to: 1) producer cooperatives registered as SCOPO and 2) representatives of subgroups of small producers (teams). Instruction to producers on credit management from contract preparation to loan repayment was carried out in a collaborative manner between COOPEC and the Project team.</li> <li>• The modality for preparing inputs was also modified in such a manner that amount of required inputs was determined according to actual progress of the first ploughing by producers, and shipping order was to be placed accordingly.</li> <li>• The progress of credit disbursement (use) as at November 15 2016 was summarized in Table VI-2. Number of producer groups and producers who had used the credit scheme was 7 (6 out of 11 sites) and 58 (out of 787 target producers) respectively. The biggest reason for this low use of the credit was shortage of water caused by erratic rains in the 2016 cropping season. Even in the irrigated areas, level of water in the reservoirs was very low. Besides that, insufficient number of power tillers and labors available in the target areas worsen the situation.</li> </ul>
4th	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Based on the lessons learnt in the 3 previous seasons, it was agreed that annual plan for training should be optimized according to the progress of actual farming practices by producers and other Project activities. Particularly early conduct of the training on organizational strengthening was required to sensitize on the availability of inputs credit in advance (change to February from May). 12 sites of the target producers for the 4th batch credit scheme were to be selected by the end of December 2016.</li> <li>• Following this agreement, sensitization meetings for producer groups were held in Belier Region on November 29th and in Gbeke Region on December 1st 2016. A total of 10 representatives (sites) were invited to the meetings and 8 actually attended.</li> </ul>

Table VI-1 Results of monitoring on the 2nd batch credit scheme (as at May 2016)

Region	Site	Area Planted (ha)		Amount of Loan (FCFA)			
		Plan	Actual	Total	Repaid	Balance	Rate (%)
Belier	Boungué	27	2.73	311,930	0	311,930	0
	Didiévi	48	30	3,185,400	3,239,100	-53,700	101.7
	N'Gangoro-Ahitou	32	5.33	953,475	832,500	120,975	87.3
	Anongblin	21	8.86	964,650	378,500	586,150	39.2
Gbeke	Lokakpli	90	0	0	0	0	-
	Attienkro	50	13.5	1,598,025	1,175,000	423,025	73.5
	Bepo	24	0	0	0	0	-
	Ahalékpli	27	0	0	0	0	-

Table VI-2 Results of monitoring on the 3rd batch credit scheme (as at November 2016)

Region	Site	Area Planted (ha)		Amount of Loan (FCFA)			
		Plan	Actual	Total	Repaid	Balance	Rate (%)
Belier	Nnan		12.77	1,650,800			
	Djamalabo		13.62	1,696,650			
	Koriakro		0	0			
	Duibo-Kpato		5.0	486,500			
	Takissalekro		4.17	345,650			
	N'gattadolikro		3.5	421,780			
Gbeke	Konamoukro		8	932,000			
	N'drebo		0	0			
	Beoumi		0	0			
	Kaabo		0	0			
	Djigbe		0	0			

(2) Support for introduction of sustainable ploughing services

- Based on lessons learnt from the 1st and 2nd batch inputs credit schemes, trainings and seminars to support sustainable ploughing services were organized inviting ploughing agents including newcomers.
- Participants of the seminar held on July 12, 2016 were as follows:

Government	MINADER 1 (Director of Béliér Region), ONDR 2 (officer in charge of machineries), ANADER 4 (Director of Central Region and others)
Private	Dealer of machineries 1, Repairing agents 4, Rep. of rice millers association 1, Millers 5, Ploughing agents for hiring 1, Producer cooperatives 5, Rice dealer 1, Individual investors 2

- Preparation work was carried out to introduce power tillers made by the Agri-Tech company that were

	to be used by model ploughing agents.	
	<p>(3) Support for the millers with introduction of credit scheme to promote purchase of paddy rice</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>For purpose of promoting marketing of local paddy rice and strengthening rice value chain in the target areas, trial activities to introduce credit scheme for the millers have been prepared.</li> <li>A private financial institute named ADVANS, who had experience on similar services for the millers in the past, showed interest in developing a new credit scheme in collaboration with the Project.</li> <li>As the seed money for the credit scheme, application for use of the 2KR counter value funds was submitted to JICA Cote d'Ivoire office and Embassy of Japan in Abidjan.</li> </ul>	

<Activities for Output 2>

<b>Output 2</b>	Knowledge and techniques provided through training are utilized by target groups.						
<b>Indicators</b>	2-1 80% of the producers participating in the training courses apply 75 % of basic techniques.						
	2-2 80% of processors/distributors participants training apply 75 % of basic techniques.						
<b>Item of Activity in PDM</b>	<b>Summary of Activities to Date</b>	<b>Activities to be Undertaken</b>					
2-1 Develop the training materials.	<p>Accomplishment Status: 4</p> <p>2-1-1 Preparation for trainings</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Already available training materials were collected and their contents were analyzed.</li> <li>Needs for trainings were assessed based on information collected through field visits and interviews to the producers, extension workers, rice millers and traders, etc. (referred to Activity 1-1-1).</li> <li>Target areas of training for producers were identified based on the information collected (referred to Activity 1-1-2).</li> <li>The Project has made plans to conduct the following trainings:             <ol style="list-style-type: none"> <li>Rice cultivation techniques for extension workers and producers</li> <li>Utilization and maintenance of agricultural machineries</li> <li>Organizational strengthening</li> <li>Training for rice millers and traders</li> </ol> </li> </ul> <p>2-2-2 Identification of basic techniques to be trained</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Referring to the techniques developed in the JICA-supported Agricultural Machinery Training Project for Irrigated Rice Cultivation (Project-CFMAG) (1992-1997), the following 10 basic cultivation techniques were identified as recommended practices to be instructed in the trainings for extension workers (ANADER) and rice producers:             <ol style="list-style-type: none"> <li>Selection of rice seed with water</li> <li>Amount of basal fertilizer application (NPK)</li> <li>Best timing of basal fertilizer application</li> <li>Practice of transplanting</li> <li>Seedling age for transplanting</li> <li>Weeding before topdressing of urea</li> <li>Amount of topdressing (100 kg/ha)</li> <li>Best timing of 1st topdressing at tillering stage</li> <li>Best timing of 2nd topdressing at panicle initiation stage</li> <li>Best harvesting time (115-125 days after seeding)</li> </ol> </li> <li>The following 6 basic techniques (practices) were identified to be instructed in the trainings for rice millers and traders:             <ol style="list-style-type: none"> <li>Measuring level of moisture content in rice grains</li> <li>Measuring amount of foreign substances (contamination) in rice grains</li> <li>Proper storage for paddy and polished rice, separation</li> <li>Recording on paddy rice purchased and polished rice sold</li> <li>Packaging of polished rice (use of new lapping papers)</li> <li>Separation of polished rice (perfect and broken rice grains)</li> </ol> </li> </ul> <p>2-2-3 Preparation of training materials</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A series of training materials (textbooks) on the selected basic techniques were prepared in 2015 and revised in 2016 s follows:</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">1st edition (2015)</td> <td>Fiche Technique Plastifié Ver.2015             <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 Comment effectuer un test de germination</li> <li>Volume séparé_2 Labour du champ</li> <li>Volume séparé_3 Repiquage soigneusement fait!</li> <li>Volume séparé_4 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_5 Sécurité dans l'application des produits phytosanitaires</li> <li>Volume séparé_6 Poser les carrés de rendement</li> </ol> </td> </tr> <tr> <td>2nd edition (2016)</td> <td>Fiche Technique Plastifié Ver.2016             <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 TEST DE GERMINATION</li> <li>Volume séparé_2 PREGERMINATION</li> <li>Volume séparé_3 PEPINIÈRE</li> <li>Volume séparé_4 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 1er étape</li> <li>Volume séparé_5 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 2ème étape</li> <li>Volume séparé_6 REPIQUAGE</li> <li>Volume séparé_7 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_8 APPLICATION DE PRODUITS PHYTOSANITAIRES</li> <li>Volume séparé_9 Poser les carrés de rendement</li> </ol> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>Besides them, a series of textbooks on seed multiplication have been compiled as follows:</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td> <ol style="list-style-type: none"> <li>Ligne directrice de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>Aperçu du champ de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>La multiplication de semence de riz, 26 Jan. 2016</li> <li>La morphologie du riz, 26 Jan. 2016</li> <li>Planification pour la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Les points clés de la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Quelques problèmes liés à la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> </ol> </td> </tr> </table>	1st edition (2015)	Fiche Technique Plastifié Ver.2015 <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 Comment effectuer un test de germination</li> <li>Volume séparé_2 Labour du champ</li> <li>Volume séparé_3 Repiquage soigneusement fait!</li> <li>Volume séparé_4 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_5 Sécurité dans l'application des produits phytosanitaires</li> <li>Volume séparé_6 Poser les carrés de rendement</li> </ol>	2nd edition (2016)	Fiche Technique Plastifié Ver.2016 <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 TEST DE GERMINATION</li> <li>Volume séparé_2 PREGERMINATION</li> <li>Volume séparé_3 PEPINIÈRE</li> <li>Volume séparé_4 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 1er étape</li> <li>Volume séparé_5 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 2ème étape</li> <li>Volume séparé_6 REPIQUAGE</li> <li>Volume séparé_7 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_8 APPLICATION DE PRODUITS PHYTOSANITAIRES</li> <li>Volume séparé_9 Poser les carrés de rendement</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>Ligne directrice de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>Aperçu du champ de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>La multiplication de semence de riz, 26 Jan. 2016</li> <li>La morphologie du riz, 26 Jan. 2016</li> <li>Planification pour la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Les points clés de la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Quelques problèmes liés à la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the achievements of trainings organized in 2016, the extension materials are to be revised.</li> </ul>
1st edition (2015)	Fiche Technique Plastifié Ver.2015 <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 Comment effectuer un test de germination</li> <li>Volume séparé_2 Labour du champ</li> <li>Volume séparé_3 Repiquage soigneusement fait!</li> <li>Volume séparé_4 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_5 Sécurité dans l'application des produits phytosanitaires</li> <li>Volume séparé_6 Poser les carrés de rendement</li> </ol>						
2nd edition (2016)	Fiche Technique Plastifié Ver.2016 <ol style="list-style-type: none"> <li>Volume séparé_1 TEST DE GERMINATION</li> <li>Volume séparé_2 PREGERMINATION</li> <li>Volume séparé_3 PEPINIÈRE</li> <li>Volume séparé_4 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 1er étape</li> <li>Volume séparé_5 LABOUR ET PREPARATION DU TERRAIN - 2ème étape</li> <li>Volume séparé_6 REPIQUAGE</li> <li>Volume séparé_7 Application de l'engrais de couverture (Urée)</li> <li>Volume séparé_8 APPLICATION DE PRODUITS PHYTOSANITAIRES</li> <li>Volume séparé_9 Poser les carrés de rendement</li> </ol>						
<ol style="list-style-type: none"> <li>Ligne directrice de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>Aperçu du champ de la formation, 26 Jan. 2016</li> <li>La multiplication de semence de riz, 26 Jan. 2016</li> <li>La morphologie du riz, 26 Jan. 2016</li> <li>Planification pour la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Les points clés de la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> <li>Quelques problèmes liés à la multiplication de semence, 27 Jan. 2016</li> </ol>							
2-2 Organize the technical training for extension workers.	<p>Accomplishment Status: 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A series of technical trainings (cultivation techniques, agricultural machineries, organizational strengthening) were organized for ANADER extension officers and leaders of producer cooperatives/ groups in the 1st to 3rd batch target areas from July 2014 as summarized below.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Since all the extension workers of ANADER in Belier and Gbeke have been trained, the training will be organized</li> </ul>					

	<p>(1) Summary of trainings organized for the 1st batch target group (2014)</p> <table border="1" data-bbox="363 174 1193 331"> <tr><td>Target areas</td><td>2 sites</td></tr> <tr><td>Period</td><td>July to December, 2014</td></tr> <tr><td>Participants</td><td>ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups</td></tr> <tr><td>Outline</td><td>1) Rice cultivation techniques: Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields (Ndakonankro): 13 days 47 participants 2) Utilization and maintenance of agricultural machineries: 5 days 47 participants 3) Organizational strengthening: 3 days 11 participants</td></tr> </table> <p>(2) Summary of trainings organized for the 2nd batch target group (2015)</p> <table border="1" data-bbox="363 398 1181 801"> <tr><td>Target areas</td><td>8 sites</td></tr> <tr><td>Period</td><td>May to September, 2015</td></tr> <tr><td>Participants</td><td>ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups</td></tr> <tr> <th>Outline</th> <th>Session</th> <th>Period</th> <th>Participants</th> <th>Contents</th> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>Agricultural machineries</td> <td>G-1: 5/12~15 G-2: 5/18~21</td> <td>17 16</td> <td>Utilization and maintenance of agricultural machineries</td> </tr> <tr> <td>Rice cultivation</td> <td>5/26~29</td> <td>11</td> <td>Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Harvesting and post-harvesting</td> <td>9/15~18</td> <td>18</td> <td>Estimation of harvest, operation and maintenance of thrasher (lectures and practices), action plans</td> </tr> <tr> <td></td> <td>Organizational strengthening</td> <td>5/19~21</td> <td>20</td> <td>Establishment of cooperatives according to the new law, management of organizations, explanation of inputs credit scheme by PRORIL and conditions, preparation of action plans, introduction of coaching as extension approach (for TSOPA)</td> </tr> </table> <p>(3) Summary of trainings organized for the 3rd batch target group (2016)</p> <table border="1" data-bbox="363 869 1181 1048"> <tr><td>Target areas</td><td>11 sites</td></tr> <tr><td>Period</td><td>May to September, 2016</td></tr> <tr><td>Participants</td><td>ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups</td></tr> <tr><td>Outline</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields Agricultural machineries (10 days 33 participants), Rice cultivation (8 days 36 participants), Harvesting and post-harvesting (4 days 16 participants), Organizational strengthening (8days 33 participants)</li> <li>Preparation of action plans</li> </ul> </td></tr> </table>	Target areas	2 sites	Period	July to December, 2014	Participants	ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups	Outline	1) Rice cultivation techniques: Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields (Ndakonankro): 13 days 47 participants 2) Utilization and maintenance of agricultural machineries: 5 days 47 participants 3) Organizational strengthening: 3 days 11 participants	Target areas	8 sites	Period	May to September, 2015	Participants	ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups	Outline	Session	Period	Participants	Contents		Agricultural machineries	G-1: 5/12~15 G-2: 5/18~21	17 16	Utilization and maintenance of agricultural machineries	Rice cultivation	5/26~29	11	Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields		Harvesting and post-harvesting	9/15~18	18	Estimation of harvest, operation and maintenance of thrasher (lectures and practices), action plans		Organizational strengthening	5/19~21	20	Establishment of cooperatives according to the new law, management of organizations, explanation of inputs credit scheme by PRORIL and conditions, preparation of action plans, introduction of coaching as extension approach (for TSOPA)	Target areas	11 sites	Period	May to September, 2016	Participants	ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups	Outline	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields Agricultural machineries (10 days 33 participants), Rice cultivation (8 days 36 participants), Harvesting and post-harvesting (4 days 16 participants), Organizational strengthening (8days 33 participants)</li> <li>Preparation of action plans</li> </ul>	<p>targeting private extension workers (lead farmers) and leaders of farmer groups in the 4th batch target area in 2017.</p>
Target areas	2 sites																																															
Period	July to December, 2014																																															
Participants	ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups																																															
Outline	1) Rice cultivation techniques: Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields (Ndakonankro): 13 days 47 participants 2) Utilization and maintenance of agricultural machineries: 5 days 47 participants 3) Organizational strengthening: 3 days 11 participants																																															
Target areas	8 sites																																															
Period	May to September, 2015																																															
Participants	ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups																																															
Outline	Session	Period	Participants	Contents																																												
	Agricultural machineries	G-1: 5/12~15 G-2: 5/18~21	17 16	Utilization and maintenance of agricultural machineries																																												
	Rice cultivation	5/26~29	11	Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields																																												
	Harvesting and post-harvesting	9/15~18	18	Estimation of harvest, operation and maintenance of thrasher (lectures and practices), action plans																																												
	Organizational strengthening	5/19~21	20	Establishment of cooperatives according to the new law, management of organizations, explanation of inputs credit scheme by PRORIL and conditions, preparation of action plans, introduction of coaching as extension approach (for TSOPA)																																												
Target areas	11 sites																																															
Period	May to September, 2016																																															
Participants	ANADER extension officers, SMS, leaders of producer cooperatives/groups																																															
Outline	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lectures at PRORIL Center and field practice in the hired paddy fields Agricultural machineries (10 days 33 participants), Rice cultivation (8 days 36 participants), Harvesting and post-harvesting (4 days 16 participants), Organizational strengthening (8days 33 participants)</li> <li>Preparation of action plans</li> </ul>																																															
<p>2-3 Provide the input for target producers (seed, fertilizer, etc.).</p>	<p>Accomplishment Status: 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>The inputs including seed, fertilizers and herbicide were provided to the producer groups through the inputs credit scheme implemented in the 1st to 3rd batch target areas. (Refer to Activity 1-3 in detail.)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Under the 3rd batch credit scheme, estimation of required inputs for rice cultivation was made by the producers themselves, not by the Project. The same way will be adopted in the 4th batch credit scheme.</li> </ul>																																														
<p>2-4 Organize the technical training to target producers' groups.</p>	<p>Accomplishment Status: 4</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Based on the trainings conducted in Activity 2-1, it was planned that ANADER extension officers were to organize trainings for producers and producer groups in the respective target areas. The progress was reported as follows:</li> </ul> <p>(1) 1st batch target area</p> <table border="1" data-bbox="363 1373 1181 1529"> <tr><td>Target areas</td><td>2 sites</td></tr> <tr><td>Period</td><td>August to December, 2014</td></tr> <tr><td>Outline</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER was contracted and supposed to organize cultivation trainings for producers but only explanation meetings were held and no trainings were conducted.</li> <li>CFMAG was contracted for organizing trainings on agricultural machinery and a training was organized for 2 power tiller operators for 4 days in September.</li> </ul> </td></tr> </table> <p>(2) 2nd batch target area</p> <table border="1" data-bbox="363 1574 1181 1731"> <tr><td>Target areas</td><td>8 sites</td></tr> <tr><td>Period</td><td>June 2015 to January 2016</td></tr> <tr><td>Outline</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER extension officers were engaged in organizing rice cultivation trainings for producers, by partly using budget from Cote d'Ivoire government for the 3rd batch trainings.</li> <li>The producers were divided into 2 groups (participants and non-participants) to see the impact of trainings under impact assessment study.</li> </ul> </td></tr> </table> <p>(3) 3rd batch target area</p> <table border="1" data-bbox="363 1776 1181 1888"> <tr><td>Target areas</td><td>11 sites</td></tr> <tr><td>Period</td><td>June 2016 to date</td></tr> <tr><td>Outline</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>As was in the last 2 years, ANADER extension officers are being conducting trainings for producers by fully using budget from Cote d'Ivoire government for the 3rd batch trainings.</li> </ul> </td></tr> </table>	Target areas	2 sites	Period	August to December, 2014	Outline	<ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER was contracted and supposed to organize cultivation trainings for producers but only explanation meetings were held and no trainings were conducted.</li> <li>CFMAG was contracted for organizing trainings on agricultural machinery and a training was organized for 2 power tiller operators for 4 days in September.</li> </ul>	Target areas	8 sites	Period	June 2015 to January 2016	Outline	<ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER extension officers were engaged in organizing rice cultivation trainings for producers, by partly using budget from Cote d'Ivoire government for the 3rd batch trainings.</li> <li>The producers were divided into 2 groups (participants and non-participants) to see the impact of trainings under impact assessment study.</li> </ul>	Target areas	11 sites	Period	June 2016 to date	Outline	<ul style="list-style-type: none"> <li>As was in the last 2 years, ANADER extension officers are being conducting trainings for producers by fully using budget from Cote d'Ivoire government for the 3rd batch trainings.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>The same contents of trainings will be organized for the 4th batch target group.</li> </ul>																												
Target areas	2 sites																																															
Period	August to December, 2014																																															
Outline	<ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER was contracted and supposed to organize cultivation trainings for producers but only explanation meetings were held and no trainings were conducted.</li> <li>CFMAG was contracted for organizing trainings on agricultural machinery and a training was organized for 2 power tiller operators for 4 days in September.</li> </ul>																																															
Target areas	8 sites																																															
Period	June 2015 to January 2016																																															
Outline	<ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER extension officers were engaged in organizing rice cultivation trainings for producers, by partly using budget from Cote d'Ivoire government for the 3rd batch trainings.</li> <li>The producers were divided into 2 groups (participants and non-participants) to see the impact of trainings under impact assessment study.</li> </ul>																																															
Target areas	11 sites																																															
Period	June 2016 to date																																															
Outline	<ul style="list-style-type: none"> <li>As was in the last 2 years, ANADER extension officers are being conducting trainings for producers by fully using budget from Cote d'Ivoire government for the 3rd batch trainings.</li> </ul>																																															
<p>2-5 Organize the technical training to target rice millers/traders.</p>	<p>Accomplishment Status: 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A training for rice millers was organized from October 13 to 16, 2015 in which a total of 18 rice millers of Belier and Gbeke, Yamoussoukro and Daloa participated.</li> </ul> <table border="1" data-bbox="363 2011 1181 2069"> <tr> <td>Day 1</td> <td>Opening, drying and storing of paddy rice, operation and maintenance of milling machine (lecture)</td> </tr> <tr> <td>Day 2</td> <td>Management of milling company (lecture), drying and storing of paddy rice, operation and</td> </tr> </table>	Day 1	Opening, drying and storing of paddy rice, operation and maintenance of milling machine (lecture)	Day 2	Management of milling company (lecture), drying and storing of paddy rice, operation and	<ul style="list-style-type: none"> <li>Follow-up to the training participants are to be undertaken.</li> </ul>																																										
Day 1	Opening, drying and storing of paddy rice, operation and maintenance of milling machine (lecture)																																															
Day 2	Management of milling company (lecture), drying and storing of paddy rice, operation and																																															

	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>maintenance of milling machine (practice)</td> </tr> <tr> <td>Day 3</td> <td>Management of milling company, drying and storing of paddy rice, operation and maintenance of milling machine (practice)</td> </tr> <tr> <td>Day 4</td> <td>Improvement of rice quality (lecture), analysis of problems and objectives (practice)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>A training for rice traders was organized from October 25 to 28, 2016 in which a total of 15 representatives of rice millers, traders, detailers and leaders of trader union participated.</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>Module 1</td> <td>Evaluation method of paddy and polished rice, identification of high quality paddy rice, proper storage of paddy and polished rice</td> </tr> <tr> <td>Module 2</td> <td>Marketing of local rice, management of small and medium enterprises (SMEs), management theory, functions of SMEs, advantages of accounting management, practice of accounting, improvement of profitability of SMEs, commercialization of rice</td> </tr> </table>		maintenance of milling machine (practice)	Day 3	Management of milling company, drying and storing of paddy rice, operation and maintenance of milling machine (practice)	Day 4	Improvement of rice quality (lecture), analysis of problems and objectives (practice)	Module 1	Evaluation method of paddy and polished rice, identification of high quality paddy rice, proper storage of paddy and polished rice	Module 2	Marketing of local rice, management of small and medium enterprises (SMEs), management theory, functions of SMEs, advantages of accounting management, practice of accounting, improvement of profitability of SMEs, commercialization of rice	
	maintenance of milling machine (practice)											
Day 3	Management of milling company, drying and storing of paddy rice, operation and maintenance of milling machine (practice)											
Day 4	Improvement of rice quality (lecture), analysis of problems and objectives (practice)											
Module 1	Evaluation method of paddy and polished rice, identification of high quality paddy rice, proper storage of paddy and polished rice											
Module 2	Marketing of local rice, management of small and medium enterprises (SMEs), management theory, functions of SMEs, advantages of accounting management, practice of accounting, improvement of profitability of SMEs, commercialization of rice											
2-6	<p>Monitor and evaluate the achievement of target groups.</p> <p><b>Accomplishment Status: 4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Through discussions between the Project team and relevant officers, it was agreed that monitoring and evaluation (M&amp;E) on results of trainings would be carried out with the following considerations: <ol style="list-style-type: none"> <li>From both viewpoints of project manager and training participants;</li> <li>In collaboration of ANADER and the Project team; and</li> <li>Besides evaluation at the end of training, follow-up the changes after the training should be followed.</li> </ol> </li> <li>The results of monitoring were summarized as follows: <table border="1"> <tr> <td>1st</td> <td>Targeting 2 site from August to December 2014 <ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER extension workers were contracted with conducting the trainings for producers, but few farmers participated in the trainings. Besides that, the targeted farmers had not had formed a cooperative and did not have group activities yet.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2nd</td> <td>Targeting 8 site from June 2015 to January 2016 <ul style="list-style-type: none"> <li>Monitoring was carried out as part of impact assessment study conducted by JICA.</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3rd</td> <td>Targeting 11 site from June 2016 to date <ul style="list-style-type: none"> <li>Monitoring has been carried out by a combination team of local hired staff and Japanese experts.</li> </ul> </td> </tr> </table> </li> <li>An impact assessment has been undertaken in collaboration with the JICA survey team.</li> </ul>	1st	Targeting 2 site from August to December 2014 <ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER extension workers were contracted with conducting the trainings for producers, but few farmers participated in the trainings. Besides that, the targeted farmers had not had formed a cooperative and did not have group activities yet.</li> </ul>	2nd	Targeting 8 site from June 2015 to January 2016 <ul style="list-style-type: none"> <li>Monitoring was carried out as part of impact assessment study conducted by JICA.</li> </ul>	3rd	Targeting 11 site from June 2016 to date <ul style="list-style-type: none"> <li>Monitoring has been carried out by a combination team of local hired staff and Japanese experts.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Monitoring for the 3rd batch target group is being undertaken, and that for the 4 the batch is being prepared.</li> </ul>				
1st	Targeting 2 site from August to December 2014 <ul style="list-style-type: none"> <li>ANADER extension workers were contracted with conducting the trainings for producers, but few farmers participated in the trainings. Besides that, the targeted farmers had not had formed a cooperative and did not have group activities yet.</li> </ul>											
2nd	Targeting 8 site from June 2015 to January 2016 <ul style="list-style-type: none"> <li>Monitoring was carried out as part of impact assessment study conducted by JICA.</li> </ul>											
3rd	Targeting 11 site from June 2016 to date <ul style="list-style-type: none"> <li>Monitoring has been carried out by a combination team of local hired staff and Japanese experts.</li> </ul>											

<Activities for Output 3>

<b>Output 3</b>	Capacity of selected groups for rice producing/milling/trading is strengthened by "additional support".					
<b>Indicators</b>	3-1 50% of beneficiaries of additional support reach the required level of performance.					
<b>Item of Activity in PDM</b>	<b>Summary of Activities to Date</b>	<b>Activities to be Undertaken</b>				
3-1 Develop the menus for "additional support".	<p><b>Accomplishment Status: 4</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Based on discussion about the additional supports, 2 support activities of seed production and revolving funds were selected and planned which details were summarized below. <ol style="list-style-type: none"> <li><b>Production of high quality rice seed</b> Procurement and use of high quality seed is a precondition for local rice promotion; however, the quality of locally available seed procured from YAANOVEL, and ONDR was generally low which affected negatively the Project activities. In order to improve the situation, the Project team decided to undertake the following activities: <ol style="list-style-type: none"> <li><b>Technical training on seed production:</b> Targeting advanced farmers, conduct intensive training on seed production techniques at the PRORIL Center and follow-up visits to their fields.</li> <li><b>Seed production:</b> Carry out seed production at the paddy fields of the PRORIL Center which would be utilized in the technical training explained above. High quality seeds produced at the Center would be handed over to the potential famers of seed producers would be selected from the training participants.</li> </ol> </li> <li><b>Revolving funds for inputs credit</b> Targeting the 2nd batch producers who had paid back all the inputs loan, provision of revolving funds for inputs credit was planned as an additional support. For purpose of developing a credit scheme without much intervention of the Project, the funds would be provided to the producers through financial organization as an ordinary credit service.</li> </ol> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Additional supports for the millers and traders are to be provided.</li> </ul>				
3-2 Select the beneficiaries for "additional support".	<p><b>Accomplishment Status: 4</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Advanced farmers were selected as potential seed producers from the 2nd and 3rd batch target groups.</li> <li>Farmers who had paid back all the inputs loan were listed up as candidate users of revolving funds through the producer cooperatives in the 2nd batch target area.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Same as above.</li> </ul>				
3-3 Work out detailed plan of "additional support" with government, private institutes and donors.	<p><b>Accomplishment Status: 4</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>Plans for production of high quality rice seed <ul style="list-style-type: none"> <li>Based on discussion with C/Ps and seed inspectors of Belier Region Department of Agriculture, plans for the training on seed production were made as follows: <ol style="list-style-type: none"> <li>Conduct training for advanced farmers selected from the target sites.</li> <li>Procure reliable high quality seeds that would be multiplied by the Project team at the training fields.)</li> <li>After the training, high quality seed would be handed over to the famers who have potential as seed producers.</li> <li>Produce high quality seed with proper management (demonstrate the seed production techniques.)</li> <li>Ensure the practices to produce high quality seed (conduct follow-up visits to their fields after the training.)</li> <li>Instruct famers to sell the rice as seeds not paddy rice for consumption.</li> </ol> </li> </ul> </li> <li>Plans for revolving funds for inputs credit <ul style="list-style-type: none"> <li>Based on discussions with C/Ps, financial organization and JICA, plans for the revolving funds were made as follows: <table border="1"> <tr> <td>Summary</td> <td>The financial institute COOPEC would make contract for inputs credit (certified seed, fertilizer, herbicide) with target producers using the repaid loan of the 2nd batch credit scheme. Interest is set at 10.8%. If the loan is not paid back, the bond would be used to compensate.</td> </tr> <tr> <td>Beneficiaries</td> <td>The 2nd batch producers who had paid back all the inputs loan by November 2016 and had intension to use the loan again in the 1st cropping season of 2017 (January to August)</td> </tr> </table> </li> </ul> </li> </ol>	Summary	The financial institute COOPEC would make contract for inputs credit (certified seed, fertilizer, herbicide) with target producers using the repaid loan of the 2nd batch credit scheme. Interest is set at 10.8%. If the loan is not paid back, the bond would be used to compensate.	Beneficiaries	The 2nd batch producers who had paid back all the inputs loan by November 2016 and had intension to use the loan again in the 1st cropping season of 2017 (January to August)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Same as above.</li> </ul>
Summary	The financial institute COOPEC would make contract for inputs credit (certified seed, fertilizer, herbicide) with target producers using the repaid loan of the 2nd batch credit scheme. Interest is set at 10.8%. If the loan is not paid back, the bond would be used to compensate.					
Beneficiaries	The 2nd batch producers who had paid back all the inputs loan by November 2016 and had intension to use the loan again in the 1st cropping season of 2017 (January to August)					

	or 2nd season (June to December) (individuals).																			
3-4 Implement the "additional support".	<p>Accomplishment Status: 3</p> <p>(1) Implementation of production of high quality rice seed</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Workshop on seed production <table border="1"> <tr> <td>Participants</td> <td>18 participants from Belier Region Department of Agriculture, ONDR, ANADER, seed producers (2 farmers x 7 groups)</td> </tr> <tr> <td>Period</td> <td>February 5, 2015</td> </tr> <tr> <td>Contents</td> <td>Rice production in Africa, biology of rice, seed production, RYMV, Striga, etc.</td> </tr> </table> </li> <li>Training on seed production <table border="1"> <tr> <td>Participants</td> <td>13 participants including 8 advance farmers selected from 8 sites of the 2nd batch target areas, 1 seed controller, 1 seed inspector (Depart. of Agriculture).</td> </tr> <tr> <td>Period</td> <td>January 26 – 28, 2016</td> </tr> <tr> <td>Contents</td> <td>Lectures, practices in paddy field and seed production planning, general discussion</td> </tr> </table> </li> <li>Seed production <table border="1"> <tr> <td>Venue</td> <td>Training paddy field at PRORIL center</td> </tr> <tr> <td>Period</td> <td>October 2016 – May 2017</td> </tr> <tr> <td>Contents</td> <td>Seed production practices have been carried out dividing into 3 stages in the paddy field at the center, which are being utilized for training purpose as well. The participants can observe 3 different stages of rice growth by attending one training course.</td> </tr> </table> </li> </ul> <p>(2) Implementation of revolving funds for inputs credit</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Preparation sage for the next cropping seasons in 2017.</li> <li>Revolving funds will be provided for the 2nd and 3rd batch producers (4th batch producers are not included due to the Project is scheduled to end in January 2019.)</li> </ul>	Participants	18 participants from Belier Region Department of Agriculture, ONDR, ANADER, seed producers (2 farmers x 7 groups)	Period	February 5, 2015	Contents	Rice production in Africa, biology of rice, seed production, RYMV, Striga, etc.	Participants	13 participants including 8 advance farmers selected from 8 sites of the 2nd batch target areas, 1 seed controller, 1 seed inspector (Depart. of Agriculture).	Period	January 26 – 28, 2016	Contents	Lectures, practices in paddy field and seed production planning, general discussion	Venue	Training paddy field at PRORIL center	Period	October 2016 – May 2017	Contents	Seed production practices have been carried out dividing into 3 stages in the paddy field at the center, which are being utilized for training purpose as well. The participants can observe 3 different stages of rice growth by attending one training course.	<p>(1) Seed production</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>The 2nd training on seed production will be organized in January 2017, targeting 9 advance farmers selected from 11 sites of the 4th batch target area as well as a seed controller.</li> </ul> <p>(2) Revolving funds for inputs credit</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Support of revolving fund will be provided to the 2nd batch target group in 1st cropping season (Jan. to Aug. 2017) or 2nd cropping season (Jun. to Dec. 2017).</li> </ul>
Participants	18 participants from Belier Region Department of Agriculture, ONDR, ANADER, seed producers (2 farmers x 7 groups)																			
Period	February 5, 2015																			
Contents	Rice production in Africa, biology of rice, seed production, RYMV, Striga, etc.																			
Participants	13 participants including 8 advance farmers selected from 8 sites of the 2nd batch target areas, 1 seed controller, 1 seed inspector (Depart. of Agriculture).																			
Period	January 26 – 28, 2016																			
Contents	Lectures, practices in paddy field and seed production planning, general discussion																			
Venue	Training paddy field at PRORIL center																			
Period	October 2016 – May 2017																			
Contents	Seed production practices have been carried out dividing into 3 stages in the paddy field at the center, which are being utilized for training purpose as well. The participants can observe 3 different stages of rice growth by attending one training course.																			
3-5 Monitor and evaluate the result of "additional support".	<p>Accomplishment Status: 2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Preparation stage.</li> </ul>																			

<Activities for Output 4>

<b>Output 4</b>	Effort of stakeholders to promote local rice is accelerated.																																																									
<b>Indicators</b>	4-1 A guideline (Document) of the project approach is designed.																																																									
	4-2 Preference to purchase local rice by consumers is improved by 30 %.																																																									
<b>Item of Activity in PDM</b>	<b>Summary of Activities to Date</b>	<b>Activities to be Undertaken</b>																																																								
4-1 Collect data on the volume of local rice distribution.	<p>Accomplishment Status: 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Since August 2014, the following 2 types of market survey have been conducted in Yamoussoukro and Bouaké.</li> </ul> <p>(1) Market survey 1: Quantities of rice marketed by all the traders (complete survey)</p> <table border="1"> <tr> <td>Objective</td> <td>To collect data of local rice marketed by all the traders in the target area and source of rice.</td> </tr> <tr> <td>Method</td> <td>By telephone interview to all the rice traders (wholesale, retail, general dealers) in Yamoussoukro and Bouaké listed by OCPV.</td> </tr> <tr> <td>Targets</td> <td>Rice traders 101 shops in Yamoussoukro and 294 shops in Bouaké</td> </tr> </table> <p>(2) Market survey 2: Quantities of rice marketed by typical traders (sample survey)</p> <table border="1"> <tr> <td>Objective</td> <td>To collect monthly data of amount and buying prices of local rice (by varieties) and imported rice (by brands) marketed by typical traders in the target areas.</td> </tr> <tr> <td>Method</td> <td>By recording of monthly amount and buying prices of local and imported rice marketed by the different types of traders selected from the OCPV list.</td> </tr> <tr> <td>Targets</td> <td>28 shops in Yamoussoukro and 23 shops in Bouaké</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>Through these surveys, information on the local and imported rice marketed in the two towns has been collected. Main findings were summarized as follows:</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Location</th> <th>Yamoussoukro</th> <th>Bouaké</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Traders with local rice</td> <td>57.4 % (58/101 shops)</td> <td>70.7 % (208/294 shops)</td> </tr> <tr> <td>Traders with imported rice</td> <td>89.1 % (90/101 shops)</td> <td>97.6 % (287/294 shops)</td> </tr> <tr> <td>Main findings about distribution channels of local rice</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>No major traders dealing with only local rice but many shops dealing with small amount of local rice.</li> <li>Rice retailers and general shops procuring local rice from producers (36) and wholesale dealers (19) within or near Yamoussoukro.</li> <li>Konéfla area is an important source of local rice.</li> <li>Danané and Wita 9 are the most common varieties marketed.</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>A number of major traders dealing with huge amount of local rice only.</li> <li>Source of local rice include producers and producer cooperatives in Oumé (far from Bouaké).</li> <li>4 varieties of Danané, Wita 9, Riz Violet and Akadi are commonly marketed.</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>(As at November 2015)</p>	Objective	To collect data of local rice marketed by all the traders in the target area and source of rice.	Method	By telephone interview to all the rice traders (wholesale, retail, general dealers) in Yamoussoukro and Bouaké listed by OCPV.	Targets	Rice traders 101 shops in Yamoussoukro and 294 shops in Bouaké	Objective	To collect monthly data of amount and buying prices of local rice (by varieties) and imported rice (by brands) marketed by typical traders in the target areas.	Method	By recording of monthly amount and buying prices of local and imported rice marketed by the different types of traders selected from the OCPV list.	Targets	28 shops in Yamoussoukro and 23 shops in Bouaké	Location	Yamoussoukro	Bouaké	Traders with local rice	57.4 % (58/101 shops)	70.7 % (208/294 shops)	Traders with imported rice	89.1 % (90/101 shops)	97.6 % (287/294 shops)	Main findings about distribution channels of local rice	<ul style="list-style-type: none"> <li>No major traders dealing with only local rice but many shops dealing with small amount of local rice.</li> <li>Rice retailers and general shops procuring local rice from producers (36) and wholesale dealers (19) within or near Yamoussoukro.</li> <li>Konéfla area is an important source of local rice.</li> <li>Danané and Wita 9 are the most common varieties marketed.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A number of major traders dealing with huge amount of local rice only.</li> <li>Source of local rice include producers and producer cooperatives in Oumé (far from Bouaké).</li> <li>4 varieties of Danané, Wita 9, Riz Violet and Akadi are commonly marketed.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A survey on quantity of rice brought to the urban areas will be continued, and that of rice sold from the target areas to urban areas will be conducted.</li> </ul>																																
Objective	To collect data of local rice marketed by all the traders in the target area and source of rice.																																																									
Method	By telephone interview to all the rice traders (wholesale, retail, general dealers) in Yamoussoukro and Bouaké listed by OCPV.																																																									
Targets	Rice traders 101 shops in Yamoussoukro and 294 shops in Bouaké																																																									
Objective	To collect monthly data of amount and buying prices of local rice (by varieties) and imported rice (by brands) marketed by typical traders in the target areas.																																																									
Method	By recording of monthly amount and buying prices of local and imported rice marketed by the different types of traders selected from the OCPV list.																																																									
Targets	28 shops in Yamoussoukro and 23 shops in Bouaké																																																									
Location	Yamoussoukro	Bouaké																																																								
Traders with local rice	57.4 % (58/101 shops)	70.7 % (208/294 shops)																																																								
Traders with imported rice	89.1 % (90/101 shops)	97.6 % (287/294 shops)																																																								
Main findings about distribution channels of local rice	<ul style="list-style-type: none"> <li>No major traders dealing with only local rice but many shops dealing with small amount of local rice.</li> <li>Rice retailers and general shops procuring local rice from producers (36) and wholesale dealers (19) within or near Yamoussoukro.</li> <li>Konéfla area is an important source of local rice.</li> <li>Danané and Wita 9 are the most common varieties marketed.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A number of major traders dealing with huge amount of local rice only.</li> <li>Source of local rice include producers and producer cooperatives in Oumé (far from Bouaké).</li> <li>4 varieties of Danané, Wita 9, Riz Violet and Akadi are commonly marketed.</li> </ul>																																																								
4-2 Conduct study on the preference of local rice by consumers.	<p>Accomplishment Status: 5</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Preference surveys on local rice and imported rice by urban consumers were conducted in Yamoussoukro (July 2014), Bouaké (October 2014) and Abidjan (December 2015). The results were summarized below.</li> </ul> <p>Results of consumers' preference surveys on rice in Yamoussoukro</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">No. of Respondents by Preference</th> <th colspan="4">No. of Respondents by Intention</th> </tr> <tr> <th>Imported rice</th> <th>Local rice</th> <th>Both</th> <th>Total</th> <th>Imported rice</th> <th>Local rice</th> <th>-</th> <th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>729</td> <td>253</td> <td>294</td> <td>1,276</td> <td>482</td> <td>763</td> <td>-</td> <td>1,246</td> </tr> <tr> <td>(57%)</td> <td>(20%)</td> <td>(23%)</td> <td>(100%)</td> <td>(39%)</td> <td>(61%)</td> <td>-</td> <td>(100%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>Results of consumers' preference surveys on rice in Bouaké</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">No. of Respondents by Preference</th> <th colspan="4">No. of Respondents by Intention</th> </tr> <tr> <th>Imported rice</th> <th>Local rice</th> <th>Both</th> <th>Total</th> <th>Imported rice</th> <th>Local rice</th> <th>-</th> <th>Total</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>351</td> <td>431</td> <td>768</td> <td>1,550</td> <td>437</td> <td>1,103</td> <td>10</td> <td>1,550</td> </tr> </tbody> </table>	No. of Respondents by Preference				No. of Respondents by Intention				Imported rice	Local rice	Both	Total	Imported rice	Local rice	-	Total	729	253	294	1,276	482	763	-	1,246	(57%)	(20%)	(23%)	(100%)	(39%)	(61%)	-	(100%)	No. of Respondents by Preference				No. of Respondents by Intention				Imported rice	Local rice	Both	Total	Imported rice	Local rice	-	Total	351	431	768	1,550	437	1,103	10	1,550	<ul style="list-style-type: none"> <li>Additional surveys are under consideration.</li> </ul>
No. of Respondents by Preference				No. of Respondents by Intention																																																						
Imported rice	Local rice	Both	Total	Imported rice	Local rice	-	Total																																																			
729	253	294	1,276	482	763	-	1,246																																																			
(57%)	(20%)	(23%)	(100%)	(39%)	(61%)	-	(100%)																																																			
No. of Respondents by Preference				No. of Respondents by Intention																																																						
Imported rice	Local rice	Both	Total	Imported rice	Local rice	-	Total																																																			
351	431	768	1,550	437	1,103	10	1,550																																																			

	(23%)	(28%)	(50%)	(100%)	(28%)	(71%)	(1%)	(100%)	
<b>4-3</b> Promote local rice to urban consumers.	Accomplishment Status: 2 <ul style="list-style-type: none"> <li>• At preparation stage.</li> <li>• In order to promote local rice marketing effectively, the following procedures are to be undertaken.               <ol style="list-style-type: none"> <li>1) Identification of major players in the rice value chain;</li> <li>2) Understanding the current situation of each player (preference, quantities of marketed rice, handling of paddy rice, etc.);</li> <li>3) Capacity development of respective players through trainings;</li> <li>4) Strengthening of linkage among upstream players of the value chain through meetings of Rice Platform and workshops; and</li> <li>5) Support downstream players of the value chain in developing plans for promotion of local rice marketing.</li> </ol> </li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>• While the activities for the upstream of the rice value chain will be continued, several activities including tasting events, school feeding, media awareness, etc. will be carried out to promote local rice consumption.</li> </ul>
<b>4-4</b> Develop guideline of the project approach.	Accomplishment Status: 1 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Guidelines will be developed based on the current activities including credit schemes and seed production, etc.</li> </ul>								<ul style="list-style-type: none"> <li>• The guidelines will be compiled after the completion of 4th batch supports in 2017.</li> </ul>

## Proposal for PDM Modification

## (1) Indicators for Project Purpose

Current PDM (Ver. 3)	Proposal for Modification	Reason
3. Volume of milled local rice sold by target group (millers) is increased by 50%.	➤ Merge OVI 4 with OVI 3.	➤ Difficult to distinguish most traders from millers.
4. Volume of milled local rice sold by target groups (traders) is increased by 50%.	(New Indicator) 3. Volume of milled local rice sold by the target group ( <u>millers/traders</u> ) is increased by 50%.	➤ Difficult to identify small-scale traders as a separate target group. (Refer to discussion in 3.5)

## (2) Statement of Output 1

Current PDM (Ver. 3)	Proposal for Modification	Reason
1. Dialogue among stakeholders is promoted.	1. Linkage among stakeholders in the rice value chain is strengthened.	➤ More appropriate statement to reflect the activities undertaken by the Project.

## (3) Indicators for Outputs

Current PDM (Ver. 3)	Proposal for Modification	Reason
<b>Output 1:</b> ➤ No indicators for achievement regarding the credit system related activities.	➤ Add another indicator to reflect actual activities undertaken by the Project.  (New Indicator 1-5) 1-5. Lessons learnt on introduction of sustainable credit system required by producers and millers/traders are shared among stakeholders.	➤ The Project has undertaken a good volume of activities regarding the credit system that have not been articulated in PDM. (Refer to discussion in section 3.3.1)
<b>Output 2:</b> 2-1. 80% of the producers participating in the training courses apply 75 % of basic techniques.  2-2. 80% of processors/distributors participants training apply 75 % of basic techniques.	2-1. More than two thirds (2/3) of producers participating in the training courses apply the basic techniques trained.  2-2. <u>More than two thirds (2/3) of rice millers/ traders participating in the training courses</u> apply basic techniques trained.	➤ Make the monitoring easy and feasible (Refer to discussion in 3.3.2) ➤ Unify the terms and statements.
<b>Output 3:</b>	(No change)	
<b>Output 4:</b> 4-1. A guideline of the project approach is developed.	4.1 The developed guideline for the project approach is adopted by MINADER/ONDR.	➤ More appropriate indicator to assess the achievement level of Output 4. (Refer to discussion in 3.3.4)

## 5. Means of Verification

Current PDM (Ver. 3)	Proposal for Modification
<b>Project Purpose:</b> 1. Target group monitoring document 2. Stakeholder monitoring document	1. Interview survey to the producers on production of paddy 2. Interview survey to the producers on sale of paddy 3. Interview survey to the millers/trader on sale of paddy and milled rice 4. Statistical data of rice collected by ONDR

<b>Current PDM (Ver. 3)</b>	<b>Proposal for Modification</b>
<b>Output 1:</b> 1.1 Project data 1.2 Project data	1.1 Project progress reports 1.2 Project progress reports 1.3 Project progress reports 1.4 Project progress reports, Interview survey to the Platform members 1.5 Project progress reports, Interview survey to financial institutes and users (producers, millers/traders) of credit scheme
<b>Output 1:</b> 2.1 Project data 2.2 Project data	2.1 Project progress reports, Report on trainings, Interview survey to training participants (producers) 2.2 Project progress reports, Report on trainings, Interview survey to training participants (millers/traders)
<b>Output 1:</b> 3.1 Project data	3.1 Project progress reports, Interview survey to beneficiaries of 'additional support'
<b>Output 1:</b> 4.1 Project data 4.2 Project data	4.1 Developed guideline on the project approach, Intension of policy makers in MINADER/ONDR to adopt the guideline. 4.2 Preference survey on rice (local and imported) in urban areas (Abidjan, Yamoussoukro, Bouake)

## 6. Activities

<b>Current PDM (Ver. 3)</b>	<b>Proposal for Modification</b>	<b>Reason</b>
<b>Activities for Output 1:</b> 1.4.	(addition) 1-4. Conduct trials for introduction of credit system required to promote local rice production and distribution (e.g. agro-inputs and purchase of paddy).	➤ Reflect actual activities undertaken by the Project. (Refer to discussion in section 3.3.1)

## 7. Important Assumptions

<b>Current PDM (Ver. 3)</b>	<b>Proposal for Modification</b>	<b>Reason</b>
<b>Activity to Output Level:</b> 1. Natural disaster such as drought and flood will not occur.	1. Unfavorable weather conditions (e.g. rainfall patterns) do not affect the rice production seriously.	➤ Reflect actual risk.



## Project Design Matrix (PDM) Ver. 4 (proposed)

<b>Project Title:</b>	Local Rice Promotion Project in Republic of Cote d'Ivoire (PRORIL)
<b>Period:</b>	February 2014 –January 2019 (5 years)
<b>Implementing Agency:</b>	Ministry of Agriculture and Rural Development (MINADER), National Rice Development Office (ONDR)
<b>Target Areas:</b>	Abidjan, Yamoussoukro, Belier Region, Gbeke Region
<b>Target Group</b>	Producers groups, rice millers, traders
<b>Date Formulated/Modified:</b>	Version: 1 (October 14, 2013), 2 (April 4, 2014), 3 (February, 2016)

Project Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<b>Overall Goal:</b> Volume of rice <sup>1)</sup> sold in the target area is increased.	1. Volume of rice produced/sold in the target area is increased by 30%. 2. Volume of rice sold from target area to urban area is increased by 30%.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Statistics and information system of rice sector operated by ONDR</li> </ul>	
<b>Project Purpose:</b> Volume of rice sold by target groups is increased.	1. Volume of paddy rice produced by target groups (producers) is increased by 40%. 2. Volume of paddy rice sold by target groups (producers) is increased by 40%. 3. Volume of milled local rice sold by target group (millers/traders) is increased by 50%.	<ol style="list-style-type: none"> <li>Interview survey to the producers on production of paddy</li> <li>Interview survey to the producers on sale of paddy</li> <li>Interview survey to the millers/trader on sale of paddy and milled rice</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>Statistical data of rice collected by ONDR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>The price of rice in international market does not fluctuate significantly.</li> </ul>
<b>Output:</b> 1 <u>Linkage among stakeholders <sup>2)</sup> in the rice value chain is strengthened.</u>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 Target producers groups/rice millers/traders are identified.</li> <li>1.2 At least 75% of identified groups participate in the platform <sup>3)</sup>.</li> <li>1.3 All the participants to the platform meet at least 4 times per year.</li> <li>1.4 Common condition of rice production and sales is shared among stakeholders.</li> <li>1.5 <u>Lessons learnt on introduction of sustainable credit system required by producers and millers/traders are shared among stakeholders.</u></li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 Project progress reports</li> <li>1.2 Project progress reports</li> <li>1.3 Project progress reports</li> <li>1.4 Project progress reports, Interview survey to the Platform members</li> <li>1.5 Project progress reports, Interview survey to financial institutes and users (producers, millers/traders) of credit scheme Project data</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>The price of rice in the domestic market does not fluctuate significantly</li> </ul>
2 Knowledge and techniques provided through training are utilized by target groups.	<ol style="list-style-type: none"> <li>2.1 <u>More than two thirds (2/3) of producers participating in the training courses apply the basic techniques trained.</u></li> <li>2.2 <u>More than two thirds (2/3) of rice millers/traders participating in the training courses apply basic techniques trained.</u></li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2.1 Project progress reports, Report on trainings, Interview survey to training participants (producers)</li> <li>2.2 Project progress reports, Report on trainings, Interview survey to training participants (millers/traders) Project data</li> </ol>	
3 Capacity of selected groups <sup>4)</sup> for rice producing/milling/trading is strengthened by "additional support".	3.1 50% of selected groups attain the goals set for "additional support" <sup>5)</sup> .	3.1 Project progress reports, Interview survey to beneficiaries of "additional support"	
4 Effort of stakeholders to promote local rice is accelerated.	<ol style="list-style-type: none"> <li>4.1 <u>The developed guideline for the project approach is adopted by MINADER/ONDR.</u></li> <li>4.2 Preference to purchase local rice by consumers is improved by 30%.</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>4.1 Developed guideline on the project approach, Intension of policy makers in MINADER/ONDR to adopt the guideline.</li> <li>4.2 Preference survey on rice (local and imported) in urban areas (Abidjan, Yamoussoukro, Bouake)</li> </ol>	

Activities:	Inputs:		Important Assumption:
<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 Identify detail profile of target groups.</li> <li>1.2 Identify other stakeholders involved in rice promotion in the target area.</li> <li>1.3 Facilitate the dialogue among stakeholders.</li> <li>1.4 Conduct trials for introduction of credit system required to promote local rice production and distribution (e.g. agro-inputs and purchase of paddy).</li> </ol>	<p>Japan</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Experts <ul style="list-style-type: none"> <li>Chief Advisor</li> <li>Rice Cultivation/ Management</li> <li>Rive Value Chain</li> <li>Irrigation/Water Management</li> <li>Rural Finance</li> <li>Coordinator</li> <li>Others (e.g. Post-harvest Facility)</li> </ul> </li> <li>(2) Training of counterpart personnel in Japan and/or in the Third Countries</li> <li>(3) Provision of machinery and equipment</li> <li>(4) Local expenses for project activities <ul style="list-style-type: none"> <li>Expenses for training, workshops, seminars, etc.</li> <li>Teaching materials for training</li> </ul> </li> </ol> <p>Others as necessary</p>	<p>Cote d'Ivoire</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) Counterpart Personnel <ul style="list-style-type: none"> <li>Project Director</li> <li>Project Manager</li> <li>Rice Cultivation/ Water Management</li> <li>Farmer Organization</li> <li>Rive Value Chain</li> <li>Others</li> </ul> </li> <li>(2) Provision of facility and equipment <ul style="list-style-type: none"> <li>Suitable office space with necessary equipment and utilities (Electricity, water, , air conditioners, etc.)</li> </ul> </li> <li>(3) Arrangements <ul style="list-style-type: none"> <li>Access to the necessary information, permission to undertake project activities, and securing safety</li> <li>Information as well as support for obtaining medical services</li> <li>Credentials or identification cards</li> </ul> </li> <li>(4) Budget Allocation <ul style="list-style-type: none"> <li>Allocation of counterpart budget</li> <li>Operation and maintenance cost of provided equipment and developed facilities in the Project</li> <li>Financial support for the project-assigned personnel</li> </ul> </li> <li>(5) Others as necessary</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>Unfavorable weather conditions (e.g. rainfall patterns) do not affect the rice production seriously.</u></li> <li>Local price of agriculture inputs such as fertilizers, agrochemicals, will not fluctuate significantly.</li> </ul> <p><b>Precondition:</b> Security condition in target area is maintained.</p>
<ol style="list-style-type: none"> <li>2.1 Develop the training materials.</li> <li>2.2 Organize the technical training for extension workers.</li> <li>2.3 Provide the input for the training for target producers (seed, fertilizer, etc.).</li> <li>2.4 Organize the technical training to target producer groups.</li> <li>2.5 Organize the technical training to target rice millers/traders.</li> <li>2.6 Monitor and evaluate the achievement of target groups.</li> </ol>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>3.1 Develop the menus for "additional support".</li> <li>3.2 Select the beneficiaries for "additional support".</li> <li>3.3 Work out detailed plan of "additional support" with government, private institutes and donors.</li> <li>3.4 Implement the "additional support".</li> <li>3.5 Monitor and evaluate the results of "additional support".</li> </ol>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>4.1 Collect data on the volume of local rice distribution.</li> <li>4.2 Conduct study on the preference of local rice by consumers.</li> <li>4.3 Promote local rice to urban consumers.</li> <li>4.4 Develop guideline of the project approach.</li> </ol>			

1) "Rice" in the PDM refers to locally produced rice (Indica varieties),.

2) Stakeholders include all the institutions involved in the rice sector in the target area including government, cooperatives donors and private sector.

3) Rice Multi-Actors Platform; 4) Selected producer groups and rice millers/traders are those who show excellent achievement based on the monitoring of output 2.

5) "Additional support" will be worked out in the course of the activities.

付属資料-2 中間レビューに用いた PDM（第3版）

プロジェクトタイトル:	コートジボワール国 国産米振興プロジェクト (PRORIL)
期間:	2014年2月～2019年2月 (5年間)
実施機関:	農業農村開発省、国家コメ開発事務所
対象地域:	アビジャン、ヤムスクロ特別行政区、ベケ州、ベリエ州
対象グループ:	コメ生産者・生産者組織 (25グループ程度、1,500名程度)、精米業者・流通業者・販売業者など (100名程度)、普及員 (30名程度)
作成・変更:	第1版 (2013年10月14日)、第2版 (2014年4月4日)、第3版 (2016年2月)

プロジェクト要約	指標	指標確認手段	外部条件
<b>上位目標:</b> 対象地域で生産されたコメ販売量 <sup>1)</sup> が拡大する。	1. 対象地域農家によるコメ生産量及び販売量が、30%増加する。 2. 対象地域から都市部 (アビジャン、ヤムスクロ) へのコメ販売量が、30%増加する。	・ ONDR 収集による統計情報	
<b>プロジェクト目標:</b> 対象農家によるコメ販売量が増加する。	1. 対象グループ (生産者) によるコメ (粳) 生産量が、40%増加する。 2. 対象グループ (生産者) によるコメ (粳) 販売量が、40%増加する。 3. 対象グループ (精米業者) による地元産コメ (精米) 販売量が、50%増加する。 4. 対象グループ (流通業者) による地元産コメ (精米) 販売量が、50%増加する。	・ 対象グループのモニタリング情報 ・ ステークホルダーのモニタリング情報	・ コメの国際価格が大きく変動しない。
<b>成果(アウトプット):</b> 1 ステークホルダー <sup>2)</sup> の対話が促進される。	1.1 対象となる生産者グループ・精米業者・流通業者が明らかになる。 1.2 特定されたグループの75%以上がプラットフォーム (PF) に参加する。 1.3 プラットフォーム参加者全員が、最低年4回の頻度でミーティングする。 1.4 コメ生産・販売に関する共通の条件 (収穫後の取り扱い方法や、販売時の最低価格の設定など) が共有される。	・ プロジェクトデータ	・ コメの国内価格が大きく変動しない。
2 対象グループにより、研修を通じて得られた知識・技術が活用される。	2.1 研修に参加した農家の80%が、75%の基礎技術を活用する。 2.2 研修に参加した精米・流通業者の80%が、75%の基礎技術を活用する。	・ プロジェクトデータ	
3 (対象グループから) 選定された生産者・精米業者・流通業者の能力が、「追加支援」によって強化される。	3.1 選定されたグループ (生産者・精米業者・流通業者) の50%が、「追加支援」 <sup>4)</sup> の目標を達成する。	・ プロジェクトデータ	
4 ステークホルダーによる国産米振興に関する取り組みが加速される。	4.1 アプローチに関するガイドラインが作成される。 4.2 消費者による国産米の購買意欲が、30%向上する。	・ プロジェクトデータ	

<p><b>活動：</b>          1.1 対象グループの詳細情報を整理する。          1.2 対象地域のコメ振興に関するステークホルダー情報を整理する。          1.3 ステークホルダー間の対話を促す。</p>	<p><b>投入：</b>          日本側          (1) 専門家          ・チーフアドバイザー          ・バリューチェーン          ・業務調整          ・稲栽培技術・水管理          ・農民組織          ・農村金融          ・その他(収穫後処理など)          (2) 本邦・第三国研修</p>	<p>コートジボワール側          (1) カウンタパート職員          ・プロジェクト・ダイレクター          ・プロジェクト・マネジャー          ・稲栽培技術・水管理          ・農民組織          ・バリューチェーン          ・その他</p>	<p><b>外部条件：</b>          ・干ばつ・洪水といった自然災害が起きない。          ・肥料や農薬など投入材の価格が大きく変動しない。</p>
<p>2.1 研修に必要な教材の作成を行う。          2.2 普及員に対する技術研修を実施する。          2.3 研修に必要なインプット(種、肥料など)を対象グループに供与する。          2.4 生産者グループに対する研修を実施する。          2.5 精米業者/流通業者に対する研修を実施する。          2.6 研修に参加した生産者グループのモニタリング・評価を実施する。</p>	<p>(2) 本邦・第三国研修</p>	<p>(2) 施設・機材          ・事務所・事務機器(光熱費など)</p>	<p><b>前提条件：</b>          ・対象地域の安全が維持される。</p>
<p>3.1 「追加支援」のメニューを作成する。          3.2 「追加支援」対象受益者を選定する。          3.3 政府、他ドナー、民間企業、NGO等と協議のうえ、支援方法を具体化する。          3.4 「追加支援」を実施する。          3.5 「追加支援」の結果をモニタリング・評価する。</p>	<p>(3) 機材供与</p>	<p>(3) 手配          ・活動、安全対策上必要な情報の提供          ・医療に関する情報          ・IDカードの発行</p>	
<p>4.1 国産米の流通量に関するデータを収集する。          4.2 消費者の国産米の嗜好調査を実施する。          4.3 都市部の消費者に対する国産米の販売促進活動を実施する。          4.4 プロジェクトのアプローチをガイドラインとして取りまとめる。</p>	<p>(4) 現地業務費          ・研修、ワークショップ、セミナーなど開催経費          ・研修必要資機材          ・その他</p>	<p>(4) 活動費          ・カウンタパート経費          ・人件費</p>	
		<p>(5) その他</p>	

- 1) PDMで言う「コメ」は国産米(インディカ種)のことを指す。
- 2) ステークホルダーとは受益者(地元の生産者、精米業者、流通業者)及び、対象地域で活動している海外民間企業(欧米民間企業)、ドナー(FAO、世界銀行)を含めた関係者を意味する。
- 3) 成果2のモニタリング結果、優秀な結果を残したグループを指す。
- 4) 「追加支援」詳細は、活動のプロセスで特定される予定である。

## 付属資料-3 「コートジボワール国 国産米振興プロジェクト」中間レビュー調査 評価グリッド

## (1) プロジェクトの実績

評価の視点・項目		評価設問	必要な情報・データ	情報源・収集方法
投入実績 (実績の記載のみ)	日本側の投入実績	専門家は適切に派遣されたか(分野、専門分野、人数、派遣のタイミング)	専門家アサイン実績データ	プロジェクト進捗報告書(中間レビュー事前資料含む、以下同じ)
		C/P研修は適切に実施されたか(研修分野、内容、人数、実施タイミング)	研修実績データ(人数、期間、研修内容)	プロジェクト進捗報告書、研修レポート
		供与機材は適切であったか(投入機材の種類、数量、使用目的、調達タイミング)	供与機材リスト、調達の記録	供与機材実績表、プロジェクト進捗報告書
		ローコスト(プロジェクト運営費)負担は適切であったか(在外事業強化費内容、拠出タイミング)	在外事業強化費会計報告	在外事業強化費会計報告書、プロジェクト進捗報告書
	「コ」国側の投入実績	C/Pは適切に配置されたか(人数、職位、交代の有無)	C/P配置の記録	C/P配置実績表、プロジェクト進捗報告書
		プロジェクト関連経費の予算と投入金額、拠出タイミングは適切だったか	「コ」国実施機関の予算と投入実績データ	「コ」国実施機関の予算書と会計記録
土地、建物、施設の提供、日本側で供与されない必要機材の購入、機材の更新は適切に行われたか		投入機材のリスト、調達実績データ	プロジェクト進捗報告書、「コ」国側のレポート	
成果(アウトプット)の達成状況	成果1「ステークホルダーの対話が促進される。」の達成度	指標1-1「対象となる生産者グループ・精米業者・流通業者が明らかになる。」は達成される見込みか	明らかになった生産者グループ・精米業者・流通業者のリスト	プロジェクト進捗報告書、モニタリングレポート、専門家・C/Pやプラットフォーム参加者へのインタビュー・アンケート
		指標1-2「特定されたグループの75%以上がプラットフォームに参加する。」はどの程度達成される見込みか	プラットフォームに参加したグループのリスト、会議の記録	
		指標1-3「プラットフォーム参加者全員が、最低年4回の頻度でミーティングをもつ。」はどの程度達成される見込みか	プラットフォームに参加したグループのリスト、会議の記録	
		指標1-4「コム生産・販売に関する共通の条件(収穫後の取り扱い方法や、販売時の最低価格の設定など)が共有される。」はどの程度達成される見込みか	「コム生産・販売に関する共通の条件」を理解し、実行しているステークホルダーの割合	
	成果2「対象グループにより、研修を通じて得られた知識・技術が活用される。」の達成度	指標2-1「研修に参加した農家の80%が、75%の基礎技術を活用する。」はどの程度達成される見込みか	研修に参加した農家の数、基礎技術の数、研修後の営農技術の変化	プロジェクト進捗報告書、モニタリングレポート、専門家・C/Pや農家へのインタビュー・アンケート
		指標2-2「研修に参加した精米・流通業者の80%が、75%の基礎技術を活用する。」は達成される見込みか	研修に参加した精米・流通業者の数、基礎技術の数、研修後の営業活動に係わる技術の変化	プロジェクト進捗報告書、モニタリングレポート、専門家・C/Pや業者へのインタビュー・アンケート
	成果3「(対象グループから)選定された生産者・精米業者・流通業者の能力が、「追加支援」によって強化される。」の達成度	指標3-1「選定されたグループ(生産者・精米業者・流通業者)の50%が、「追加支援」の目標を達成する。」は達成される見込みか	選定されたグループ(生産者・精米業者・流通業者)の数、「追加支援」の目標を達成したグループの数、営業、営業活動の変化	プロジェクト進捗報告書、モニタリングレポート、専門家・C/Pや農家、業者へのインタビュー・アンケート
	成果4「ステークホルダーによる国産米振興に関する取り組みが加速される。」の達成度	指標4-1「アプローチに関するガイドラインが作成される。」は達成される見込みか	作成されたガイドライン	作成されたガイドラインの内容確認
指標4-2「消費者による国産米の購買意欲が、30%向上する。」は達成される見込みか		国産米の販売量の推移、消費者の購買意欲の変化(ベースラインとエンドライン・データ)	国産米の販売量データ収集、消費者の意向調査	
プロジェクト目標の達成度	プロジェクト目標「対象農家によるコム販売量が増加する。」の達成見込み	指標1「対象グループ(生産者)によるコム(粳)生産量が、40%増加する。」は達成される見込みか	対象グループ(生産者)によるコム(粳)生産量の推移(ベースラインとエンドライン・データ)	対象グループ(生産者)によるコム(粳)生産量のデータ収集・モニタリング、生産者へのインタビュー
		指標2「対象グループ(生産者)によるコム(粳)販売量が、40%増加する。」は達成される見込みか	対象グループ(生産者)によるコム(粳)販売量の推移(ベースラインとエンドライン・データ)	対象グループ(生産者)によるコム(粳)販売量のデータ収集・モニタリング、生産者へのインタビュー
		指標3「対象グループ(精米業者)による地元産コム(精米)販売量が、50%増加する。」は達成される見込みか	対象グループ(精米業者)による地元産コム(精米)販売量の推移(ベースラインとエンドライン・データ)	対象グループ(精米業者)による地元産コム(精米)販売量のデータ収集・モニタリング、精米業者へのインタビュー
		指標4「対象グループ(流通業者)による地元産コム(精米)販売量が、50%増加する。」は達成される見込みか	対象グループ(流通業者)による地元産コム(精米)販売量の推移(ベースラインとエンドライン・データ)	対象グループ(流通業者)による地元産コム(精米)販売量のデータ収集・モニタリング、流通業者へのインタビュー
上位目標の達成見込み	上位目標「対象地域で生産されたコム販売量が拡大する。」の達成見込み	指標1「対象地域農家によるコム生産量及び販売量が30%増加する。」の実現見込みはどの程度か	対象地域農家によるコム生産量及び販売量の推移(ベースラインとエンドライン・データ)	対象地域農家によるコム生産量及び販売量のデータ収集・モニタリング、関係者へのインタビュー
		指標2「対象地域から都市部(アビジャン、ヤムスクロ)へのコム販売量が30%増加する。」の実現見込みはどの程度か	対象地域から都市部(アビジャン、ヤムスクロ)へのコム販売量の推移(ベースラインとエンドライン・データ)	対象地域から都市部(アビジャン、ヤムスクロ)へのコム販売量のデータ収集・モニタリング、関係者へのインタビュー

(2)実施プロセス

評価の視点・項目		評価設問	必要な情報・データ	情報源・収集方法	
実施プロセス	マネジメント体制	プロジェクト活動のモニタリングは、日・「コ」国両サイトによって適切に行われているか	プロジェクト外の進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見	ミーティング議事録、プロジェクト進捗報告書、専門家・C/P・JICA担当者へのインタビュー・アンケート	
		PDM・POの軌道修正は適切に行われたか			
		日本人専門家と「コ」国C/P間で日常的なコミュニケーション・情報共有は、適切に行われているか			
		定期会議、運営調整委員会は開催され、課題解決のために機能しているか			
	実施機関のオーナーシップ	JICA(本部・在外事務所)とプロジェクト間のコミュニケーションは良好に行われているか	専門家・JICA事務所職員の意見		
		「コ」国側実施機関責任者、C/Pのプロジェクト活動への参加は十分あるか	プロジェクト外の進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見		
	他のプロジェクトとの連携	「コ」国政府によるプロジェクト活動予算の充当は十分なされているか	「コ」国実施機関の予算と投入実績データ、専門家・C/Pの意見		「コ」国実施機関の予算書、専門家・C/Pへのインタビュー・アンケート
		他のプロジェクトとの連携はあるか			
実施プロセスにおける留意点・阻害要因	実施機関の組織改編、人事異動(責任者・C/P)があったか、あった場合、プロジェクトの進捗にどう影響したか	プロジェクト外の進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見	ミーティング議事録、プロジェクト進捗報告書、専門家・C/P、他ドナー関係者へのインタビュー・アンケート		
	プロジェクトの実施プロセスで生じている問題や、効果発現に影響を与えた阻害要因はあるか				

(3)5項目評価

評価の視点・項目		評価設問	必要な情報・データ	情報源・収集方法
妥当性	プロジェクトの必要性・優先度・政策との整合性	協力内容は、「コ」国政府のニーズと合致しているか	「コ」国政府の開発計画・農業政策文書、政策担当者・専門家・C/Pの意見	関連する開発計画書、政策担当者・専門家・C/Pへのインタビュー・アンケート
		協力内容は対象グループ(生産者・精米業者・流通業者)のニーズに合致しているか	対象地域の受益者(生産者・精米業者・流通業者)の意見	生産者・精米業者・流通業者へのインタビュー・アンケート
		プロジェクトが設定した目標は、「コ」国の開発計画やなどとの整合性があり、優先度が高いか	「コ」国政府の開発計画・農業政策文書、政策担当者・専門家・C/Pの意見	関連する開発計画書、政策担当者・専門家・C/Pへのインタビュー・アンケート
		日本の「コ」国に対する援助政策との整合性はあるか	対「コ」国国別援助計画、JICA事業実施計画、外務省・JICA担当者の意見	国別援助方針・事業実施計画者、外務省・JICA担当者へのインタビュー・アンケート
	手段・ターゲット・グループ選定の適切性	プロジェクト・アプローチ(ステークホルダーの連携強化、研修による生産者・流通業者の能力向上を通じた国産米振興)は、プロジェクト実施戦略として適切だったか	「コ」国政府開発計画政策文書、政策担当者・専門家・C/Pの意見	関連する開発計画書、政策担当者・専門家・C/Pへのインタビュー・アンケート
		プロジェクトの対象地域の選定は、「コ」国政府の開発戦略に照らして適切だったか		
		ターゲットグループ(対象地域の農民・精米業者・流通業者)の絞り込みは、「コ」国政府の開発戦略に照らして適切に行われたか		
		日本の技術の優位性はあったか(終了技プロ、その他、我が国の経験・ノウハウを活かしたか)		
有効性	プロジェクト目標の達成見込み	プロジェクトの支援により「対象農家によるコメ販売量が増加」が実現される見込みは高いか	専門家・C/Pの意見、プロジェクト活動の記録	プロジェクト進捗報告書、専門家・C/Pへのインタビュー・アンケート
		プロジェクトの4つの成果(アウトプット)が達成されれば、プロジェクト目標は達成されるか		
	外部要因の影響	プロジェクト以外にプロジェクト目標達成に貢献した要因はあるか		
		成果(アウトプット)からプロジェクト目標に至るまでの外部条件の影響はあるか		
	プロジェクト目標達成を阻害する、予期せぬ要因はあるか			

評価の視点・項目		評価設問	必要な情報・データ	情報源・収集方法
効率性	活動の貢献	成果(アウトプット)を達成するために十分な活動が計画され、タイミングよく実施されているか	プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見	ミーティング議事録、プロジェクト進捗報告書、専門家・C/Pへのインタビュー・アンケート
	日本側の投入の適性度	専門家の専門性、資質、派遣人数、日数、タイミングは適切か		
		供与機材の種類、量、投入タイミングは適切か		
		本邦・第三国研修の対象人数、分野、研修内容、研修期間、実施時期は適切か、得られた知識・技術は帰国後に活用されているか		
		日本のローコスト負担は、金額、使途、提出タイミングからみて適正か		
	「コ」国側からの投入の適性度	C/Pの人数、配置、能力は適切か		
		土地、建物、施設の規模、質、利便性に問題はないか 「コ」国側が提出したプロジェクト活動予算額は、適正規模か		
外部要因の影響	プロジェクト以外に効率性を促進した要因はあるか 効率性を阻害した要因はあるか			
インパクト (予測)	上位目標の達成見込み	上位目標「対象地域で生産されたコ販売量が拡大する。」は、プロジェクトの効果として数年後に達成される見込みがあるか。	プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/Pの意見	プロジェクト進捗報告書、専門家・C/Pへのインタビュー・アンケート
	因果関係・外部条件	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか		
		プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件が、満たされる可能性は高いか		
		上位目標の達成を阻害する要因はあるか		
予期されなかったインパクト・波及効果	政策、制度、社会経済、技術面などで、上位目標以外のプラスあるいはマイナスの効果・影響があったか			
持続性 (予測)	政策・制度	協力終了後も、当該プロジェクトの成果が政策・制度面から持続される見込みはどの程度あるか	プロジェクトの進捗・活動記録、専門家・C/P・受益者の意見	プロジェクト進捗報告書、専門家・C/P・農民へのインタビュー・アンケート
	財政	同様な目的のために、「コ」国政府の予算措置が講じられる見込みはどの程度あるか		
	組織	同様な目的のために、「コ」国政府の組織的な整備(人材配置、意思決定プロセス等)はどの程度行われているか(見込みがあるか)		
	技術	プロジェクトで推奨された知識・技術は、関係機関スタッフに受容されつつあるか		
		協力終了後、関係機関が強化された能力を維持できる見込みはどの程度あるか		
		協力終了後、本プロジェクト対象外の地域普及する見込みはどの程度あるか		
総合的自立発展性	本プロジェクトによるインパクトの総合的な持続性は、どの程度見込めるか			

(4)計画の見直し

評価の視点・項目		評価設問	必要な情報・データ	情報源・収集方法
計画の見直し	可能性の検討	活動・投入面での見直しの必要性はあるか	活動計画と実績、専門家・C/Pの意見	プロジェクト進捗報告書、専門家・C/Pへのインタビュー・アンケート
		プロジェクトの成果、目標及び指標について、見直しの必要性があるか		
		プロジェクトの進捗を促進するためにどのような手段の可能性があるか		
		プロジェクト実施体制について、見直しの必要性があるか		

## 付属資料-4 提言に基づくPDM(第4版)

プロジェクトタイトル:	コートジボワール国 国産米振興プロジェクト (PRORIL)
期間:	2014年2月～2019年2月(5年間)
実施機関:	農業農村開発省、国家コメ開発事務所
対象地域:	アビジャン、ヤムスクロ特別行政区、ベケ州、ペリエ州
対象グループ:	コメ生産者・生産者組織(25グループ程度、1,500名程度)、精米業者・流通業者・販売業者など(100名程度)、普及員(30名程度)
作成・変更:	第1版(2013年10月14日)、第2版(2014年4月4日)、第3版(2016年2月)

プロジェクト要約	指標	指標確認手段	外部条件
<b>上位目標:</b> 対象地域で生産されたコメ販売量 <sup>1)</sup> が拡大する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>対象地域農家によるコメ生産量及び販売量が、30%増加する。</li> <li>対象地域から都市部(アビジャン、ヤムスクロ)へのコメ販売量が、30%増加する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ONDR収集による統計情報</li> </ul>	
<b>プロジェクト目標:</b> 対象農家によるコメ販売量が増加する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>対象グループ(生産者)によるコメ(粳)生産量が、40%増加する。</li> <li>対象グループ(生産者)によるコメ(粳)販売量が、40%増加する。</li> <li>対象グループ(精米業者・流通業者)による地元産コメ(精米)販売量が、50%増加する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>粳生産量にかかわる生産者への聞き取り調査</li> <li>粳販売量にかかわる生産者への聞き取り調査</li> <li>粳・白米販売量にかかわる精米業者・流通業者への聞き取り調査</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>ONDRによって収集されるコメにかかわる統計データ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメの国際価格が大きく変動しない。</li> </ul>
<b>成果(アウトプット):</b> 1 コメバリューチェーンにおけるステークホルダー間の連携が強化される。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 対象となる生産者グループ・精米業者・流通業者が明らかになる。</li> <li>1.2 特定されたグループの75%以上がプラットフォーム(PF)に参加する。</li> <li>1.3 プラットフォーム参加者全員が、最低年4回の頻度でミーティングをする。</li> <li>1.4 コメ生産・販売に関する共通の条件(収穫後の取り扱い方法や、販売時の最低価格の設定など)が共有される。</li> <li>1.5 生産者・精米業者・流通業者に必要とされている持続的なクレジットシステム導入についての教訓がコメセクター関係者の間で共有される。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.1 プロジェクト活動進捗報告書</li> <li>1.2 プロジェクト活動進捗報告書</li> <li>1.3 プロジェクト活動進捗報告書</li> <li>1.4 プロジェクト活動進捗報告書、PF参加者への聞き取り調査</li> <li>1.5 プロジェクト活動進捗報告書、クレジットを提供する金融機関・利用者への聞き取り調査</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コメの国内価格が大きく変動しない。</li> </ul>
2 対象グループにより、研修を通じて得られた知識・技術が活用される。	<ol style="list-style-type: none"> <li>2.1 研修に参加した生産者の3分の2以上が、研修で学んだ基礎技術を適用する。</li> <li>2.2 研修に参加した精米業者・流通業者の3分の2以上が、研修で学んだ基礎技術を適用する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>2.1 プロジェクト進捗報告書、研修報告書、研修参加者(生産者)への聞き取り調査</li> <li>2.2 プロジェクト進捗報告書、研修報告書、研修参加者(精米業者・流通業者)への聞き取り調査</li> </ol>	
3 (対象グループから)選定された生産者・精米業者・流通業者の能力が、「追加支援」によって強化される。	<ol style="list-style-type: none"> <li>3.1 選定されたグループ(生産者・精米業者・流通業者)の50%が、「追加支援」<sup>4)</sup>の目標を達成する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>3.1 プロジェクト進捗報告書、「追加支援」受益者への聞き取り調査</li> </ol>	

プロジェクト要約	指標	指標確認手段	外部条件
4 ステークホルダーによる国産米振興に関する取り組みが加速される。	4.1 開発されたアプローチに関するガイドラインがMINADER/ONDRによって正式な政策文書として採択される。 4.2 消費者による国産米の購買意欲が、30%向上する。	4.1 アプローチに関するガイドライン、MINADER/ONDR 政策担当者の意向 4.2 都市部（アビジャン、ヤムスクロ、ブアケ）におけるコメ（国産米・輸入米）消費にかかわる嗜好調査	

<b>活動：</b> 1.1 対象グループの詳細情報を整理する。 1.2 対象地域のコメ振興に関するステークホルダー情報を整理する。 1.3 ステークホルダー間の対話を促す。 <b>1.4 国産米の生産・流通を増加させるために必要なクレジットシステム（投入材購入、初買取など）の導入を試行する。</b>	<b>投入：</b> 日本側 (1) 専門家 ・チーフアドバイザー ・バリューチェーン ・業務調整 ・稲栽培技術・水管理 ・農民組織 ・農村金融 ・その他（収穫後処理など） (2) 本邦・第三国研修 (3) 機材供与 (4) 現地業務費 ・研修、ワークショップ、セミナーなど開催経費 ・研修必要資機材 ・その他	コートジボワール側 (1) カウンタパート職員 ・プロジェクト・ダイレクター ・プロジェクト・マネジャー ・稲栽培技術・水管理 ・農民組織 ・バリューチェーン ・その他 (2) 施設・機材 ・事務所・事務機器（光熱費など） (3) 手配 ・活動、安全対策上必要な情報の提供 ・医療に関する情報 ・IDカードの発行 (4) 活動費 ・カウンタパート経費 ・人件費 (5) その他	<b>外部条件：</b> ・好ましくない気候条件(e.g. 降雨)がコメの生産に深刻な打撃を及ぼさない。 ・肥料や農薬など投入材の価格が大きく変動しない。 <b>前提条件：</b> ・対象地域の安全が維持される。
2.1 研修に必要な教材の作成を行う。 2.2 普及員に対する技術研修を実施する。 2.3 研修に必要なインプット（種、肥料など）を対象グループに供与する。 2.4 生産者グループに対する研修を実施する。 2.5 精米業者/流通業者に対する研修を実施する。 2.6 研修に参加した生産者グループのモニタリング・評価を実施する。			
3.1 「追加支援」のメニューを作成する。 3.2 「追加支援」対象受益者を選定する。 3.3 政府、他ドナー、民間企業、NGO等と協議のうえ、支援方法を具体化する。 3.4 「追加支援」を実施する。 3.5 「追加支援」の結果をモニタリング・評価する。			
4.1 国産米の流通量に関するデータを収集する。 4.2 消費者の国産米の嗜好調査を実施する。 4.3 都市部の消費者に対する国産米の販売促進活動を実施する。 4.4 プロジェクトのアプローチをガイドラインとして取りまとめる。			

- 1) PDMで言う「コメ」は国産米（インディカ種）のことを指す。
- 2) ステークホルダーとは受益者（地元の生産者、精米業者、流通業者）及び、対象地域で活動している海外民間企業（欧米民間企業）、ドナー（FAO、世界銀行）を含めた関係者を意味する。
- 3) 成果2のモニタリング結果、優秀な結果を残したグループを指す。
- 4) 「追加支援」詳細は、活動のプロセスで特定される予定である。





